

ハイベースNEO工法 スーパーハイベース工法偏心タイプ

HIBASE NEO

設計ハンドブック



センクシア株式会社

ご使用にあたって

この設計ハンドブックは、建築設計事務所様、建築施工会社様、鉄骨加工業者様において、ハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法偏心タイプを用いた建築物を設計される際および施工・監理をされる際に、安全かつ効果的にご使用いただくためのものです。

なお、施工時の留意点については、別冊の“ハイベース工法総合カタログ”もあわせてご参照下さるようお願いいたします。

設計事務所様へ

本工法を用いた建築物の設計図書には“ハイベース NEO 工法設計施工標準”、スーパーハイベース工法偏心タイプを用いた建築物の設計図書には“スーパーハイベース工法設計施工標準”を添付のうえ、その資料をもとに監理くださいますようお願いいたします。

表示の定義

このハンドブックの中で特に注意していただきたい事項については、以下の警告表示を記載しております。



注意 : 一般的な注意を喚起する表示



警告 : 取扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合の表示



警告

- ① ハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法は国土交通大臣認定取得材料を用いた日本建築センター評定取得工法です。本設計ハンドブックに基づく設計がなされないで生じたトラブルについては責任を負いかねます。ご使用になる前に必ず本ハンドブックをご一読の上、内容を遵守してください。
- ② アンカーボルトの設置・後詰めモルタルの施工はセンクシアまたはその認定施工業者が行います。(詳細はセンクシアにお問い合わせください。)

- ・本書は、設計ハンドブックであり、保証書や契約書ではありません。
- ・製品仕様変更等により、「ハイベース NEO 工法・スーパーハイベース工法偏心タイプ設計ハンドブック」の内容を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
最新版をセンクシアホームページに掲載していますのでご確認ください。
- ・このハンドブックの内容で、疑問点や不明な点がございましたら、センクシアにお問い合わせください。(問い合わせ先の詳細は裏表紙を参照ください)

目 次

ご使用にあたって	1
概要	3
第 1 章 総則	4
1.1 適用範囲	4
1.2 構成	5
第 2 章 使用材料	6
2.1 材質	6
2.1.1 ベースプレート	6
2.1.2 アンカーボルト、ナット、座金および定着板	6
2.1.3 ベースプレート下面のモルタル	6
2.2 形状・寸法と回転バネ定数	7
2.2.1 ベースプレート（ハイベース NEO 工法角形鋼管柱用）	7
2.2.2 ベースプレート（ハイベース NEO 工法円形鋼管柱用）	10
2.2.3 ベースプレート（ハイベース NEO 工法 H 形柱用）	11
2.2.4 ベースプレート（スーパーハイベース工法、角形鋼管柱用一方向偏心タイプ）	12
2.2.5 ベースプレート（スーパーハイベース工法、角形鋼管柱用二方向偏心タイプ）	13
2.2.6 アンカーボルト・部品	14
2.2.7 ベースプレートのアンカーボルト孔径	16
第 3 章 ハイベース NEO・スーパーハイベース工法偏心タイプを用いた柱脚部の設計	17
3.1 設計指針	17
3.2 柱脚部の設計フロー	18
3.3 ハイベース NEO 型式の仮定	21
3.4 曲げ耐力の検討方法	29
3.5 せん断耐力の検討方法	30
3.5.1 ハイベース NEO 工法のせん断耐力（(a)、(b)および(c)の方法）	31
3.5.2 スーパーハイベース工法偏心タイプのせん断耐力（(a)、(c)の方法）	34
3.5.3 コンクリートスラブへの埋め込みによる支圧抵抗に期待する方法（(d)の方法）	35
第 4 章 基礎柱形の設計（各工法共通）	36
4.1 基礎柱形の検討	36
4.1.1 基礎柱形の設計例	36
4.1.2 独立基礎等における基礎柱形部の設計	37
4.1.3 許容、終局曲げ耐力	37
4.1.4 基礎柱形主筋による定着	37
4.2 コーン耐力により応力を伝達する場合	38
第 5 章 ブレース付柱脚の設計（各工法共通）	39
5.1 ブレースが取り付く場合の検討フロー	39
5.2 ブレースの偏心	40
5.3 ブレース応力を考慮した柱脚検討用応力の算出	40
5.3.1 曲げモーメントに対する検討	41
5.3.2 せん断力に対する検討	42
付録．耐力図と基礎柱形の設計例	43
ハイベース NEO 豆知識（エコタイプと G タイプの違い 他）	49,53,57,61

概要

ハイベース工法は 40 年以上の販売実績を有する露出型固定柱脚工法です。センクシアでは、多様化するユーザーのニーズに応えるために研究・開発を重ね、ハイベース工法は「ハイベース NEO 工法」にリファインされました。

ハイベース NEO 工法では、材料に関する国土交通大臣認定と工法に関する日本建築センター評定を取得しています。また、ベースプレート、アンカーボルト設置、無収縮モルタル充填等の施工をセンクシアの認定施工業者が行うことにより、柱脚の品質と構造性能の信頼性を高めています。



ハイベース NEO 工法イメージ
(GB 型式[アンカーボルト 8 本タイプ])

国土交通大臣認定

	材質	認定番号
ベースプレート (G タイプ・偏心タイプ)	HCW490b HCW490st	MSTL-0404 MSTL-0180
アンカー用ボルトセット	HAB	MBLT-0042～0046

日本建築センター評定

	評定番号
ハイベース NEO 工法 エコタイプ	BCJ 評定-ST0059
ハイベース NEO 工法 G タイプ スーパーハイベース工法 偏心タイプ	BCJ 評定-ST0058

適用範囲

ハイベース NEO

適用柱	□150	□175	□200	□250	□300	□350	□400	□450	□500	□550	□600	□650	□700	□750	□800	□850	□900	□950	□1000	□1050	□1100	□1150	□1200
角形鋼管柱	エコタイプ 《EB 型式》																						
											G タイプ 《GB 型式》												

適用柱	φ190	φ216	φ250	φ300	φ350	φ400	φ450	φ500	φ550	φ600	φ650	φ700	φ750	φ800	φ850	φ900	φ950	φ1000					
円形鋼管柱	エコタイプ 《EM 型式》																						

適用柱	H150×H150 シリーズ ～ H900×400 シリーズ (※)																						
H 形柱	エコタイプ 《EH 型式》																						

※H 形柱用の適用可能な柱サイズの詳細については、P.25～28「H 形柱用適用可能柱サイズ」一覧をご参照ください。

スーパーハイベース偏心タイプ

適用柱		□200	□250	□300	□350	□400	□450	□500	□550	□600	□650	□700											
角形鋼管柱 偏心タイプ		一方向偏心タイプ 《BS 型式》																					
													二方向偏心タイプ 《BC 型式》										

第1章 総則

1.1 適用範囲

この『ハイベース NEO 工法・スーパーハイベース工法偏心タイプ設計ハンドブック』は、鉄筋コンクリート構造上に建つ鋼構造および鋼管コンクリート構造(CFT構造を含む)骨組(建築物の高さ 60m 以下)の脚部に使用するハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法偏心タイプ(以下、偏心タイプ)の設計方法に関するものである。

この設計ハンドブックに示されない事項は

- 「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書」
- 「2018 年版冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」
- 「鋼構造許容応力度設計規準(2019)」
- 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018)」
- 「鉄筋コンクリート造建物の終局強度型耐震設計指針・同解説(1990)」
- 「鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針・同解説(1999)」
- 「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2010)」
- 「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2014)」
- 「鋼管構造設計施工指針・同解説(1990)」
- 「鋼構造限界状態設計指針・同解説(2010)」
- 「コンクリート充填鋼管構造設計施工指針(2008)」
- 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事(2018)」
- 「鋼構造接合部設計指針(2012)」
- 「各種合成構造設計指針・同解説(2010)」
- 「建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事(2018)」
- 「鉄骨工事技術指針(2018)」

による。

1.2 構成

ハイベース NEO 工法（含むスーパーハイベース工法偏心タイプ）は下図に示すように、

- ①ベースプレート(エコタイプ：鋼板製、G タイプ・偏心タイプ(BS 型式)および BC 型式)： 鋳鋼製)
- ②アンボンド(コンクリートとの付着を切った)アンカーボルト、③定着板
- ④ナット(エコタイプ：エコナット(一重)、G タイプ・一方向偏心タイプ(BS 型式)：ナット(二重)、二方向偏心タイプ(BC 型式)：ナット(一重))
- ⑤座金、⑥ベースプレート下面モルタル、
- ⑦被覆コンクリート(エコタイプおよび二方向偏心タイプ(BC 型式))

より構成される。

エコタイプおよび二方向偏心タイプ(BC 型式)は、④ナット(またはエコナット)のゆるみ止めのため、ナット部分をコンクリートにより被覆するものとする。やむを得ずコンクリートによる被覆を行わない場合は二重ナット等のゆるみ止め処置を施す(二重ナットとする場合はセンクシアに問い合わせをする)。

G タイプおよび一方向偏心タイプ(BS 型式)は、締結ナットのゆるみ止めのため、二重ナットを標準とする。なお一重ナットとする場合はコンクリートによる被覆等のゆるみ止めの処置が必要である（一重ナットとする場合はセンクシアに問い合わせをする）。

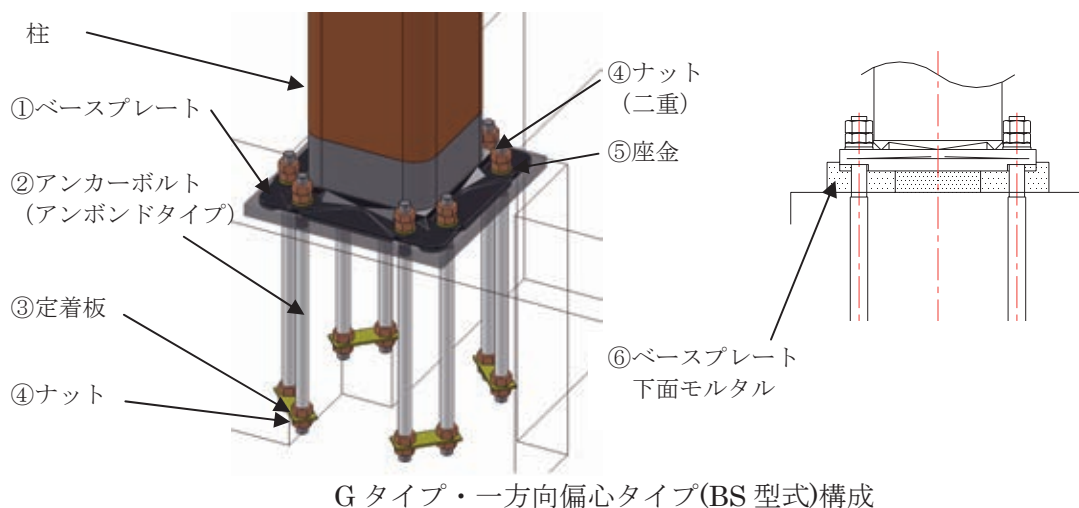
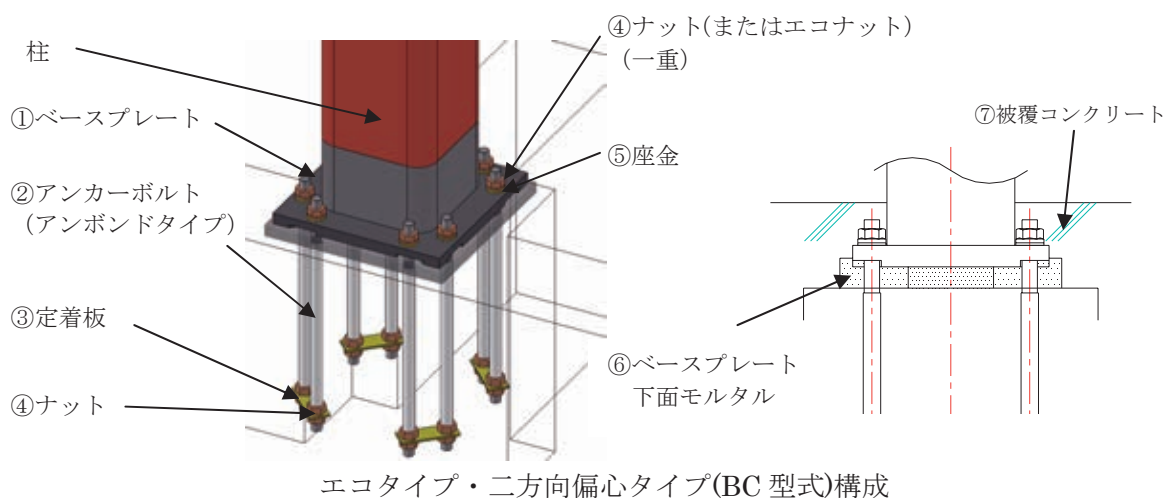


図 1.1 構成

《施工手順》

- 1) アンカーボルトは精度保持のための形板を用いて所定の位置にセットする。
- 2) 配筋後、アンカーボルト位置を確認しコンクリートの打設を行う。
- 3) レベル調整用の中心塗り部分モルタルを設置する。
- 4) ベースプレートを工場溶接した鉄骨柱を所定の位置にセットし、ナットの締付を行う。
- 5) ベースプレート下面に無収縮モルタルを充填する。

第2章 使用材料

2.1 材質

2.1.1 ベースプレート

ベースプレートは、エコタイプは鋼板製、Gタイプおよび偏心タイプは鋳鋼製のベースプレートを用いる。

	材質	規格	備考
エコタイプ (鋼板製)	SN490B	JIS G 3136 建築構造用圧延鋼材	ベースプレート板厚 40mm 以下
	TMCP 鋼	SN490 相当 国土交通大臣認定取得材	ベースプレート板厚 40mm を超える
Gタイプ 偏心タイプ (鋳鋼製)	HCW490b HCW490st	国土交通大臣認定(MSTL-0404) " (MSTL-0180)	

鋳鋼製ベースプレートの材質は、JIS G 5102に定められる溶接構造用鋳鋼 SCW480 をベースとして改良したもので、建築基準法第 37 条第二号に基づく国土交通大臣認定を得ており、SN490B と同等に扱うことができる。

なお、本資料中の寸法表に示す以外のベースプレートでセンクシアの技術員が設計したベースプレートについても同様に SN490B と同等に扱うことができる。

2.1.2 アンカーボルト、ナット、座金および定着板

エコタイプ

	アンカーボルト※1	エコナット※1	ナット※1	座金※1	定着板
規格	大臣認定取得材 (HAB)	大臣認定 取得材	JIS B 1181 (六角ナット)	JIS G 3106	JIS G 3101
ねじの種類	メートル並目	メートル並目		—	—
備考	降伏比 0.7 以下	—	強度区分 5	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上のナットはエコナットを使用する

Gタイプ・偏心タイプ

	アンカーボルト※1	ナット※1	座金※1	定着板
規格	大臣認定取得材 (HAB)	JIS B 1181 (六角ナット)	JIS G 3106	JIS G 3101
ねじの種類	メートル並目※2	メートル並目※2	—	—
備考	降伏比 0.7 以下	強度区分 5(二重ナット用)	SM490A	SS400
		強度区分 8(一重ナット用)		

※1:国土交通大臣認定 (MBLT-0042～0046)

※2:M72 はメートル細目ねじ

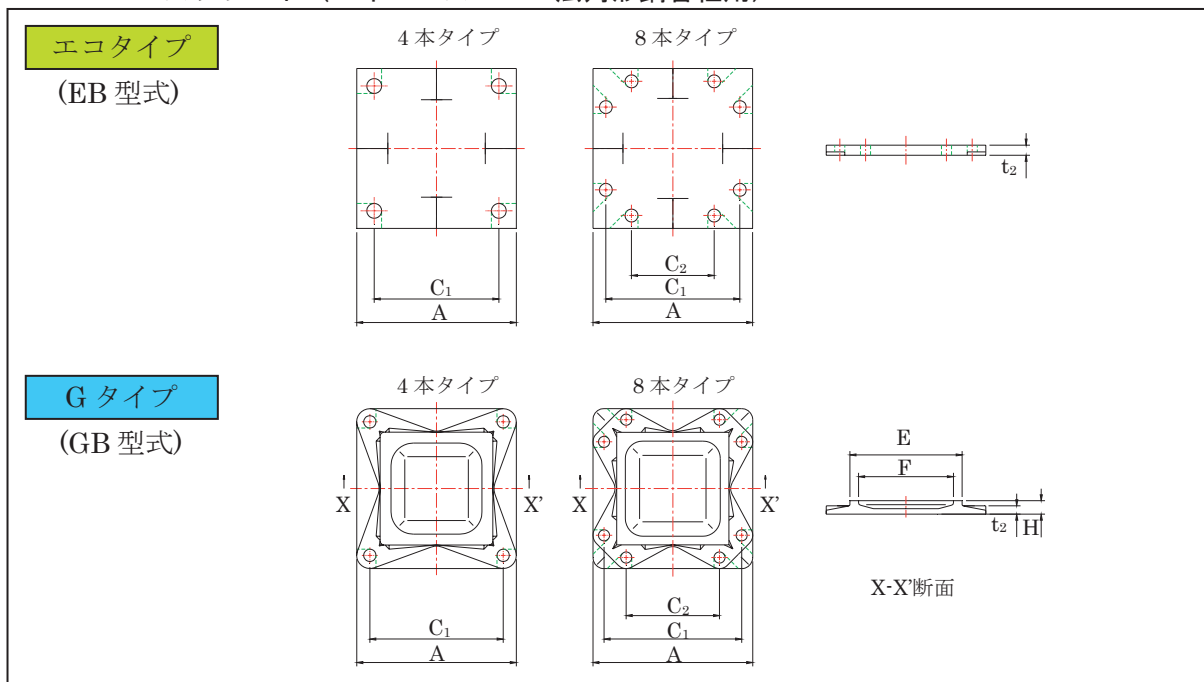
2.1.3 ベースプレート下面モルタル

後詰め無収縮モルタルは、無収縮性と施工性を備えたハイベース工法無収縮モルタル NX-2000、クイック 3 を使用する。

レベル調整用の中心塗り部分モルタルは無収縮性モルタルパッド用（固練り）又は普通モルタルとし、強度はこれに接するコンクリートの強度以上とする。中心塗り部分モルタルには NX-2000 及びクイック 3 を使用できない。なお、中心塗り部分モルタルの厚さは原則として 50mm とする。

2.2 形状・寸法と回転バネ定数

2.2.1 ベースプレート（ハイベース NEO 工法角形鋼管柱用）



型式表示例

E : エコタイプ
 G : Gタイプ

EB 300 - 4 - 30

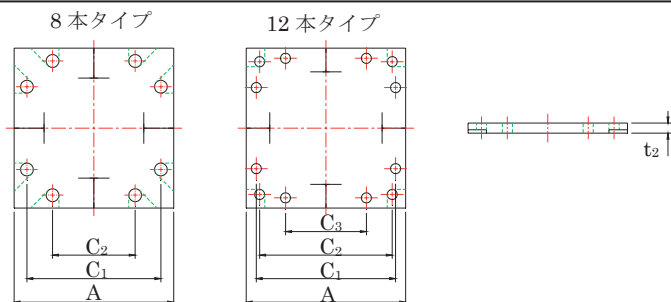
角形鋼管柱用 柱サイズ アンカーボルト本数 アンカーボルト径

適用柱		ハイベースNEO型式		アンカーボルト本数	回転バネ定数 ($\times 10^3 \text{ N} \cdot \text{m/rad}$)	寸法 (mm)								質量 (kg)		セット質量 (kg)
サイズ*	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	ベースプレート	アンカーボルト	
□150	4.5~12	EB150-4-24		4	14.0	290	210	-	-	-	-	-	25	17	14	31
□175	4.5~12	EB175-4-24		4	17.9	310	230	-	-	-	-	-	25	19	14	33
□200	6~12	EB200-4-24		4	21.9	340	260	-	-	-	-	-	25	23	14	37
		EB200-4-30		4	35.4	360	270	-	-	-	-	-	32	33	23	56
		EB200-4-36		4	41.4	360	270	-	-	-	-	-	40	41	36	77
□250	6~16	EB250-4-24		4	32.2	390	310	-	-	-	-	-	25	30	15	45
		EB250-4-30		4	51.3	410	320	-	-	-	-	-	32	43	23	66
		EB250-4-36		4	59.7	410	320	-	-	-	-	-	40	53	36	89
		EB250-8-30		8	51.1	450	360	190	-	-	-	-	40	64	51	115
□300	6~22	EB300-4-30		4	70.1	460	370	-	-	-	-	-	32	54	24	78
		EB300-4-36		4	82.9	460	370	-	-	-	-	-	40	67	37	104
		EB300-8-30		8	69.4	500	410	240	-	-	-	-	36	71	51	122
		EB300-8-36		8	84.0	510	420	220	-	-	-	-	44	90	82	172
□350	9~22	EB350-4-30		4	93.1	510	420	-	-	-	-	-	32	66	24	90
		EB350-8-30		8	89.5	550	460	290	-	-	-	-	36	86	52	138
		EB350-8-36		8	105	560	470	270	-	-	-	-	40	99	83	182
		EB350-8-42		8	133	590	480	260	-	-	-	-	48	132	131	263
	9~25	GB350-4-42		4	128	550	440	-	-	356	280	75	50	107	72	179
		GB350-4-48		4	156	590	460	-	-	356	280	90	61	142	113	255
		GB350-8-30		8	150	540	450	280	-	356	280	55	28	77	52	129
		GB350-8-36		8	188	560	470	270	-	356	280	65	36	95	83	178
		GB350-8-42		8	216	590	480	260	-	356	280	70	45	118	131	249
□400	9~25	EB400-8-30		8	111	600	510	340	-	-	-	-	36	102	52	154
		EB400-8-36		8	127	610	520	320	-	-	-	-	40	117	83	200
		EB400-8-42		8	175	640	530	310	-	-	-	-	48	155	131	286
	9~32	GB400-4-42		4	163	600	490	-	-	408	320	75	49	129	73	202
		GB400-4-48		4	194	640	510	-	-	408	320	85	59	165	114	279
		GB400-8-36		8	234	610	520	320	-	408	320	60	34	110	83	193
		GB400-8-42		8	282	640	530	310	-	408	320	70	42	136	131	267
		GB400-8-48		8	321	680	550	300	-	408	320	80	52	176	211	387

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。
 Gタイプは、表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

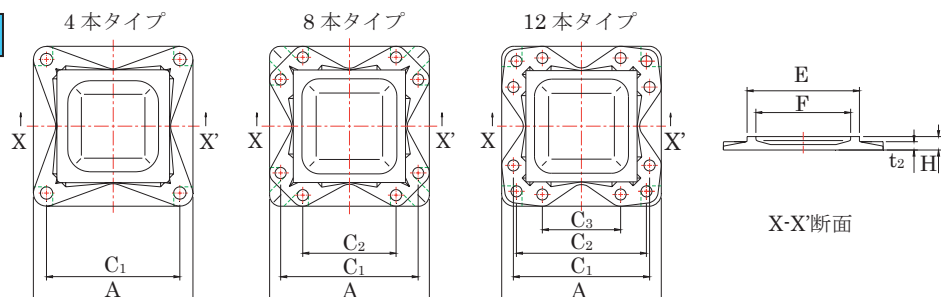
エコタイプ

(EB 型式)



G タイプ

(GB 型式)



型式表示例

E : エコタイプ
G : G タイプ

GB 500 - 8 - 42

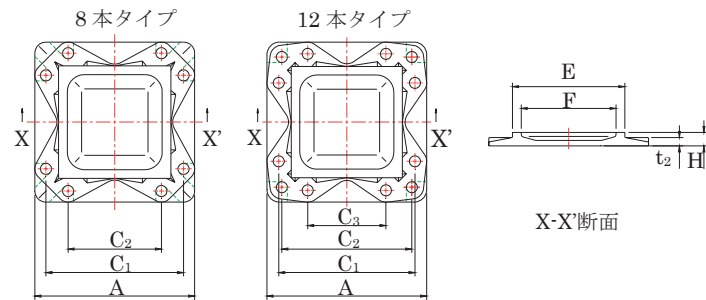
角形鋼管柱用 柱サイズ アンカーボルト本数

適用柱		ハイベースNEO型式		アンカーボルト本数	回転 Δ 係数 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)	寸法 (mm)								質量 (kg)		セット質量 (kg)
サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	ベースプレート	アンカーボルト	
□450	9~25	EB450-8-36		8	169	660	570	370	-	-	-	-	44	150	84	234
		EB450-8-42		8	199	690	580	360	-	-	-	-	48	180	132	312
	9~36		GB450-4-42	4	199	650	540	-	-	458	360	75	48	153	73	226
			GB450-4-48	4	236	690	560	-	-	458	360	85	58	192	116	308
			GB450-8-36	8	296	660	570	370	-	458	360	60	32	130	84	214
			GB450-8-42	8	348	690	580	360	-	458	360	65	40	158	132	290
			GB450-8-48	8	413	730	600	350	-	458	360	75	49	196	213	409
□500	9~28	EB500-8-36		8	210	710	620	420	-	-	-	-	44	173	89	262
		EB500-8-42		8	238	740	630	410	-	-	-	-	48	207	133	340
		EB500-12-42		12	396	740	630	600	350	-	-	-	60	258	197	455
	9~40		GB500-4-42	4	244	700	590	-	-	508	400	80	47	183	74	257
			GB500-4-48	4	290	740	610	-	-	508	400	90	57	226	127	353
			GB500-8-36	8	354	710	620	420	-	508	400	65	30	154	89	243
			GB500-8-42	8	421	740	630	410	-	508	400	70	37	181	133	314
			GB500-8-48	8	489	780	650	400	-	508	400	80	46	225	215	440
			GB500-8-64	8	659	850	690	390	-	508	400	105	68	346	464	810
			GB500-12-48	12	695	780	650	610	320	508	400	90	57	265	304	569
			GB500-12-56	12	771	810	670	630	300	508	400	105	72	342	455	797
□550	9~28	EB550-8-42		8	317	800	690	470	-	-	-	-	48	242	133	375
		EB550-12-42		12	475	790	680	650	400	-	-	-	60	294	198	492
	9~40		GB550-4-48	4	339	790	660	-	-	558	450	90	56	257	129	386
			GB550-4-56	4	408	820	680	-	-	558	450	100	69	308	187	495
			GB550-8-36	8	419	760	670	470	-	558	450	65	29	180	90	270
			GB550-8-42	8	498	790	680	460	-	558	450	70	36	207	133	340
			GB550-8-48	8	580	830	700	450	-	558	450	75	45	250	217	467
			GB550-8-64	8	806	900	740	440	-	558	450	95	65	367	467	834
			GB550-12-48	12	817	830	700	660	370	558	450	85	55	288	306	594
			GB550-12-56	12	923	860	720	680	350	558	450	100	69	366	458	824
□600	9~40		GB600-8-42	8	598	840	730	510	-	610	500	70	35	238	134	372
			GB600-8-48	8	682	880	750	500	-	610	500	75	43	284	219	503
			GB600-8-64	8	987	960	800	500	-	610	500	95	64	417	470	887
			GB600-12-48	12	953	880	750	710	420	610	500	85	52	318	309	627
			GB600-12-56	12	1140	910	770	730	400	610	500	100	66	408	460	868
			GB600-12-64	12	1240	950	790	740	370	610	500	110	80	499	667	1166

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。
Gタイプは、表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

Gタイプ

(GB 型式)



型式表示例

E : エコタイプ
 G : Gタイプ

GB 700 - 12 - 56

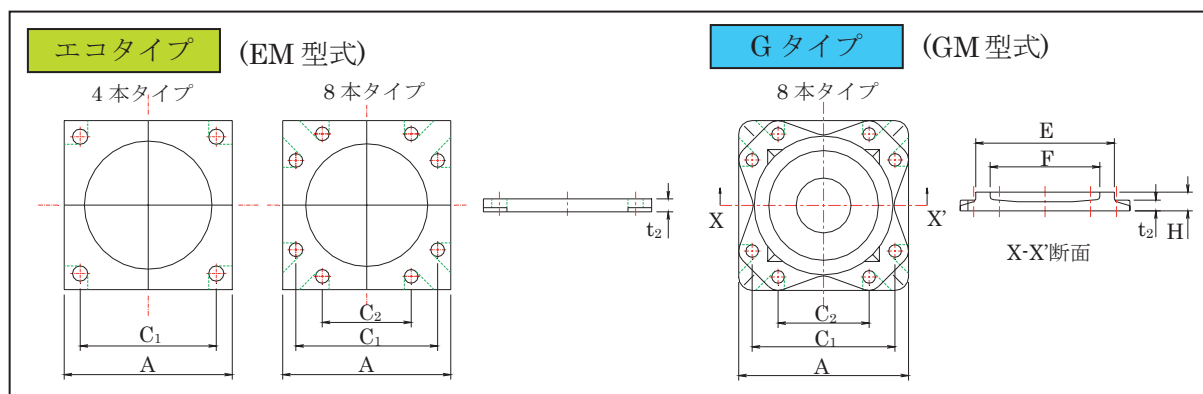
アンカーボルト径
 柱サイズ
 アンカーボルト本数
 角形鋼管柱用

適用柱		ハイベースNEO型式		アンカーボルト本数	回転 β ね定数 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)	寸法 (mm)								質量 (kg)		セット質量 (kg)
サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t2	ベースプレート	アンカーボルト	
□650	12~40		GB650-8-42	8	680	890	780	560	-	660	550	75	34	277	139	416
			GB650-8-48	8	782	930	800	550	-	660	550	75	42	316	221	537
			GB650-8-56	8	939	960	820	540	-	660	550	85	51	370	328	698
			GB650-8-64	8	1080	990	830	530	-	660	550	95	58	428	472	900
			GB650-8-72	8	1220	1020	850	520	-	660	550	105	69	498	698	1196
			GB650-12-56	12	1320	960	820	780	450	660	550	95	64	439	463	902
□700	12~40		GB650-12-64	12	1460	1000	840	790	420	660	550	110	77	536	670	1206
			GB700-8-42	8	782	940	830	610	-	710	600	70	32	316	139	455
			GB700-8-48	8	899	980	850	600	-	710	600	75	41	363	223	586
			GB700-8-56	8	1070	1010	870	590	-	710	600	80	50	414	330	744
			GB700-8-64	8	1280	1050	890	590	-	710	600	95	58	489	475	964
			GB700-8-72	8	1430	1070	900	570	-	710	600	105	67	552	703	1255
□750	16~40		GB700-12-56	12	1490	1010	870	830	500	710	600	95	62	482	465	947
			GB700-12-64	12	1710	1050	890	840	470	710	600	105	74	572	673	1245
			GB750-8-48	8	1010	1030	900	650	-	760	650	85	39	415	225	640
			GB750-12-48	12	1460	1030	900	860	570	760	650	85	47	437	316	753
			GB750-12-56	12	1700	1060	920	880	550	760	650	90	60	510	468	978
			GB750-12-64	12	1980	1100	940	890	520	760	650	105	72	620	676	1296
□800	16~40		GB750-12-72	12	2110	1120	950	900	490	760	650	115	84	713	982	1695
			GB800-8-56	8	1380	1110	970	690	-	810	700	90	47	522	335	857
			GB800-12-56	12	1930	1110	970	930	600	810	700	90	58	556	471	1027
			GB800-12-64	12	2210	1150	990	940	570	810	700	100	70	662	679	1341
			GB800-12-72	12	2410	1170	1000	950	540	810	700	115	81	761	987	1748
□850	16~40		GB850-12-56	12	2160	1160	1020	980	650	860	750	100	56	646	473	1119
			GB850-12-64	12	2480	1200	1040	990	620	860	750	100	68	739	682	1421
			GB850-12-72	12	2740	1220	1050	1000	590	860	750	110	79	833	992	1825
□900	16~40		GB900-12-56	12	2430	1210	1070	1030	700	910	800	105	55	719	476	1195
			GB900-12-64	12	2770	1250	1090	1040	670	910	800	105	66	810	685	1495
			GB900-12-72	12	3100	1270	1100	1050	640	910	800	110	77	898	996	1894
□950	16~40		GB950-12-56	12	2700	1260	1120	1080	750	960	850	110	54	796	479	1275
			GB950-12-64	12	3000	1300	1140	1090	720	960	850	110	61	870	688	1558
			GB950-12-72	12	3430	1320	1150	1100	690	960	850	110	75	967	1001	1968
□1000	16~40		GB1000-12-56	12	3020	1310	1170	1130	800	1010	900	115	52	888	481	1369
			GB1000-12-64	12	3390	1340	1180	1130	760	1010	900	110	59	943	691	1634
			GB1000-12-72	12	3770	1340	1180	1130	720	1010	900	115	66	985	1006	1991
□1050	16~40		GB1050-12-64	12	3730	1400	1240	1190	820	1060	950	120	62	1083	694	1777
			GB1050-12-72	12	4120	1420	1250	1200	790	1060	950	120	71	1158	1011	2169
□1100	16~40		GB1100-12-64	12	4110	1450	1290	1240	870	1110	1000	125	60	1184	697	1881
			GB1100-12-72	12	4550	1470	1300	1250	840	1110	1000	125	70	1266	1016	2282
□1150	16~40		GB1150-12-64	12	4490	1500	1340	1290	920	1160	1050	130	59	1300	700	2000
			GB1150-12-72	12	5000	1520	1350	1300	890	1160	1050	130	68	1378	1020	2398
□1200	16~40		GB1200-12-64	12	4910	1550	1390	1340	970	1210	1100	135	58	1437	703	2140
			GB1200-12-72	12	5480	1570	1400	1350	940	1210	1100	135	67	1518	1025	2543

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。

Gタイプは、表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

2.2.2 ベースプレート（ハイベース NEO 工法円形鋼管柱用）



型式表示例

E : エコタイプ
 G : G タイプ
 円形鋼管柱用 柱サイズ アンカーボルト径

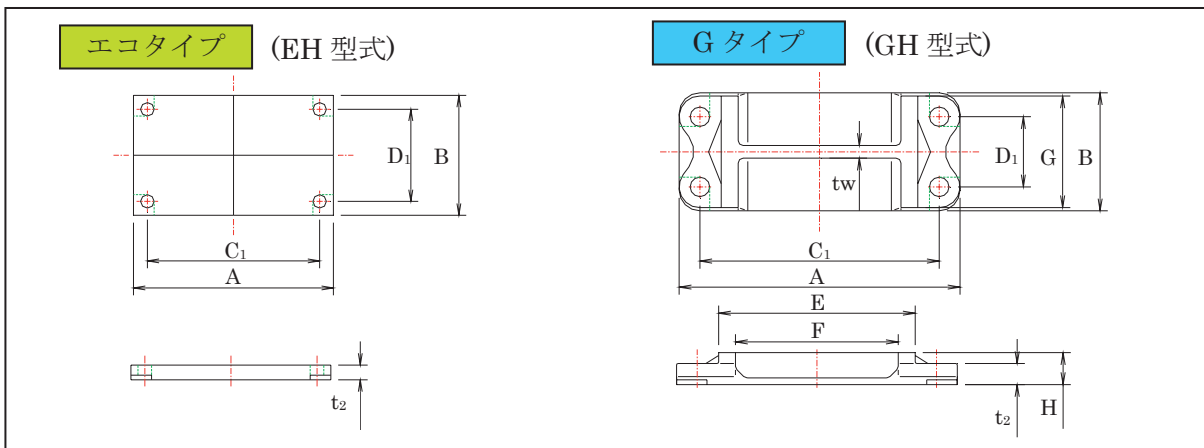
EM 300 - 4 - 24

アンカーボルト本数

適用柱		ハイベース NEO 型式		アンカーボルト本数	回転 β° 耐力数 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)	寸法 (mm)							質量 (kg)		セット質量 (kg)
サイズ	最大板厚	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	E	F	H	t2	ベースプレート	アンカーボルト部品	
$\phi 190.7$	8.2	EM190-4-24		4	13.8	290	210	-	-	-	-	32	22	14	36
$\phi 216.3$	12.7	EM216-4-24		4	19.9	310	230	-	-	-	-	32	25	14	39
$\phi 267.4$	16	EM250-4-24		4	28.4	370	290	-	-	-	-	32	35	14	49
$\phi 300$	16	EM300-4-24		4	38.3	420	340	-	-	-	-	32	45	15	60
$\phi 318.5$		EM300-4-30		4	61.0	430	340	-	-	-	-	40	59	23	82
$\phi 350$	19	EM350-4-30		4	65.1	420	330	-	-	-	-	32	45	23	68
$\phi 355.6$		EM350-8-30		8	86.3	500	410	240	-	-	-	40	79	50	129
$\phi 400$	22	EM400-8-30		8	119	540	450	280	-	-	-	40	92	51	143
$\phi 406.4$		EM400-8-36		8	148	560	470	270	-	-	-	48	119	81	200
		EM400-8-42		8	194	610	500	280	-	-	-	60	176	127	303
$\phi 450$	22	EM450-8-30		8	146	580	490	320	-	-	-	40	106	51	157
$\phi 457.2$		EM450-8-36		8	182	600	510	310	-	-	-	48	136	81	217
		EM450-8-42		8	249	650	540	320	-	-	-	60	199	127	326
$\phi 500$	25	EM500-8-36		8	231	640	550	350	-	-	-	48	155	82	237
$\phi 508$		EM500-8-42		8	301	700	590	370	-	-	-	60	231	128	359
	40		GM500-8-48	8	405	710	580	330	518	390	90	57	229	207	436
			GM500-8-56	8	470	740	600	320	518	390	100	69	282	308	590
$\phi 550$	25	EM550-8-36		8	269	680	590	390	-	-	-	48	175	82	257
$\phi 558.8$		EM550-8-42		8	350	740	630	410	-	-	-	60	258	128	386
	40		GM550-8-48	8	468	740	610	360	568	430	85	54	244	208	452
			GM550-8-56	8	543	770	630	350	568	430	100	65	301	310	611
$\phi 600$	40		GM600-8-36	8	421	700	610	410	620	480	70	36	192	85	277
$\phi 609.6$			GM600-8-48	8	563	780	650	400	620	480	85	52	273	210	483
			GM600-8-64	8	747	850	690	390	620	480	110	75	408	449	857
$\phi 650$	40		GM650-8-48	8	661	820	690	440	670	530	90	52	316	211	527
$\phi 660.4$			GM650-8-64	8	846	880	720	420	670	530	110	71	432	451	883
$\phi 700$	40		GM700-8-48	8	750	850	720	470	720	570	80	48	330	212	542
$\phi 711.2$			GM700-8-64	8	958	920	760	460	720	570	105	70	471	453	924
$\phi 750$	40		GM750-8-48	8	865	890	760	510	770	620	85	48	381	214	595
$\phi 762$			GM750-8-64	8	1100	960	800	500	770	620	110	69	527	455	982
$\phi 800$	40		GM800-8-48	8	961	920	790	540	820	660	90	45	426	215	641
$\phi 812.8$			GM800-8-64	8	1240	990	830	530	820	660	100	66	550	456	1006
$\phi 850$	40		GM850-8-64	8	1410	1030	870	570	870	710	105	65	616	459	1075
$\phi 900$	40		GM900-8-64	8	1660	1100	940	640	920	760	105	70	734	462	1196
$\phi 914.4$			GM950-8-64	8	1750	1100	940	640	970	810	105	61	735	462	1197
$\phi 950$	40		GM1000-8-64	8	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292
$\phi 1000$	40		GM1000-8-64	8	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292
$\phi 1016$			GM1000-8-64	8	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。
 Gタイプは、表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

2.2.3 ベースプレート（ハイベースNEO工法H形柱用）



型式表示例

E : エコタイプ
G : Gタイプ

E H **150×150** **— 4 — 24**

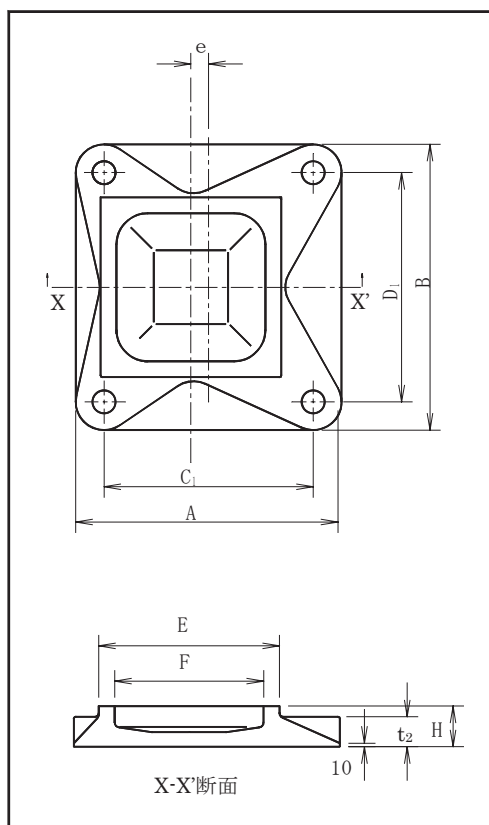
H 形柱用 柱サイズ アンカーボルト本数 アンカーボルト径

適用柱 シリーズ	ハイベースNEO型式		アンカー ボルト 本数	回転モーメント ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)		寸法 (mm)												質量 (kg)		セット 質量 (kg)
	エコタイプ	Gタイプ		強軸	弱軸	A	B	C1	D1	E	F	G	tw	H	t2	ベース プレート	アンカー ボルト 部品			
H-150×150	EH150×150-4-24		4	14.0	6.0	330	230	250	150	-	-	-	-	-	44	27	16	43		
H-175×175	EH175×175-4-24		4	18.0	7.9	360	250	280	170	-	-	-	-	-	44	32	16	48		
H-200×150 H-200×200	EH200×200-4-24		4	22.7	11.1	390	280	310	200	-	-	-	-	-	48	42	17	59		
H-250×175 H-250×250	EH250×250-4-24		4	31.0	18.0	440	340	350	250	-	-	-	-	-	48	57	18	75		
	EH250×250-4-30		4	36.7	20.3	440	340	350	250	-	-	-	-	-	48	57	29	86		
H-300×200 H-300×300	EH300×300-4-30		4	49.6	30.0	490	390	400	300	-	-	-	-	-	48	73	30	103		
	EH300×300-4-36		4	69.2	35.6	540	390	450	300	-	-	-	-	-	60	100	45	145		
H-350×250	EH350×250-4-30		4	59.2	39.1	540	440	450	350	-	-	-	-	-	48	90	30	120		
H-350×250 H-350×350	EH350×350-4-42		4	93.7	52.6	610	460	500	350	-	-	-	-	-	65	144	76	220		
H-400×200 H-400×300	EH400×300-4-30		4	74.3	30.1	600	390	510	300	-	-	-	-	-	48	89	30	119		
	EH400×300-4-36		4	102	33.9	650	390	560	300	-	-	-	-	-	60	120	46	166		
H-400×300 H-400×400	EH400×400-4-42		4	118	67.3	660	510	550	400	-	-	-	-	-	60	159	78	237		
	GH400×400-4-56		4	265	138	760	490	620	330	468	340	470	60	100	71	176	200	376		
H-450×200 H-450×250 H-450×300	EH450×300-4-30		4	94.1	30.8	650	390	560	300	-	-	-	-	-	48	96	31	127		
	EH450×300-4-42		4	135	38.9	690	410	580	300	-	-	-	-	-	65	145	77	222		
H-500×200 H-500×250 H-500×300	EH500×300-4-30		4	112	30.5	700	390	610	300	-	-	-	-	-	48	103	31	134		
	EH500×300-4-42		4	154	40.8	740	410	630	300	-	-	-	-	-	65	155	78	233		
H-600×200 H-600×250 H-600×300	EH600×300-4-36		4	189	39.1	830	390	740	300	-	-	-	-	-	60	153	51	204		
	GH600×300-4-48		4	342	71.4	880	370	750	220	616	510	350	40	100	66	127	128	255		
H-700×300	EH700×300-4-42		4	287	45.1	950	410	840	300	-	-	-	-	-	65	199	86	285		
H-700×300 H-700×350	GH700×300-4-56		4	540	97.6	1020	440	880	220	720	600	420	40	120	84	204	207	411		
H-800×300	GH800×300-4-42		4	478	82.1	1050	390	940	220	820	690	330	40	90	56	136	89	225		
H-800×300 H-800×350 H-800×400	GH800×300-4-56		4	668	110	1120	440	980	220	820	690	420	40	120	84	219	212	431		
H-900×300	GH900×300-4-42		4	606	96.8	1150	390	1040	220	920	790	330	40	90	56	150	91	241		
H-900×300 H-900×350 H-900×400	GH900×300-4-56		4	828	118	1220	440	1080	220	920	790	420	40	120	84	237	217	454		

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。
各型式の適用柱フランジ幅はエンドタブの大きさを考慮して表中のG寸法でご確認ください。また、適用柱せいおよびフランジ厚はフランジ溶接用の裏あて金の厚さを考慮して表中のE、F寸法でご確認ください。
適用可能な柱サイズの詳細については、P. 25～28の表3.7～表3.8に示す適用可能柱一覧を参照してください。
*EH400×400-4-42は、H-414×405×18×28まで対応可能です。上記サイズを超えるH形柱には使用できません。
*EH700×300-4-42は、H-708×302×15×28まで対応可能です。上記サイズを超えるH形柱には使用できません。
*本表に記載の無いH-700×200、H-700×250、H-800×250、H-800×250、H-900×250シリーズは、GH型式のみ対応可能です（EH型式は適用不可）。
*溶接組立H形断面柱は、GH型式のみ対応可能です（EH型式は適用不可）。

2.2.4 ベースプレート（スーパーハイベース工法、角形鋼管柱用一方偏心タイプ）

一方偏心タイプ (BS 型式)



型式表示例

BS 250-S1-30

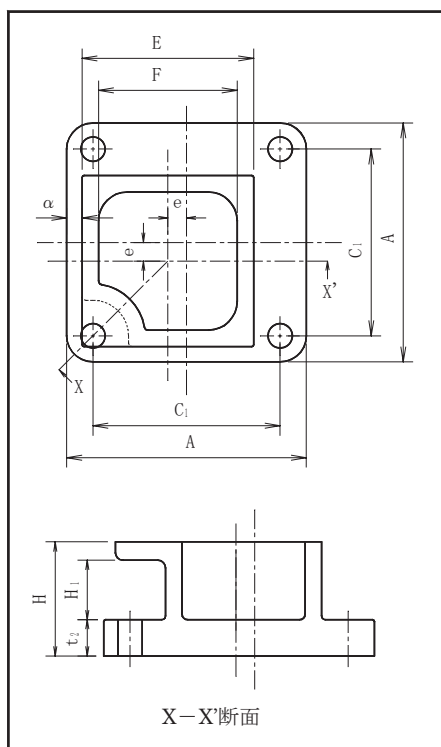
アンカーボルト径
ハイベースのタイプ
柱サイズ
角形鋼管柱用一方偏心タイプ

適用柱		スーパーハイベース 型式	偏心量 e (mm)	回転ばね定数 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)		寸法 (mm)								質量 (kg)		セット 質量 (kg)
サイズ	板厚 範囲			偏心 方向	非偏心 方向	A	B	C ₁	D ₁	E	F	H	t ₂	ベース プレート	部品	
□200×200	6~12	BS200-S1-24	30	19.9	21.3	310	330	250	270	210	160	70	47	35	20	55
□250×250	6~16	BS250-S1-30	40	35.7	46.3	380	460	280	360	256	200	85	67	72	33	105
				43.1	56.5										51	123
□300×300	6~22	BS300-S1-36	40	54.4	75.5	450	530	340	420	306	240	95	77	112	53	165
				73.0	90.0										88	200
□350×350	9~22	BS350-S1-42	50	79.8	115	500	600	380	480	356	290	105	86	155	91	246
				103	134										124	279
□400×400	9~28	BS400-S1-48	50	126	172	590	690	450	550	408	328	120	100	240	128	368
				158	205										201	441
□450×450	9~32	BS450-S1-56	50	154	204	640	740	500	600	458	370	115	97	277	131	408
				182	242										205	482
□500×500	9~32	BS500-S1-56	60	177	241	670	790	530	650	508	420	115	95	310	133	443
				207	283										209	519
□550×550	12~32	BS550-S1-56	60	220	281	720	840	580	700	558	470	115	93	355	136	491
				251	330										214	569
□600×600	12~32	BS600-S1-56	60	249	326	770	890	630	750	610	520	110	91	410	139	549
				295	385										219	629
□650×650	12~32	BS650-S1-64	60	350	448	840	960	690	810	660	570	125	105	528	224	752
				404	516										294	822
□700×700	12~32	BS700-S1-64	60	405	506	890	1010	740	860	710	620	120	102	594	229	823
				463	583										299	893

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。
表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。

2.2.5 ベースプレート（スーパーハイベース工法、角形鋼管柱用二方向偏心タイプ）

二方向偏心タイプ (BC 型式)



型式表示例

BC 250-S1-30

アンカーボルト径
ハイベースのタイプ
柱サイズ
角形鋼管柱用二方向偏心タイプ

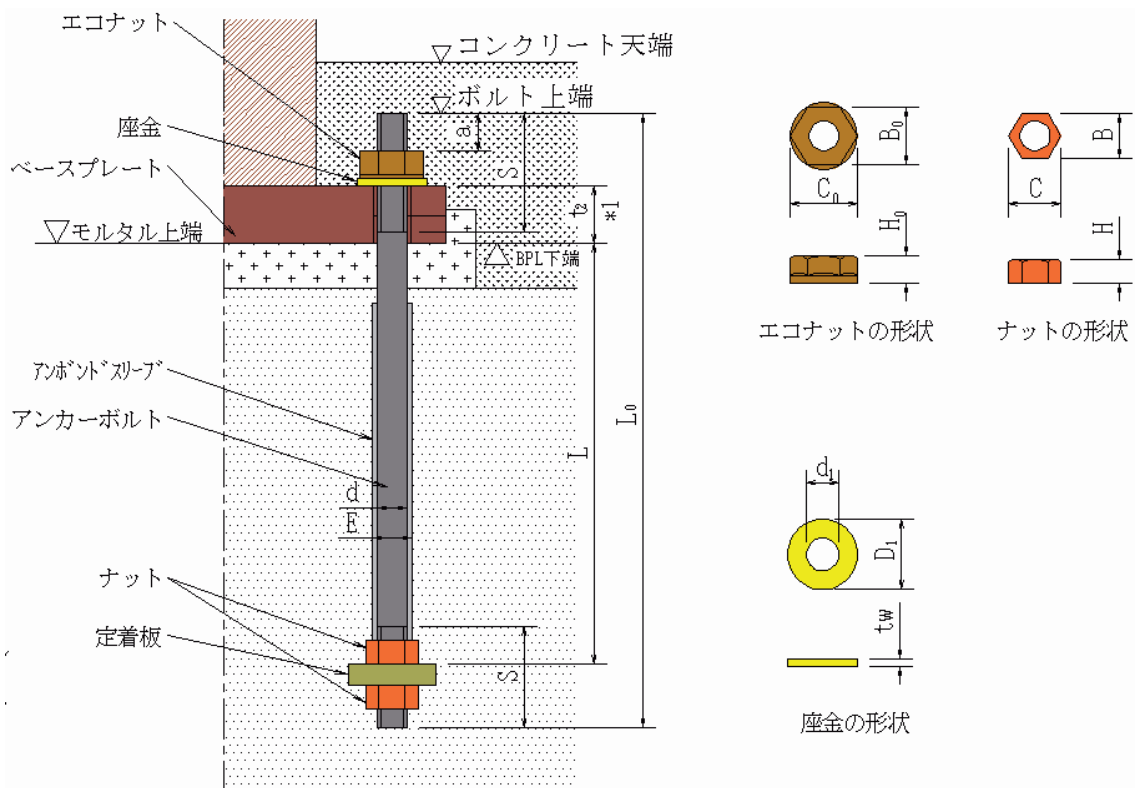
適用柱		スーパーハイベース 型式	偏心量 e (mm)	回転ばね定数 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)	寸法 (mm)								質量 (kg)		セット 質量 (kg)
サイズ	板厚 範囲				A	C ₁	E	F	α	H ₁	H	t ₂	ベース プレート	部品	
□250×250	6～16	BC250-S1	-30 -36	40	380	280	256	200	25	131	230	67	120	32	152
														50	170
□300×300	6～22	BC300-S1	-36 -42	40	450	340	306	240	35	141	260	77	192	51	243
														85	277
□350×350	9～22	BC350-S1	-42 -48	50	500	380	356	290	25	149	280	86	263	88	351
														121	384
□400×400	9～28	BC400-S1	-48 -56	50	590	450	408	328	45	160	310	100	411	125	536
														196	607
□450×450	9～32	BC450-S1	-48 -56	50	640	500	458	370	45	159	305	97	478	128	606
														200	678
□500×500	9～32	BC500-S1	-48 -56	60	670	530	508	420	25	158	300	95	523	130	653
														203	726
□550×550	12～32	BC550-S1	-48 -56	60	720	580	558	470	25	158	300	93	588	133	721
														208	796
□600×600	12～32	BC600-S1	-48 -56	60	770	630	610	520	25	159	300	91	657	136	793
														212	869
□650×650	12～32	BC650-S1	-56 -64	60	840	690	660	570	35	171	325	105	859	218	1077
														289	1148
□700×700	12～32	BC700-S1	-56 -64	60	890	740	710	620	35	173	325	102	936	223	1159
														293	1229

部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量を、セット質量はベースプレートと部品の総質量を表します。

表中に無い柱サイズについても対応可能です。センクシアにお問い合わせ下さい。

2.2.6 アンカーボルト・部品

エコタイプ用
(EB,EM,EH 型式)



(mm)

ねじの呼び	アンカーボルト						アンボント・スリーブ	エコナット			ナット			座金		
	軸径	ねじ		余長	定着長さ	全長	外径	高さ	二面幅	対角距離	高さ	二面幅	対角距離	厚さ	内径	外径
		ピッチ	長さ													
d	P	S※3	a※2	L※3	L0※3	E	H0	B0	C0	H	B	C	tw	d1	D1	
M24	24	3	95 105	10	400 480	550 645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	110 130	13	400 600	580 800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	16	480 720	690 925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1 t_2 はベースプレート台座厚を示します。台座厚の寸法はP.7～P.13をご参照ください。

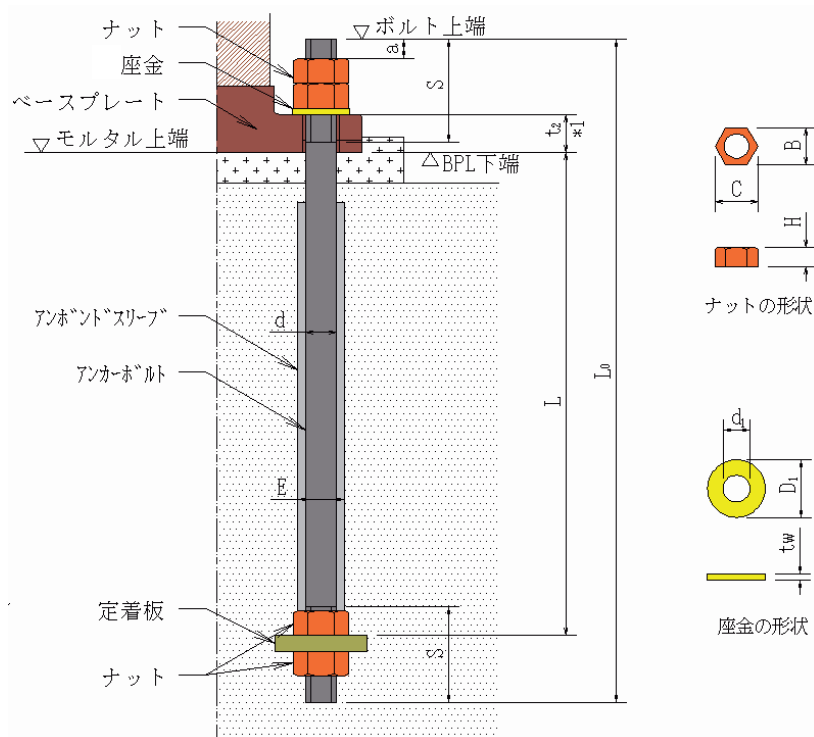
※2 a 寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじが最低3山以上ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3 上段はEB型式およびEM型式の4本タイプの場合、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

注意	エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのためコンクリートスラブへの埋込みが必要です。コンクリートスラブの寸法は、基礎柱形設計例を参照下さい。 (二重ナット等他のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください)
----	--

G タイプ
(GB、GM、GH 型式)

偏心タイプ
(BS、BC 型式※4)



(mm)

ねじの呼び	アンカーボルト						アンボントスリーブ	ナット			座金		
	軸径	ねじ		余長	定着長さ	全長	外径	高さ	二面幅	対角距離	厚さ	内径	外径
		ピッチ	長さ										
	d	P	S※2	a※3	L	L0※2	E	H	B	C	tw	d1	D1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130	16	720	925	41	29	55	64	6	37	66
			150			955							
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	34	65	75	9	43	78
			165			1110							
M48	48	5	175	22	960	1235	54	38	75	87	9	50	92
			190			1270							
M56	56	5.5	185	24	1120	1420	62	45	85	98	9	58	105
			210			1470							
M64	64	6	200	28	1280	1610	70	51	95	110	12	66	115
			230			1660							
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※1 t2はベースプレート台座厚を示します。(P.7～P.13までを参照してください)

※2 上段はGB型式、GM型式およびBC型式の場合、下段はGH型式およびBS型式の場合の寸法です。

※3 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじが最低3山以上ナットの外に出るように余長を確保してください。

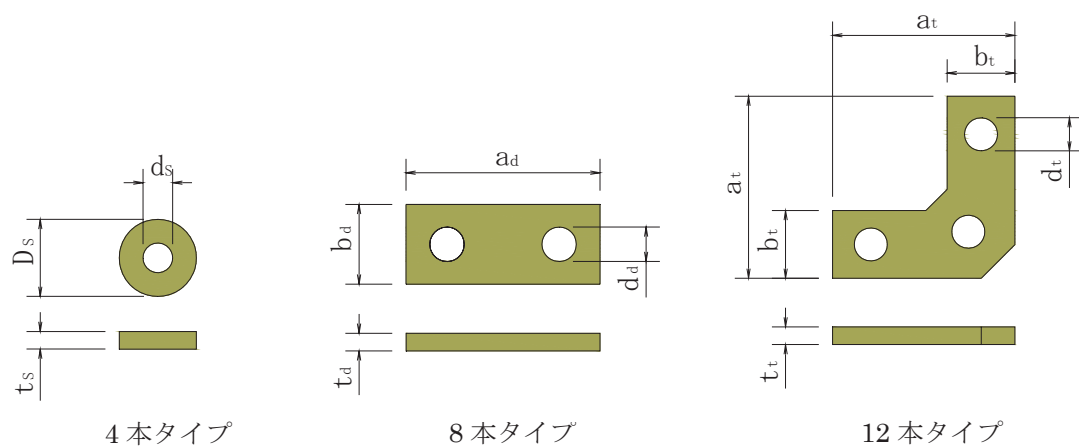
※4 BC型式のアンカーボルトは一重ナットとなります。



注意

- ・アンカーボルトは二重ナットを標準としています。一重ナットでも適用可能です。
- ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください)
- ・BC型式はコンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。

定着板の形状・寸法（エコタイプ、Gタイプ、偏心タイプ共通）



(mm)

ねじの呼び	4本タイプ用			8本タイプ用				12本タイプ用			
	厚さ	外径	内径	厚さ	長さ	幅	内径	厚さ	長さ	幅	内径
	t_s	D_s	d_s	t_d	a_d	b_d	d_d	t_t	a_t	b_t	d_t
M24	16	70	27	-				-			
M30	16	90	33								
M36	19	100	39								
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	-			16	380	145	76	16	375	145	76

2.2.7 ベースプレートのアンカーボルト孔径

(mm)

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87
偏心タイプ孔径	29	36	43	49	56	65	74	-

3.1 設計指針

1. 基本事項

本設計指針は鉄筋コンクリート造上に建つ鉄骨造骨組の柱脚部に使用されるハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法偏心タイプ(以下本工法とする)の設計方法ならびに施工方法に関するものである。本設計指針に示されない事項は「鋼構造許容応力度設計規準(日本建築学会)」や「鉄筋コンクリート構造計算規準同解説(日本建築学会)」等の規準・指針による。本工法を適用する建物は、柱脚の回転剛性を評価した設計とする(フレームの応力解析は下図に示すようにベースプレート下端位置に回転ばねを仮定する)。本柱脚の短期許容曲げ耐力および終局曲げ耐力を耐力線図で示す。許容応力度設計において柱脚の発生曲げ応力が柱および柱脚の耐力線図を超える場合は、本工法は適用できない。

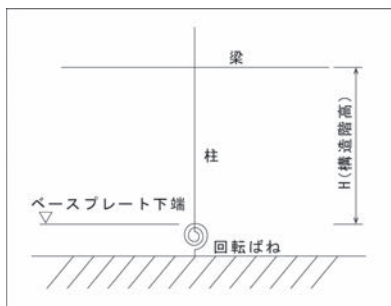


図 3.1 応力解析モデル図

2. 使用材料等

①柱

本工法は下記柱に適用する。

表 3.1 適用柱

型式	適用柱
EB,GB, BS*,BC*	角形鋼管柱 (BCP325,BCR295 等)
EM, GM	円形鋼管柱 (STKN400,STKN490 等)
EH, GH	H 形柱 (SS400,SS490,SN490B 等)

* スーパーハイベース工法偏心タイプ

- ・基準強度が 325N/mm^2 を超える柱にも対応可能である。(その場合には別途センクシアに問い合わせをすること)
- ・熱間成形角形鋼管柱にも対応可能である。
(EB 型式に使用する場合は柱の角部外側の曲率半径が BCR295 または BCP325 と同じであることを確認すること)
- ・G タイプは溶接組立箱形断面柱にも対応可能である。
- ・鋼管コンクリート造 (CFT) 柱にも対応可能である。
- ・柱とベースプレートとの溶接は完全溶込み溶接とする。(建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事による)

②鉄筋

基礎柱形に使用する鉄筋は JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる熱間圧延異形棒鋼とする。

③コンクリート

基礎柱形、基礎ばりに使用するコンクリートは「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリートとする ($18\sim 36\text{N/mm}^2$)。ただし、P.44~P.136 に示す標準型式の耐力を算定する時のコンクリート設計基準強度は 24N/mm^2 を上限とする (これ以上の場合はセンクシアに問い合わせをする)。

④コンクリートスラブ (被覆コンクリート)

P.30(d)の方法による検討を行う場合やエコタイプの被覆に用いるコンクリートスラブに使用するコンクリートは「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリートとする ($18\sim 36\text{N/mm}^2$)。

3. 基礎柱形

基礎柱形が基礎ばりと基礎ばりの交点の位置に存在し(含む側、隅柱)、かつその天端が基礎ばり天端と一致する場合、その詳細は「基礎柱形設計例(P.44~P.136 参照)」による。このとき、基礎柱形主筋の頂部にはフックを設けなくても良い。本設計ハンドブックに示す基礎柱形設計例はコンクリート設計基準強度が 24N/mm^2 の場合における計算例である。コンクリート設計基準強度が異なる場合は、「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて設計が可能である。なお、これによらない場合は、基礎柱形に発生する応力(軸力、曲げ、せん断)を考慮した設計を行う(「鉄筋コンクリート構造計算規準同解説」「建築物の構造関係技術基準解説書」等に準拠)。(詳細は 4.1.1 項参照)

4. 基礎ばりおよび基礎

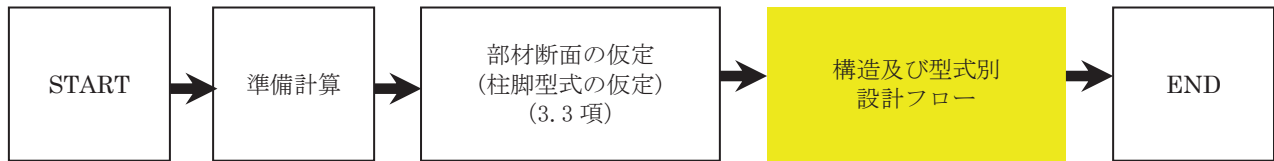
基礎ばりの下端は、アンカーボルト定着板の上面よりも下側とする。柱脚部に発生する曲げモーメントは、原則として全て基礎ばりへ負担させる。このとき、基礎ばりの剛性は柱脚部の剛性よりも十分に高いものとする。ただし、基礎ばりを設けずに基礎から直接地盤へ曲げモーメントを伝達する場合はその剛性が柱脚部よりも十分に高い基礎を設計する。

5. 異種構造との併用

下層が鉄筋コンクリート造、または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、下層および上層との剛性と柱脚の回転剛性を考慮した適切な設計を行う。柱脚部の形状、寸法、配筋等の仕様は柱脚詳細図と同等以上とする。

3.2 柱脚部の設計フロー

ハイベース NEO 工法を用いた露出型柱脚の検討フロー



* 冷間成形角形鋼管柱を用いる場合、柱脚(ベースプレートとアンカーボルトで構成される部分)の検討に際して応力の割増はしない。

ハイベース NEO 工法を使った建築物の設計フロー(角形鋼管柱用・円形鋼管柱用)

【ルート **1-1** 、ルート **1-2** 、ルート **2** の場合】

「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書 付図 1.2-25 露出型柱脚を使った建築物の計算ルート別の設計フロー」(P.20 参照)に基づき検討を行う。

【ルート **3** の場合】

建築物の構造(純ラーメン構造またはブレース構造)*¹により、建築物の設計フローが異なる。

純ラーメン構造の場合

⇒ 「ハイベース NEO 工法を使った建築物の設計フロー(図 3.2)」に基づき検討を行う。

保有水平耐力の確認方法*²

1 階 D_s の割増不要*³、 $Q_u \geq 1.1 \times Q_{un}$

ブレース構造の場合

⇒ 「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書 付図 1.2-25 露出型柱脚を使った建築物の計算ルート別の設計フロー(図 3.4)」に基づき検討を行う。

保有水平耐力の確認方法*²

1 階 D_s を 0.05 割増、 $Q_u \geq Q_{un}$

建築物の構造による設計フローの違い

Q_u : 1 階の保有水平耐力、 Q_{un} : 1 階の必要保有水平耐力

⚠ ハイベース NEO 工法 H 形柱用 (EH, GH 型式) 及びスーパーハイベース工法偏心タイプを使用する場合は、「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書 付図 1.2-25 露出型柱脚を使った建築物の計算ルート別の設計フロー」に基づき検討を行う(詳細は P.20)。

⚠ 1 階 D_s の割増が必要な柱脚 (EH, GH, BS, BC 型式、在来工法等) と、1 階 D_s の割増が不要な柱脚 (EB, GB, EM, GM 型式) が同一の層に混在する場合は、1 階 D_s を 0.05 割増する必要がある。

*¹ : 構造の判定は、柱脚のある層において、構造計算時の荷重方向に配置されるブレースの有無で判断する。なお、柱脚のある層以外に配置されるブレースは考慮しない(建築物の構造判定の一例は図 3.3 参照)。

*² : 柱及びはりの部材群としての種別が D の場合は表 3.2 の方法による。

*³ : ハイベース NEO 工法を使用する層を示す。

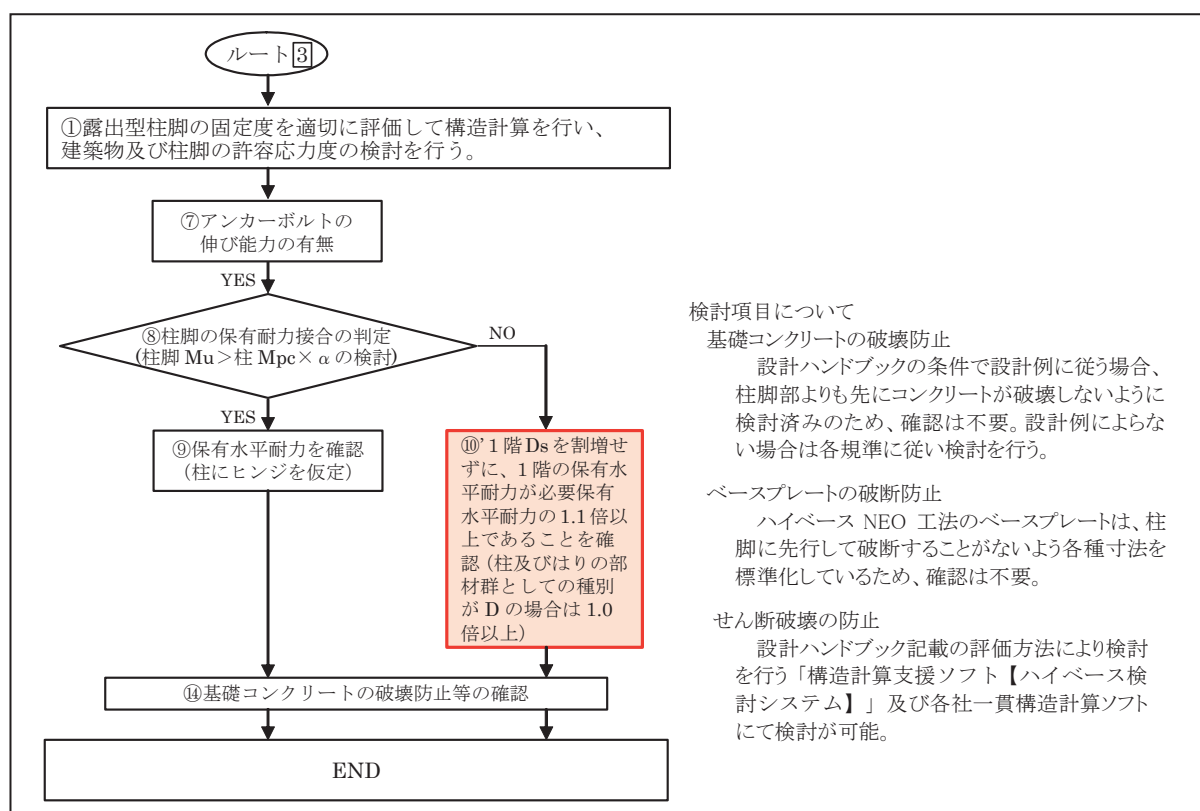


図 3.2 ハイベース NEO 工法(角形鋼管柱用、円形鋼管柱用)を使った建築物の設計フロー (ルート 3、純ラーメン構造の場合)

表 3.2 ハイベース NEO 工法 構造別保有水平耐力の確認方法

建築物の構造	柱形状	ハイベース NEO 工法		設計フロー⑩* 保有水平耐力の確認方法	
		タイプ	型式	右記以外	柱及びはりの部材群としての種別が D の場合
純ラーメン構造	角形鋼管柱	エコタイプ	EB	1 階 D_s の割増不要 $Q_u \geq 1.1 \times Q_{un}$	1 階 D_s の割増不要 $Q_u \geq Q_{un}$
		G タイプ	GB		
	円形鋼管柱	エコタイプ	EM		
		G タイプ	GM		
ブレース構造	角形鋼管柱	エコタイプ	EB	1 階 D_s を 0.05 割増 $Q_u \geq Q_{un}$	1 階 D_s の割増不要 $Q_u \geq Q_{un}$
		G タイプ	GB		
	円形鋼管柱	エコタイプ	EM		
		G タイプ	GM		

* Q_u : 1 階の保有水平耐力、 Q_{un} : 1 階の必要保有水平耐力

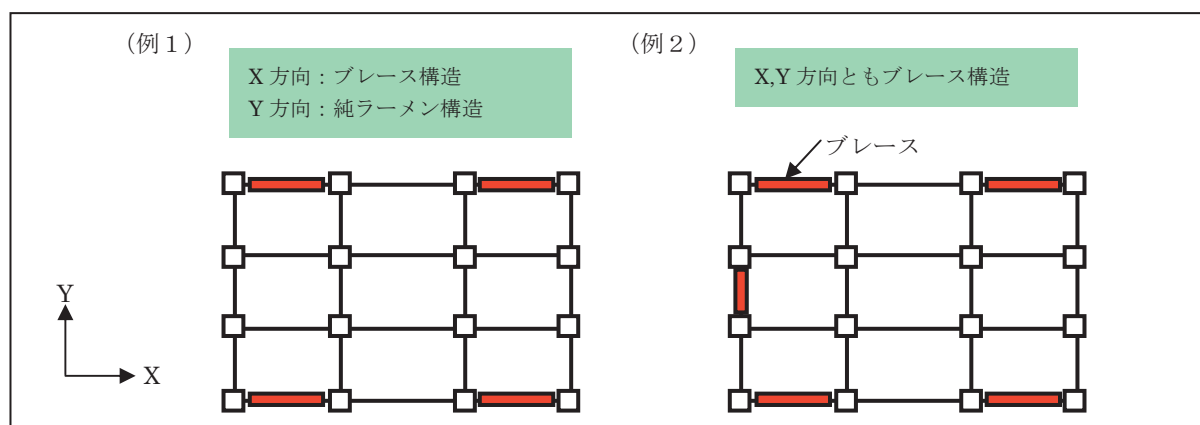


図 3.3 建築物の構造判定の一例

ハイベース NEO 工法(ルート 1-1、1-2、2、H 形柱用、ブレース構造の場合)およびスーパーハイベース工法偏心タイプを使った建築物の設計フロー

「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書 付図 1.2-25 露出型柱脚を使った建築物の計算ルート別の設計フロー」に基づき検討を行う。

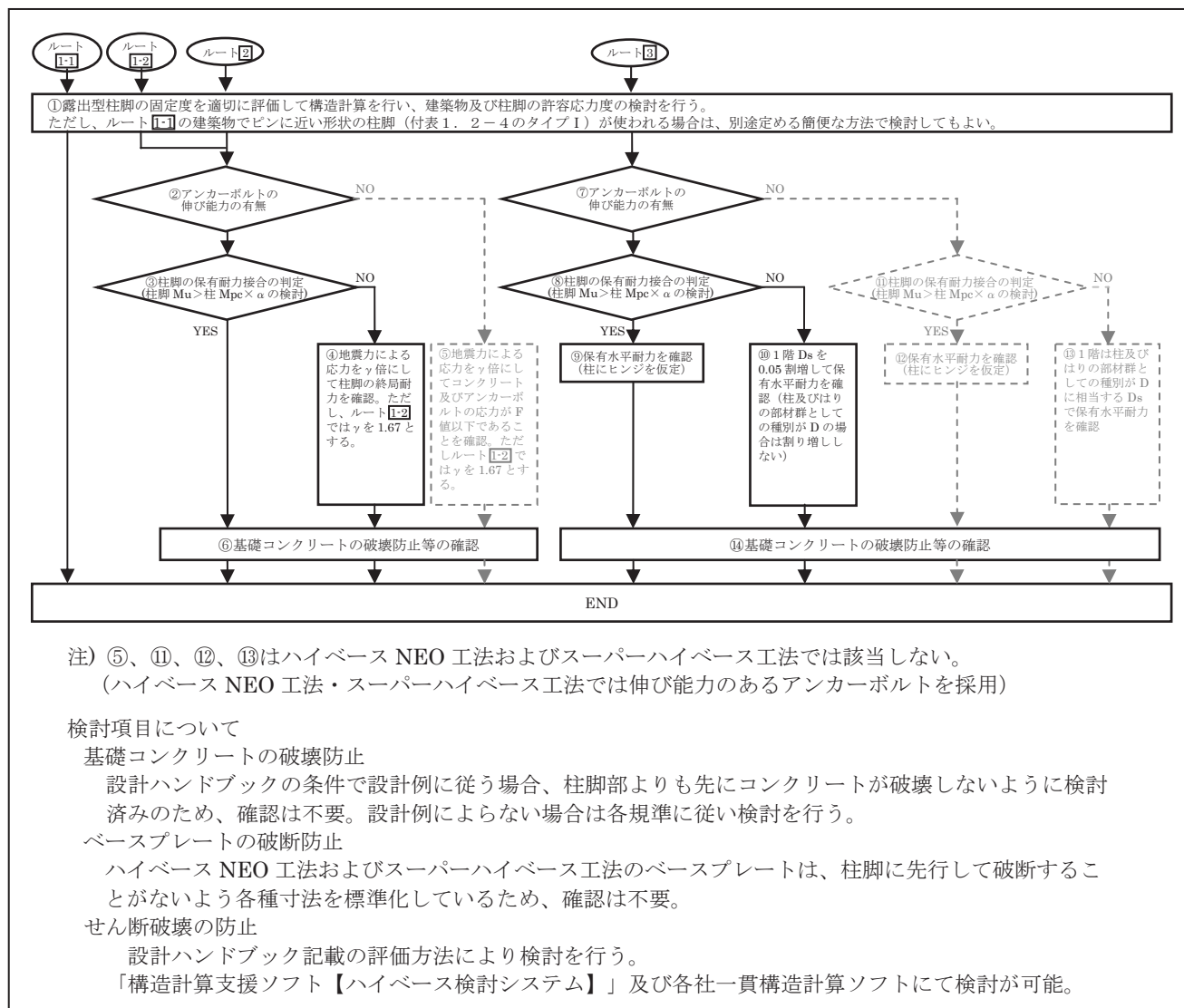


図 3.4 「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書」に則して表したハイベース NEO 工法 (ルート 1-1、1-2、2、H 形柱用、ブレース構造の場合) およびスーパーハイベース工法偏心タイプを使った建築物の設計フロー

3.3 ハイベース NEO 型式の仮定

表 3.3 柱サイズと柱脚部型式の組合せの仮定（角形鋼管柱、BCR295）

柱材質		BCR295 ($F=295\text{N/mm}^2$)			
柱サイズ	板厚	エコタイプ		Gタイプ	
		型式名	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	型式名	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$
□150	6	EB150-4-24	14.0		
	9	EB150-4-24	14.0		
	12	EB150-4-24	14.0		
□175	6	EB175-4-24	17.9		
	9	EB175-4-24	17.9		
	12	EB175-4-24	17.9		
□200	6	EB200-4-24	21.9		
	8	EB200-4-24	21.9		
	9	EB200-4-24	21.9		
	12	EB200-4-24	21.9		
□250	6	EB250-4-24	32.2		
	8	EB250-4-24	32.2		
	9	EB250-4-24	32.2		
	12	EB250-4-30	51.3		
	14	EB250-4-30	51.3		
	16	EB250-4-36	59.7		
□300	6	EB300-4-30	70.1		
	8	EB300-4-30	70.1		
	9	EB300-4-30	70.1		
	12	EB300-4-30	70.1		
	14	EB300-4-36	82.9		
	16	EB300-4-36	82.9		
	19	EB300-8-30	69.4		
	22	EB300-8-30	69.4		
□350	9	EB350-4-30	93.1	GB350-8-30	150
	12	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	14	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	16	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	19	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	22	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
□400	9	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	12	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	14	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	16	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
	19	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
	22	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
□450	9	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	12	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	14	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	16	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	19	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	22	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
□500	9	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	12	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	14	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	16	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	19	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	22	EB500-8-42	238	GB500-8-42	421
□550	12	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	14	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	16	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	19	EB550-8-42	317	GB550-8-42	498
	22	EB550-8-42	317	GB550-8-42	498

* 上記は組合せの一例です。上記以外の柱材質及び柱サイズの組合せも使用可能です。
「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて別途検討をお願いします。



- i) 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
・本表は、柱脚ヒンジ（柱脚 $M_u \leq$ 柱 M_p ）を基本とした柱と柱脚の組合せの目安です。この他の組合せも可能です。
- ii) ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 18～20）に基づき設計を行ってください。
・ルート 2 の設計の場合
回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認ください。
・ルート 3 の設計の場合
柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。
- iii) 鋼管コンクリート構造（CFT 構造を含む）の場合は本表に拠らず、別途検討ください。

表 3.4 柱サイズと柱脚部型式の組合せの仮定（角形鋼管柱、BCP325）

柱材質		BCP325 (F=325N/mm ²)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad
□300	9	EB300-4-30	70.1		
	12	EB300-4-30	70.1		
	16	EB300-4-36	82.9		
	19	EB300-8-30	69.4		
□350	9	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	12	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	16	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	19	EB350-8-30	89.5	GB350-8-30	150
	22	EB350-8-36	105	GB350-8-36	188
□400	9	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	12	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	16	EB400-8-30	111	GB400-8-36	234
	19	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
	22	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
□450	25	EB400-8-36	127	GB400-8-36	234
	9	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	12	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	16	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	19	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	22	EB450-8-36	169	GB450-8-36	296
	25	EB450-8-42	199	GB450-8-42	348
	28			GB450-8-42	348
	32			GB450-8-42	348
□500	9	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	12	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	16	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	19	EB500-8-36	210	GB500-8-36	354
	22	EB500-8-42	238	GB500-8-42	421
	25	EB500-8-42	238	GB500-8-42	421
	28	EB500-12-42	396	GB500-8-48	489
	32			GB500-8-48	489
	36			GB500-8-48	489
□550	38			GB500-8-48	489
	9	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	12	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	16	EB550-8-42	317	GB550-8-36	419
	19	EB550-8-42	317	GB550-8-42	498
	22	EB550-8-42	317	GB550-8-42	498
	25	EB550-12-42	475	GB550-8-48	580
	28	EB550-12-42	475	GB550-8-48	580
	32			GB550-8-48	580
□600	36			GB550-12-48	817
	38			GB550-12-48	817
	40			GB550-12-48	817
	9			GB600-8-42	598
	12			GB600-8-42	598
	16			GB600-8-42	598
	19			GB600-8-42	598
	22			GB600-8-48	682
	25			GB600-8-48	682
□650	28			GB600-8-48	682
	32			GB600-12-48	953
	36			GB600-12-48	953
	38			GB600-12-48	953
	40			GB600-12-48	953
	12			GB650-8-42	680
	16			GB650-8-42	680
	19			GB650-8-42	680
	22			GB650-8-48	782
□1000	25			GB650-8-48	782
	28			GB650-8-56	939
	32			GB650-8-56	939
	36			GB650-8-56	939
	38			GB650-8-56	939
	40			GB650-12-56	1320
	12				
	16				

柱材質		BCP325 (F=325N/mm ²)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad
□700	12			GB700-8-42	782
	16			GB700-8-42	782
	19			GB700-8-48	899
	22			GB700-8-48	899
□750	25			GB700-8-56	1070
	28			GB700-8-56	1070
	32			GB700-8-56	1070
	36			GB700-12-56	1490
	38			GB700-12-56	1490
	40			GB700-12-56	1490
	16			GB750-8-48	1010
	19			GB750-8-48	1010
□800	22			GB750-12-48	1460
	25			GB750-12-48	1460
	28			GB750-12-48	1460
	32			GB750-12-48	1460
	36			GB750-12-56	1700
	38			GB750-12-56	1700
	40			GB750-12-56	1700
	16			GB800-8-56	1380
□850	19			GB800-8-56	1380
	22			GB800-8-56	1380
	25			GB800-8-56	1380
	28			GB800-8-56	1380
	32			GB800-12-56	1930
	36			GB800-12-56	1930
	38			GB800-12-56	1930
	40			GB800-12-56	1930
□900	16			GB850-12-56	2160
	19			GB850-12-56	2160
	22			GB850-12-56	2160
	25			GB850-12-56	2160
	28			GB850-12-56	2160
	32			GB850-12-56	2160
	36			GB850-12-56	2160
	38			GB850-12-64	2480
□950	40			GB850-12-64	2480
	16			GB900-12-56	2430
	19			GB900-12-56	2430
	22			GB900-12-56	2430
	25			GB900-12-56	2430
	28			GB900-12-56	2430
	32			GB900-12-56	2430
	36			GB900-12-56	2430
□1000	38			GB900-12-64	2770
	40			GB900-12-64	2770
	19			GB950-12-56	2700
	22			GB950-12-56	2700
	25			GB950-12-56	2700
	28			GB950-12-56	2700
	32			GB950-12-56	2700
	36			GB950-12-64	3000
□1050	38			GB950-12-64	3000
	40			GB950-12-64	3000
	19			GB1000-12-56	3020
	22			GB1000-12-56	3020
	25			GB1000-12-56	3020
	28			GB1000-12-56	3020
	32			GB1000-12-56	3020
	36			GB1000-12-64	3390
□1100	38			GB1000-12-64	3390
	40			GB1000-12-72	3770

□1050

□1100

□1150

□1200

□1050～□1200に対応可能なハイベース型式（Gタイプ）も御用意しています。構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて別途検討をお願いします。

* 上記は組合せの一例です。上記以外の柱材質及び柱サイズの組合せも使用可能です。

「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて別途検討をお願いします。



- i) 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
 ・本表は、柱脚ヒンジ（柱脚 $M_u \leq$ 柱 M_p ）を基本とした柱と柱脚の組合せの目安です。この他の組合せも可能です。
- ii) ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 18～20）に基づき設計を行ってください。
 ・ルート 2 の設計の場合
 回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
 ・ルート 3 の設計の場合
 柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。
- iii) 鋼管コンクリート構造（CFT 構造を含む）の場合は本表に拠らず、別途検討ください。

表 3.5 柱サイズと柱脚部型式の組合せの仮定（円形鋼管柱、STKN）

柱材質		F=235N/mm ² (STKN400)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad
φ190.7		EM190-4-24	13.8		
φ216.3		EM216-4-24	19.9		
φ267.4		EM250-4-24	28.4		
φ318.5	6.9	EM300-4-24	38.3		
φ318.5	7.9	EM300-4-24	38.3		
φ318.5	10.3	EM300-4-30	61.0		
φ318.5	12.7	EM300-4-30	61.0		
φ355.6	9.5	EM350-4-30	65.1		
φ355.6	11.1	EM350-4-30	65.1		
φ355.6	12.7	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	16	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	19	EM350-8-30	86.3		
φ406.4	9.5	EM400-8-30	119		
φ406.4	12.7	EM400-8-30	119		
φ406.4	16	EM400-8-30	119		
φ406.4	19	EM400-8-30	119		
φ450	19	EM450-8-30	146		
φ457.2	12.7	EM450-8-30	146		
φ457.2	16	EM450-8-30	146		
φ457.2	19	EM450-8-30	146		
φ500	19	EM500-8-36	231		
φ500	22	EM500-8-36	231		
φ508	12.7	EM500-8-36	231		
φ508	16	EM500-8-36	231		
φ508	19	EM500-8-36	231		
φ508	22	EM500-8-36	231		
φ550	19	EM550-8-36	269		
φ550	22	EM550-8-36	269		
φ558.8	12.7	EM550-8-36	269		
φ558.8	16	EM550-8-36	269		
φ558.8	19	EM550-8-36	269		
φ558.8	22	EM550-8-42	350		
φ600	19			GM600-8-36	421
φ600	22			GM600-8-48	563
φ600	25			GM600-8-48	563
φ600	28			GM600-8-48	563
φ600	32			GM600-8-48	563
φ600	36			GM600-8-48	563
φ600	40			GM600-8-64	747
φ609.6	12.7			GM600-8-36	421
φ609.6	16			GM600-8-36	421
φ609.6	19			GM600-8-36	421
φ609.6	22			GM600-8-48	563

柱材質		F=325N/mm ² (STKN490)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad
φ190.7		EM190-4-24	13.8		
φ216.3		EM216-4-24	19.9		
φ267.4		EM250-4-24	28.4		
φ318.5	6.9	EM300-4-24	38.3		
φ318.5	7.9	EM300-4-30	61.0		
φ318.5	10.3	EM300-4-30	61.0		
φ318.5	12.7	EM300-4-30	61.0		
φ355.6	9.5	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	11.1	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	12.7	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	16	EM350-8-30	86.3		
φ355.6	19	EM350-8-30	86.3		
φ406.4	9.5	EM400-8-30	119		
φ406.4	12.7	EM400-8-30	119		
φ406.4	16	EM400-8-36	148		
φ406.4	19	EM400-8-36	148		
φ450	19	EM450-8-36	182		
φ457.2	12.7	EM450-8-30	146		
φ457.2	16	EM450-8-36	182		
φ457.2	19	EM450-8-36	182		
φ500	19	EM500-8-42	301		
φ500	22	EM500-8-42	301		
φ508	12.7	EM500-8-36	231		
φ508	16	EM500-8-36	231		
φ508	19	EM500-8-42	301		
φ508	22	EM500-8-42	301		
φ550	19	EM550-8-42	350		
φ550	22	EM550-8-42	350		
φ558.8	12.7	EM550-8-42	350		
φ558.8	16	EM550-8-42	350		
φ558.8	19	EM550-8-42	350		
φ558.8	22	EM550-8-42	350		
φ600	19			GM600-8-48	563
φ600	22			GM600-8-48	563
φ600	25			GM600-8-48	563
φ600	28			GM600-8-64	747
φ600	32			GM600-8-64	747
φ600	36			GM600-8-64	747
φ600	40			GM600-8-64	747
φ609.6	12.7			GM600-8-36	421
φ609.6	16			GM600-8-48	563
φ609.6	19			GM600-8-48	563
φ609.6	22			GM600-8-48	563

* 上記は組合せの一例です。上記以外の柱材質及び柱サイズの組合せも使用可能です。
「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて別途検討をお願いします。



- i) 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
・本表は、柱脚ヒンジ（柱脚 $M_u \leq M_p$ ）を基本とした柱と柱脚の組合せの目安です。この他の組合せも可能です。
- ii) ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 18～20）に基づき設計を行ってください。
・ルート2の設計の場合
回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
・ルート3の設計の場合
柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。
- iii) 鋼管コンクリート構造（CFT 構造を含む）の場合は本表に拠らず、別途検討ください。

表 3.6 柱サイズと柱脚部型式の組合せの仮定（円形鋼管柱、STKN）

柱材質		F=235N/mm ² (STKN400)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad
φ 650	16			GM650-8-48	661
φ 650	19			GM650-8-48	661
φ 650	22			GM650-8-48	661
φ 650	25			GM650-8-48	661
φ 650	28			GM650-8-48	661
φ 650	32			GM650-8-48	661
φ 650	36			GM650-8-64	846
φ 650	40			GM650-8-64	846
φ 660.4	22			GM650-8-48	661
φ 660.4	28			GM650-8-48	661
φ 660.4	36			GM650-8-64	846
φ 700	16			GM700-8-48	750
φ 700	19			GM700-8-48	750
φ 700	22			GM700-8-48	750
φ 700	25			GM700-8-48	750
φ 700	28			GM700-8-48	750
φ 700	32			GM700-8-64	958
φ 700	36			GM700-8-64	958
φ 700	40			GM700-8-64	958
φ 711.2	22			GM700-8-48	750
φ 711.2	25			GM700-8-48	750
φ 711.2	28			GM700-8-48	750
φ 750	16			GM750-8-48	865
φ 750	19			GM750-8-48	865
φ 750	22			GM750-8-48	865
φ 750	25			GM750-8-48	865
φ 750	28			GM750-8-64	1100
φ 750	32			GM750-8-64	1100
φ 750	36			GM750-8-64	1100
φ 750	40			GM750-8-64	1100
φ 762	16			GM750-8-48	865
φ 762	22			GM750-8-48	865
φ 762	28			GM750-8-64	1100
φ 800	16			GM800-8-48	961
φ 800	19			GM800-8-48	961
φ 800	22			GM800-8-48	961
φ 800	25			GM800-8-48	961
φ 800	28			GM800-8-64	1240
φ 800	32			GM800-8-64	1240
φ 800	36			GM800-8-64	1240
φ 800	40			GM800-8-64	1240
φ 812.8	19			GM800-8-48	961
φ 812.8	22			GM800-8-48	961
φ 812.8	25			GM800-8-48	961
φ 850				GM850-8-64	1410
φ 900				GM900-8-64	1660
φ 950				GM950-8-64	1750
φ 1000				GM1000-8-64	1970

柱材質		F=325N/mm ² (STKN490)			
		エコタイプ		Gタイプ	
柱サイズ	板厚	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	型式名	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad
φ 650	16			GM650-8-48	661
φ 650	19			GM650-8-48	661
φ 650	22			GM650-8-48	661
φ 650	25			GM650-8-64	846
φ 650	28			GM650-8-64	846
φ 650	32			GM650-8-64	846
φ 650	36			GM650-8-64	846
φ 650	40			GM650-8-64	846
φ 660.4	22			GM650-8-48	661
φ 660.4	28			GM650-8-64	846
φ 660.4	36			GM650-8-64	846
φ 700	16			GM700-8-48	750
φ 700	19			GM700-8-48	750
φ 700	22			GM700-8-64	958
φ 700	25			GM700-8-64	958
φ 700	28			GM700-8-64	958
φ 700	32			GM700-8-64	958
φ 700	36			GM700-8-64	958
φ 700	40			GM700-8-64	958
φ 711.2	22			GM700-8-64	958
φ 711.2	25			GM700-8-64	958
φ 711.2	28			GM700-8-64	958
φ 750	16			GM750-8-48	865
φ 750	19			GM750-8-48	865
φ 750	22			GM750-8-64	1100
φ 750	25			GM750-8-64	1100
φ 750	28			GM750-8-64	1100
φ 750	32			GM750-8-64	1100
φ 750	36			GM750-8-64	1100
φ 750	40			GM750-8-64	1100
φ 762	16			GM750-8-48	865
φ 762	22			GM750-8-64	1100
φ 762	28			GM750-8-64	1100
φ 800	16			GM800-8-48	961
φ 800	19			GM800-8-64	1240
φ 800	22			GM800-8-64	1240
φ 800	25			GM800-8-64	1240
φ 800	28			GM800-8-64	1240
φ 800	32			GM800-8-64	1240
φ 800	36			GM800-8-64	1240
φ 800	40			GM800-8-64	1240
φ 812.8	19			GM800-8-64	1240
φ 812.8	22			GM800-8-64	1240
φ 812.8	25			GM800-8-64	1240
φ 850				GM850-8-64	1410
φ 900				GM900-8-64	1660
φ 950				GM950-8-64	1750
φ 1000				GM1000-8-64	1970

* 上記は組合せの一例です。上記以外の柱材質及び柱サイズの組合せも使用可能です。
「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて別途検討をお願いします。



- i) 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
・本表は、柱脚ヒンジ（柱脚 $M_u \leq M_p$ ）を基本とした柱と柱脚の組合せの目安です。この他の組合せも可能です。
- ii) ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 18～20）に基づき設計を行ってください。
・ルート 2 の設計の場合
回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
・ルート 3 の設計の場合
柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。
- iii) 鋼管コンクリート構造（CFT 構造を含む）の場合は本表に拠らず、別途検討ください。

H 形柱用（EH 型式・GH 型式）は、表 3.7～表 3.8 に示す H 形柱に対応する。

表 3.7 H 形柱用（EH 型式、GH 型式）適用可能柱サイズ（柱：F=235N/mm²）
(a) H-150×150～H-400×400 (b) H-450×200～H-500×300

ハイベースNEO	適応可能柱		
型式	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
EH150×150-4-24	150×150	H-150×150×7×10	
EH175×175-4-24	175×175	H-175×175×7.5×11	
EH200×200-4-24	200×150	H-194×150×6×9	
	200×200	H-200×200×8×12	
		H-200×204×12×12	
EH250×250-4-24	250×250	H-208×202×10×16	
		H-244×175×7×11	
		H-244×252×11×11	
		H-248×249×8×13	
EH250×250-4-30	250×250	H-250×250×9×14	
		H-250×255×14×14	
		H-244×175×7×11	
		H-244×252×11×11	
EH300×300-4-30	300×200	H-248×249×8×13	
		H-250×250×9×14	
		H-250×255×14×14	
		H-294×200×8×12	
EH300×300-4-30	300×300	H-298×201×9×14	
		H-294×302×12×12	
		H-298×299×9×14	
		H-300×300×10×15	
EH300×300-4-36	300×300	H-300×305×15×15	
		H-304×301×11×17	
		H-294×200×8×12	
		H-298×201×9×14	
EH350×250-4-30	350×250	H-294×302×12×12	
		H-298×299×9×14	
		H-300×300×10×15	
		H-300×305×15×15	
EH350×350-4-42	350×350	H-304×301×11×17	
		H-336×249×8×12	
		H-340×250×9×14	
		H-338×351×13×13	
EH400×300-4-30	400×200	H-344×348×10×16	
		H-344×354×16×16	
		H-350×350×12×19	
		H-350×357×19×19	
EH400×300-4-36	400×200	H-356×352×14×22	
		H-396×199×7×11	H-400×200×9×12
		H-400×200×8×13	H-400×200×9×16
		H-404×201×9×15	H-400×200×9×19
EH400×300-4-36	400×300		H-400×200×9×22
			H-400×200×12×22
		H-386×299×9×14	
		H-390×300×10×16	
EH400×400-4-42	400×400	H-396×199×7×11	H-400×200×9×12
		H-400×200×8×13	H-400×200×9×16
		H-404×201×9×15	H-400×200×9×19
			H-400×200×9×22
GH400×400-4-56	400×400		H-400×200×12×22
		H-386×299×9×14	
		H-390×300×10×16	
		H-388×402×15×15	
GH400×400-4-56	400×400	H-394×398×11×18	
		H-394×405×18×18	
		H-400×400×13×21	
		H-400×408×21×21	
GH400×400-4-56	400×400	H-406×403×16×24	
		H-414×405×18×28	
		H-428×407×20×35	
		H-458×417×30×50	

ハイベースNEO 型式	適応可能柱				
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)		
EH450×300-4-30	450×200	H-446×199×8×12	H-450×200×9×12		
		H-450×200×9×14	H-450×200×9×16		
		H-456×201×10×17	H-450×200×9×19		
			H-450×200×9×22		
			H-450×200×12×19		
			H-450×200×12×22		
	450×250		H-450×200×12×25		
			H-450×250×9×16		
			H-450×250×9×19		
			H-450×250×9×22		
			H-450×250×12×22		
450×300	H-434×299×10×15				
	H-440×300×11×18				
	H-446×302×13×21				
EH450×300-4-42	450×200	H-446×199×8×12	H-450×200×9×12		
		H-450×200×9×14	H-450×200×9×16		
		H-456×201×10×17	H-450×200×9×19		
			H-450×200×9×22		
			H-450×200×12×19		
			H-450×200×12×22		
	450×250		H-450×200×12×25		
			H-450×250×9×16		
			H-450×250×9×19		
			H-450×250×9×22		
			H-450×250×12×22		
			H-450×250×12×25		
	450×300		H-450×250×12×28		
		H-434×299×10×15			
		H-440×300×11×18			
		H-446×302×13×21			
		EH500×300-4-30	500×200	H-496×199×9×14	H-500×200×9×12
				H-500×200×10×16	H-500×200×9×16
	H-506×201×11×19			H-500×200×9×19	
				H-500×200×9×22	
				H-500×200×12×19	
				H-500×200×12×22	
	500×250			H-500×200×12×25	
				H-500×250×9×16	
			H-500×250×9×19		
			H-500×250×9×22		
500×300			H-482×300×11×15	H-500×300×12×16	
			H-488×300×11×18	H-500×300×12×19	
	H-494×302×13×21	H-500×300×12×22			
		H-500×300×12×25			
		H-500×300×16×22			
		H-500×300×16×25			
EH500×300-4-42	500×200	H-496×199×9×14	H-500×200×9×12		
		H-500×200×10×16	H-500×200×9×16		
		H-506×201×11×19	H-500×200×9×19		
			H-500×200×9×22		
			H-500×200×12×19		
			H-500×200×12×22		
	500×250		H-500×200×12×25		
			H-500×250×9×16		
			H-500×250×9×19		
			H-500×250×9×22		
			H-500×250×12×22		
			H-500×250×12×25		
	500×300		H-500×250×12×28		
		H-482×300×11×15	H-500×300×12×16		
		H-488×300×11×18	H-500×300×12×19		
		H-494×302×13×21	H-500×300×12×22		
			H-500×300×12×25		
			H-500×300×16×22		
			H-500×300×16×25		
			H-500×300×16×28		
			H-500×300×16×32		

* 本表の適用柱組合せは、柱とハイベースの終局耐力比（軸力 0 のとき）が 0.45 以上となる組合せです。 本表に記載以外の組合せでは、ハイベース耐力が柱耐力に比べ小さいため注意が必要です。また、本表に記載以外の組合せを使用する場合、センクシアにお問い合わせください。

* 本表に記載のない H-700×200,H-700×250,H-800×250,H-900×250 シリーズは、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適応不可）。

* 溶接組立 H 形断面柱は、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適応不可）。



- 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
 - 本表に記載以外の組合せも可能な場合があります。センクシアにお問い合わせください。
- ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 20）に基づき設計を行ってください。
 - ルート 2 の設計の場合
 - 回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
 - ルート 3 の設計の場合
 - 柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。

表 3.7 H 形柱用 (EH 型式、GH 型式) 適用可能柱サイズ (柱 : F=235N/mm²)
(c) H-600×200~H-700×350 (d) H-800×300~H-900×400

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
EH600×300-4-36	600×200	H-596×199×10×15	H-600×200×9×12
		H-600×200×11×17	H-600×200×9×16
		H-606×201×12×20	H-600×200×9×19
		H-612×202×13×23	H-600×200×9×22
			H-600×200×12×16
			H-600×200×12×19
			H-600×200×12×22
			H-600×200×12×25
	600×250		H-600×200×12×28
			H-600×250×9×16
			H-600×250×9×19
			H-600×250×12×19
			H-600×250×12×22
			H-600×250×12×25
			H-600×250×12×28
			H-600×250×16×25
	600×300	H-582×300×12×17	H-600×300×12×19
		H-588×300×12×20	H-600×300×12×22
		H-594×302×14×23	H-600×300×12×25
			H-600×300×12×28
			H-600×300×14×22
			H-600×300×14×25
GH600×300-4-48	600×200	H-596×199×10×15	H-600×200×9×12
		H-600×200×11×17	H-600×200×9×16
		H-606×201×12×20	H-600×200×9×19
		H-612×202×13×23	H-600×200×9×22
			H-600×200×12×16
			H-600×200×12×19
			H-600×200×12×22
			H-600×200×12×25
	600×250		H-600×200×12×28
			H-600×250×9×16
			H-600×250×9×19
			H-600×250×12×19
			H-600×250×12×22
			H-600×250×12×25
			H-600×250×16×25
	600×300	H-582×300×12×17	H-600×300×12×19
		H-588×300×12×20	H-600×300×12×22
		H-594×302×14×23	H-600×300×12×25
			H-600×300×12×28
			H-600×300×14×22
			H-600×300×14×25
EH700×300-4-42	700×300	H-692×300×13×20	H-700×300×12×19
		H-700×300×13×24	H-700×300×12×22
		H-708×302×15×28	H-700×300×12×25
			H-700×300×14×22
			H-700×300×14×25
			H-700×300×14×28
	700×350		H-700×300×14×32
			H-700×300×16×22
			H-700×300×16×25
			H-700×300×16×28
			H-700×300×16×32
			H-700×300×16×36
GH700×300-4-56	700×300	H-692×300×13×20	H-700×300×12×19
		H-700×300×13×24	H-700×300×12×22
		H-708×302×15×28	H-700×300×12×25
			H-700×300×14×22
			H-700×300×14×25
			H-700×300×14×28
			H-700×300×14×32
			H-700×300×16×22
	700×350		H-700×300×16×25
			H-700×300×16×28
			H-700×300×16×32
			H-700×300×16×36
			H-700×350×12×22
			H-700×350×12×25
			H-700×350×14×22
			H-700×350×14×25
	700×400		H-700×350×14×28
			H-700×350×14×32
			H-700×350×16×25
			H-700×350×16×28
			H-700×350×16×32
			H-700×350×16×36

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
GH800×300-4-42	800×300	H-792×300×14×22	H-800×300×14×22
		H-800×300×14×26	H-800×300×14×25
		H-808×302×16×30	H-800×300×14×28
			H-800×300×16×22
			H-800×300×16×25
			H-800×300×16×28
			H-800×300×16×32
			H-800×300×16×36
GH800×300-4-56	800×300	H-792×300×14×22	H-800×300×14×22
		H-800×300×14×26	H-800×300×14×25
		H-808×302×16×30	H-800×300×14×28
			H-800×300×16×22
			H-800×300×16×25
			H-800×300×16×28
			H-800×300×16×32
			H-800×300×16×36
	800×350		H-800×350×14×25
			H-800×350×14×28
			H-800×350×16×25
			H-800×350×16×28
			H-800×350×16×32
			H-800×350×16×36
			H-800×350×19×25
			H-800×350×19×28
	800×400		H-800×350×19×32
			H-800×350×19×36
			H-800×350×19×40
			H-800×400×14×25
			H-800×400×14×28
			H-800×400×16×25
			H-800×400×16×28
			H-800×400×16×32
GH900×300-4-42	900×300	H-890×299×15×23	H-900×300×16×19
		H-900×300×16×28	H-900×300×16×22
		H-912×302×18×34	H-900×300×16×25
			H-900×300×16×28
			H-900×300×16×32
			H-900×300×19×22
			H-900×300×19×25
			H-900×300×19×28
GH900×300-4-56	900×300	H-890×299×15×23	H-900×300×16×19
		H-900×300×16×28	H-900×300×16×22
		H-912×302×18×34	H-900×300×16×25
			H-900×300×16×28
			H-900×300×16×32
			H-900×300×19×22
			H-900×300×19×25
			H-900×300×19×28
	900×350		H-900×300×19×32
			H-900×300×19×36
			H-900×300×19×40
			H-900×350×16×32
			H-900×350×16×28
			H-900×350×16×27
			H-900×350×19×25
			H-900×350×19×28
	900×400		H-900×350×19×32
			H-900×350×19×36
			H-900×350×19×40
			H-900×400×16×25
			H-900×400×16×28
			H-900×400×16×32
			H-900×400×19×28
			H-900×400×19×32

* 本表の適用柱組合せは、柱とハイベースの終局耐力比（軸力 0 のとき）が 0.45 以上となる組合せです。 本表に記載以外の組合せでは、ハイベース耐力が柱耐力に比べ小さいため注意が必要です。また、本表に記載以外の組合せを使用する場合、センクシアにお問い合わせください。

* 本表に記載の無い H-700×200,H-700×250,H-800×250,H-900×250 シーズは、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。

* 溶接組立 H 形断面柱は、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。



- 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
 - 本表に記載以外の組合せも可能な場合があります。センクシアにお問い合わせください。
- ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 20）に基づき設計を行ってください。
 - ルート 2 の設計の場合
 - 回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
 - ルート 3 の設計の場合
 - 柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。

表 3.8 H 形柱用 (EH 型式、GH 型式) 適用可能柱サイズ (柱 : F=325N/mm²)
(a) H-150×150~H-400×400 (b) H-450×200~H-500×300

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
EH150×150-4-24	150×150	H-150×150×7×10	
EH175×175-4-24	175×175	H-175×175×7.5×11	
EH200×200-4-24	200×150	H-194×150×6×9	
	200×200	H-200×200×8×12	
		H-200×204×12×12	
		H-208×202×10×16	
EH250×250-4-24	250×175	H-244×175×7×11	
	250×250	H-244×252×11×11	
		H-248×249×8×13	
		H-250×250×9×14	
EH250×250-4-30	250×175	H-244×175×7×11	
	250×250	H-244×252×11×11	
		H-248×249×8×13	
		H-250×250×9×14	
EH300×300-4-30	300×200	H-294×200×8×12	
		H-298×201×9×14	
	300×300	H-294×302×12×12	
		H-298×299×9×14	
EH300×300-4-36	300×200	H-300×300×10×15	
		H-300×305×15×15	
	300×300	H-304×301×11×17	
		H-294×200×8×12	
EH350×250-4-30	350×250	H-298×201×9×14	
		H-294×302×12×12	
	350×350	H-298×299×9×14	
		H-300×300×10×15	
EH350×350-4-42	350×250	H-300×305×15×15	
		H-304×301×11×17	
	350×350	H-336×249×8×12	
		H-340×250×9×14	
EH400×300-4-30	400×200	H-336×249×8×12	
		H-340×250×9×14	
	400×300	H-386×299×9×14	
		H-390×300×10×16	
EH400×300-4-36	400×200	H-396×199×7×11	
		H-400×200×8×13	
	400×300	H-404×201×9×15	
		H-386×299×9×14	
EH400×400-4-42	400×200	H-396×199×7×11	
		H-400×200×8×13	
	400×400	H-404×201×9×15	
		H-386×299×9×14	
GH400×400-4-56	400×300	H-394×300×10×16	
		H-388×402×15×15	
	400×400	H-394×398×11×18	
		H-394×405×18×18	

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
EH450×300-4-30	450×200	H-446×199×8×12	H-450×200×9×12
		H-450×200×9×14	H-450×200×9×16
		H-456×201×10×17	H-450×200×9×19
			H-450×200×9×22
EH450×300-4-42	450×250		H-450×200×12×19
			H-450×200×12×22
			H-450×200×12×25
			H-450×250×9×16
EH500×300-4-30	500×200		H-450×250×9×19
			H-450×250×9×22
			H-450×250×12×22
			H-450×250×12×25
EH500×300-4-42	500×250		H-450×250×12×28

* 本表の適用柱組合せは、柱とハイベースの終局耐力比（軸力 0 のとき）が 0.45 以上となる組合せです。 本表に記載以外の組合せでは、ハイベース耐力が柱耐力に比べ小さいため注意が必要です。また、本表に記載以外の組合せを使用する場合、センクシアにお問い合わせください。

* 本表に記載のない H-700×200,H-700×250,H-800×250,H-900×250 シリーズは、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。

* 溶接組立 H 形断面柱は、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。



- 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
 - 本表に記載以外の組合せも可能な場合があります。センクシアにお問い合わせください。
- ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 20）に基づき設計を行ってください。
 - ルート 2 の設計の場合
 - 回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
 - ルート 3 の設計の場合
 - 柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。

表 3.8 H 形柱用 (EH 型式、GH 型式) 適用可能柱サイズ (柱 : F=325N/mm²)
(c) H-600×200~H-700×350 (d) H-800×300~H-900×400

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
EH600×300-4-36	600×200	H-596×199×10×15	H-600×200×9×12
		H-600×200×11×17	H-600×200×9×16
		H-606×201×12×20	H-600×200×9×19
		H-612×202×13×23	H-600×200×9×22
			H-600×200×12×16
			H-600×200×12×19
			H-600×200×12×22
			H-600×200×12×25
			H-600×200×12×28
			H-600×250×9×16
			H-600×250×9×19
			H-600×250×12×19
	600×250	H-600×250×12×22	H-600×250×12×25
		H-600×250×12×25	H-600×250×12×28
			H-600×250×16×25
			H-600×250×16×28
	600×300	H-582×300×12×17	H-600×300×12×19
		H-588×300×12×20	H-600×300×12×22
		H-594×302×14×23	H-600×300×12×25
			H-600×300×14×22
			H-600×300×14×25
GH600×300-4-48	600×200	H-596×199×10×15	H-600×200×9×12
		H-600×200×11×17	H-600×200×9×16
		H-606×201×12×20	H-600×200×9×19
		H-612×202×13×23	H-600×200×9×22
			H-600×200×12×16
			H-600×200×12×19
			H-600×200×12×22
			H-600×200×12×25
			H-600×200×12×28
			H-600×250×9×16
			H-600×250×9×19
			H-600×250×12×19
	600×250	H-600×250×12×22	H-600×250×12×25
		H-600×250×12×28	H-600×250×16×25
			H-600×250×16×28
			H-600×250×16×32
	600×300	H-582×300×12×17	H-600×300×12×19
		H-588×300×12×20	H-600×300×12×22
		H-594×302×14×23	H-600×300×12×25
			H-600×300×14×22
			H-600×300×14×25
			H-600×300×14×28
			H-600×300×16×28
			H-600×300×16×32
EH700×300-4-42	700×300	H-692×300×13×20	H-700×300×12×19
		H-700×300×13×24	H-700×300×12×22
		H-708×302×15×28	H-700×300×12×25
			H-700×300×14×22
			H-700×300×14×25
			H-700×300×14×28
			H-700×300×14×32
			H-700×300×16×22
			H-700×300×16×25
			H-700×300×16×28
			H-700×300×16×32
			H-700×300×16×32
GH700×300-4-56	700×300	H-692×300×13×20	H-700×300×12×19
		H-700×300×13×24	H-700×300×12×22
		H-708×302×15×28	H-700×300×12×25
			H-700×300×14×22
			H-700×300×14×25
			H-700×300×14×28
			H-700×300×14×32
			H-700×300×16×22
			H-700×300×16×25
			H-700×300×16×28
			H-700×300×16×32
			H-700×300×16×32
	700×350		H-700×350×12×22
			H-700×350×12×25
			H-700×350×14×22
			H-700×350×14×25
			H-700×350×14×28
			H-700×350×14×32
			H-700×350×16×25
			H-700×350×16×28
			H-700×350×16×32
			H-700×350×16×32
			H-700×350×16×36
			H-700×350×16×36

ハイベースNEO 型式	適用可能柱		
	シリーズ	サイズ(内法一定)	サイズ(外法一定)
GH800×300-4-42	800×300	H-792×300×14×22	H-800×300×14×22
		H-800×300×14×26	H-800×300×14×25
			H-800×300×14×28
			H-800×300×16×22
			H-800×300×16×25
			H-800×300×16×28
	800×300	H-792×300×14×22	H-800×300×14×22
		H-800×300×14×26	H-800×300×14×25
		H-808×302×16×30	H-800×300×14×28
			H-800×300×16×22
			H-800×300×16×25
			H-800×300×16×28
	800×350		H-800×350×14×25
			H-800×350×14×28
			H-800×350×16×25
			H-800×350×16×28
			H-800×350×16×32
			H-800×350×16×36
			H-800×350×19×25
			H-800×350×19×28
			H-800×350×19×32
			H-800×350×19×36
			H-800×400×14×25
GH800×300-4-56	800×400		H-800×400×14×28
			H-800×400×16×25
			H-800×400×16×28
			H-800×400×16×32
			H-800×400×16×36
			H-800×400×19×28
			H-800×400×19×32
			H-800×400×19×36
			H-800×400×19×40
	900×300	H-890×299×15×23	H-900×300×16×19
		H-900×300×16×28	H-900×300×16×22
			H-900×300×16×25
			H-900×300×16×28
			H-900×300×16×32
			H-900×300×19×22
			H-900×300×19×25
			H-900×300×19×28
			H-900×300×19×32
			H-900×300×19×36
			H-900×300×19×40
			H-900×300×19×40
GH900×300-4-42	900×300	H-890×299×15×23	H-900×300×16×19
		H-900×300×16×28	H-900×300×16×22
		H-912×302×18×34	H-900×300×16×25
			H-900×300×16×28
			H-900×300×16×32
			H-900×300×19×22
			H-900×300×19×25
			H-900×300×19×28
			H-900×300×19×32
			H-900×300×19×36
			H-900×300×19×40
			H-900×300×19×40
	900×350		H-900×350×16×19
			H-900×350×16×22
			H-900×350×16×25
			H-900×350×16×28
			H-900×350×16×32
			H-900×350×19×22
			H-900×350×19×25
			H-900×350×19×28
			H-900×350×19×32
			H-900×350×19×36
			H-900×350×19×40
			H-900×350×19×40
GH900×300-4-56	900×400		H-900×400×16×25
			H-900×400×16×28
			H-900×400×16×32
			H-900×400×19×28
			H-900×400×19×32
			H-900×400×19×36
			H-900×400×19×40
			H-900×400×19×40
			H-900×400×19×40
			H-900×400×19×40
			H-900×400×19×40
			H-900×400×19×40

* 本表の適用柱組合せは、柱とハイベースの終局耐力比（軸力 0 のとき）が 0.45 以上となる組合せです。 本表に記載以外の組合せでは、ハイベース耐力が柱耐力に比べ小さいため注意が必要です。また、本表に記載以外の組合せを使用する場合、センクシアにお問い合わせください。

* 本表に記載の無い H-700×200,H-700×250,H-800×250,H-900×250 シリーズは、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。

* 溶接組立 H 形断面柱は、GH 型式のみ対応可能です（EH 型式は適用不可）。



- 耐力図（付録参照）を用いて応力確認を行ってください。
・本表に記載以外の組合せも可能な場合があります。センクシアにお問い合わせください。
- ハイベース NEO 工法の設計フロー（P. 20）に基づき設計を行ってください。
・ルート 2 の設計の場合
回転ばねを考慮した応力計算結果による柱脚応力を、耐力図（付録参照）を基に確認してください。
・ルート 3 の設計の場合
柱の脚部、ハイベース NEO 柱脚部の内、小さい方の終局耐力を用いて保有水平耐力の検討を行ってください。

3.4 曲げ耐力の検討方法

柱脚部の耐力がハイベース NEO またはスーパーハイベースの耐力により決定される場合の設計例を示す(ハイベース NEO 型式: GB350-8-30 の場合)。

短期許容耐力時

曲げモーメント、軸力の数値を耐力図中にプロットし、柱脚の耐力曲線に包括されるかを確認。

型式: GB350-8-30

● 計算応力 ≤ ハイベース NEO 耐力 ∴ OK

▲ 計算応力 ≥ ハイベース NEO 耐力 ∴ NG

⇒ NG の場合、OK となる型式(例では GB350-8-36)を再度選択する。

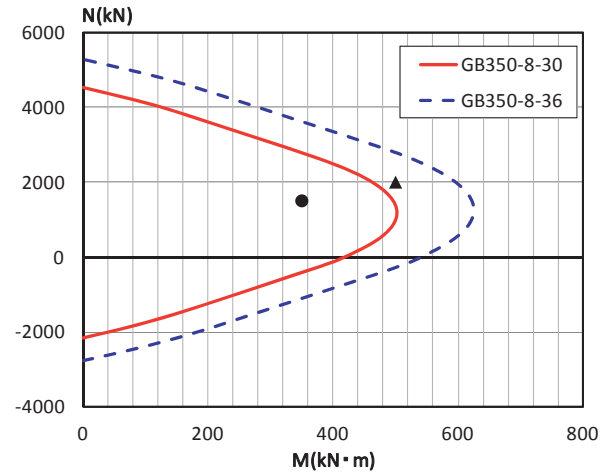


図 3.5 短期許容時耐力図

終局耐力時

設計軸力とハイベース NEO の耐力曲線の交点の数値で保有水平耐力の検討を行う。

■ 設計軸力 800kN の場合、耐力曲線と交点の曲げ耐力 636kN・m で保有水平耐力を検討。

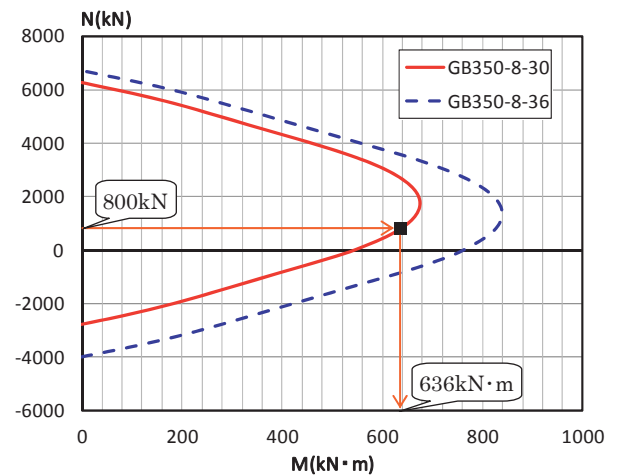


図 3.6 終局時耐力図

各型式の耐力図 (コンクリート設計基準強度 24N/mm^2 の場合) は P.44~P.136 を参照ください。

* 上記検討は「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」により検討が可能です。ソフトはセンクシアホームページ (<https://www.senqcia.co.jp/>) よりダウンロード可能です。

* コンクリート設計基準強度が 24N/mm^2 以外の場合は、本設計ハンドブックに記載の耐力図とは異なります。この場合は、「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」にて検討ください。

3.5 せん断耐力の検討方法

ハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法偏心タイプでは、柱脚部に作用するせん断力を主に次の方法を用いて基礎（基礎ばり）に伝達する。

- (a)ベースプレート底面とコンクリート(無収縮モルタル)の摩擦抵抗により伝達する方法(Q_{a0}, Q_{u0})
- (b)ベースプレートの特殊底面形状の効果により伝達する方法(aQ_a, aQ_u)
- (c)座金を全周隅肉溶接でベースプレートに固定しアンカーボルトを介して伝達する方法(Q_{a1}, Q_{u1})
- (d)柱脚部を埋込み、コンクリートの支圧抵抗に期待する方法(Q_{a2}, Q_{u2})

ハイベース NEO 工法は、ベースプレート底面の特殊形状によるせん断伝達機構を有する。そのため、引抜軸力が大きい等の理由でベースプレート底面の摩擦抵抗が消失する場合も、せん断耐力を保持する（基礎柱形コンクリートの割裂強度を上限としている）。

検討手順は、まず(a)および(b)の方法で検討し、せん断耐力が不足する場合は(c)や(d)の方法で検討を行う。また、(c)の方法ではせん断力の作用方向前方に基礎ばり等の基礎柱形を拘束する部材が存在しない場合、日本建築学会等の規準・指針により基礎柱形コンクリートの割裂の検討を行なう必要がある。

エコタイプは柱脚部をコンクリートにより被覆することが前提であるため、(b)の方法に被覆コンクリート部のパンチングによるせん断抵抗を考慮している。なお、スーパーハイベース工法偏心タイプでは、(b)の方法を用いることはできない。また、エコタイプでは、(c)の方法を用いることはできない。

許容せん断耐力(Q_a)は(3.1)式で、終局せん断耐力(Q_u)は(3.2)式で求める。

$$Q_a = \max(Q_{a0}, aQ_a, Q_{a1}) + Q_{a2} \quad \dots (3.1)$$

$$Q_u = \max(Q_{u0}, aQ_u, Q_{u1}) + Q_{u2} \quad \dots (3.2)$$

ここに、

Q_a : 柱脚部の許容せん断耐力(kN)

Q_u : 柱脚部の終局せん断耐力(kN)

Q_{a0} : ベースプレート底面の摩擦抵抗による許容せん断耐力(kN)

Q_{u0} : ベースプレート底面の摩擦抵抗による終局せん断耐力(kN)

aQ_a : 特殊底面形状の効果を考慮したハイベース NEO の許容せん断耐力(kN) (G タイプおよびエコタイプのみ)

aQ_u : 特殊底面形状の効果を考慮したハイベース NEO の終局せん断耐力(kN) (G タイプおよびエコタイプのみ)

Q_{a1} : 座金溶接を行うアンカーボルトの許容せん断耐力(kN) (G タイプおよび偏心タイプのみ)

Q_{u1} : 座金溶接を行うアンカーボルトの終局せん断耐力(kN) (G タイプおよび偏心タイプのみ)

Q_{a2} : 埋込み(スラブ)コンクリートの支圧抵抗による許容せん断耐力(kN)

Q_{u2} : 埋込み(スラブ)コンクリートの支圧抵抗による終局せん断耐力(kN)

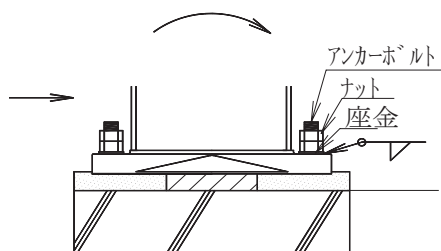
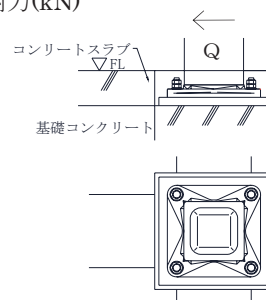


図 3.7 座金溶接によるアンカーボルトのせん断耐力



※ただし、本方法はせん断力作用方向の前方に連続したコンクリートスラブが存在する場合のみ考慮できる

図 3.8 コンクリートスラブの支圧抵抗によるせん断耐力

上記検討は「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」により検討が可能です。ソフトはセンクシアホームページ (<https://www.senqcia.co.jp/>) よりダウンロードできます。

3.5.1 ハイベース NEO 工法のせん断耐力 ((a)、(b)および(c)の方法)

表 3.9 許容せん断耐力

	N' の範囲	Qa0	aQa	Qa1 : 座金をハイベースに全周隅肉溶接した場合 (G タイプのみ)
③	$Na \geq N' > {}_pC \cdot Na$	$Qa_0 = 0.4N$	表 3.12 ~3.14 参照	$Qa_1 = n \times \beta \cdot bQa$
②	${}_pC \cdot Na \geq N' > {}_pC \cdot Na - n/2 \cdot Ta'$	$Qa_0 = 0.4 \frac{M}{Ma'} \cdot {}_pC \cdot Na$		$Qa_1 = n/2 \times \beta \cdot bQa$
①	${}_pC \cdot Na - n/2 \cdot Ta' \geq N' > -n/2 \cdot Ta'$	$Qa_0 = 0.4 \frac{M}{Ma'} (N' + n/2 \cdot Ta')$		$Qa_1 = n/2 \times \beta \cdot bQa$
④	$-n/2 \cdot Ta' \geq N' \geq -n \cdot Ta'$	$Qa_0 = 0$		$Qa_1 = n/2 \times bQa \times \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{M}{Ma'} \cdot \frac{-n/2 \cdot Ta' - N'}{n/2 \cdot Ta'} \right)^2} \right)$

※M=0の場合は $\frac{M}{Ma'}$ を $\frac{N}{N'}$ と読み換える

表 3.10 終局せん断耐力

	N の範囲	Qu0	aQu	Qu1 : 座金をハイベースに全周隅肉溶接した場合 (G タイプのみ)
③	$Nu \geq N > {}_pC \cdot Nu$	$Qu_0 = 0.5N$	表 3.12 ~3.14 参照	$Qu_1 = n \times \beta \cdot bQu$
②	${}_pC \cdot Nu \geq N > {}_pC \cdot Nu - n/2 \cdot Tu$	$Qu_0 = 0.5 \cdot {}_pC \cdot Nu$		$Qu_1 = n/2 \times bQu \times \left\{ \beta + \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{{}_pC \cdot Nu - N}{n/2 \cdot Tu} \right)^2} \right) \right\}$
①	${}_pC \cdot Nu - n/2 \cdot Tu \geq N > -n/2 \cdot Tu$	$Qu_0 = 0.5(N + n/2 \cdot Tu)$		$Qu_1 = n/2 \times \beta \cdot bQu$
④	$-n/2 \cdot Tu \geq N \geq -n \cdot Tu$	$Qu_0 = 0$		$Qu_1 = n/2 \times bQu \times \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{-n/2 \cdot Tu - N}{n/2 \cdot Tu} \right)^2} \right)$

※保有水平耐力時の柱脚部曲げモーメント M が Mu に満たない場合は M/Mu'を考慮してせん断耐力を算定する(表 3.9 において Ma', Na, Ta'を Mu', Nu, Tu に、0.4 を 0.5 に置換えて算定)

・EB,GB,EM,GM 型式の場合

$$Na = 1.2 \cdot A \cdot fc' / 1000 \text{ (kN)}$$

$$Nu = 1.02 \cdot A \cdot Fc / 1000 \text{ (kN)}$$

$$fc' = \min(\alpha_c \cdot Fc, \alpha_s \cdot \gamma)$$

・EH,GH 型式の場合

$$Na = \alpha_s \cdot 0.75 \cdot 0.9 \cdot A \cdot Fc / 1000 \text{ (kN)}$$

$$Nu = 0.9 \cdot A \cdot Fc / 1000 \text{ (kN)}$$

$${}_pC = \frac{D + 2dt}{2D} \quad (\text{表 3.12} \sim \text{3.14 参照})$$

Na : 柱脚部の許容圧縮耐力(kN) Nu : 柱脚部の終局圧縮耐力(kN) A : ベースプレート底面積(mm²)

γ : ベースプレート圧縮降伏耐力を考慮した設計強度(N/mm², 表 3.12~3.13 参照)

dt : ベースプレート中心から引張側アンカーボルト群図心位置までの距離(mm)

D : ベースプレート外形寸法(mm, 2.2 節参照) n : アンカーボルト全本数

α_c : コンクリート許容耐力を求めるときの係数 (長期=1/3、短期=2/3) F_c : コンクリート設計基準強度(N/mm²)

α_s : ベースプレート許容耐力を求めるときの係数 (長期=2/3、短期=1.0)

N, M : 柱脚部の軸力, 曲げモーメント(kN または kN・m)

N', Ma', Mu' : 原点と(M,N)を結ぶ直線と耐力曲線の交点座標 (kN または kN・m, 図 3.9 参照)

Ta', Tu : アンカーボルト 1 本の許容または終局引張耐力(kN, 表 3.11~3.14 参照)

aQa, aQu : ベースプレート底面のせん断伝達機構による許容または終局せん断耐力(kN, 表 3.12~3.14 参照)

β : ハイベースとアンカーボルトの応力伝達係数(表 3.11 参照)

bQa, bQu : アンカーボルト 1 本当りの許容または終局せん断耐力(kN, 表 3.11 参照)

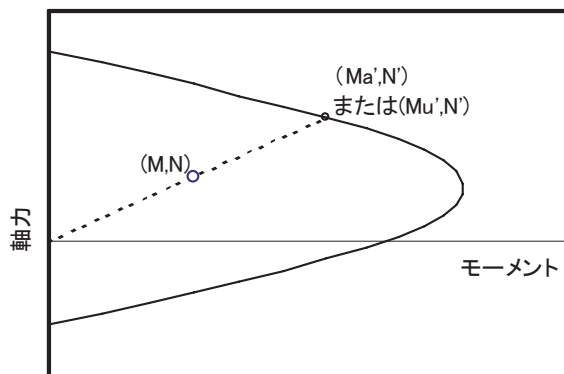


図 3.9 N', Ma', Mu'の算定方法

表 3.11 アンカーボルトの諸耐力等

ねじ の呼び	Tu (kN)	bQa(kN)		bQu (kN)	β
		長期	短期		
M24	221.6	63.98	95.98	95.98	0.90
M30	346.3	99.93	149.9	149.9	0.70
M36	498.7	143.9	215.9	215.9	0.60
M42	678.8	195.9	293.9	293.9	0.75
M48	886.6	255.9	383.9	383.9	0.65
M56	1206	348.3	522.5	522.5	0.55
M64	1576	455.0	682.5	682.5	0.65
M72	1995	575.9	863.8	863.8	0.60

表 3.12 EB 型式および GB 型式の pC , γ , Ta' , ${}_aQ_a$, ${}_aQ_u$ 一覧

型式	pC	γ (N/mm ²)	Ta' (kN)		${}_aQ_a$ (kN)		${}_aQ_u$ (kN)
			長期	短期	長期	短期	
EB150-4-24	0.862	13.29	91.55	137.3	69.1	117.5	165.9
EB175-4-24	0.871	14.29	94.39	141.5	70.4	119.2	168.0
EB200-4-24	0.882	13.29	92.01	138.0	73.3	123.7	174.2
EB200-4-30	0.875	16.67	143.7	215.5	73.5	125.0	176.5
EB200-4-36	0.875	26.04	233.8	350.7	75.4	128.7	182.1
EB250-4-24	0.897	13.29	92.80	139.2	77.5	130.0	182.5
EB250-4-30	0.890	16.67	143.7	215.5	81.0	136.6	192.2
EB250-4-36	0.890	26.04	227.4	341.1	82.9	140.4	197.9
EB250-8-30	0.806	16.67	151.4	227.0	115.4	189.5	263.5
EB300-4-30	0.902	16.67	146.8	220.2	85.1	142.8	200.5
EB300-4-36	0.902	26.04	230.6	345.9	87.0	146.6	206.2
EB300-8-30	0.825	13.50	147.2	220.7	126.0	205.8	285.6
EB300-8-36	0.814	18.29	201.6	302.4	136.4	222.9	309.4
EB350-4-30	0.912	16.67	146.8	220.2	89.3	149.1	208.9
EB350-8-30	0.841	13.50	171.8	257.7	132.6	215.7	298.8
EB350-8-36	0.830	15.12	194.4	291.6	143.4	233.5	323.5
EB350-8-42	0.814	16.67	258.5	387.7	161.7	263.4	365.0
GB350-4-42	0.900	13.23	309.5	464.2	66.7	100.0	133.4
GB350-4-48	0.890	13.14	407.9	611.9	71.6	107.4	143.2
GB350-8-30	0.838	12.92	180.4	270.5	97.6	146.5	195.3
GB350-8-36	0.830	14.16	231.2	346.7	110.4	165.7	220.9
GB350-8-42	0.814	13.77	324.7	487.0	120.1	180.2	240.3
EB400-8-30	0.854	13.50	182.4	273.6	139.2	225.6	312.0
EB400-8-36	0.844	15.12	222.1	333.1	150.5	244.0	337.6
EB400-8-42	0.828	16.67	295.4	443.0	169.3	274.8	380.2
GB400-4-42	0.908	13.53	318.6	477.8	71.1	106.7	142.3
GB400-4-48	0.898	13.39	408.9	613.3	76.2	114.3	152.4
GB400-8-36	0.844	13.62	239.7	359.4	117.6	176.5	235.3
GB400-8-42	0.828	13.31	328.0	491.9	127.7	191.6	255.5
GB400-8-48	0.813	13.22	417.0	625.5	142.3	213.4	284.6
EB450-8-36	0.856	18.29	266.0	399.0	157.5	254.6	351.6
EB450-8-42	0.841	16.67	332.3	498.4	176.9	286.2	395.5
GB450-4-42	0.915	13.53	317.5	476.2	75.6	113.4	151.2
GB450-4-48	0.906	13.39	412.2	618.3	80.8	121.2	161.6
GB450-8-36	0.856	13.62	236.7	355.1	124.8	187.2	249.7
GB450-8-42	0.841	13.31	332.0	497.9	135.3	203.0	270.7
GB450-8-48	0.825	13.22	412.7	619.0	150.5	225.7	301.0
EB500-8-36	0.866	18.29	266.0	399.0	164.5	265.1	365.7
EB500-8-42	0.851	16.67	362.0	543.0	184.5	297.6	410.7
EB500-12-42	0.856	26.04	315.7	473.4	200.7	321.9	443.0
GB500-4-42	0.921	13.53	314.2	471.3	80.0	120.1	160.1
GB500-4-48	0.912	13.39	412.2	618.3	89.0	133.5	178.0
GB500-8-36	0.866	12.68	246.1	369.0	132.0	198.0	264.0
GB500-8-42	0.851	13.98	333.8	500.6	142.9	214.4	285.9
GB500-8-48	0.837	13.77	423.3	634.8	163.1	244.7	326.2
GB500-8-64	0.818	13.82	743.8	1115	194.0	291.0	388.0
GB500-12-48	0.838	13.77	478.8	718.2	185.6	278.4	371.2
GB500-12-56	0.829	14.03	659.7	989.6	205.8	308.7	411.6
EB550-8-42	0.863	15.36	362.0	543.0	194.6	313.2	431.8
EB550-12-42	0.865	26.04	332.7	499.0	209.2	334.6	460.0
GB550-4-48	0.918	13.39	410.3	615.4	93.7	140.6	187.5
GB550-4-56	0.915	13.16	551.5	827.3	99.5	149.3	199.0
GB550-8-36	0.875	11.84	251.4	377.0	139.2	208.8	278.4
GB550-8-42	0.861	12.51	345.3	518.0	150.5	225.8	301.1
GB550-8-48	0.846	13.77	442.9	664.3	171.4	257.1	342.9
GB550-8-64	0.828	13.82	741.2	1111	203.3	305.0	406.6
GB550-12-48	0.847	13.77	478.8	718.2	195.1	292.6	390.2
GB550-12-56	0.839	14.03	659.7	989.6	216.0	324.0	432.0
GB600-8-42	0.869	12.76	362.0	543.0	158.2	237.3	316.4
GB600-8-48	0.855	13.38	448.2	672.2	184.5	276.8	369.1
GB600-8-64	0.839	13.60	739.4	1109	219.7	329.6	439.4
GB600-12-48	0.856	13.38	478.8	718.2	209.6	314.4	419.2
GB600-12-56	0.848	14.25	659.7	989.6	226.1	339.2	452.3
GB600-12-64	0.833	14.52	872.0	1308	251.9	377.9	503.8
GB650-8-42	0.876	12.04	362.0	543.0	165.8	248.7	331.6
GB650-8-48	0.863	12.76	461.1	691.6	193.0	289.5	386.0
GB650-8-56	0.854	13.72	575.3	862.9	206.4	309.6	412.8
GB650-8-64	0.843	13.92	755.1	1132	225.4	338.1	450.8
GB650-8-72	0.836	12.76	925.7	1388	250.6	375.9	501.2
GB650-12-56	0.856	14.25	659.7	989.6	236.3	354.5	472.7
GB650-12-64	0.842	14.52	872.0	1308	268.6	402.9	537.2
GB700-8-42	0.883	10.67	350.8	526.1	173.4	260.1	346.8
GB700-8-48	0.870	12.16	471.1	706.7	201.5	302.2	403.0
GB700-8-56	0.861	13.72	593.1	889.6	220.5	330.8	441.1
GB700-8-64	0.852	12.04	750.7	1126	242.2	363.4	484.5
GB700-8-72	0.843	13.69	934.6	1401	266.5	399.8	533.1
GB700-12-56	0.863	14.25	659.7	989.6	252.1	378.1	504.2
GB700-12-64	0.849	14.52	872.0	1308	285.6	428.5	571.3
GB750-8-48	0.876	11.00	454.9	682.2	209.9	314.9	419.9
GB750-12-48	0.877	13.38	478.8	718.2	238.4	357.6	476.8
GB750-12-56	0.869	14.25	659.7	989.6	268.1	402.2	536.3
GB750-12-64	0.856	14.52	872.0	1308	353.5	530.3	707.1
GB750-12-72	0.848	14.62	1117	1675	434.8	652.2	869.6
GB800-8-56	0.874	12.63	594.4	891.6	249.9	374.9	499.9
GB800-12-56	0.875	14.25	659.7	989.6	284.6	426.9	569.2
GB800-12-64	0.862	14.52	872.0	1308	400.3	600.5	800.7
GB800-12-72	0.855	14.62	1117	1675	486.7	730.1	973.5
GB850-12-56	0.881	14.25	659.7	989.6	301.3	452.0	602.7
GB850-12-64	0.868	14.52	872.0	1308	413.7	620.5	827.4
GB850-12-72	0.861	14.62	1117	1675	582.6	873.9	1165.2
GB900-12-56	0.886	14.25	659.7	989.6	318.4	477.7	636.9
GB900-12-64	0.873	14.52	872.0	1308	502.5	753.8	1005.1
GB900-12-72	0.866	14.62	1117	1675	599.2	898.9	1198.5
GB950-12-56	0.890	14.25	640.6	960.9	335.9	503.8	671.8
GB950-12-64	0.878	12.52	852.8	1279	557.9	836.9	1115.9
GB950-12-72	0.871	14.62	1117	1675	615.9	923.8	1231.8
GB1000-12-56	0.894	14.25	593.8	890.6	353.7	530.5	707.4
GB1000-12-64	0.882	13.92	843.2	1264	537.2	805.9	1074.5
GB1000-12-72	0.877	13.87	1055	1582	688.3	1032.5	1376.7
GB1050-12-64	0.887	14.52	872.0	1308	546.9	820.3	1093.8
GB1050-12-72	0.880	14.62	1117	1675	694.5	1041.8	1389.1
GB1100-12-64	0.891	14.52	824.9	1237	520.3	780.5	1040.7
GB1100-12-72	0.884	14.62	1099	1648	759.4	1139.1	1518.8
GB1150-12-64	0.894	14.52	797.9	1196	619.9	929.9	1239.8
GB1150-12-72	0.888	14.62	1036	1554	827.1	1240.7	1654.3
GB1200-12-64	0.898	14.52	770.8	1156	681.0	1021.6	1362.1
GB1200-12-72	0.892	14.62	1006	1509	897.7	1346.6	1795.5

表 3.13 EM 型式および GM 型式の p_C , γ , Ta' , aQ_a , aQ_u 一覧

型式	p_C	γ (N/mm ²)	Ta' (kN)		aQ_a (kN)		aQ_u (kN)
			長期	短期	長期	短期	
EM190-4-24	0.862	43.28	94.28	141.4	70.8	120.8	170.9
EM216-4-24	0.871	48.60	100.5	150.8	71.9	122.3	172.6
EM250-4-24	0.892	40.54	91.66	137.5	74.4	125.9	177.4
EM300-4-24	0.905	29.63	81.09	121.6	78.3	131.7	185.1
EM300-4-30	0.895	39.45	128.9	193.4	81.4	138.0	194.6
EM350-4-30	0.893	87.08	132.9	199.4	79.3	132.9	186.4
EM350-8-30	0.825	29.63	139.9	209.8	128.5	210.9	293.3
EM400-8-30	0.838	34.02	142.4	213.6	132.7	216.6	300.4
EM400-8-36	0.830	37.50	201.6	302.4	152.4	249.7	346.9
EM400-8-42	0.820	34.02	272.9	409.4	174.0	286.5	398.9
EM450-8-30	0.849	39.45	144.4	216.6	136.8	222.2	307.6
EM450-8-36	0.842	42.67	204.8	307.2	156.9	255.8	354.7
EM450-8-42	0.831	37.50	280.1	420.2	178.7	292.9	407.0
EM500-8-36	0.852	48.98	206.9	310.4	161.4	261.9	362.4
EM500-8-42	0.843	37.50	264.9	397.4	186.2	304.1	421.9
GM500-8-48	0.820	30.57	478.8	718.2	169.0	253.5	338.1
GM500-8-56	0.811	34.63	659.7	989.6	171.7	257.6	343.5

型式	p_C	γ (N/mm ²)	Ta' (kN)		aQ_a (kN)		aQ_u (kN)
			長期	短期	長期	短期	
EM550-8-36	0.860	56.81	208.8	313.2	171.1	276.4	381.7
EM550-8-42	0.851	41.56	270.7	406.1	196.5	319.4	442.3
GM550-8-48	0.828	33.82	478.8	718.2	160.8	241.3	321.7
GM550-8-56	0.818	36.77	659.7	989.6	186.5	279.8	373.1
GM600-8-36	0.864	62.57	266.0	399.0	147.2	220.8	294.4
GM600-8-48	0.837	35.96	478.8	718.2	172.2	258.3	344.4
GM600-8-64	0.818	38.60	872.0	1308	224.1	336.2	448.3
GM650-8-48	0.845	40.91	478.8	718.2	183.8	275.7	367.6
GM650-8-64	0.824	41.16	872.0	1308	214.6	322.0	429.3
GM700-8-48	0.850	45.59	478.8	718.2	174.7	262.1	349.5
GM700-8-64	0.832	44.02	872.0	1308	227.7	341.6	455.4
GM750-8-48	0.857	53.51	478.8	718.2	186.2	279.4	372.5
GM750-8-64	0.839	47.28	872.0	1308	241.0	361.6	482.1
GM800-8-48	0.861	66.67	478.8	718.2	201.3	302.0	402.6
GM800-8-64	0.843	53.65	872.0	1308	230.7	346.1	461.5
GM850-8-64	0.850	58.60	872.0	1308	243.9	365.9	487.9
GM900-8-64	0.859	54.34	872.0	1308	275.1	412.6	550.2
GM950-8-64	0.859	77.32	872.0	1308	275.1	412.6	550.2
GM1000-8-64	0.864	100.42	872.0	1308	289.3	433.9	578.6

表 3.14 EH 型式および GH 型式の p_C , Ta' , aQ_a , aQ_u 一覧

型式	p ^C		Ta' (kN)		a ^{Qa} (kN)				a ^{Qu} (kN)	
					長期		短期			
	強軸	弱軸	長期	短期	強軸	弱軸	強軸	弱軸	強軸	弱軸
EH150×150-4-24	0.879	0.826	113.7	170.6	70.2	78.8	121.1	134.0	171.9	189.2
EH175×175-4-24	0.889	0.840	113.7	170.6	63.7	71.4	110.0	121.6	156.3	171.8
EH200×200-4-24	0.897	0.857	113.7	170.6	72.6	80.1	124.5	135.8	176.4	191.4
EH250×250-4-24	0.898	0.868	113.7	170.6	78.3	82.6	132.9	139.4	187.6	196.2
EH250×250-4-30	0.898	0.868	182.4	273.6	79.8	84.1	136.0	142.5	192.2	200.8
EH300×300-4-30	0.908	0.885	182.4	273.6	84.1	84.1	142.5	142.5	200.8	200.8
EH300×300-4-36	0.917	0.885	266.0	399.0	87.2	87.2	148.7	148.7	210.1	210.1
EH350×250-4-30	0.917	0.898	182.4	273.6	100.0	95.7	172.1	165.6	244.2	235.6
EH350×350-4-42	0.910	0.880	362.0	543.0	115.3	115.3	195.5	195.5	275.6	275.6
EH400×300-4-30	0.925	0.885	182.4	273.6	92.6	91.8	158.3	157.0	223.9	222.3
EH400×300-4-36	0.931	0.885	266.0	399.0	96.3	95.5	165.6	164.4	234.9	233.3
EH400×400-4-42	0.917	0.892	362.0	543.0	120.2	115.2	202.7	195.2	285.3	275.2
GH400×400-4-56	0.908	0.837	603.4	905.1	74.3	78.5	111.5	117.8	148.6	157.1
EH450×300-4-30	0.931	0.885	182.4	273.6	92.6	91.8	158.3	157.0	223.9	222.3
EH450×300-4-42	0.920	0.866	362.0	543.0	111.2	116.2	189.8	197.3	268.4	278.4
EH500×300-4-30	0.936	0.885	182.4	273.6	92.4	91.6	157.8	156.6	223.3	221.6
EH500×300-4-42	0.926	0.866	362.0	543.0	110.9	115.9	189.2	196.8	267.6	277.6
EH600×300-4-36	0.946	0.885	266.0	399.0	99.8	100.7	170.7	172.1	241.7	243.5
GH600×300-4-48	0.926	0.797	443.3	665.0	65.4	82.8	98.1	124.3	130.8	165.7
EH700×300-4-42	0.942	0.866	362.0	543.0	110.9	115.9	189.2	196.8	267.6	277.6
GH700×300-4-56	0.931	0.750	603.4	905.1	65.4	82.8	98.1	124.3	130.8	165.7
GH800×300-4-42	0.948	0.782	339.4	509.1	61.9	76.4	92.9	114.6	123.9	152.9
GH800×300-4-56	0.938	0.750	603.4	905.1	65.4	82.8	98.1	124.3	130.8	165.7
GH900×300-4-42	0.952	0.782	339.4	509.1	61.9	76.4	92.9	114.6	123.9	152.9
GH900×300-4-56	0.943	0.750	603.4	905.1	65.4	82.8	98.1	124.3	130.8	165.7

3.5.2 スーパーハイベース工法偏心タイプのせん断耐力 ((a)、(c)の方法)

表 3.15 許容せん断耐力

	N'の範囲	Qa ₀	Qa ₁ (座金をハイベースに全周隅肉溶接した場合)
③	Na ≥ N' > crNa1	Qa ₀ = 0.4N	Qa ₁ = 4 × β · b Qa
②	crNa1 ≥ N' > crNa1 - 2Ta	$Qa_0 = 0.4 \times \frac{M}{Ma'} \times crNa1$	Qa ₁ = 2 × β · b Qa
①	crNa1 - 2Ta ≥ N' > -2Ta	$Qa_0 = 0.4 \times \frac{M}{Ma'} (N' + 2Ta)$	Qa ₁ = 2 × β · b Qa
④	-2Ta ≥ N' ≥ -4Ta	Qa ₀ = 0	$Qa_1 = 2 \times b Qa \times \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{M}{Ma'} \cdot \frac{-2Ta - N'}{2Ta} \right)^2} \right)$

* M = 0の場合は $\frac{M}{Ma'}$ を $\frac{N}{N'}$ と読み換える

表 3.16 終局せん断耐力

	Nの範囲	Qu ₀	Qu ₁ (座金をハイベースに全周隅肉溶接した場合)
③	Nu ≥ N > crNu1	Qu ₀ = 0.5N	Qu ₁ = 4 × β · b Qu
②	crNu1 ≥ N > crNu1 - 2Tu	Qu ₀ = 0.5 × crNu1	$Qu_1 = 2 \times b Qu \times \left\{ \beta + \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{crNu1 - N}{2Tu} \right)^2} \right) \right\}$
①	crNu1 - 2Tu ≥ N > -2Tu	Qu ₀ = 0.5 × (N + 2Tu)	Qu ₁ = 2 × β · b Qu
④	-2Tu ≥ N > -4Tu	Qu ₀ = 0	$Qu_1 = 2 \times b Qu \times \min \left(\beta, \sqrt{1 - \left(\frac{-2Tu - N}{2Tu} \right)^2} \right)$

※保有水平耐力時の柱脚部曲げモーメントが Mu に満たない場合は M/Mu' を考慮してせん断耐力を算定する (表 3.15 において Ma', crNa1, Ta を Mu', crNu1, Tu に、0.4 を 0.5 に置換えて算定)。

$$Na = \alpha \cdot 0.75 \cdot 0.9 \cdot A^2 \cdot Fc / 1000$$

$$Nu = 0.9 \cdot A^2 \cdot Fc / 1000$$

$$crNa1 = \frac{A + C_1}{2A} Na$$

$$crNu1 = \frac{A + C_1}{2A} Nu$$

$$bQa = \alpha \cdot Qb$$

$$bQu = Qb$$

Na : 柱脚部の許容圧縮耐力(kN)

Nu : 柱脚部の終局圧縮耐力(kN)

α : 許容耐力を求めるときの係数 (長期=2/3 , 短期=1.0)

N, M : 柱脚部の軸力, 曲げモーメント (kNm または kN)

N', Ma', Mu' : 原点と (M, N) を結ぶ直線と耐力曲線の交点座標 (kN または kNm, 図 3.9 参照)

(偏心型は、Ma' の代わりに Ma' + N' · e を用いる)

A : ハイベース外形(mm, 2.2 項参照) C₁ : アンカーボルト間隔(mm, 2.2 項参照)

e : ハイベースの偏心寸法(mm, 2.2 項参照)

Fc : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)

Ta, Tu : アンカーボルト 1 本の許容または終局引張耐力 (kN, 表 3.17 参照)

β : ハイベースとアンカーボルトの応力伝達係数(表 3.17 参照)

Qb : アンカーボルト 1 本当たりのせん断耐力(kN, 表 3.17 参照)

表 3.17 Ta, Tu, Qb, β の一覧

ねじ の呼び	Ta(kN)		Tu (kN)	Qb (kN)	β
	長期	短期			
M24	110.8	166.2	221.6	95.98	0.90
M30	173.1	259.7	346.3	149.9	0.70
M36	249.3	374.0	498.7	215.9	0.60
M42	339.4	509.1	678.8	293.9	0.75
M48	443.3	665.0	886.6	383.9	0.65
M56	603.4	905.1	1206	522.5	0.55
M64	788.1	1182	1576	682.5	0.65

3.5.3 コンクリートスラブへの埋め込みによる支圧抵抗に期待する方法 (d)の方法)

本方法は、図3.10に示すように柱をコンクリートスラブに埋込み、柱側面の支圧抵抗でせん断耐力を期待する方法である。このとき、考慮することが出来るスラブ厚さは250mmを上限とする。スラブには、鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説等の指針に示される床スラブと同等以上の配筋を行う。

なお、本方法は、せん断力作用方向の前方に連続したコンクリートスラブが存在しない場合は適用できない(図3.10の場合、左から右に作用する力に対しては適用できない)。また、柱側面が先行して破壊しないよう設計する。

許容せん断力 Q_{a2} は、コンクリートの支圧による検討を(3.3)式で確認する。

コンクリートの支圧による許容せん断耐力 Q_{a2} は、

$$Q_{a2} = \alpha \times F_c \times \sqrt{\frac{B2 \times d2}{B1 \times d1}} \times B1 \times d1 / 1000 \quad \dots (3.3)$$

コンクリートの支圧による終局せん断耐力 Q_{u2} は(3.4)式による。

コンクリートの支圧による終局せん断耐力 Q_{u2} は

$$Q_{u2} = 0.9 \times F_c \times \sqrt{\frac{B2 \times d2}{B1 \times d1}} \times B1 \times d1 / 1000 \quad \dots (3.4)$$

ここに、

Q_{a2} : コンクリートの支圧による許容せん断耐力(kN)

Q_{u2} : コンクリートの支圧による終局せん断耐力(kN)

α : 許容耐力を求めるときの係数(長期=1/3、短期=2/3)

F_c : スラブのコンクリート設計基準強度(N/mm²)

$B1$: 柱の外形寸法(mm、図 3.10 参照)

$B2$: 補強コンクリートスラブの外形寸法(mm、図 3.10 参照)

$d1$: スラブ厚及びスラブ表面からハイベース台座上面までの距離の小さい値(mm、図 3.10 参照)

$d2$: スラブ厚及びスラブ表面からハイベース底面までの距離の小さい値(mm、図 3.10 参照)
(上限 250mm)

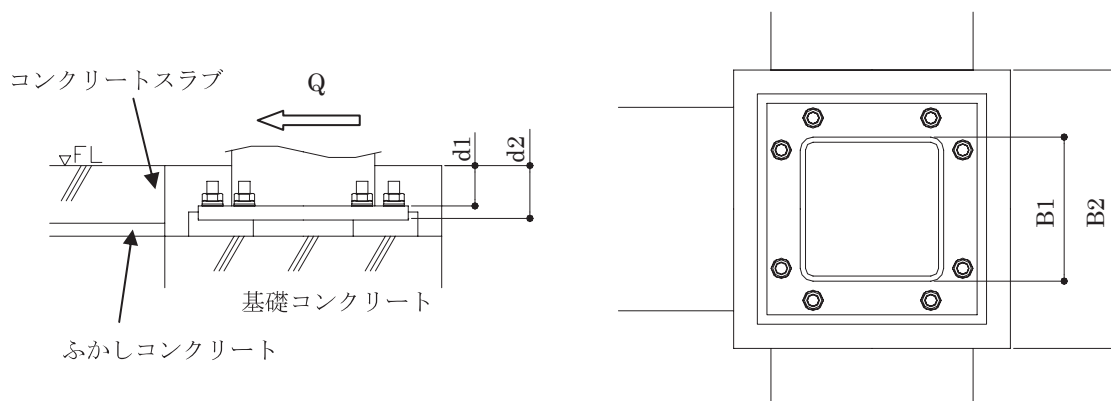


図 3.10 コンクリートの支圧抵抗に期待する方法

第4章 基礎柱形の設計（各工法共通）

4.1 基礎柱形の検討

4.1.1 基礎柱形の設計例

基礎ばりと基礎ばりの交点（含む側、隅柱）に設け、かつ、立上りがない（基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合、図4.1参照）基礎柱形は「基礎柱形設計例」（P.44～P.136参照）による設計が可能である。本設計例はコンクリート設計基準強度が 24N/mm^2 の場合を示す。コンクリート設計基準強度が異なる場合は、センクシア提供の「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」を用いることにより設計が可能である。この場合、基礎柱形主筋（アンカーボルトを定着するために縦に配する鉄筋）の頂部フックは設けず、頂部帯筋は一重巻きにすることができる。

上記によらない場合（独立基礎の場合や立上りがある場合、図4.1参照）は、4.1.2 項以降に従い基礎柱形の曲げの設計を行い、せん断力等に対する設計を1.1 節に示す規準・指針（例えば、鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説等）に従い行なう。この場合、基礎柱形断面積に対する立上り主筋断面積の和の比率は0.8%以上とし、各種基準・指針等に従い頂部フックを設け、頂部帯筋は二重巻きにする必要がある。

I ゾーン（II ゾーン以外の状態）、II ゾーン（全アンカーボルトに引張力が発生している状態）は耐力図（終局耐力）にプロットした柱脚部応力により判定する。ベースプレート縁から基礎柱形縁端までの距離（へりあき）はベースプレート下面のモルタル厚さ以上、かつベースプレートの成、幅の大きい方の0.1 倍以上（偏心タイプは0.065倍以上）確保しなければならない。柱形鉄筋はアンカーボルトより外側に配筋すること（別途、鉄筋等の納まりで決まる寸法検討が必要）。

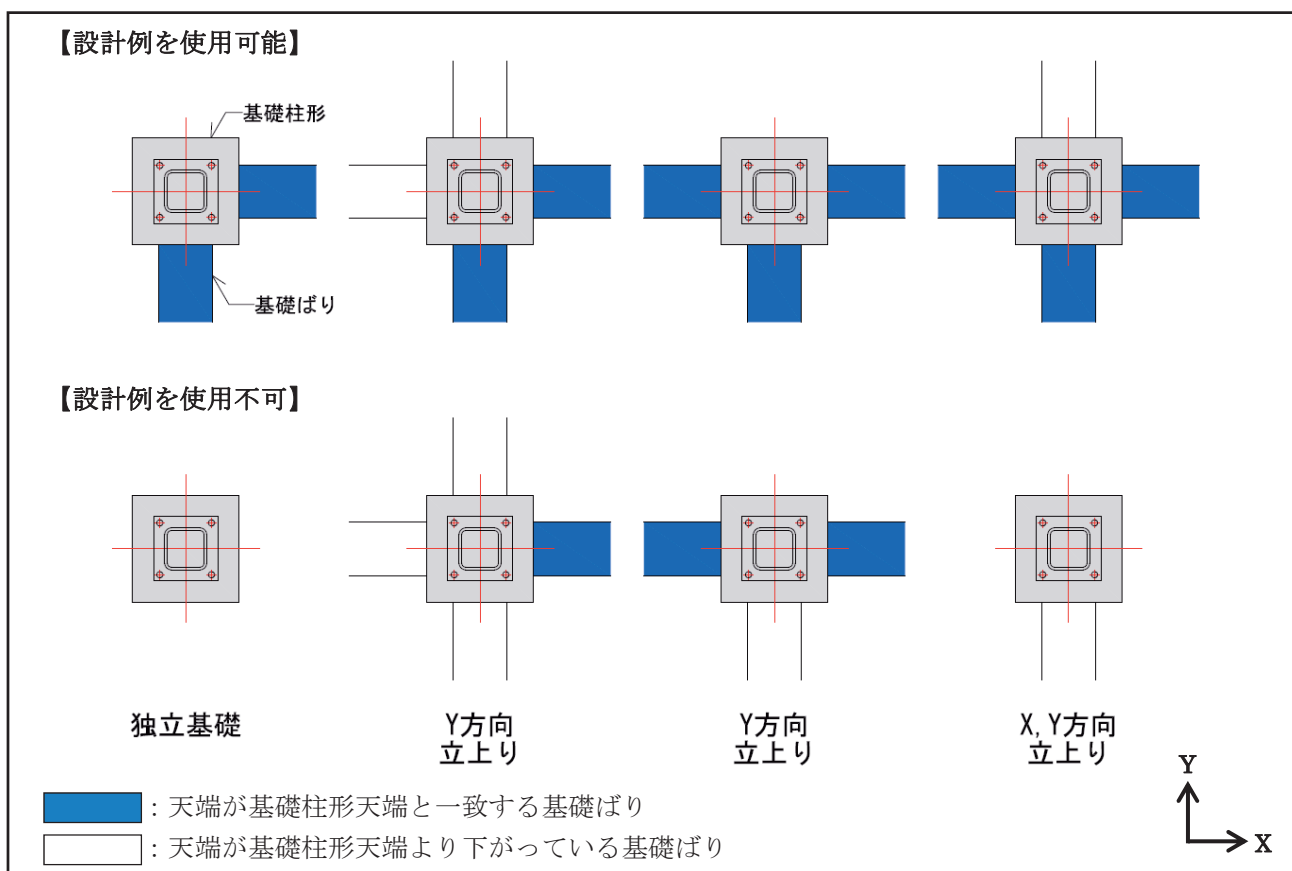


図 4.1 基礎柱形設計例の使用可否判断基準

4.1.2 独立基礎等における基礎柱形部の設計

独立基礎の場合や立上りがある場合、4.1.3項、4.1.4項の両方を満足するように設計する。

4.1.3 許容、終局曲げ耐力

基礎柱形部をRC柱と見なし、このRC柱の許容曲げ耐力 rMa を算定し、柱脚部の許容応力度設計時の曲げモーメント M から算定した許容時の立上り付け根部の曲げモーメント M' に対して (4.1) 式を満足するように設計する。

$$rMa > M' \quad \dots \dots (4.1)$$

rMa : 基礎柱形部の許容曲げ耐力 (例えば、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」14条を参考にして設計)

M' : 許容時の立上り付け根部の曲げモーメント (図4.2参照)
終局曲げ耐力の場合も基礎柱形部をRC柱と見なし、このRC柱の終局曲げ耐力 rMu を算定し、柱脚部の終局曲げ耐力 Mu から算定した終局時 (崩壊メカニズム時) の立上り付け根部の曲げモーメント Mu' に対して (4.2) 式を満足するように設計する。

$$rMu > Mu' \quad \dots \dots (4.2)$$

rMu : 基礎柱形部の終局曲げ耐力 (例えば、「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」付録1-3等を参考にして設計)

Mu' : 終局時 (崩壊メカニズム時) の立上り付け根部の曲げモーメント (図4.2参照)

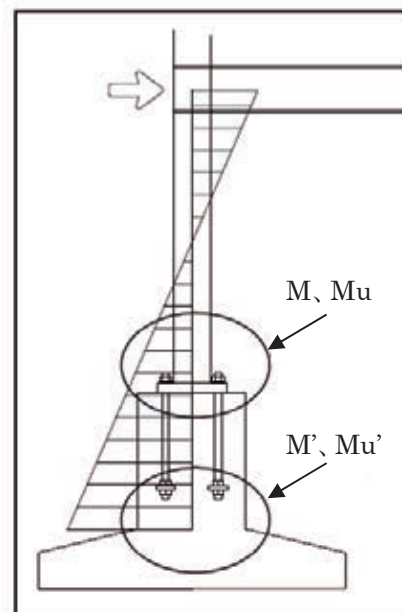


図4.2 立上りの曲げモーメント

4.1.4 基礎柱形主筋による定着

アンカーボルトの引張力を基礎柱形主筋を介して基礎・基礎ばりへ伝達するために、図4.3に示す鉄筋の定着長さ L_t (上部・下部定着長さ) を確保する必要がある。

基礎柱形設計例による場合は「基礎柱形設計例」(P.44～P.136) に示す定着長さ L_t を確保する。

独立基礎の場合や立上りがある場合は、鉄筋の定着長さは日本建築学会「鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針・同解説」に従い設計する。

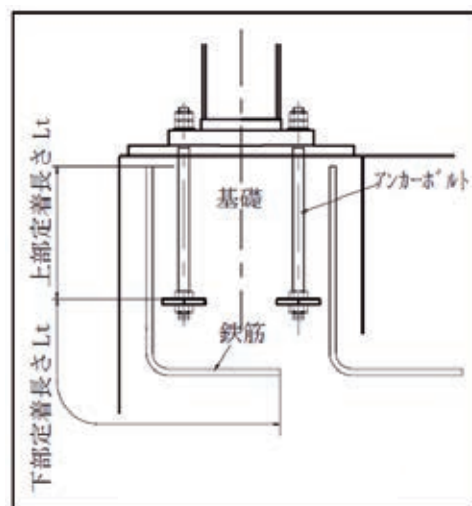


図4.3 鉄筋の定着長さ

4.2 コーン耐力により応力を伝達する場合

基礎柱形が十分に大きく、曲げにより引張力が発生するアンカーボルトで (4.3) 式を満足する場合、前項によらずコンクリートのコーン耐力によりアンカーボルトの引張力を基礎に伝達できる(アンカーボルト12 本タイプ Ⅱゾーンではコーン耐力で定着できない)。

$$\alpha \sqrt{F_c} \cdot A_c > n \cdot T_{eu} \quad \dots \dots (4.3)$$

$$\alpha : 0.25 (= 0.8 \sqrt{100/g} \times g/100)$$

$$g : 9.80665$$

F_c : コンクリート設計基準強度(N/mm²)

A_c : コンクリートのコーン破壊面の有効水平投影面積(mm²)

Ⅰゾーンの場合 : A_{c1} の面積

Ⅱゾーンの場合 : A_{c2} の面積

n : アンカーボルト 4 本タイプ 1

アンカーボルト 8 本タイプ 2

アンカーボルト 12 本タイプ 3

T_{eu} : アンカーボルトのねじ部破断耐力(N)

表 4.1 アンカーボルトの T_{eu} (単位 : kN)

M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
246.8	392.5	571.8	784.7	1032	1422	1874	2422

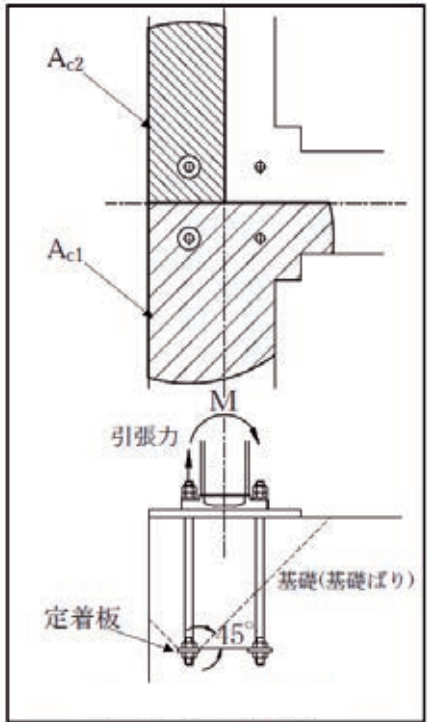


図 4.4 コーン耐力

第5章 ブレース付柱脚の設計（各工法共通）

5.1 ブレースが取り付く場合の検討フロー

ハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法偏心タイプ（以下本工法）では、ブレースが取り付く場合（片側ブレース及び両側ブレース）にも適用可能である。なお、ガセットプレートは所要の応力を伝達するのに適した形状とし、ブレース軸心に対し溶接線が非対称となる場合、その偏心応力により溶接部の破壊が起こらないよう十分配慮する必要がある。したがって、ベースプレートの上にガセットプレートが接合されるような場合は上記理由により適用不可である。また、ベースプレートを延長させてガセットプレートを接合することは所定の性能を発揮できないため適用不可である。

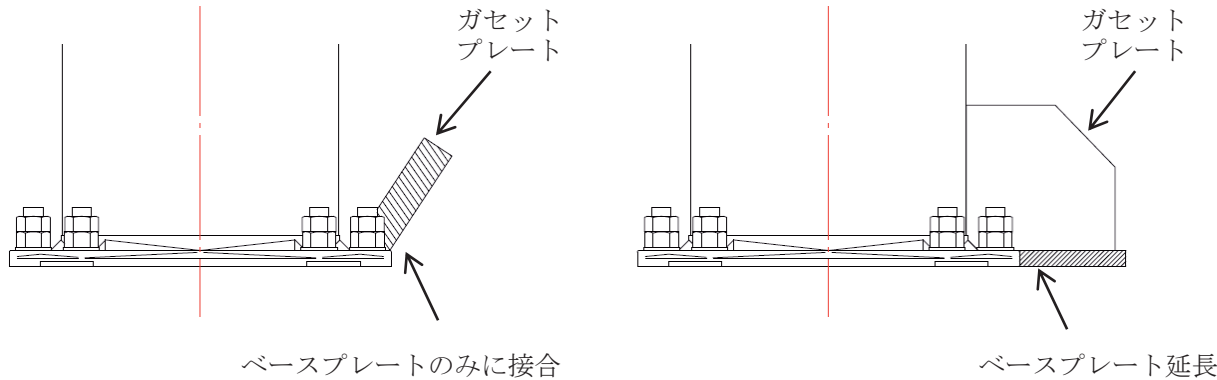


図5.1 本工法適用範囲外の例

ブレース付柱脚の場合ブレースからの応力を考慮した柱脚検討用応力（ M' , N' , Q' ）にて柱脚部の検討を行う。またブレースが水平方向及び鉛直方向に偏心する場合は、ブレース偏心配置に伴う付加曲げモーメントを考慮することにより検討が可能である。

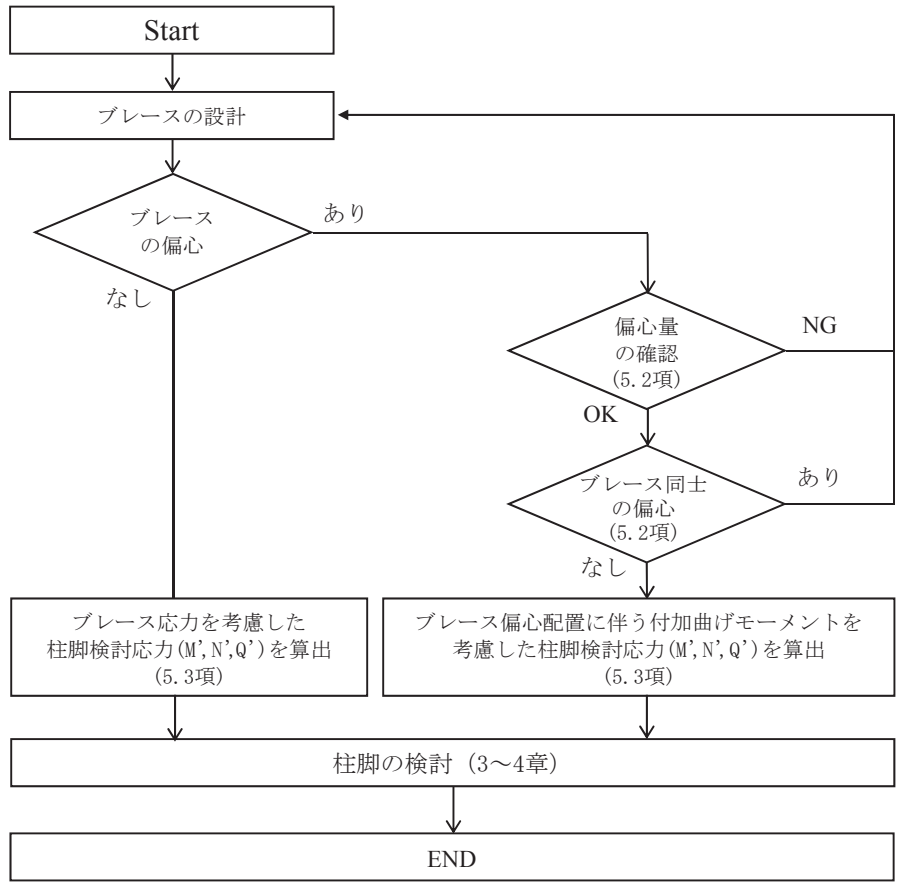


図5.2 ブレースが取り付く場合の柱脚検討フロー

5.2 ブレースの偏心

本工法は、水平方向に柱の芯とブレース軸芯が一致せず偏心する場合にも適応可能である。ただし、アンカーボルト上部のナットを締め付けする際に工具がブレースに干渉しない寸法を確保する必要がある。ブレースが偏心する場合はハイベース検討システムで検討することが可能である。

なお、鉛直方向にブレース軸芯が偏心する場合は、柱脚回転中心（ベースプレート下面位置）よりもブレース軸芯が上になければならない($e_z \geq 0$)。

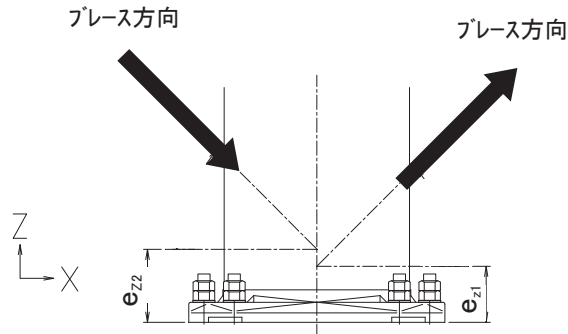


図5.3 ブレースが鉛直方向に偏心する場合

また、相対するブレースの芯は一致しなければならない。

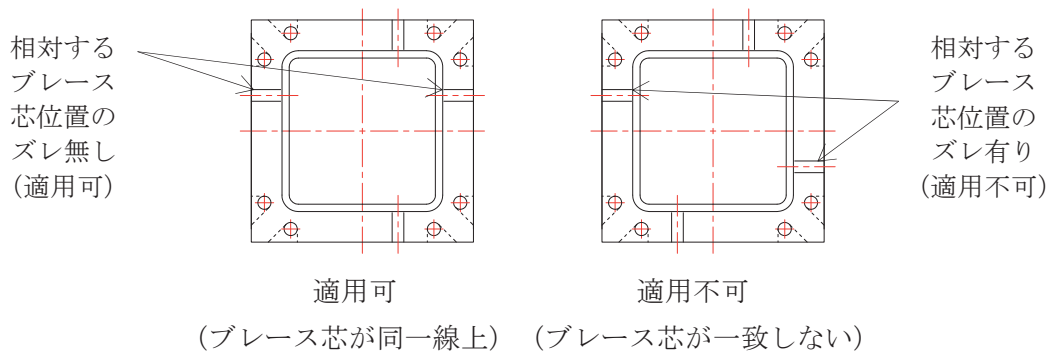


図5.4 相対するブレース芯の位置による適用の可否

5.3 ブレース応力を考慮した柱脚検討用応力の算出

ブレースが柱脚に取り付く場合、柱により発生する柱脚の応力に加え、ブレースからの応力が柱脚部に発生する。したがって、ブレースが取り付く柱脚を検討する場合、このブレースにより発生する柱脚の応力(M', N', Q')を考慮し柱脚の検討を行う。

ブレースからの応力を考慮した柱脚検討用応力(M', N', Q')の算出方法を以下に示す（終局の場合も同様に算出可能）。

ブレース軸力(P_1, P_2)が作用している。ブレース軸力の鉛直方向成分及び水平方向成分を柱脚の軸力、せん断力に付加し柱脚の検討を行う。また、鉛直方向にブレースが偏心する場合、その偏心による曲げモーメントを柱より発生する柱脚の曲げモーメントに付加して柱脚の検討を行う。

5.3.1 曲げモーメントに対する検討

ブレースが偏心して取付く場合、水平方向偏心量を e_y 、鉛直方向偏心量 e_z 、ブレース軸力 P の水平成分力 P_x 、鉛直成分力 P_z とする。

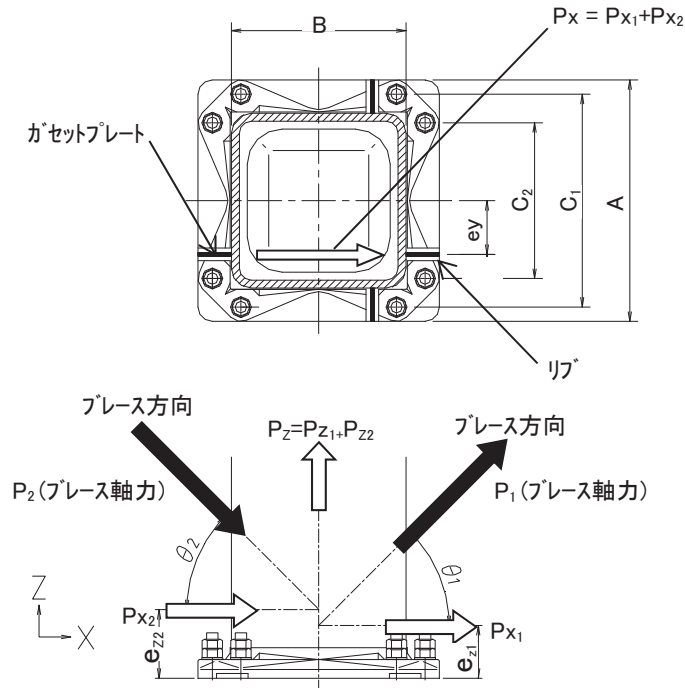


図5.5 ブレース配置（鉛直方向・水平方向偏心有）

ブレースの水平成分力 P_x による付加曲げモーメント(vM_x)が柱脚の曲げモーメント(M_x)に付加される。従って、付加曲げモーメントを考慮した M_x' は(5.1a)式で表せる。

$$M_x' = M_x + vM_x = M_x + (P_{x1} \cdot e_{z1} + P_{x2} \cdot e_{z2}) \quad \dots (5.1a)$$

ブレースの鉛直成分力 P_z による付加曲げモーメント(vM_y)が柱脚の曲げモーメント(M_y)に付加され、このときの曲げモーメント M_y' は(5.1b)式で表せる（元々、二軸曲げを考慮していない場合は $M_y=0$ ）。

$$M_y' = M_y + vM_y = M_y + (P_{z1} + P_{z2}) \cdot e_y \quad \dots (5.1b)$$

従って、X 方向加力時のブレース軸力 P に対して付加曲げモーメント vM_x 、 vM_y が発生し、このときの柱脚には、 M_x' 、 M_y' の曲げモーメントが発生している。

この曲げモーメントに対して(5.1c)式により二軸曲げの検討を行い、柱脚の安全性を確認する(二軸曲げの検討は鉄骨鉄筋コンクリート計算規準 17.9 式参照)。

$$(M_x' / xMa) + (M_y' / yMa) \leq 1 \quad \dots (5.1c)$$

ここで、

xMa, yMa : ブレースの鉛直成分力を考慮した軸力(柱脚)に対する
柱脚の短期許容曲げ耐力

5.3.2 セン断力に対する検討

①ベースプレート底面の摩擦抵抗に対して

水平方向成分力 P_x により発生する偏心曲げを考慮してブレース水平方向成分力 P_x を割り増し、付加応力を考慮するせん断力(Q_0')を算出する (5.1d 式参照)。

$$Q_0' = Q + (1 + 6 \cdot e_y / A) \cdot (P_{x1} + P_{x2}) \quad \dots (5.1d)$$

②アンカーボルトに対して

ブレースが偏心して取付く場合、水平方向成分力 P_x によりブレースに近い側のアンカーボルトが負担するせん断力が多くなることを考慮してブレース水平方向成分力 P_x を割り増し、付加応力を考慮するせん断力(Q_1')を算出する (5.1e 式参照)。

$$Q_1' = Q + (1 + 2 \cdot e_y / C) \cdot (P_{x1} + P_{x2}) \quad \dots (5.1e)$$

③コンクリートスラブの支圧抵抗に対して

水平方向成分力 P_x によりコンクリートは柱側面から圧縮力と偏心圧縮による曲げを受ける。これを考慮してブレース水平方向成分力 P_x を割り増し、付加応力を考慮するせん断力(Q_2')を算出する (5.1f 式参照)。

$$Q_2' = Q + (1 + 6 \cdot e_y / B) \cdot (P_{x1} + P_{x2}) \quad \dots (5.1f)$$

ここで、 Q_0' 、 Q_1' 、 Q_2' ：ブレースを考慮したせん断力

Q ：柱脚せん断力

A ：ベースプレート幅

B ：柱幅

C ：アンカーボルト間隔（アンカーボルト図心位置）

アンカーボルト 4 本タイプ： $C = C_1$

アンカーボルト 8 本タイプ： $C = (C_1 + C_2) / 2$

アンカーボルト 12 本タイプ： $C = (C_1 + C_2 + C_3) / 3$

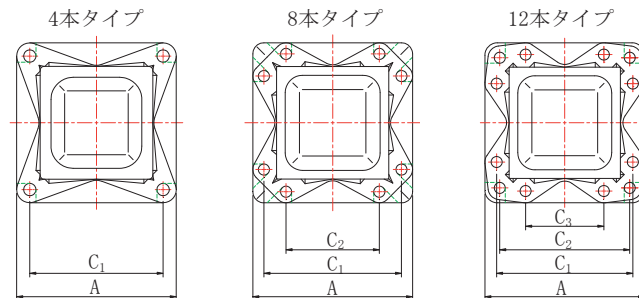


図5.6 ベースプレート形状（一例）

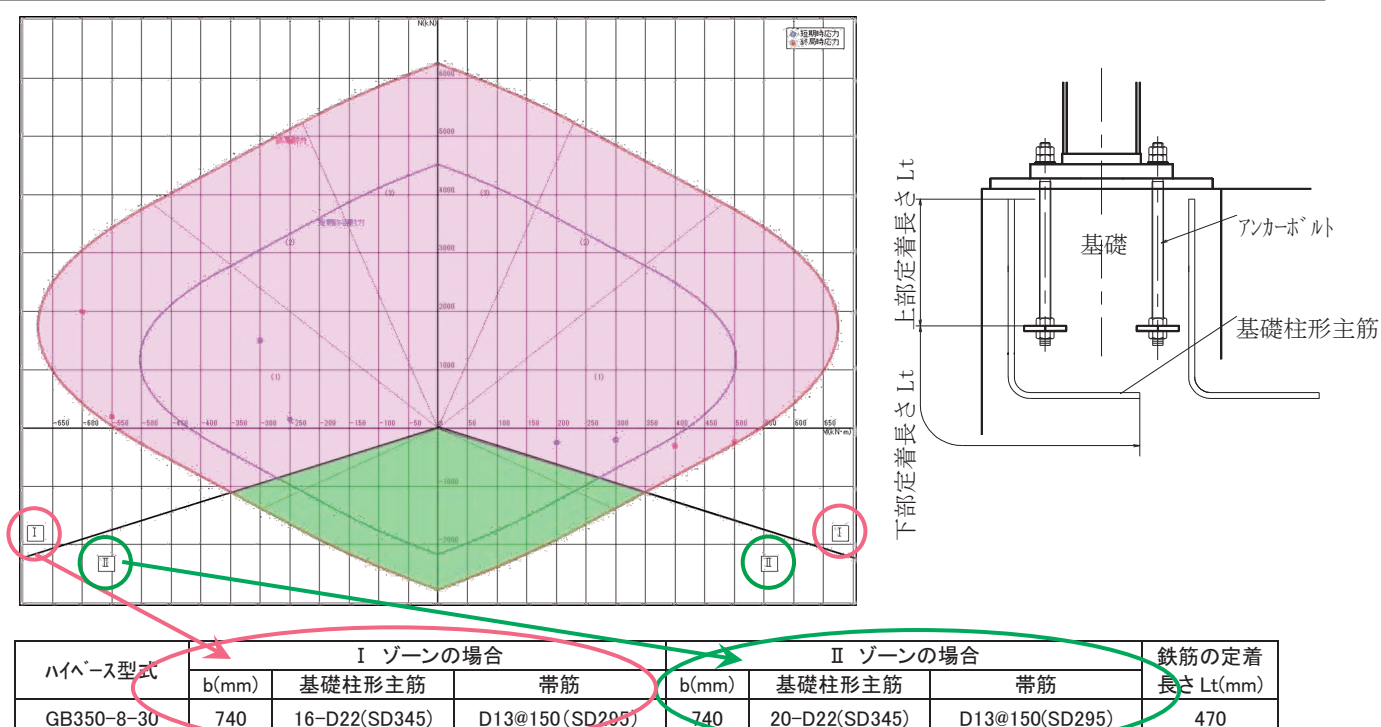
* ブレースの偏心が無い場合、前項に示す各式において、水平方向偏心量 $e_y=0$ 、鉛直方向偏心量 $e_z=0$ として、ブレース応力を考慮した柱脚検討用応力 (M' , N' , Q') の算出を行う。

基礎柱形設計例の検討方法

柱脚部に発生する応力により、Ⅰゾーン（Ⅱゾーン以外の状態）とⅡゾーン（全アンカーボルトに引張が発生している状態）に分けられる。

終局耐力図中、Ⅰゾーンに応力がある場合はⅠゾーンの基礎柱形仕様（基礎柱形主筋、帯筋、柱形サイズ（b））を、Ⅱゾーンに応力がある場合はⅡゾーンの基礎柱形仕様を用いることにより基礎柱形の設計を行う。また、表中に示す鉄筋の定着長さ（Lt）を確保すること。

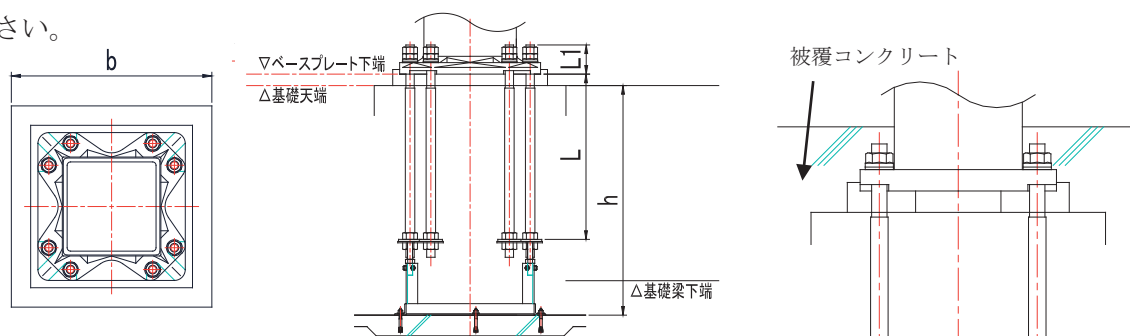
- *ⅠゾーンおよびⅡゾーンの判定は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- *基礎柱形が側・隅柱の場合と中柱（柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみ）の場合で基礎柱形仕様が異なります。基礎柱形のタイプに合った基礎柱形仕様にて設計してください。
- *基礎柱形設計例を適用するには諸条件があります。条件についてはP.36を参照してください。



付図1 ゾーン判定と基礎柱形主筋定着長さ

基礎深さは最低でも h 以上確保する必要があります。また、基礎ばり下端は定着板上面よりも下側になるようにしてください。

エコタイプおよび二方向偏心タイプ（BC 型式）は、ナットのゆるみを防止するためにコンクリートで被覆してください。



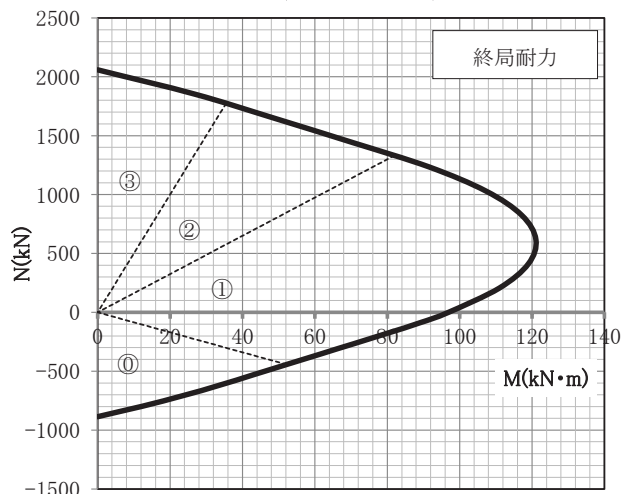
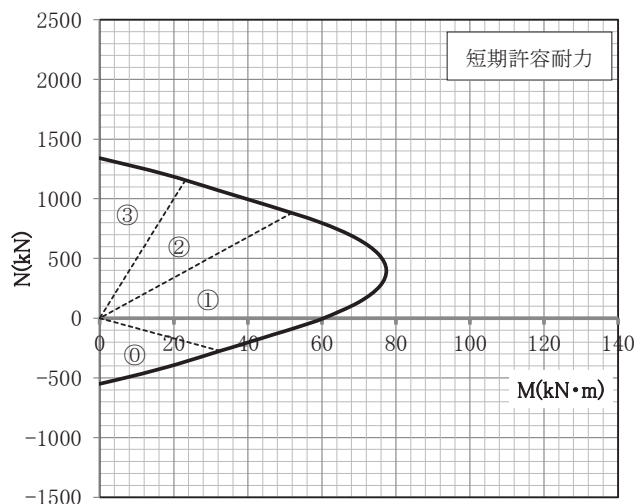
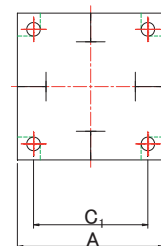
付図2 基礎柱形

上記検討は「構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】」により検討が可能です。ソフトはセンクシアホームページ (<https://www.senqcia.co.jp/>) よりダウンロード可能です。

適用柱	角形鋼管柱 □150×150 (板厚範囲:4.5~12mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

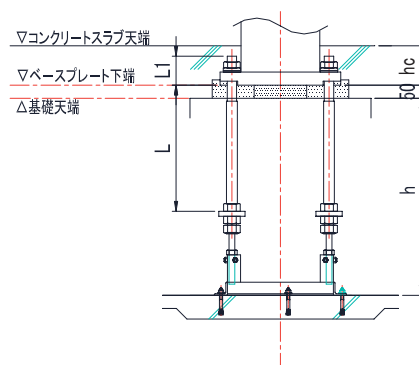
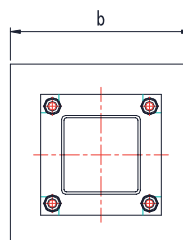
色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	$aQa(\text{kN})$		aQu (kN)	A (mm)	C_1 (mm)
			長期	短期			
—	EB150-4-24	14.0	69.1	117.5	165.9	290	210



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーン の 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- ① I、II ゾーンの判定
 - ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB150-4-24	400	80	550 以上	120



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ $L_t(\text{mm})$
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB150-4-24	500	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	500	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	200

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎はり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ L_t (P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

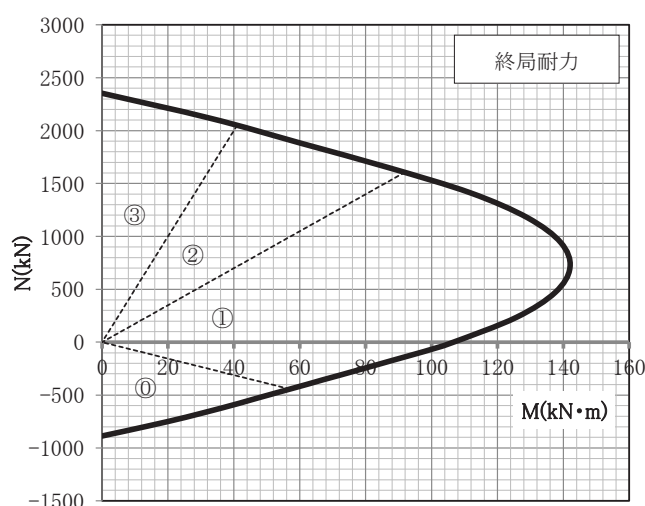
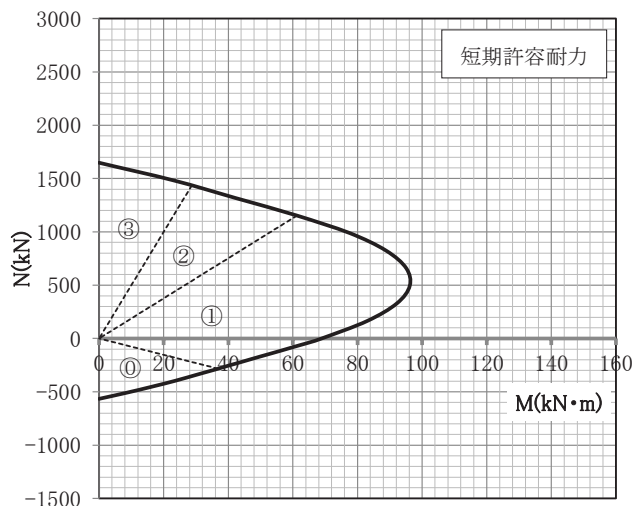
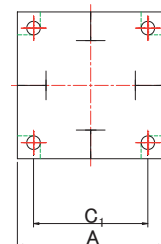
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa, aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □175×175 (板厚範囲:4.5~12mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

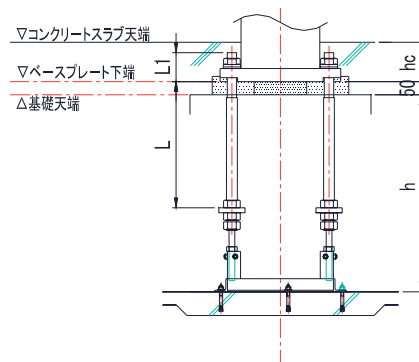
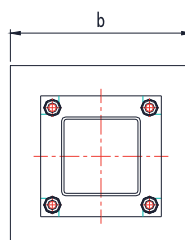
色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	EB175-4-24	17.9	70.4	119.2	168.0	310	230



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- I、II ゾーンの判定
 - コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB175-4-24	400	80	600 以上	120



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB175-4-24	520	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	520	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	190

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎より天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

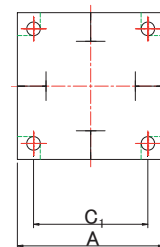
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

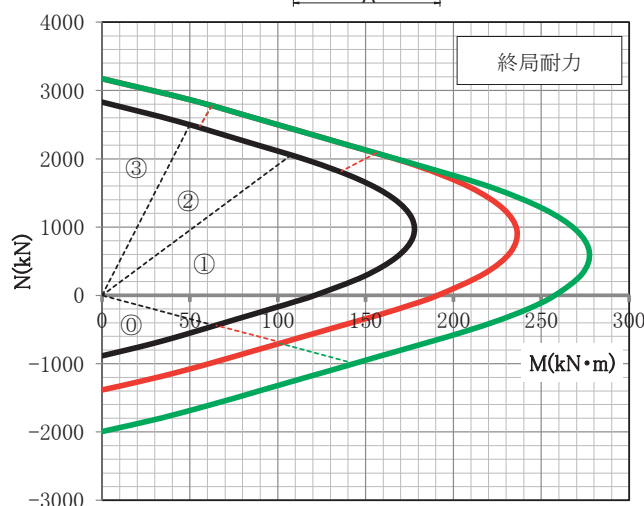
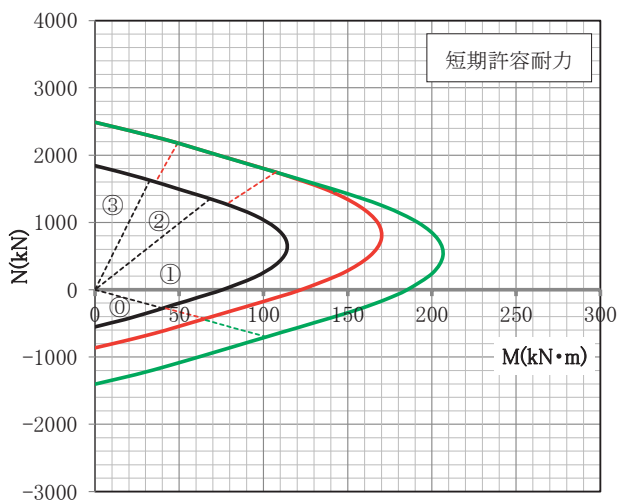
適用柱	角形鋼管柱 □200×200 (板厚範囲:6~12mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
黒	EB200-4-24	21.9	73.3	123.7	174.2	340	260
赤	EB200-4-30	35.4	73.5	125.0	176.5	360	270
緑	EB200-4-36	41.4	75.4	128.7	182.1	360	270



角形鋼管柱用



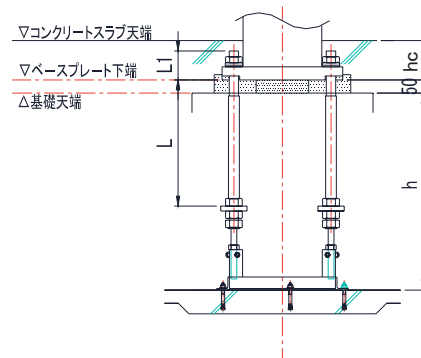
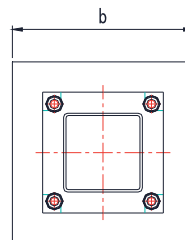
基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

(mm)

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB200-4-24	400	80	600 以上	120
EB200-4-30	400	102	600 以上	150
EB200-4-36	480	117	700 以上	160



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB200-4-24	550	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	550	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	190
EB200-4-30	570	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	570	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	290
EB200-4-36	580	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	580	20-D19(SD345)	D13@100(SD295)	330

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎より天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

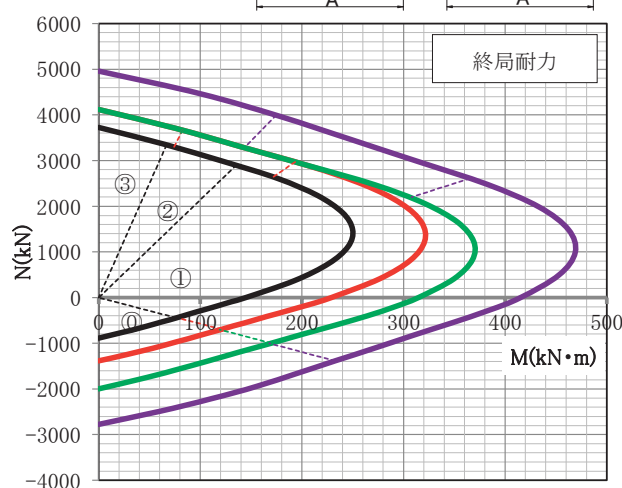
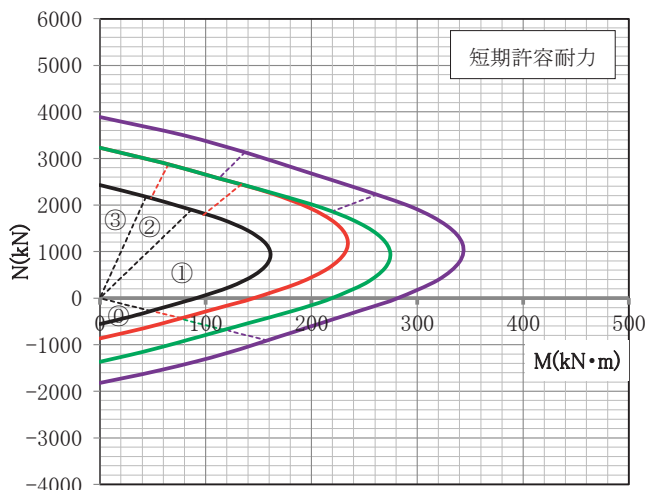
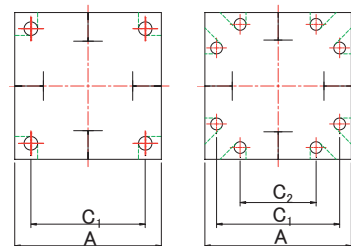
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □250×250 (板厚範囲:6~16mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ、8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	EB250-4-24	32.2	77.5	130.0	182.5	390	310	—
赤	EB250-4-30	51.3	81.0	136.6	192.2	410	320	—
緑	EB250-4-36	59.7	82.9	140.4	197.9	410	320	—
紫	EB250-8-30	51.1	115.4	189.5	263.5	450	360	190

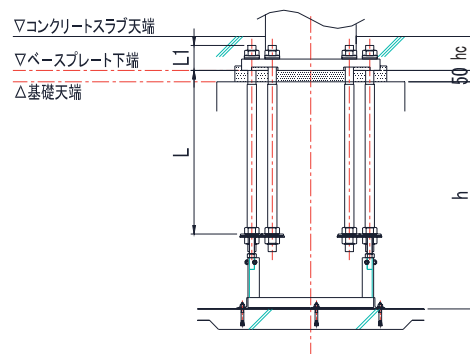
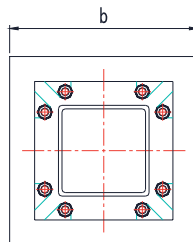


基礎柱形設計例

- * I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- I、IIゾーンの判定
 - コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

(mm)

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB250-4-24	400	80	600 以上	120
EB250-4-30	400	102	600 以上	150
EB250-4-36	480	117	700 以上	160
EB250-8-30	600	110	800 以上	150



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着 長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB250-4-24	600	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	600	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	190
EB250-4-30	610	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	610	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	280
EB250-4-36	610	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	610	20-D19(SD345)	D13@100(SD295)	330
EB250-8-30	640	12-D22(SD345)	D13@150(SD295)	640	20-D22(SD345)	D13@100(SD295)	430

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注3)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

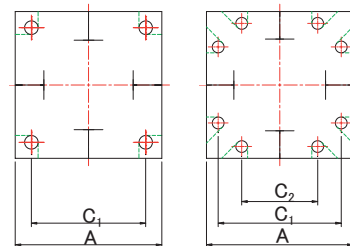
注5)エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6)エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

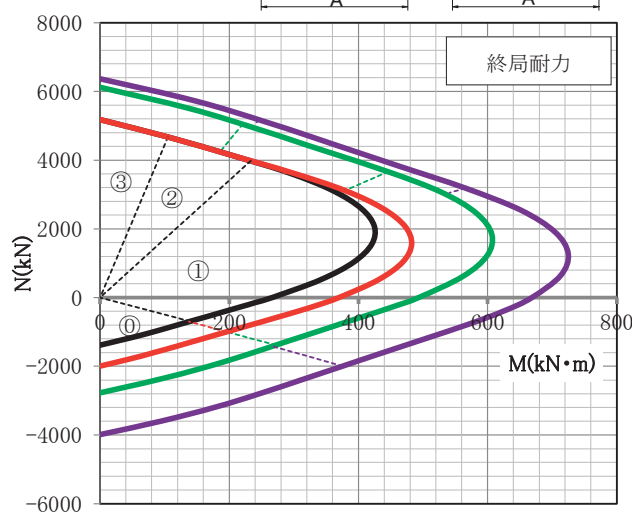
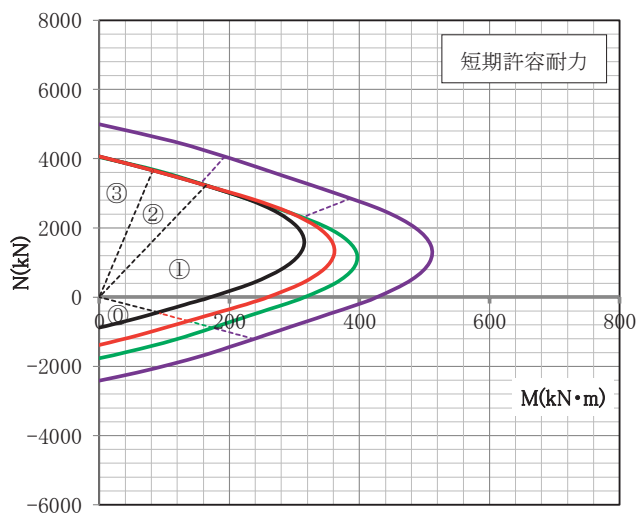
適用柱	角形鋼管柱 □300×300 (板厚範囲:6~22mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ、8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	$aQa(\text{kN})$		aQu (kN)	A (mm)	C_1 (mm)	C_2 (mm)
			長期	短期				
黒	EB300-4-30	70.1	85.1	142.8	200.5	460	370	-
赤	EB300-4-36	82.9	87.0	146.6	206.2	460	370	-
緑	EB300-8-30	69.4	126.0	205.8	285.6	500	410	240
紫	EB300-8-36	84.0	136.4	222.9	309.4	510	420	220



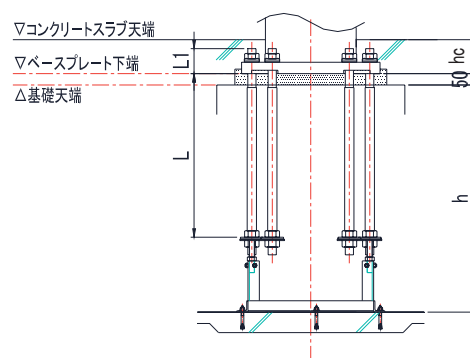
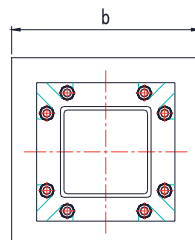
角形鋼管柱用



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
① I、II ゾーンの判定
② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB300-4-30	400	102	600 以上	150
EB300-4-36	480	117	700 以上	160
EB300-8-30	600	106	800 以上	150
EB300-8-36	720	121	900 以上	170



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ $L_t(\text{mm})$
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB300-4-30	660	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	660	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	270
EB300-4-36	660	12-D19(SD345)	D13@100(SD295)	660	20-D19(SD345)	D13@100(SD295)	330
EB300-8-30	700	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	700	20-D22(SD345)	D13@100(SD295)	410
EB300-8-36	720	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	720	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	570

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ L_t (P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa, aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。



エコタイプとGタイプの違い ①ベースプレート形状編

ハイベース NEO 工法では、エコタイプとGタイプの2種類があります。

エコタイプ

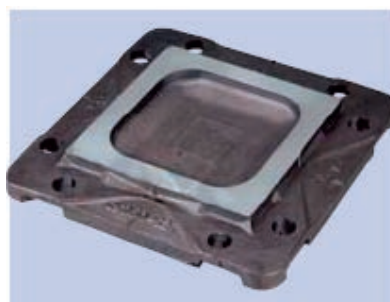


鋼板製 (SN490B, TMCP 鋼) ベースプレートを採用。

ベースプレート底面に、せん断力を効果的にアンカーボルトに伝達させる凹面加工部を有する特殊形状ベースプレート。

エコタイプは、コストを追求したタイプで、コスト重視の設計に最適です。

Gタイプ



鑄鋼製ベースプレート（国土交通大臣認定材、SN490B 同等）を採用。

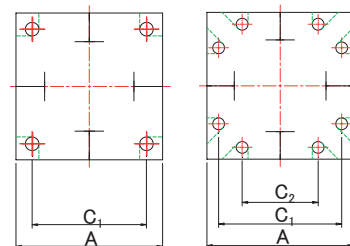
鑄鋼特有の造形の自由さを利用し、エコタイプと同様の底面形状に加え、応力伝達効率の優れた形状のベースプレート。

Gタイプは、さまざまな設計的要求にも対応可能で、性能重視の設計に最適です。

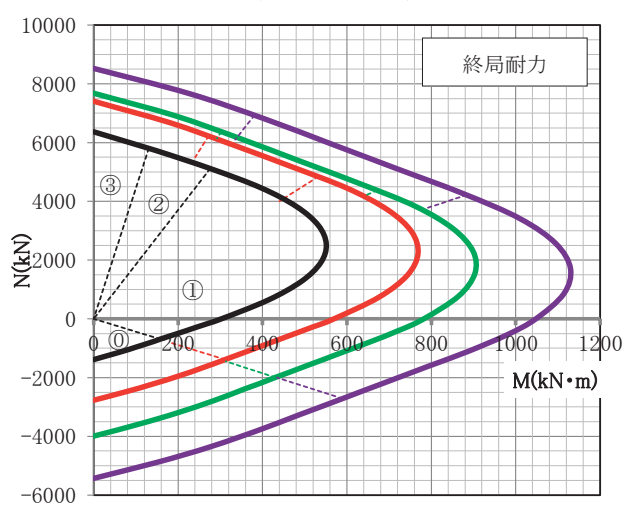
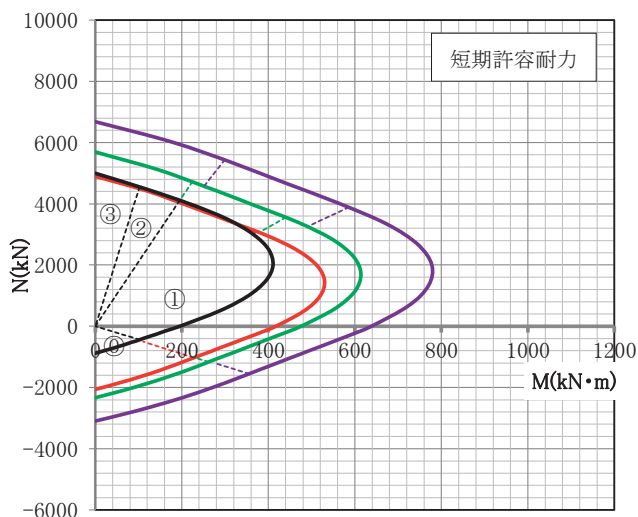
適用柱	角形鋼管柱 □350×350 (板厚範囲:9~22mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ、8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	EB350-4-30	93.1	89.3	149.1	208.9	510	420	—
赤	EB350-8-30	89.5	132.6	215.7	298.8	550	460	290
緑	EB350-8-36	105	143.4	233.5	323.5	560	470	270
紫	EB350-8-42	133	161.7	263.4	365.0	590	480	260



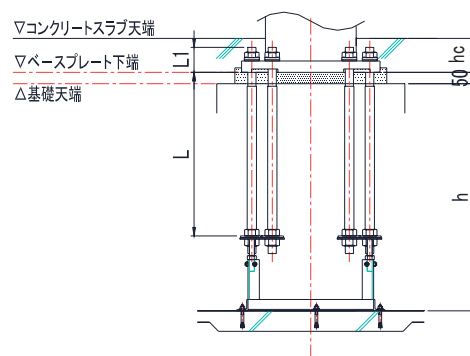
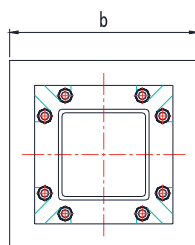
角形鋼管柱用



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
① I、II ゾーンの判定
② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB350-4-30	400	102	600 以上	150
EB350-8-30	600	106	800 以上	150
EB350-8-36	720	117	900 以上	160
EB350-8-42	840	138	1100 以上	180



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB350-4-30	710	8-D19(SD345)	D13@100(SD295)	710	16-D19(SD345)	D13@100(SD295)	240
EB350-8-30	750	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	750	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	460
EB350-8-36	770	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	770	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	540
EB350-8-42	790	20-D25(SD345)	D13@150(SD295)	790	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	710

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

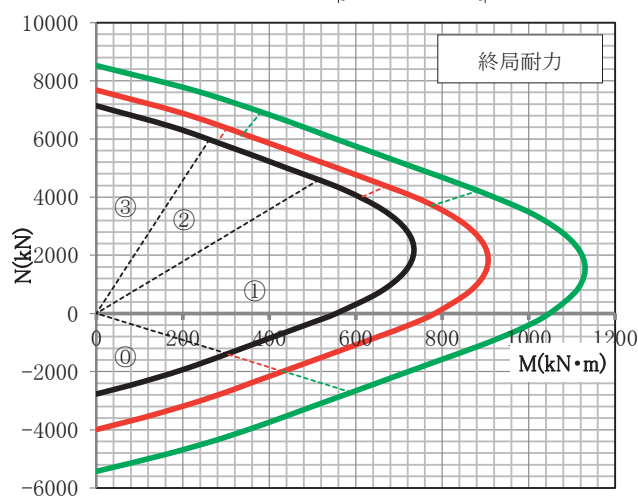
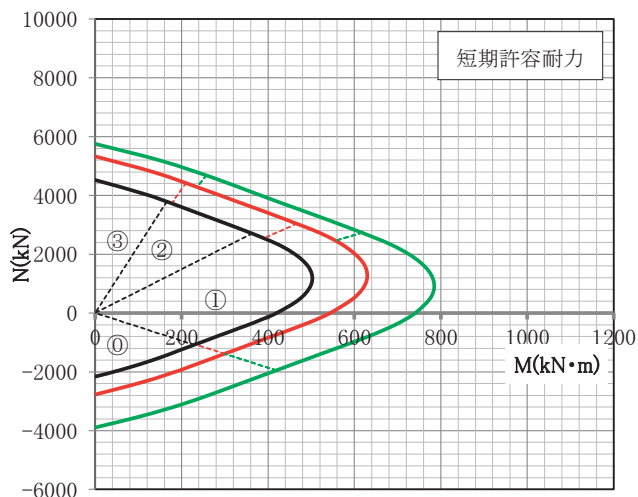
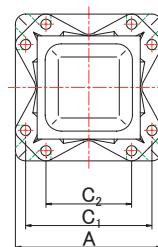
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □350×350 (板厚範囲:9~25mm)
ベースプレート	G タイプ(鑄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB350-8-30	150	97.6	146.5	195.3	540	450	280
赤	GB350-8-36	188	110.4	165.7	220.9	560	470	270
緑	GB350-8-42	216	120.1	180.2	240.3	590	480	260

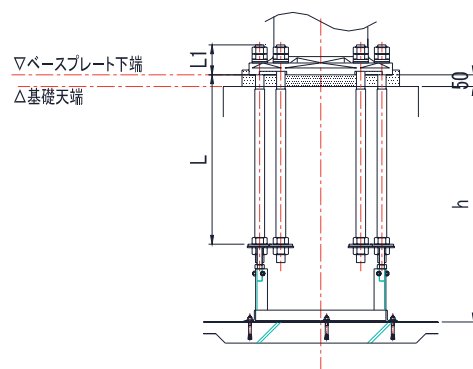
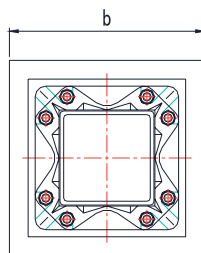


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイベース型式	L	L1	h
GB350-8-30	600	95	800 以上
GB350-8-36	720	116	900 以上
GB350-8-42	840	140	1100 以上



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB350-8-30	740	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	740	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	470
GB350-8-36	770	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	770	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	560
GB350-8-42	790	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	800	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	610

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

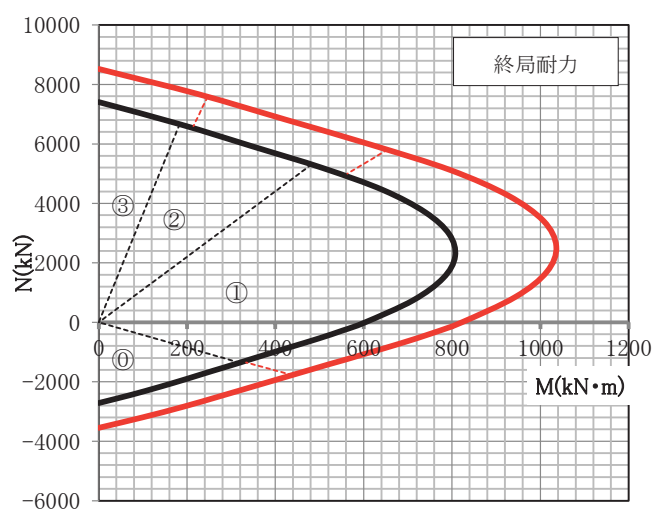
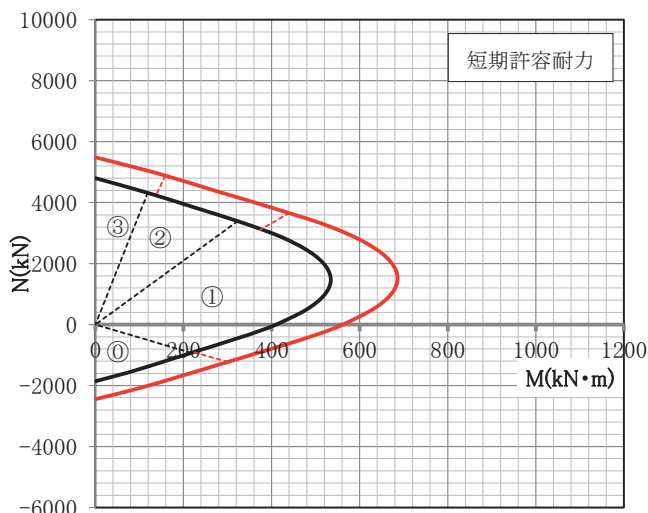
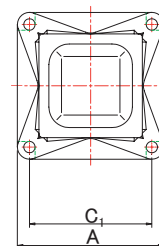
注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □350×350 (板厚範囲:9~25mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイペース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	GB350-4-42	128	66.7	100.0	133.4	550	440
—	GB350-4-48	156	71.6	107.4	143.2	590	460

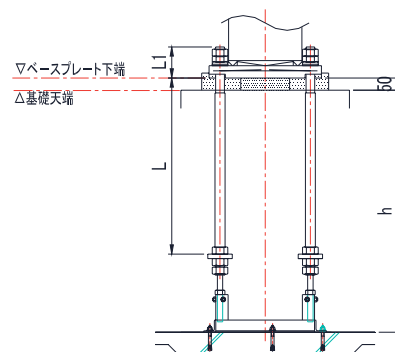
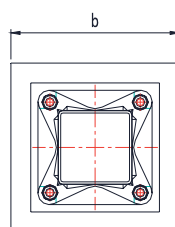


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイペース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイペース型式	L	L1	h
GB350-4-42	840	145	1100 以上
GB350-4-48	960	168	1200 以上



<側・隅・中柱用>

ハイペース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB350-4-42	750	12-D25(SD345)	D13@150(SD295)	750	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	480
GB350-4-48	790	12-D25(SD345)	D13@150(SD295)	790	20-D25(SD345)	D13@150(SD295)	580

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎より天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上

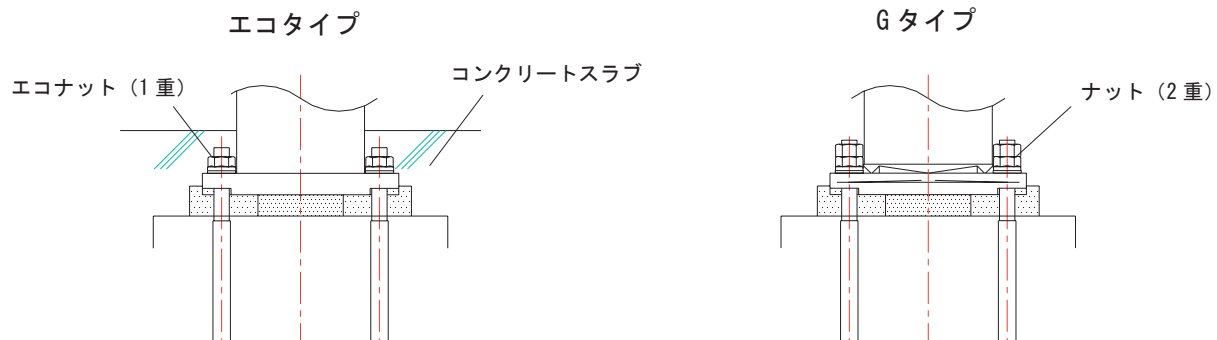
注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



エコタイプと G タイプの違い ②柱脚部の被覆について

ハイベース NEO 工法の標準仕様では、柱脚の上部仕様がタイプにより異なります。



エコタイプの標準仕様

- ・コンクリートスラブにより被覆。
- ・アンカーボルトの上部ナットは専用ナット（エコナット、1重）を使用。

G タイプの標準仕様

- ・柱脚部は露出させることが可能（エコタイプ同様、被覆コンクリート仕様も可能）
- ・アンカーボルトの上部ナットは2重。（標準）
- ・上部ナットは1重にすることも可能。
（但し、強度区分 8 のナットを用い、コンクリートスラブによる被覆を行う必要があります。）

被覆コンクリートの効果によるせん断耐力の向上。

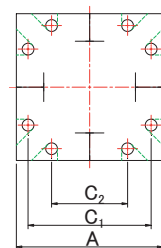
被覆コンクリート仕様の場合、別途検討することによりせん断耐力の向上が可能。

注)角形鋼管柱用二方向偏心タイプの場合は、コンクリートスラブによる被覆が必要です。

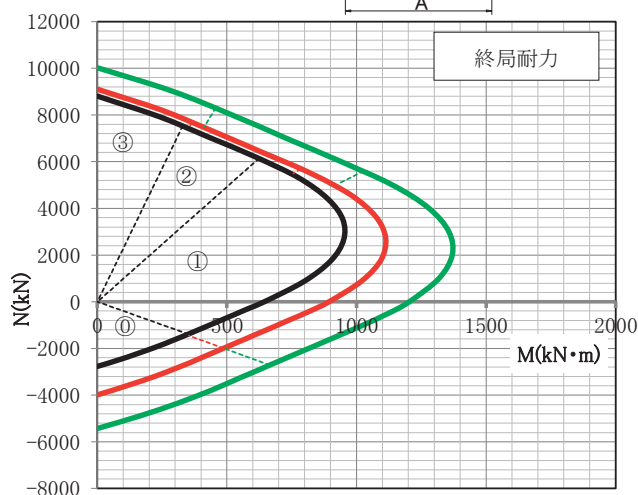
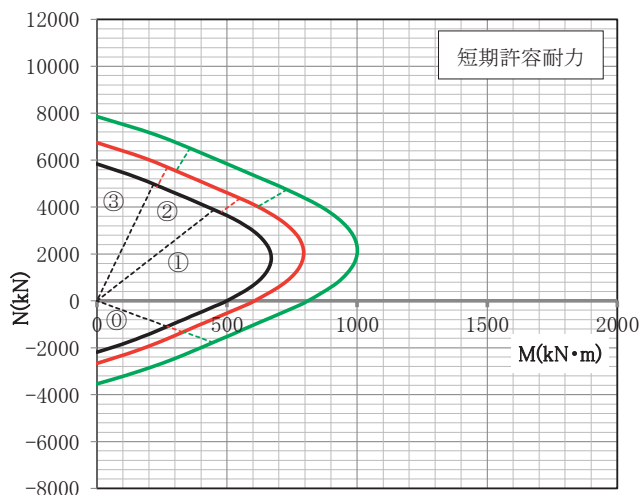
適用柱	角形鋼管柱 □400×400 (板厚範囲:9~25mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	EB400-8-30	111	139.2	225.6	312.0	600	510	340
—	EB400-8-36	127	150.5	244.0	337.6	610	520	320
—	EB400-8-42	175	169.3	274.8	380.2	640	530	310



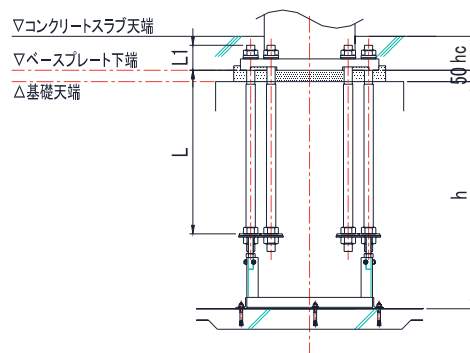
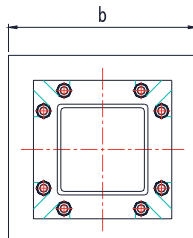
角形鋼管柱用



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーン の 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- ① I、II ゾーンの判定
 - ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB400-8-30	600	106	800 以上	150
EB400-8-36	720	117	900 以上	160
EB400-8-42	840	138	1100 以上	180



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB400-8-30	800	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	800	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	450
EB400-8-36	820	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	820	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
EB400-8-42	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	840	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	680

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB400-8-30	800	12-D22(SD345)	D13@150(SD295)	800	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	450
EB400-8-36	820	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	820	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
EB400-8-42	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	840	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	680

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

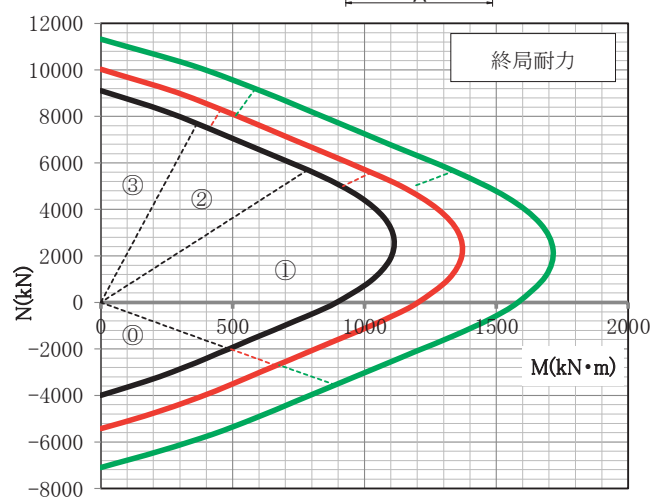
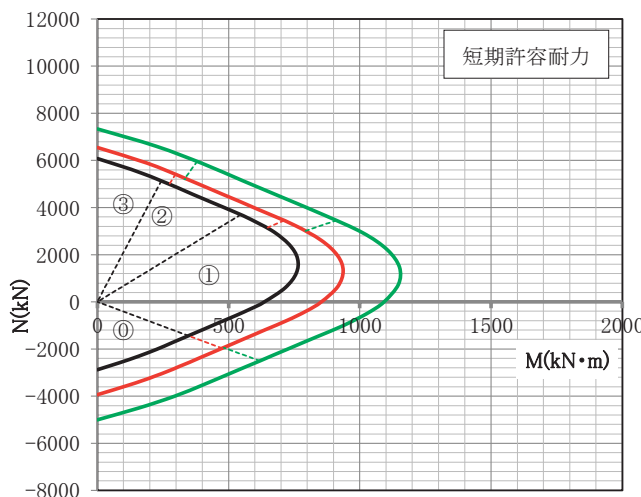
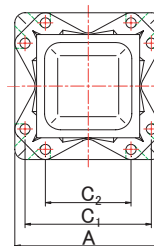
注6) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □400×400 (板厚範囲:9~32mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB400-8-36	234	117.6	176.5	235.3	610	520	320
赤	GB400-8-42	282	127.7	191.6	255.5	640	530	310
緑	GB400-8-48	321	142.3	213.4	284.6	680	550	300

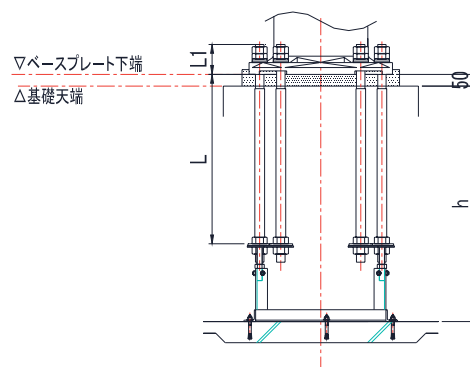
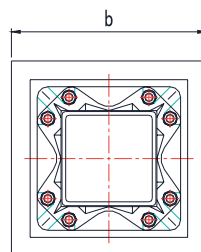


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーン の 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、II ゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB400-8-36	720	114	900 以上
GB400-8-42	840	137	1100 以上
GB400-8-48	960	159	1300 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB400-8-36	820	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	820	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	540
GB400-8-42	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	600
GB400-8-48	880	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	890	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	790

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB400-8-36	820	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	820	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	540
GB400-8-42	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	600
GB400-8-48	880	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	890	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	790

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

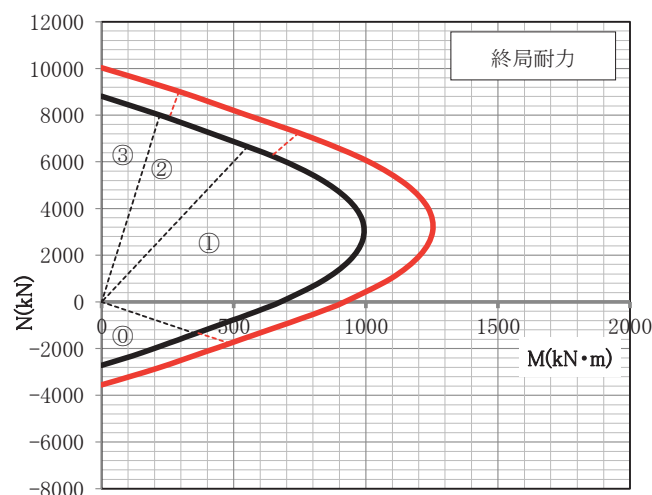
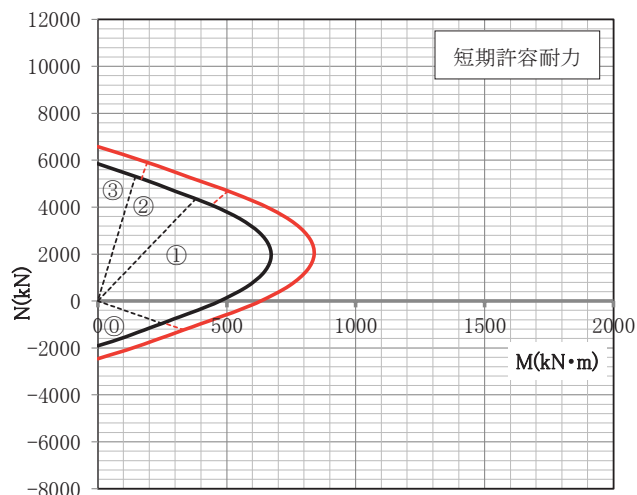
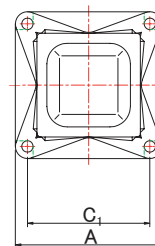
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □400×400 (板厚範囲:9~32mm)
ベースプレート	G タイプ(鑄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	GB400-4-42	163	71.1	106.7	142.3	600	490
—	GB400-4-48	194	76.2	114.3	152.4	640	510

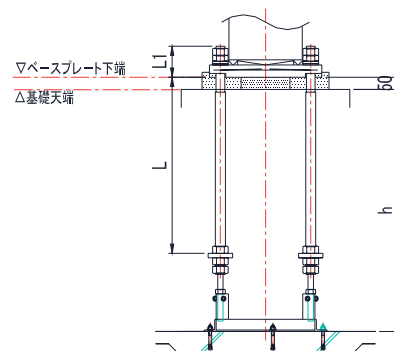
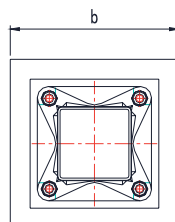


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイベース型式	L	L1	h
GB400-4-42	840	144	1100 以上
GB400-4-48	960	166	1200 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB400-4-42	810	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	810	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	400
GB400-4-48	840	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	500

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB400-4-42	810	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	810	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	400
GB400-4-48	840	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	840	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	500

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

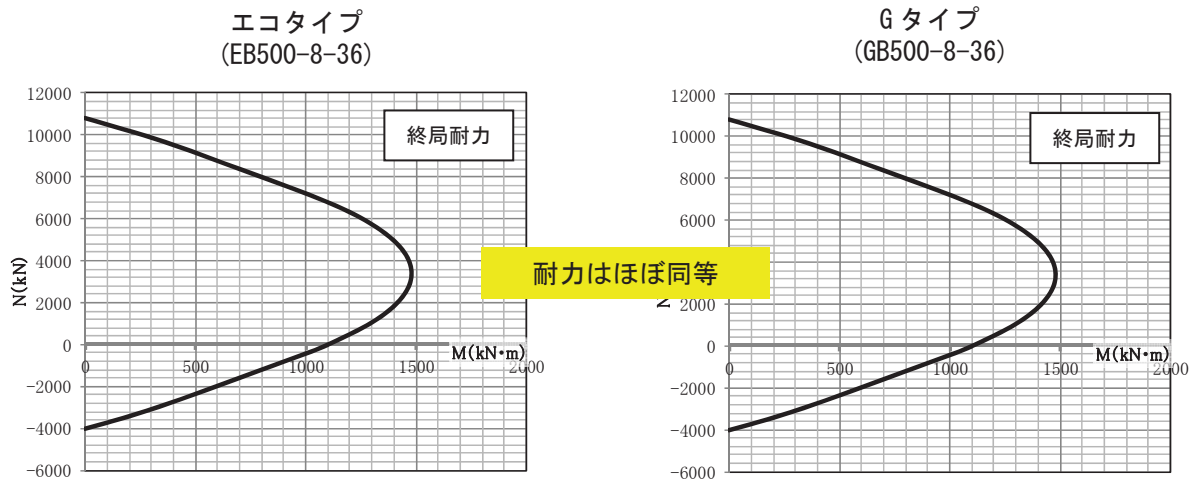
注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



ハイベース NEO 工法の一部型式では、同じ適応柱サイズでエコタイプとGタイプ両方の型式があります。
性能面でも異なるところがあります。



回転ばね定数

EB500-8-36 : 210 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)

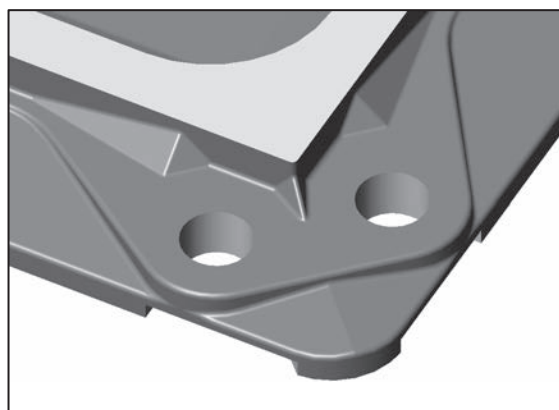
回転ばね定数

GB500-8-36 : 354 ($\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$)

高

回転ばね定数はGタイプの方が高い

Gタイプのベースプレートは、アンカーボルト周辺部の凸部効果により、ベースプレート剛性が向上。
それに伴い回転ばね定数がアップ。

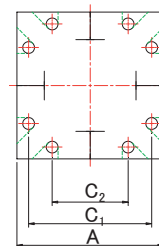


ベースプレート形状例
(Gタイプ、アンカーボルト8本)

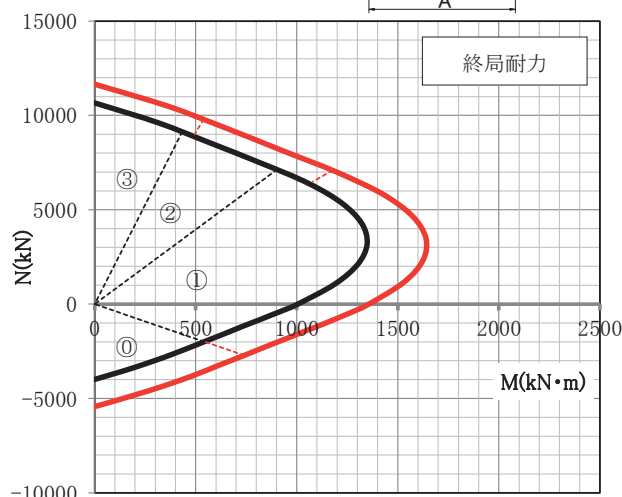
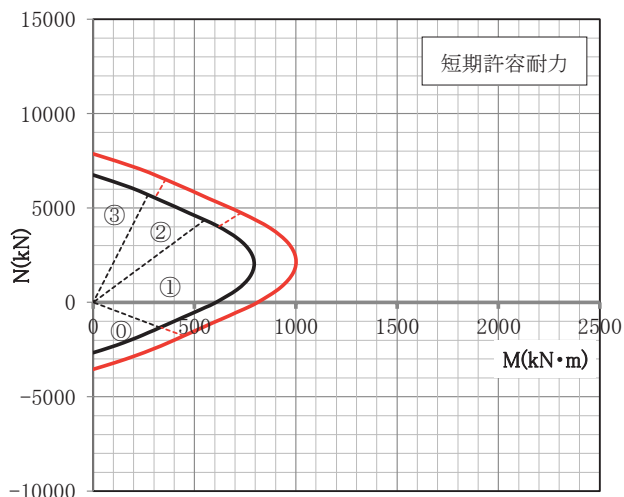
適用柱	角形鋼管柱 □450×450 (板厚範囲:9~25mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	EB450-8-36	169	157.5	254.6	351.6	660	570	370
—	EB450-8-42	199	176.9	286.2	395.5	690	580	360



角形鋼管柱用

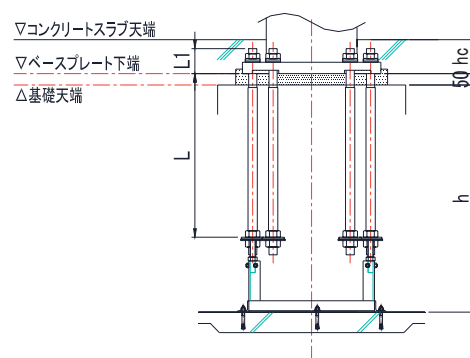
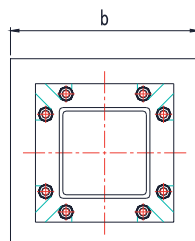


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、IIゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB450-8-36	720	121	900 以上	170
EB450-8-42	840	138	1100 以上	180



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB450-8-36	870	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	870	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
EB450-8-42	890	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB450-8-36	870	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	870	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
EB450-8-42	890	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は <側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

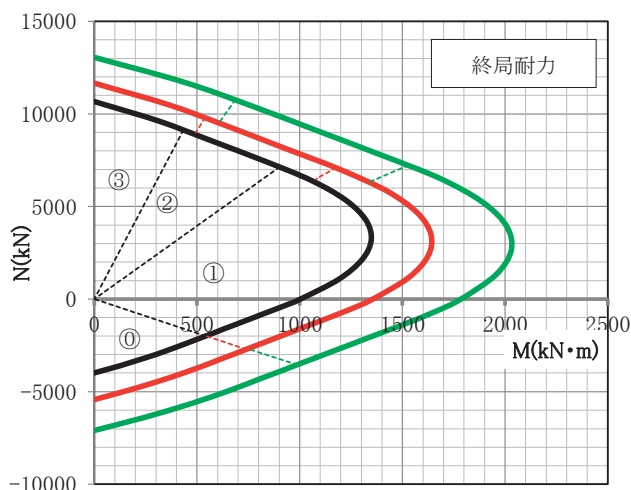
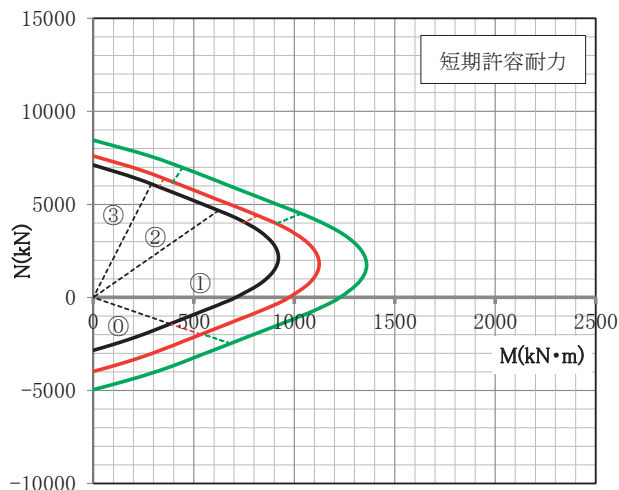
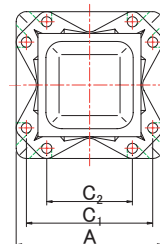
注6)エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7)エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □450×450 (板厚範囲:9~36mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイペース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GB450-8-36	296	124.8	187.2	249.7	660	570	370
—	GB450-8-42	348	135.3	203.0	270.7	690	580	360
—	GB450-8-48	413	150.5	225.7	301.0	730	600	350

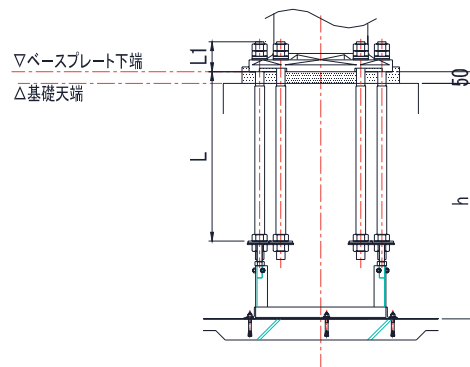
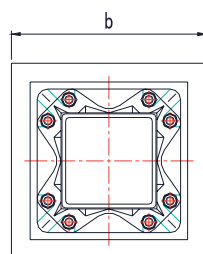


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイペース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイペース型式	L	L1	h
GB450-8-36	720	112	900 以上
GB450-8-42	840	135	1100 以上
GB450-8-48	960	156	1300 以上



<側・隅柱用>

ハイペース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB450-8-36	870	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	870	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
GB450-8-42	890	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	680
GB450-8-48	930	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	940	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	770

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイペース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB450-8-36	870	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	870	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
GB450-8-42	890	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	680
GB450-8-48	930	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	940	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	770

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

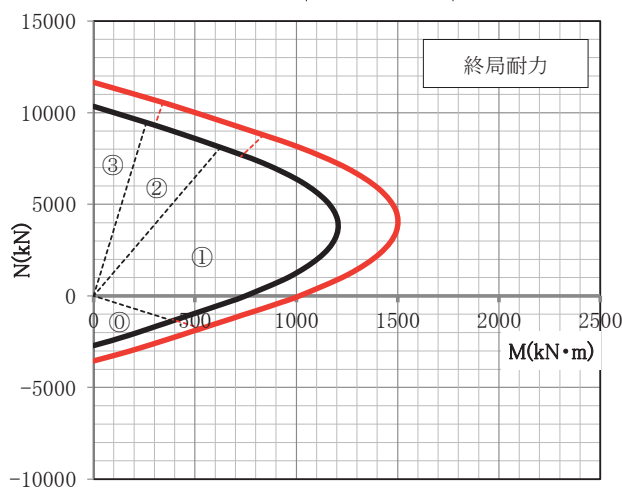
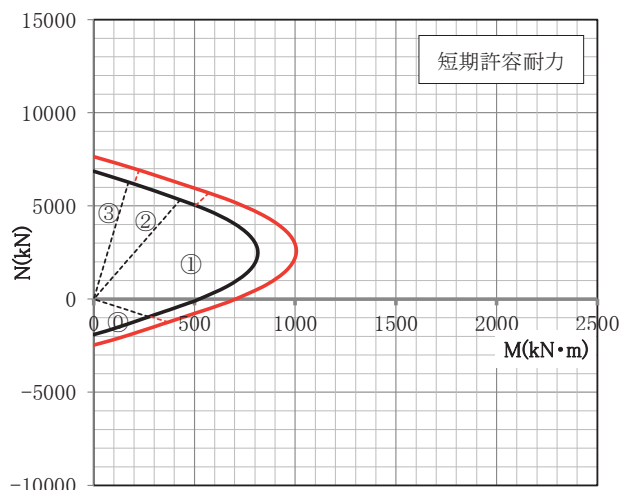
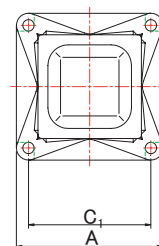
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □450×450 (板厚範囲:9~36mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	GB450-4-42	199	75.6	113.4	151.2	650	540
—	GB450-4-48	236	80.8	121.2	161.6	690	560

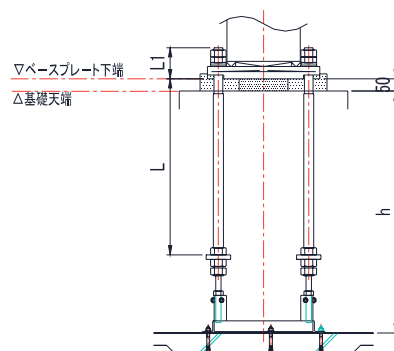
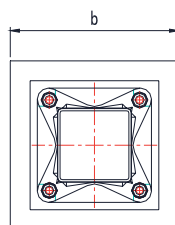


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、IIゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB450-4-42	840	143	1100 以上
GB450-4-48	960	165	1200 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB450-4-42	860	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	860	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	390
GB450-4-48	890	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	480

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB450-4-42	860	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	860	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	390
GB450-4-48	890	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	890	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	480

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2)<中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)



エコタイプと G タイプの違い ④適用柱について

ハイベース NEO 工法のエコタイプと G タイプでは適用可能な柱に違いがあります。

エコタイプ

柱サイズ：□150×150～□550×550
Φ190.7～Φ558.8
H150×150 シリーズ～H700×300 シリーズ

小～中サイズの柱

G タイプ

柱サイズ：□350×350～□1200×1200
Φ500～Φ1016
H400×400 シリーズ～H900×400 シリーズ

- ・箱形四面組立柱等の板厚が厚い鋼管にも対応可能
- ・評定の範囲内で標準外の形状または高応力条件に対応可能なベースプレートの設計も可能です。

中～大サイズの柱
極厚、CFT 造柱など

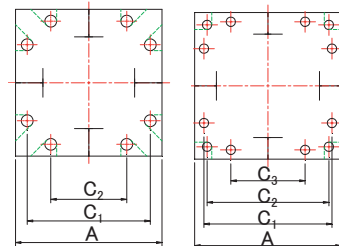
柱サイズ等により、最適なハイベース NEO の型式を選択できます。

* 角形鋼管柱用偏心タイプの場合は、スーパーハイベース工法にて検討をお願いします。

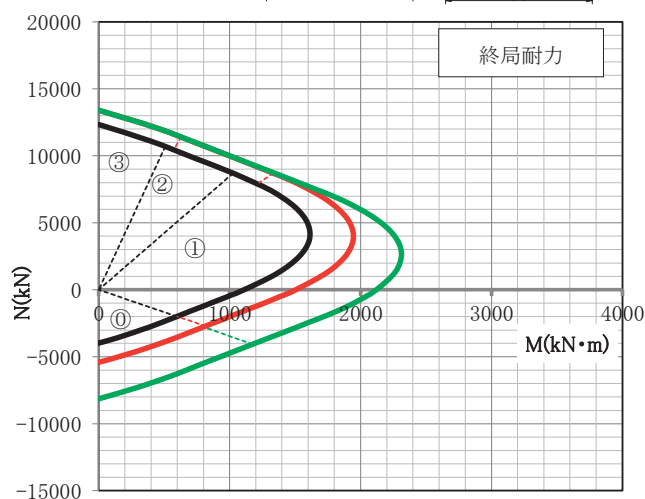
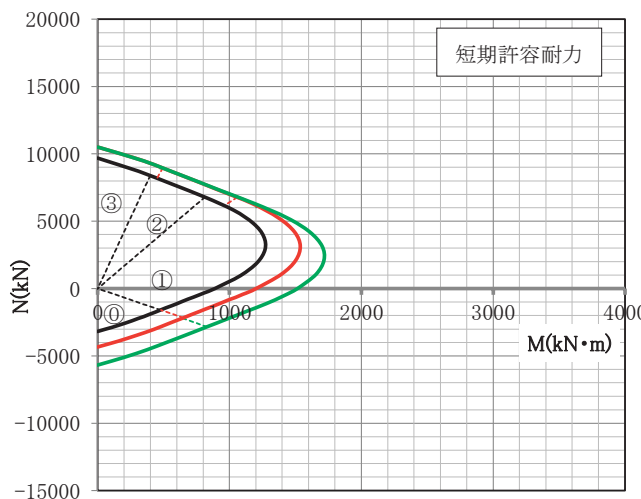
適用柱	角形鋼管柱 □500×500 (板厚範囲:9~28mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ、12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
黒	EB500-8-36	210	164.5	265.1	365.7	710	620	420	—
赤	EB500-8-42	238	184.5	297.6	410.7	740	630	410	—
緑	EB500-12-42	396	200.7	321.9	443.0	740	630	600	350



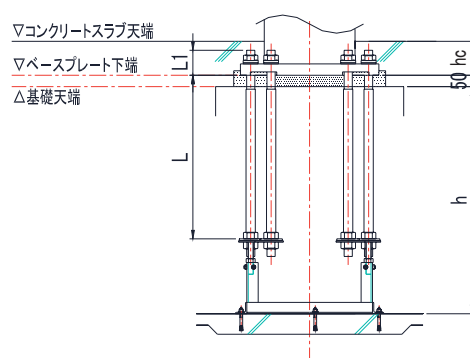
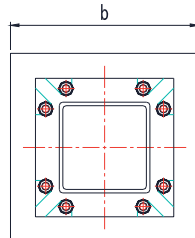
角形鋼管柱用



基礎柱形設計例

- * I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
① I、IIゾーンの判定
② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB500-8-36	720	121	900 以上	170
EB500-8-42	840	138	1100 以上	180
EB500-12-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB500-8-36	950	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	510
EB500-8-42	950	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660
EB500-12-42	950	28-D25(SD345)	-D16@100(SD295)	1050	44-D25(SD345)	-D16@100(SD295)	600

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB500-8-36	950	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	510
EB500-8-42	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660
EB500-12-42	950	20-D25(SD345)	-D16@100(SD295)	1050	44-D25(SD345)	-D16@100(SD295)	600

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は <側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

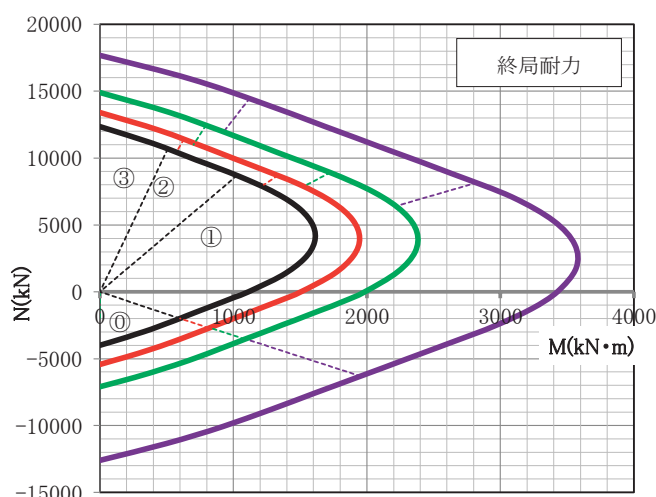
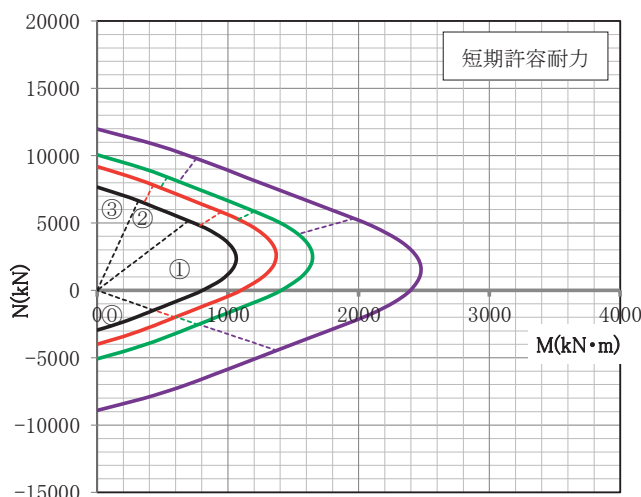
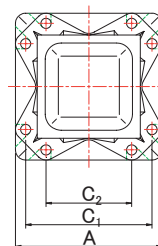
注6)エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7)エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □500×500 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB500-8-36	354	132.0	198.0	264.0	710	620	420
赤	GB500-8-42	421	142.9	214.4	285.9	740	630	410
緑	GB500-8-48	489	163.1	244.7	326.2	780	650	400
紫	GB500-8-64	659	194.0	291.0	388.0	850	690	390

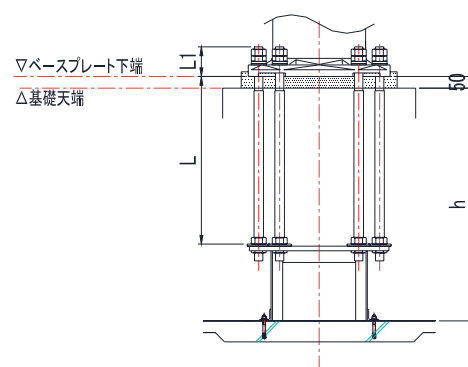
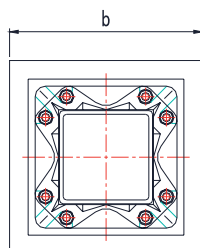


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイベース型式	L	L1	h
GB500-8-36	720	110	900 以上
GB500-8-42	840	132	1100 以上
GB500-8-48	960	153	1300 以上
GB500-8-64	1280	210	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着 長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-8-36	950	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	510
GB500-8-42	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660
GB500-8-48	1000	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1000	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	740
GB500-8-64	1100	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1100

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着 長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-8-36	950	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	510
GB500-8-42	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660
GB500-8-48	1000	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1000	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	740
GB500-8-64	1100	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1100

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

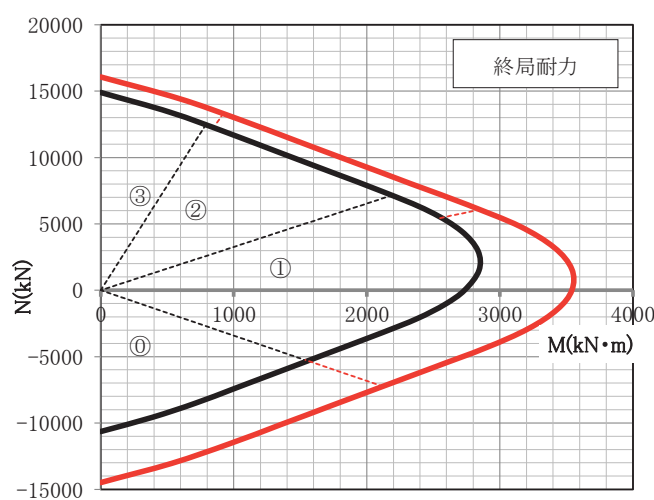
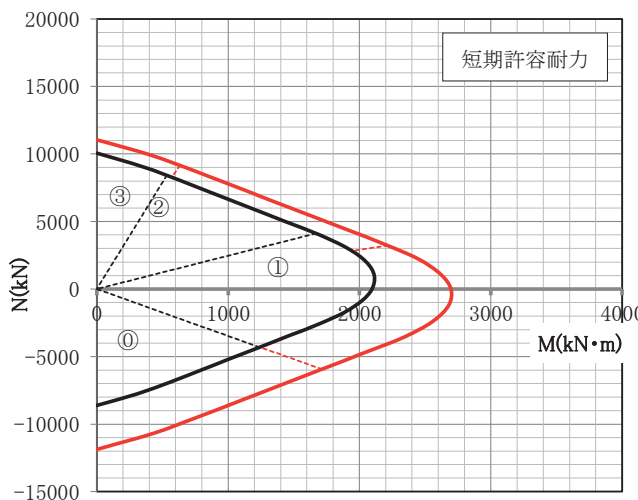
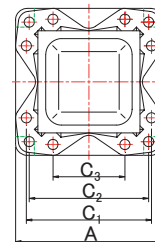
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □500×500 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
黒	GB500-12-48	695	185.6	278.4	371.2	780	650	610	320
赤	GB500-12-56	771	205.8	308.7	411.6	810	670	630	300

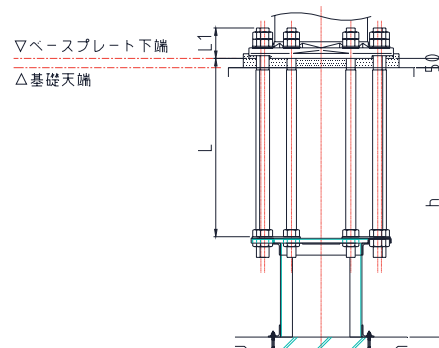
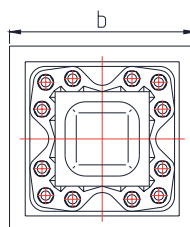


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合 (mm)

ハイベース型式	L	L1	h
GB500-12-48	960	164	1300 以上
GB500-12-56	1120	195	1450 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-12-48	1000	24-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	760
GB500-12-56	1050	32-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	980

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりがある場合のみを示す)

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-12-48	1000	16-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	760
GB500-12-56	1050	24-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	980

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は <側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

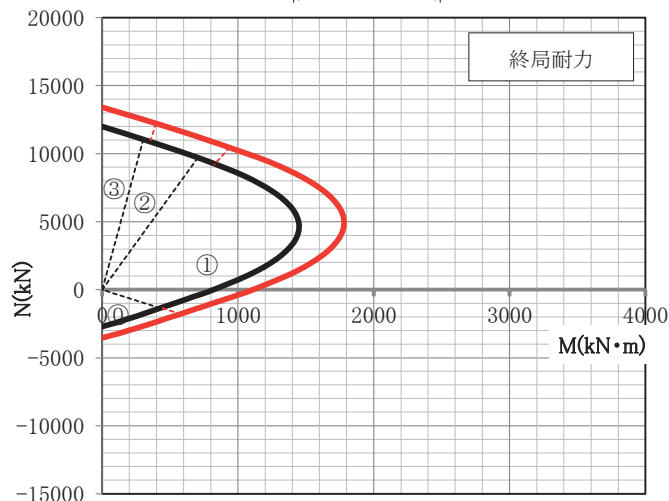
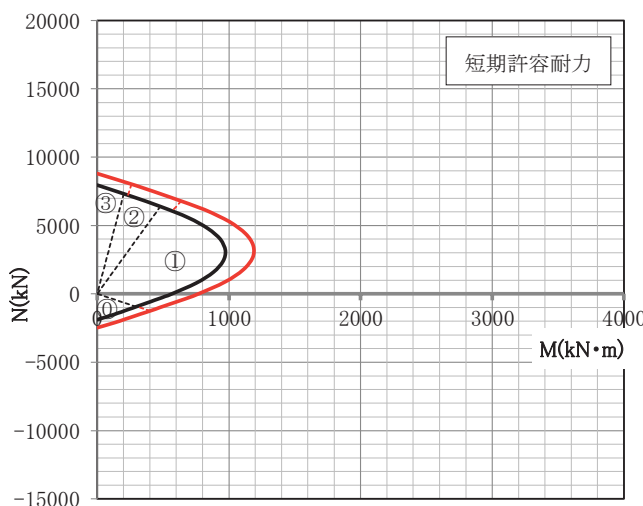
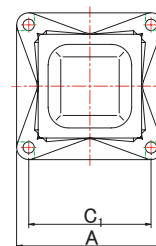
注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □500×500 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鑄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	GB500-4-42	244	80.0	120.1	160.1	700	590
—	GB500-4-48	290	89.0	133.5	178.0	740	610

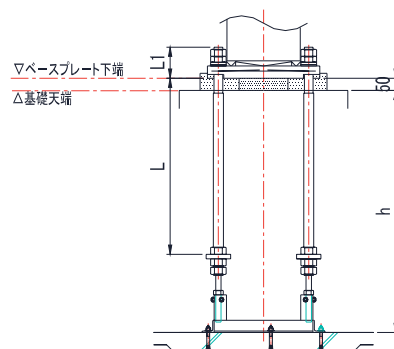
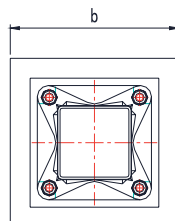


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、II ゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB500-4-42	840	142	1100 以上
GB500-4-48	960	164	1200 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-4-42	910	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	910	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	390
GB500-4-48	950	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	470

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばり4方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB500-4-42	910	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	910	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	390
GB500-4-48	950	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	470

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

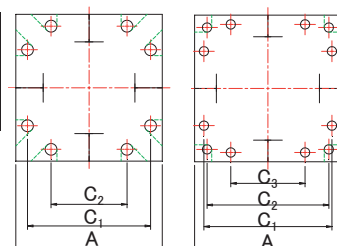
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

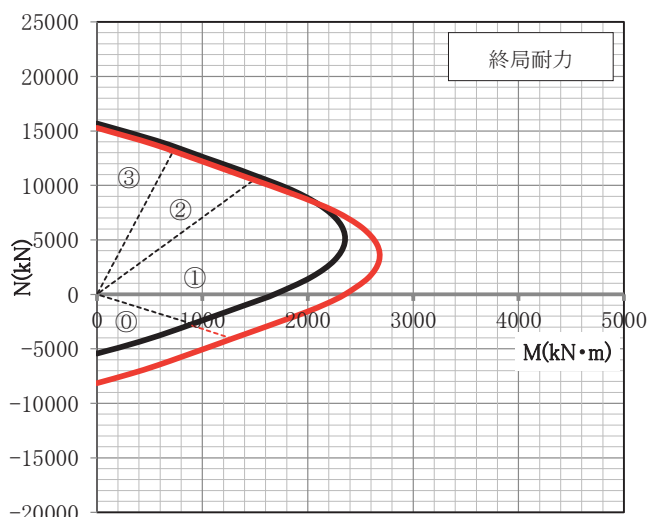
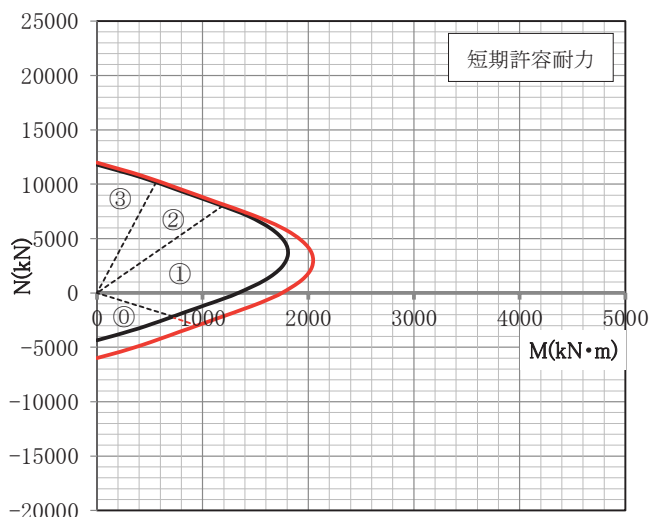
適用柱	角形鋼管柱 □550×550 (板厚範囲:9~28mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ、12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	EB550-8-42	317	194.6	313.2	431.8	800	690	470	—
—	EB550-12-42	475	209.2	334.6	460.0	790	680	650	400



角形鋼管柱用

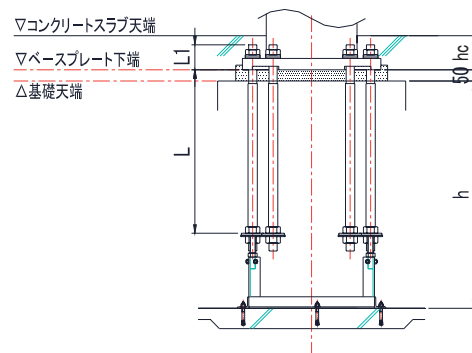
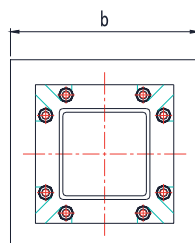


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、IIゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EB550-8-42	840	138	1100 以上	180
EB550-12-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB550-8-42	1000	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
EB550-12-42	1000	28-D25(SD345)	■ -D16@100(SD295)	1050	44-D25(SD345)	■ -D16@100(SD295)	600

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EB550-8-42	1000	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
EB550-12-42	1000	20-D25(SD345)	■ -D16@100(SD295)	1050	44-D25(SD345)	■ -D16@100(SD295)	600

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

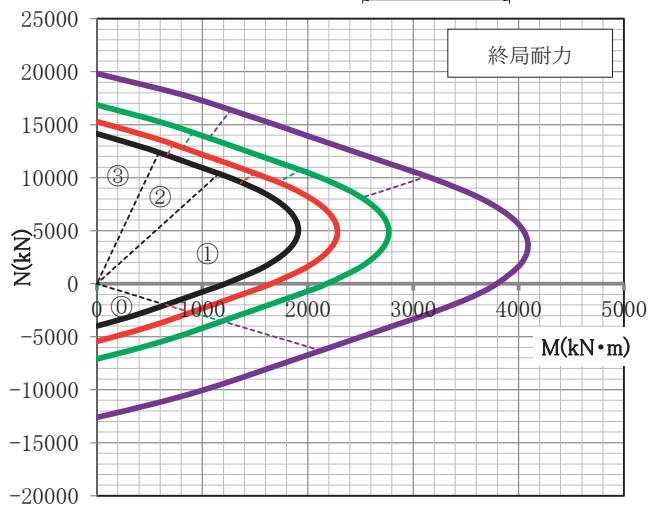
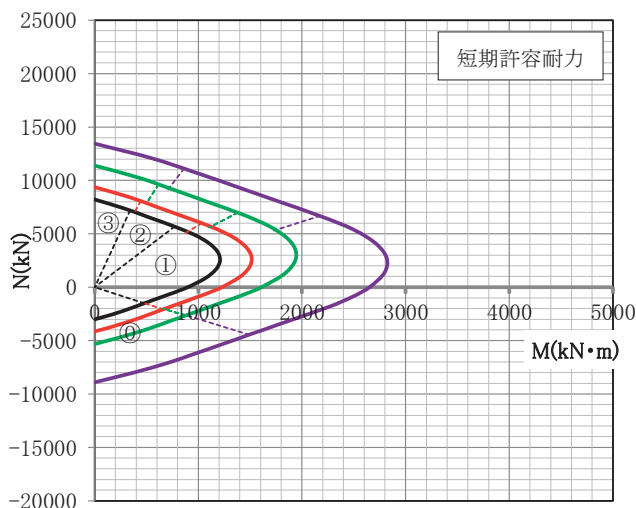
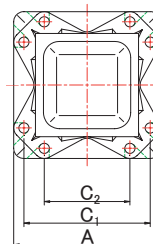
注6)エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7)エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	角形鋼管柱 □550×550 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

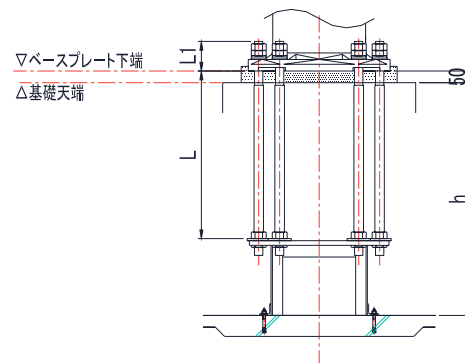
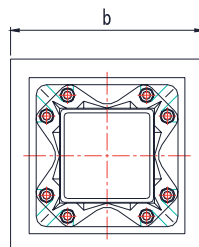
色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB550-8-36	419	139.2	208.8	278.4	760	670	470
赤	GB550-8-42	498	150.5	225.8	301.1	790	680	460
緑	GB550-8-48	580	171.4	257.1	342.9	830	700	450
紫	GB550-8-64	806	203.3	305.0	406.6	900	740	440



基礎柱形設計例

- * I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
① I、IIゾーンの判定
② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB550-8-36	720	109	900 以上
GB550-8-42	840	131	1100 以上
GB550-8-48	960	152	1300 以上
GB550-8-64	1280	207	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-8-36	1000	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	500
GB550-8-42	1000	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
GB550-8-48	1050	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1050	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	820
GB550-8-64	1150	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1100

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりがない場合のみを示す)>

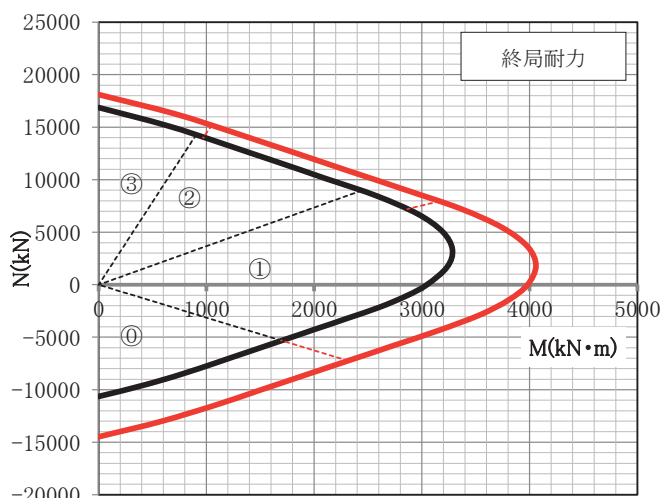
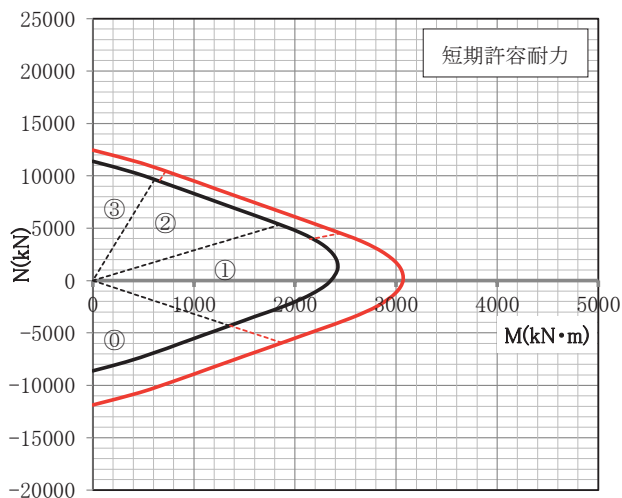
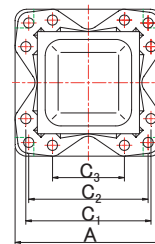
ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-8-36	1000	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	500
GB550-8-42	1000	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1000	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
GB550-8-48	1050	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1050	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	820
GB550-8-64	1150	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1100

- 注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □550×550 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鑄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB550-12-48	817	195.1	292.6	390.2	830	700	660	370
—	GB550-12-56	923	216.0	324.0	432.0	860	720	680	350

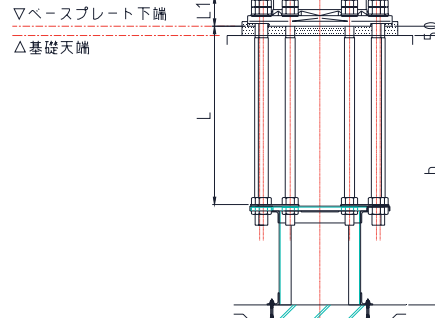
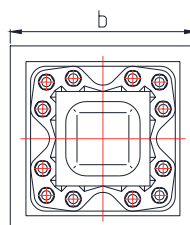


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB550-12-48	960	162	1300 以上
GB550-12-56	1120	192	1450 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-12-48	1050	24-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	760
GB550-12-56	1100	32-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	980

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-12-48	1050	20-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	760
GB550-12-56	1100	24-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	980

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

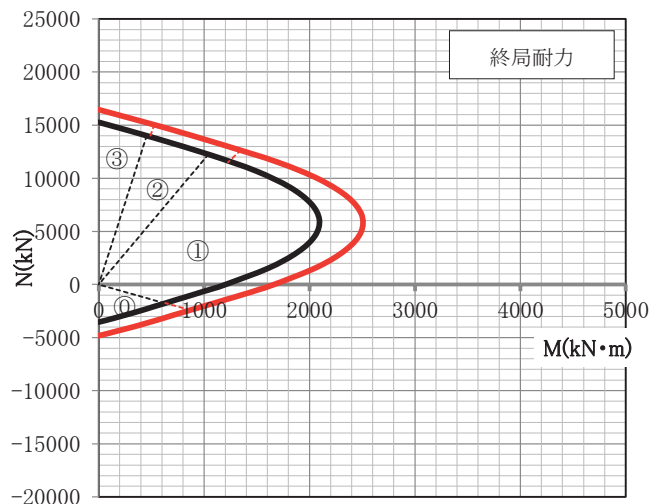
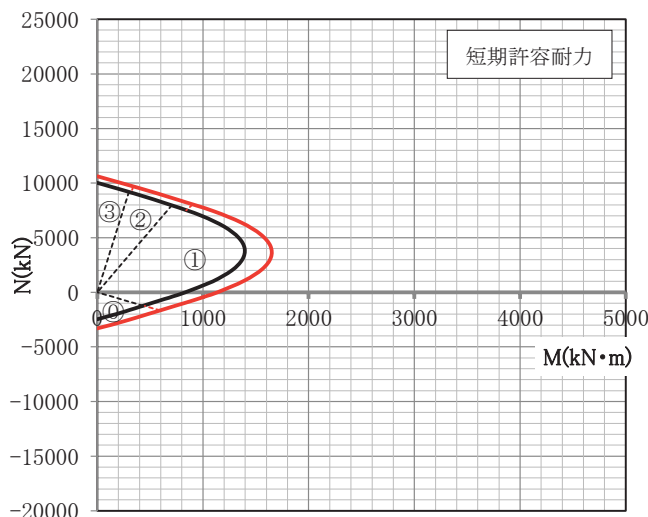
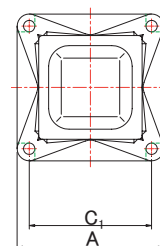
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □550×550 (板厚範囲: 9~40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイペース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)
			長期	短期			
—	GB550-4-48	339	93.7	140.6	187.5	790	660
—	GB550-4-56	408	99.5	149.3	199.0	820	680

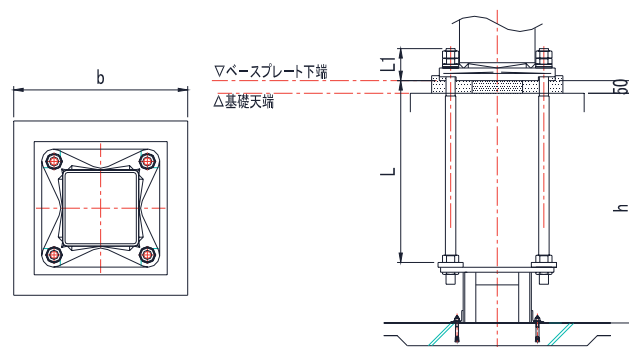


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイペース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
(mm)

ハイペース型式	L	L1	h
GB550-4-48	960	163	1200 以上
GB550-4-56	1120	192	1350 以上



<側・隅柱用>

ハイペース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着 長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-4-48	1000	12-D25(SD345)	D16@150(SD295)	1000	20-D25(SD345)	D16@150(SD295)	460
GB550-4-56	1050	16-D25(SD345)	D16@150(SD295)	1050	28-D25(SD345)	D16@150(SD295)	580

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

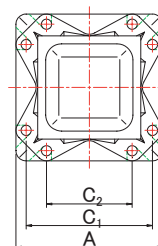
ハイペース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着 長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB550-4-48	1000	12-D25(SD345)	D16@150(SD295)	1000	20-D25(SD345)	D16@150(SD295)	460
GB550-4-56	1050	16-D25(SD345)	D16@150(SD295)	1050	28-D25(SD345)	D16@150(SD295)	580

- 注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれよりも小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。
- 注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

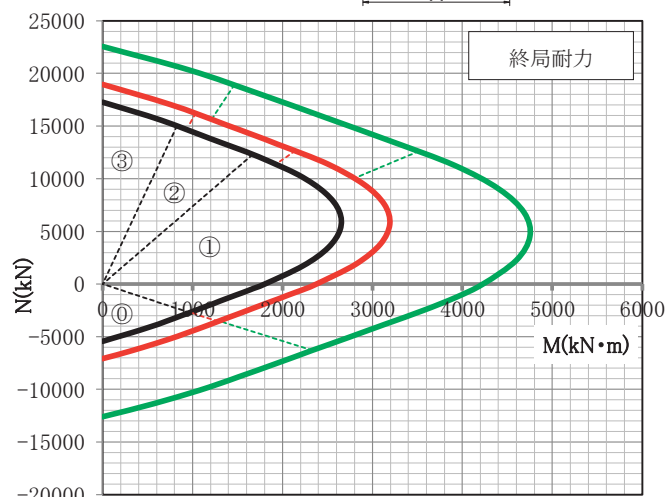
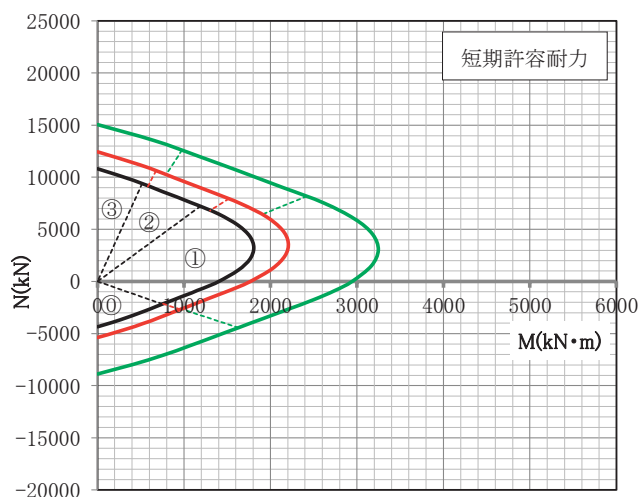
適用柱	角形鋼管柱 □600×600 (板厚範囲: 9~40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
	GB600-8-42	598	158.2	237.3	316.4	840	730	510
	GB600-8-48	682	184.5	276.8	369.1	880	750	500
	GB600-8-64	987	219.7	329.6	439.4	960	800	500



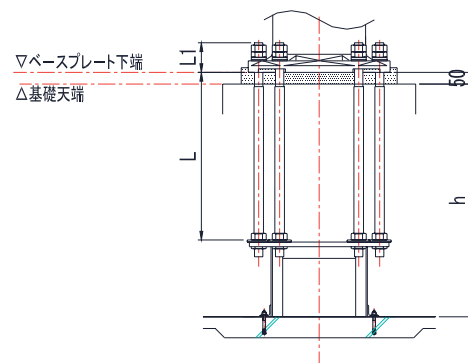
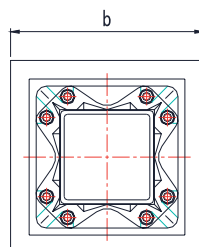
角形鋼管柱用



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- I、II ゾーンの判定
 - コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	Lt	h
GB600-8-42	840	130	1100 以上
GB600-8-48	960	150	1300 以上
GB600-8-64	1280	206	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB600-8-42	1050	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1050	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	630
GB600-8-48	1100	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1100	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	810
GB600-8-64	1200	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1090

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばり4方向から取り付く場合のみを示す)>

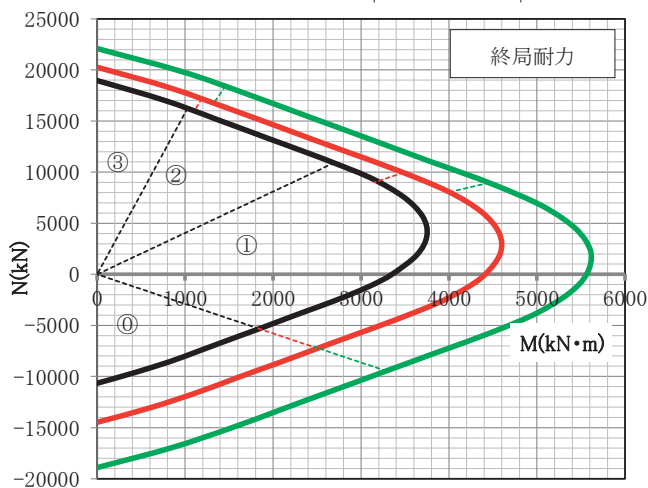
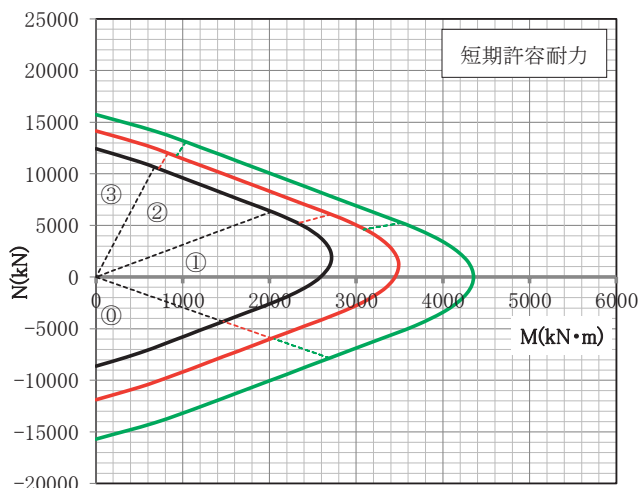
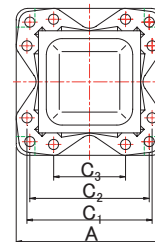
ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB600-8-42	1050	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1050	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	630
GB600-8-48	1100	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1100	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	810
GB600-8-64	1200	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1090

- 注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。
- 注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □600×600 (板厚範囲:9~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鑄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
	GB600-12-48	953	209.6	314.4	419.2	880	750	710	420
	GB600-12-56	1140	226.1	339.2	452.3	910	770	730	400
	GB600-12-64	1240	251.9	377.9	503.8	950	790	740	370

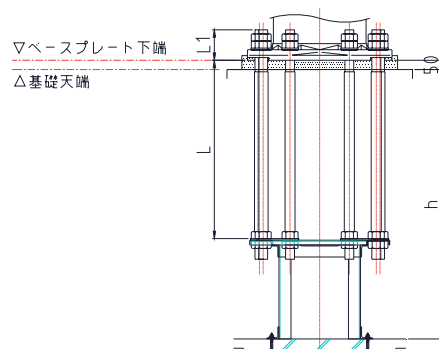
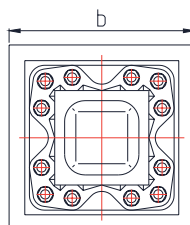


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	Lt	h
GB600-12-48	960	159	1300 以上
GB600-12-56	1120	189	1450 以上
GB600-12-64	1280	222	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長 Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB600-12-48	1100	24-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	760
GB600-12-56	1150	32-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	980
GB600-12-64	1150	44-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	■-D16@80(SD295)	1130

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばり4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長 Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB600-12-48	1100	20-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1100	40-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	760
GB600-12-56	1150	28-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	980
GB600-12-64	1150	32-D29(SD390)	■-D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	■-D16@80(SD295)	1130

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2)<中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

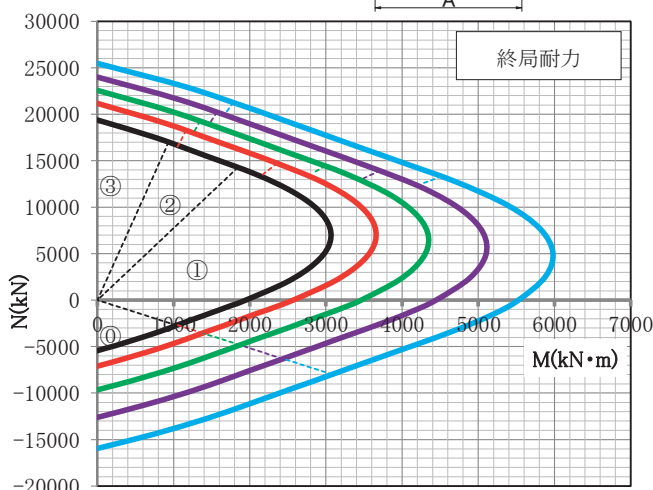
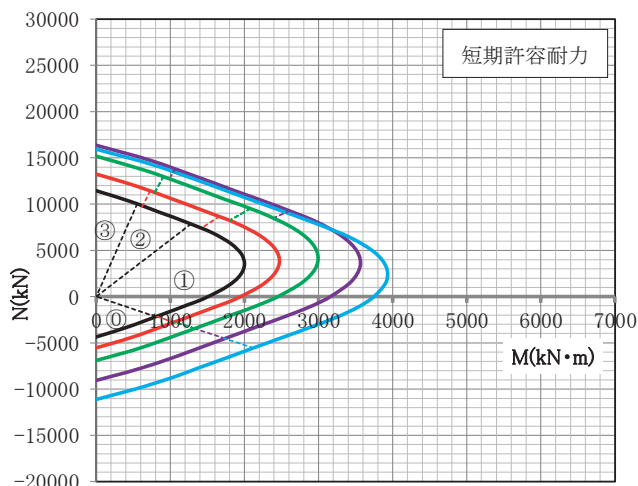
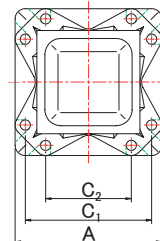
注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □650×650 (板厚範囲:12~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB650-8-42	680	165.8	248.7	331.6	890	780	560
赤	GB650-8-48	782	193.0	289.5	386.0	930	800	550
緑	GB650-8-56	939	206.4	309.6	412.8	960	820	540
紫	GB650-8-64	1080	225.4	338.1	450.8	990	830	530
青	GB650-8-72	1220	250.6	375.9	501.2	1020	850	520

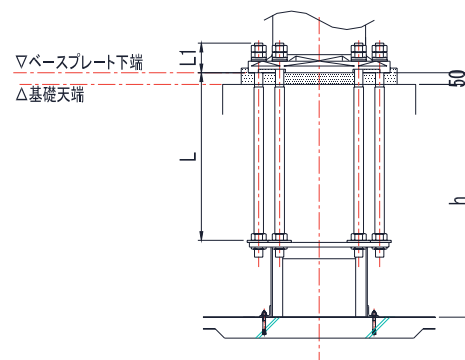
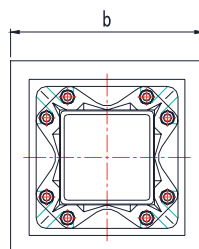


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーン の 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、II ゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB650-8-42	840	129	1100 以上
GB650-8-48	960	149	1300 以上
GB650-8-56	1120	174	1450 以上
GB650-8-64	1280	200	1600 以上
GB650-8-72	1440	227	1800 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB650-8-42	1100	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1100	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	620
GB650-8-48	1150	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1150	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	790
GB650-8-56	1200	28-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1200	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	940
GB650-8-64	1200	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1090
GB650-8-72	1300	40-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	60-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1270

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB650-8-42	1100	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1100	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	620
GB650-8-48	1150	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1150	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	790
GB650-8-56	1200	24-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1200	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	940
GB650-8-64	1200	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1090
GB650-8-72	1300	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	60-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1270

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

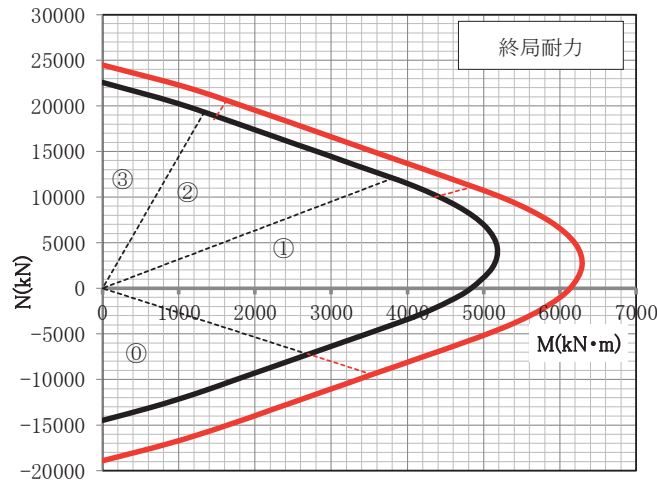
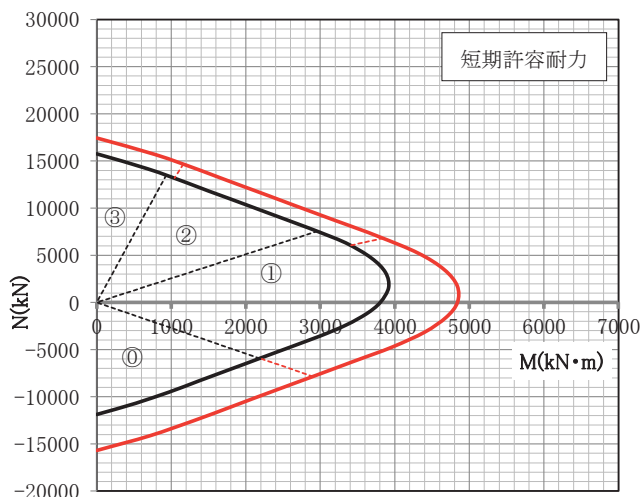
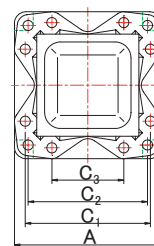
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □650×650 (板厚範囲: 12~40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB650-12-56	1320	236.3	354.5	472.7	960	820	780	450
—	GB650-12-64	1460	268.6	402.9	537.2	1000	840	790	420

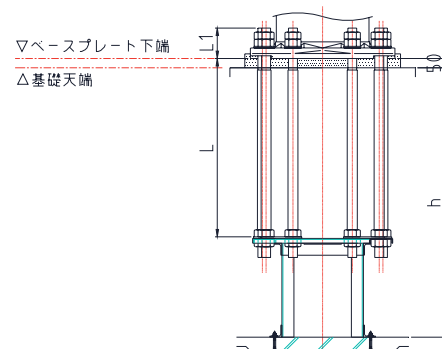
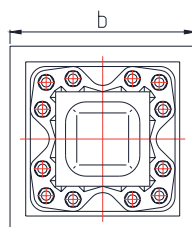


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	Lt	h
GB650-12-56	1120	187	1450 以上
GB650-12-64	1280	219	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB650-12-56	1200	36-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	990
GB650-12-64	1200	44-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	—D16@80(SD295)	1130

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりがある場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB650-12-56	1200	28-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	990
GB650-12-64	1200	36-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	—D16@80(SD295)	1130

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

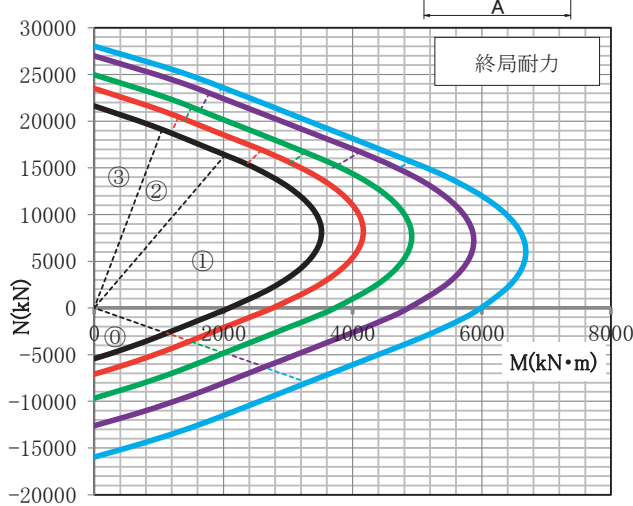
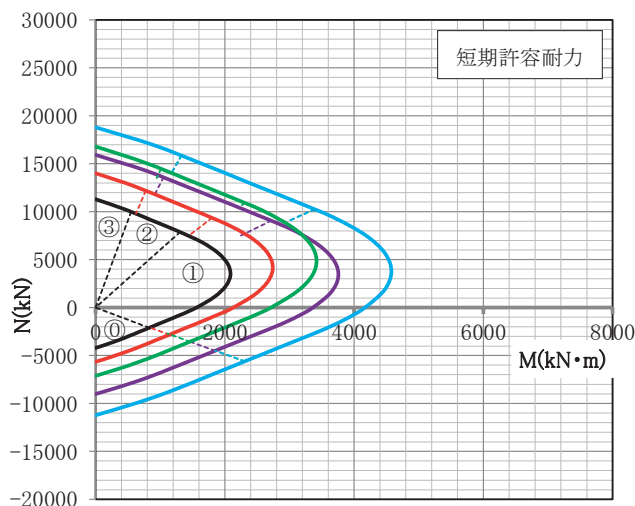
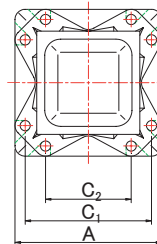
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □700×700 (板厚範囲:12~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

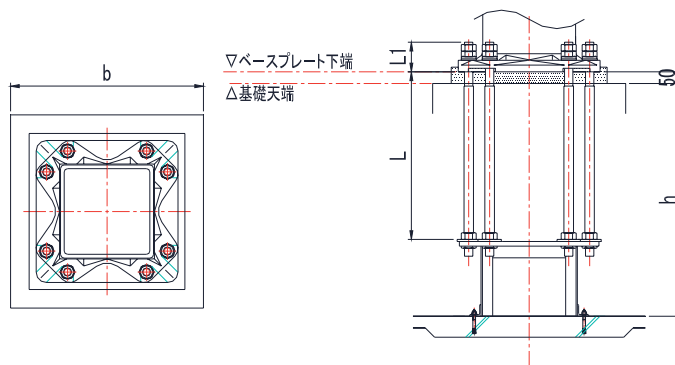
色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{ kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GB700-8-42	782	173.4	260.1	346.8	940	830	610
赤	GB700-8-48	899	201.5	302.2	403.0	980	850	600
緑	GB700-8-56	1070	220.5	330.8	441.1	1010	870	590
紫	GB700-8-64	1280	242.2	363.4	484.5	1050	890	590
青	GB700-8-72	1430	266.5	399.8	533.1	1070	900	570



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- ① I、II ゾーンの判定
 - ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	Lt	h
GB700-8-42	840	127	1100 以上
GB700-8-48	960	148	1300 以上
GB700-8-56	1120	173	1450 以上
GB700-8-64	1280	200	1600 以上
GB700-8-72	1440	225	1800 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB700-8-42	1150	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1150	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	610
GB700-8-48	1200	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1200	28-D29(SD390)	D13@100(SD295)	790
GB700-8-56	1250	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1250	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	920
GB700-8-64	1300	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1300	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1070
GB700-8-72	1350	40-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	60-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1270

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

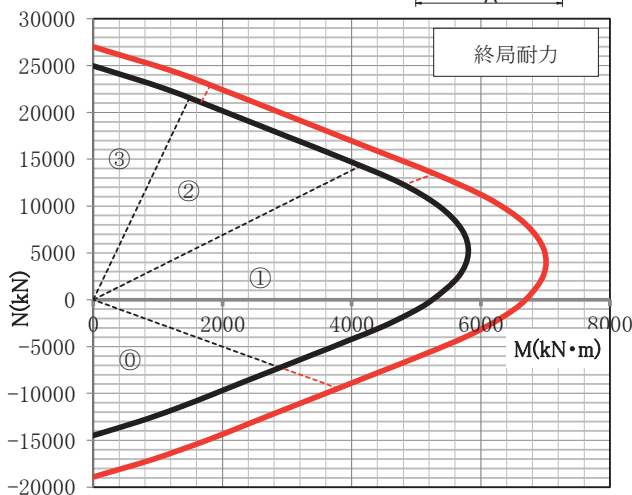
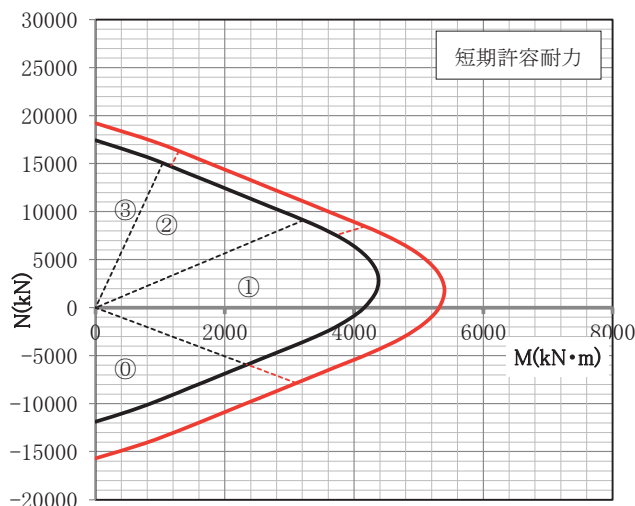
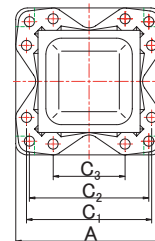
ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB700-8-42	1150	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	1150	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	610
GB700-8-48	1200	20-D29(SD390)	D13@100(SD295)	1200	28-D29(SD390)	D13@100(SD295)	790
GB700-8-56	1250	24-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1250	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	920
GB700-8-64	1300	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1300	48-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1070
GB700-8-72	1350	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	60-D29(SD390)	D16@75(SD295)	1270

- 注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規程・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。
- 注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □700×700 (板厚範囲: 12~40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

耐力図

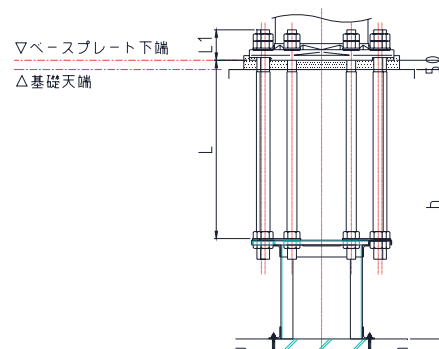
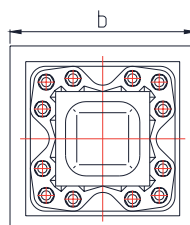
色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB700-12-56	1490	252.1	378.1	504.2	1010	870	830	500
—	GB700-12-64	1710	285.6	428.5	571.3	1050	890	840	470



基礎柱形設計例

- * I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。
- I、II ゾーンの判定
 - コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB700-12-56	1120	185	1450 以上
GB700-12-64	1280	216	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB700-12-56	1250	36-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	990
GB700-12-64	1300	44-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	—D16@80(SD295)	1130

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

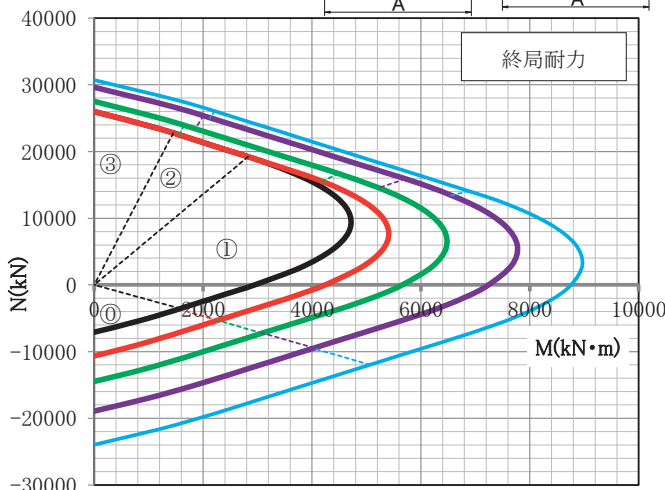
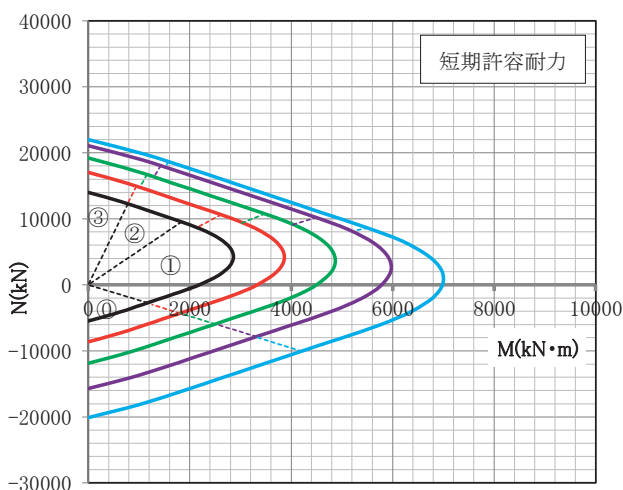
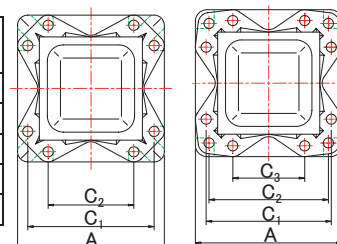
ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB700-12-56	1250	28-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	990
GB700-12-64	1300	36-D29(SD390)	—D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	—D16@80(SD295)	1130

- 注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
- 注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
- 注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。
- 注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
- 注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □750×750 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ、12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
黒	GB750-8-48	1010	209.9	314.9	419.9	1030	900	650	-
赤	GB750-12-48	1460	238.4	357.6	476.8	1030	900	860	570
緑	GB750-12-56	1700	268.1	402.2	536.3	1060	920	880	550
紫	GB750-12-64	1980	353.5	530.3	707.1	1100	940	890	520
青	GB750-12-72	2110	434.8	652.2	869.6	1120	950	900	490

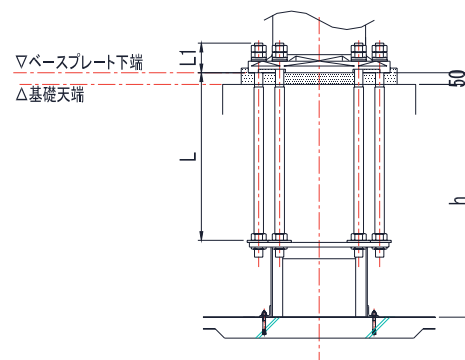
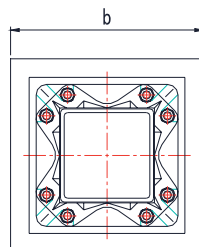


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。
I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、II ゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB750-8-48	960	146	1300 以上
GB750-12-48	960	154	1300 以上
GB750-12-56	1120	183	1450 以上
GB750-12-64	1280	214	1600 以上
GB750-12-72	1440	242	1800 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB750-8-48	1250	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1250	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	760
GB750-12-48	1250	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1250	40-D29(SD390)	D16@100(SD295)	760
GB750-12-56	1300	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	990
GB750-12-64	1400	44-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1130
GB750-12-72	1500	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	2400	88-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1260

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB750-8-48	1250	20-D29(SD390)	D16@150(SD295)	1250	28-D29(SD390)	D16@150(SD295)	760
GB750-12-48	1250	20-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1250	40-D29(SD390)	D16@100(SD295)	760
GB750-12-56	1300	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	990
GB750-12-64	1400	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1130
GB750-12-72	1500	48-D29(SD390)	D16@100(SD295)	2400	88-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1260

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

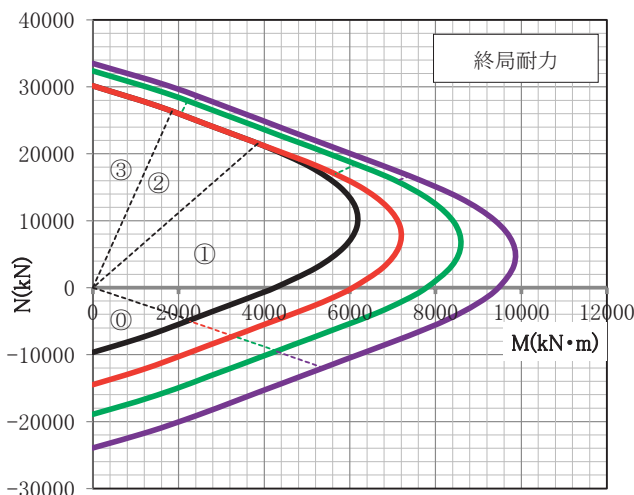
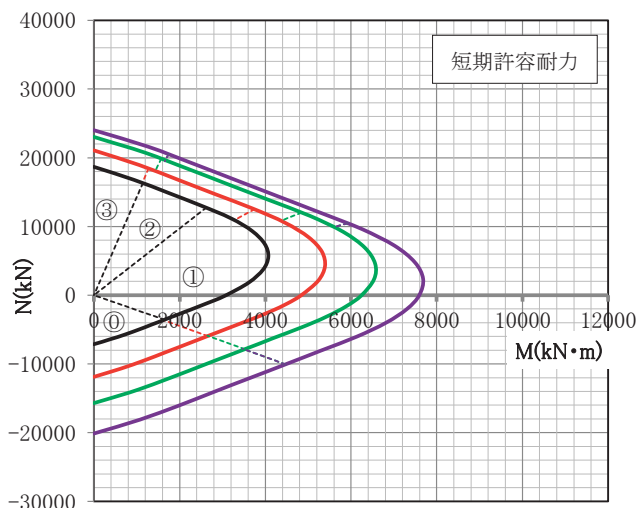
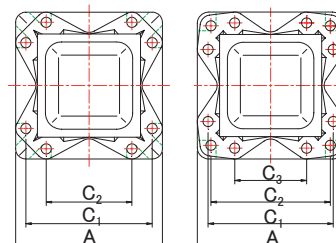
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	角形鋼管柱 □800×800 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ、12 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
黒	GB800-8-56	1380	249.9	374.9	499.9	1110	970	690	-
赤	GB800-12-56	1930	284.6	426.9	569.2	1110	970	930	600
緑	GB800-12-64	2210	400.3	600.5	800.7	1150	990	940	570
紫	GB800-12-72	2410	486.7	730.1	973.5	1170	1000	950	540

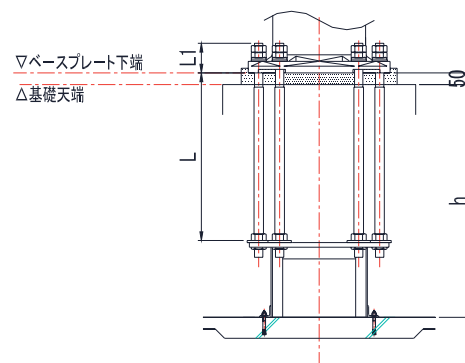
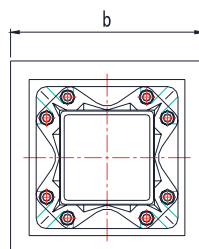


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。
I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① I、IIゾーンの判定
- ② コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GB800-8-56	1120	170	1450 以上
GB800-12-56	1120	181	1450 以上
GB800-12-64	1280	212	1600 以上
GB800-12-72	1440	239	1800 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB800-8-56	1350	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1350	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	900
GB800-12-56	1350	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	990
GB800-12-64	1500	44-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1130
GB800-12-72	1600	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	2400	88-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1260

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GB800-8-56	1350	24-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1350	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	900
GB800-12-56	1350	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1500	56-D29(SD390)	D16@100(SD295)	990
GB800-12-64	1500	36-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1800	72-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1130
GB800-12-72	1600	48-D29(SD390)	D16@100(SD295)	2400	88-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1260

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。
注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。
注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

耐力図 <G タイプ(□850×850 用)>

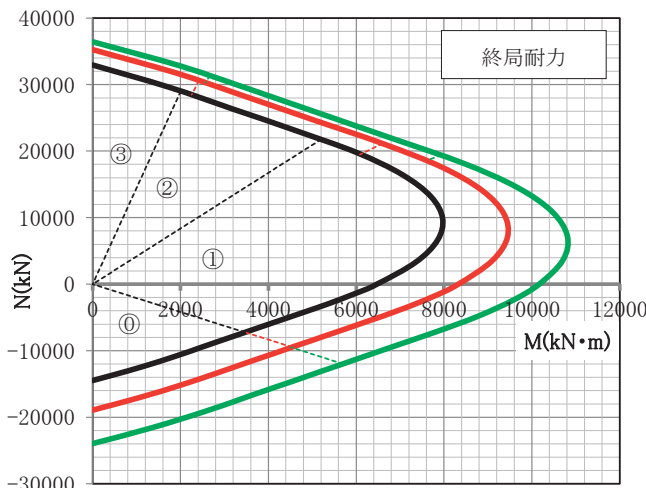
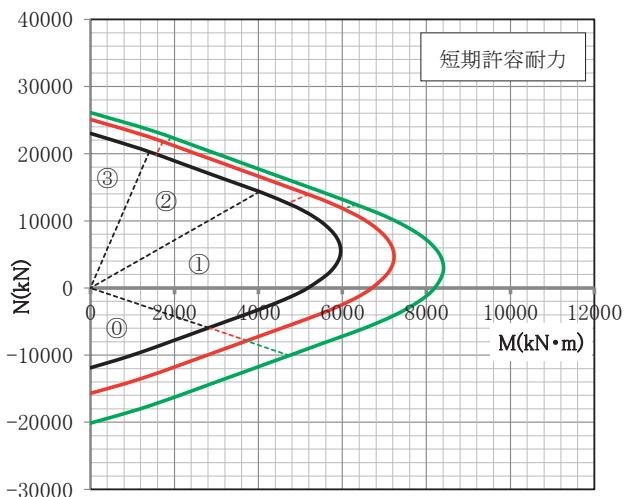
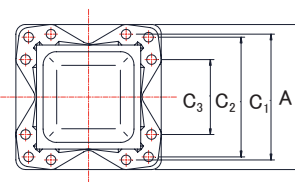
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □850×850 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB850-12-56	2160	301.3	452.0	602.7	1160	1020	980	650
—	GB850-12-64	2480	413.7	620.5	827.4	1200	1040	990	620
—	GB850-12-72	2740	582.6	873.9	1165.2	1220	1050	1000	590



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

角形鋼管柱用

耐力図 <G タイプ(□900×900 用)>

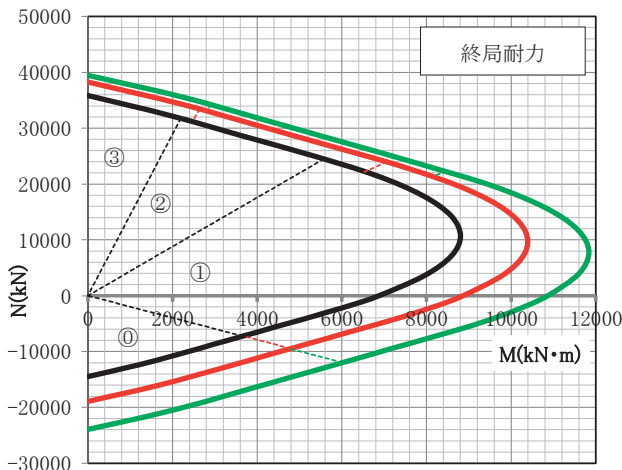
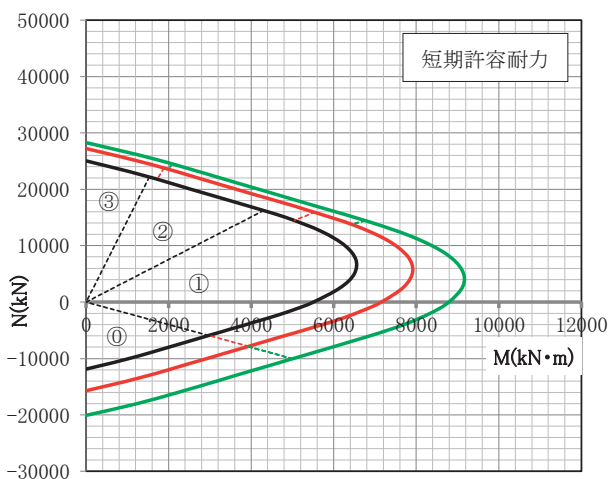
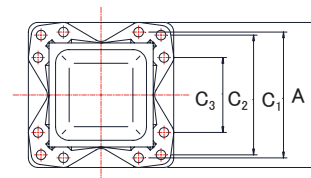
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □900×900 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB900-12-56	2430	318.4	477.7	636.9	1210	1070	1030	700
—	GB900-12-64	2770	502.5	753.8	1005.1	1250	1090	1040	670
—	GB900-12-72	3100	599.2	898.9	1198.5	1270	1100	1050	640



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(□950×950 用)>

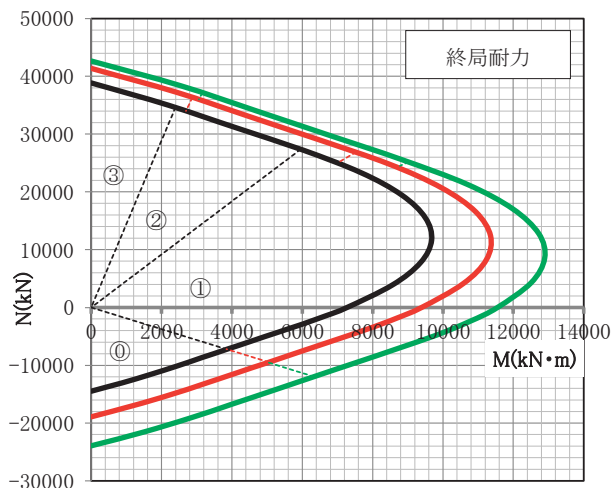
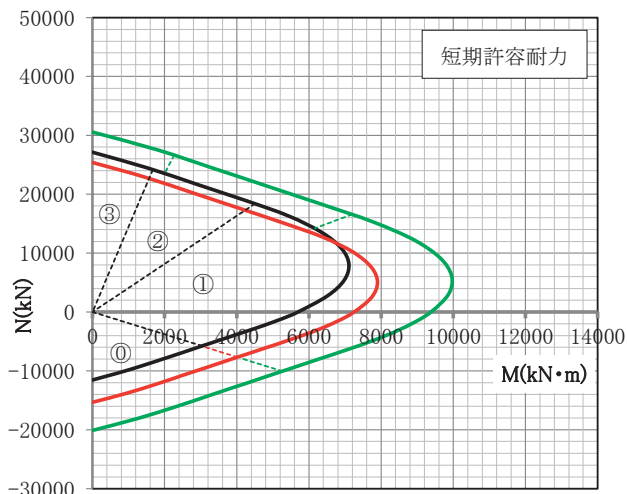
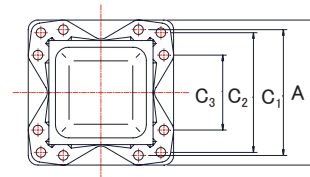
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □950×950 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB950-12-56	2700	335.9	503.8	671.8	1260	1120	1080	750
—	GB950-12-64	3000	557.9	836.9	1115.9	1300	1140	1090	720
—	GB950-12-72	3430	615.9	923.8	1231.8	1320	1150	1100	690



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(□1000×1000 用)>

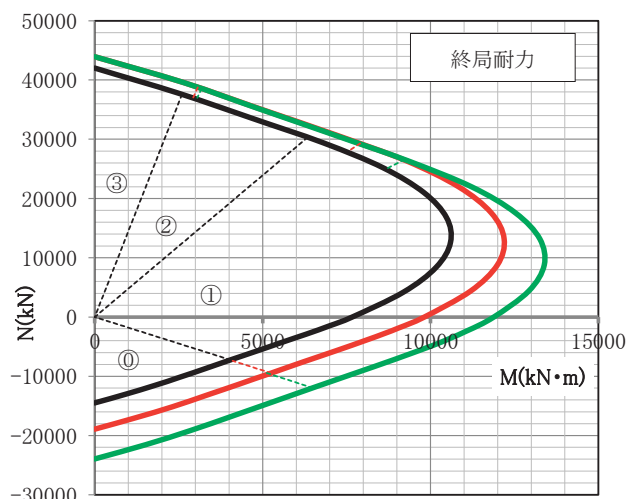
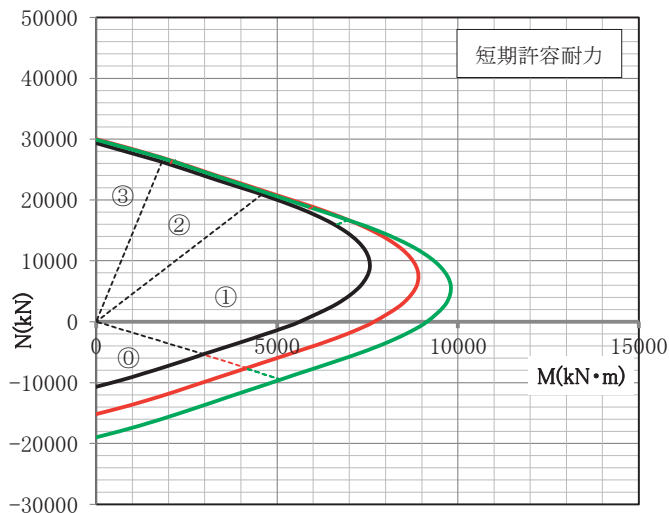
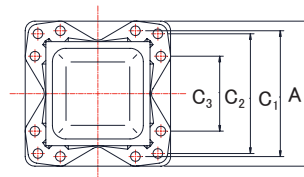
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □1000×1000 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鉄鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB1000-12-56	3020	353.7	530.5	707.4	1310	1170	1130	800
—	GB1000-12-64	3390	537.2	805.9	1074.5	1340	1180	1130	760
—	GB1000-12-72	3770	688.3	1032.5	1376.7	1340	1180	1130	720



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(□1050×1050 用)>

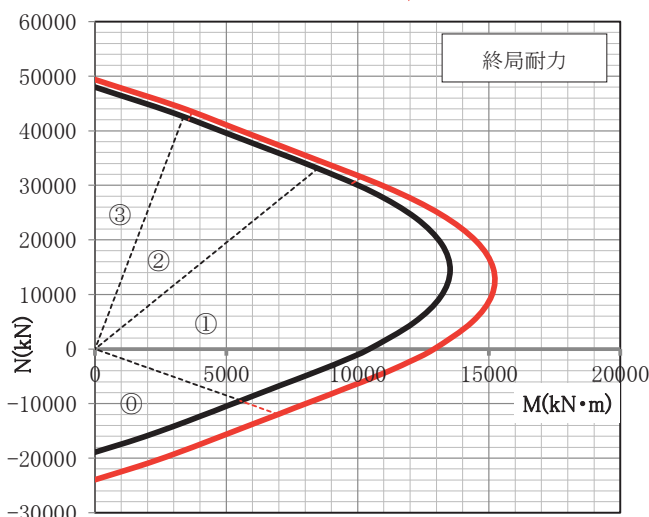
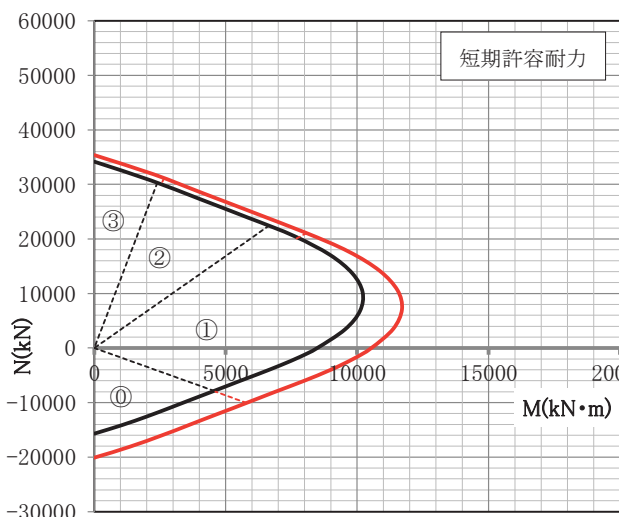
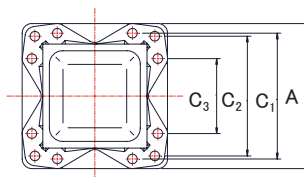
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □1050×1050 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB1050-12-64	3730	546.9	820.3	1093.8	1400	1240	1190	820
—	GB1050-12-72	4120	694.5	1041.8	1389.1	1420	1250	1200	790



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

角形鋼管柱用

耐力図 <G タイプ(□1100×1100 用)>

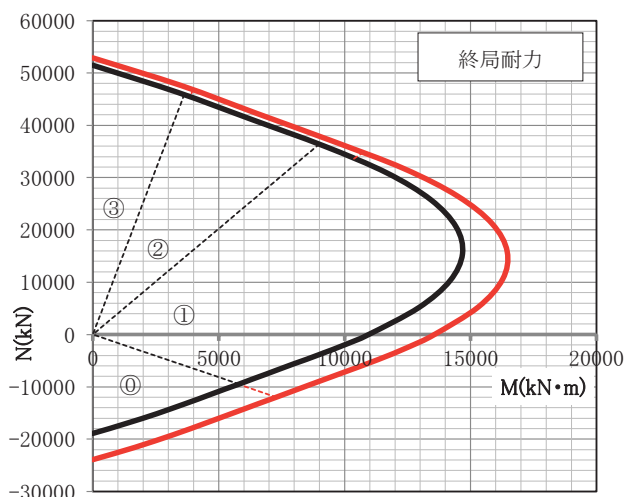
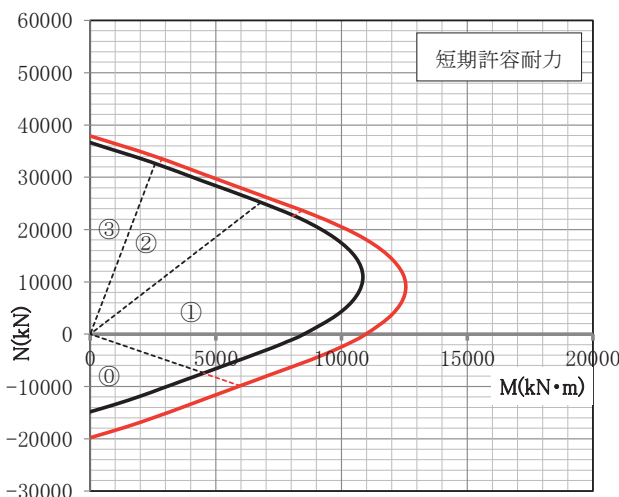
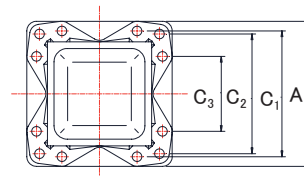
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □1100×1100 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB1100-12-64	4110	520.3	780.5	1040.7	1450	1290	1240	870
—	GB1100-12-72	4550	759.4	1139.1	1518.8	1470	1300	1250	840



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(□1150×1150 用)>

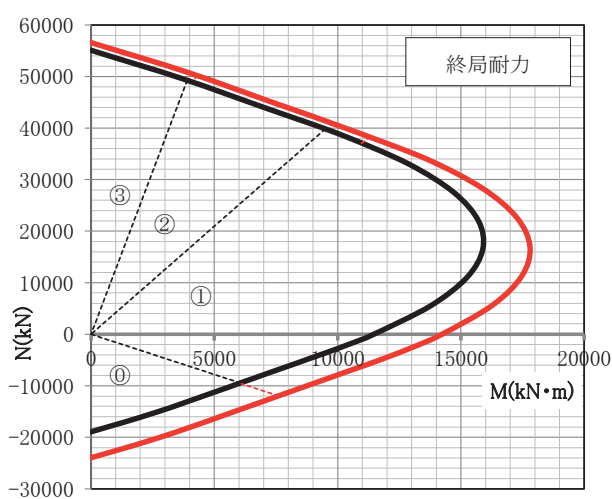
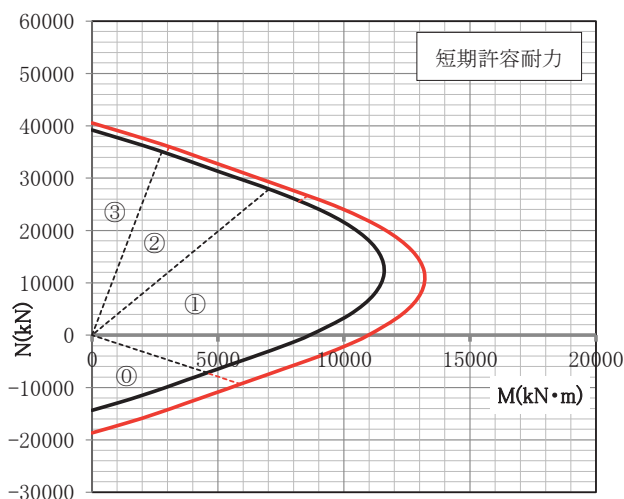
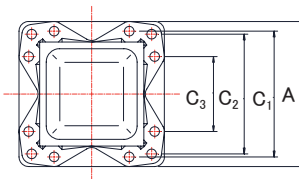
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □1150×1150 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB1150-12-64	4490	619.9	929.9	1239.8	1500	1340	1290	920
—	GB1150-12-72	5000	827.1	1240.7	1654.3	1520	1350	1300	890



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(□1200×1200 用)>

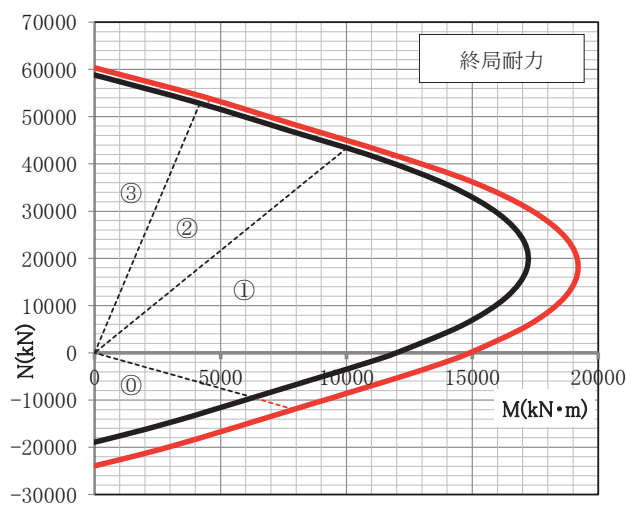
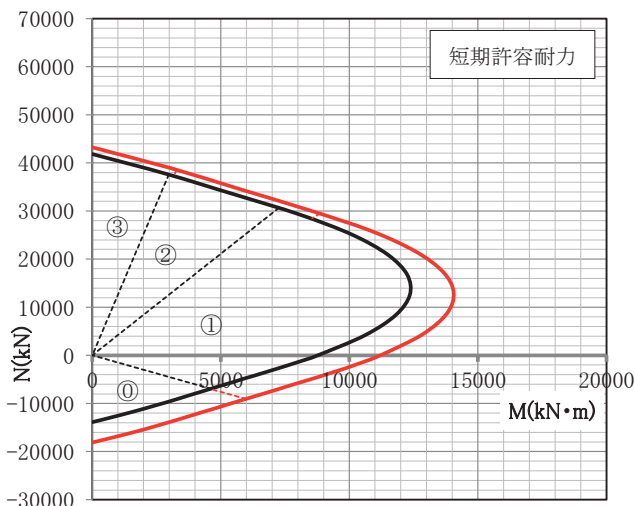
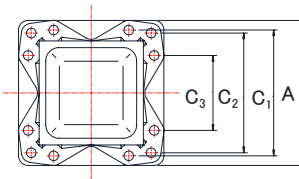
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	角形鋼管柱 □1200×1200 (板厚範囲:16~40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 12 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)	C ₃ (mm)
			長期	短期					
—	GB1200-12-64	4910	681.0	1021.6	1362.1	1550	1390	1340	970
—	GB1200-12-72	5480	897.7	1346.6	1795.5	1570	1400	1350	940



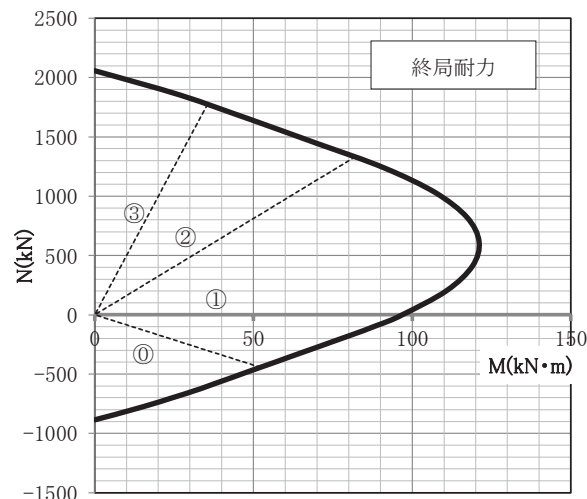
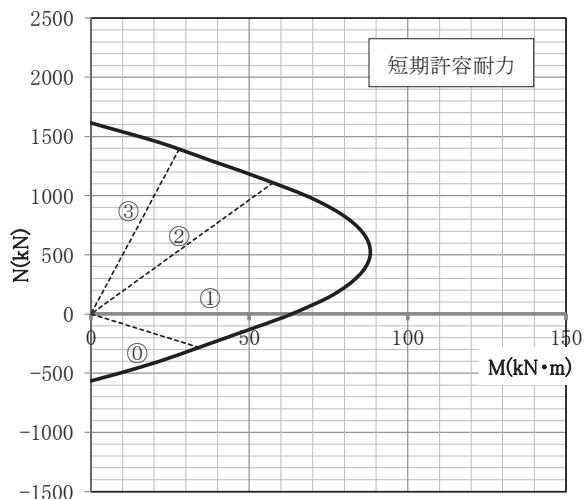
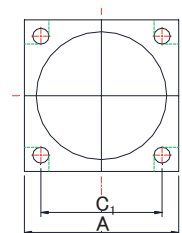
基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

適用柱	円形鋼管柱 φ190.7 (最大板厚:8.2mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C _i (mm)
			長期	短期			

—	EM190-4-24	13.8	70.8	120.8	170.9	290	210
---	------------	------	------	-------	-------	-----	-----



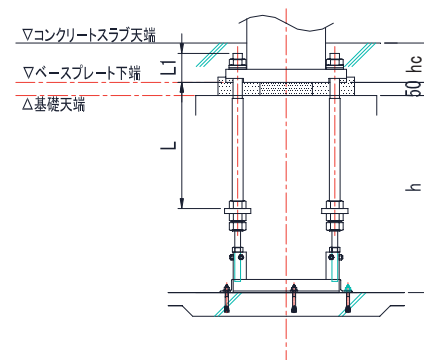
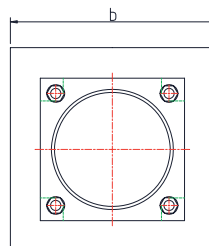
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
- ② I、II ゾーンの評定

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM190-4-24	400	87	600 以上	130



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM190-4-24	500	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	500	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	210

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

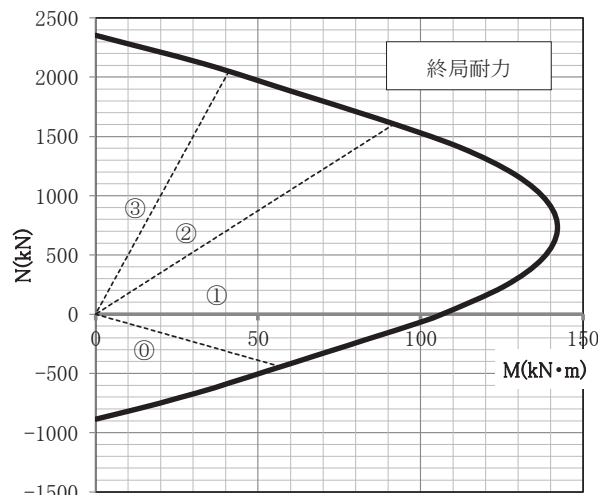
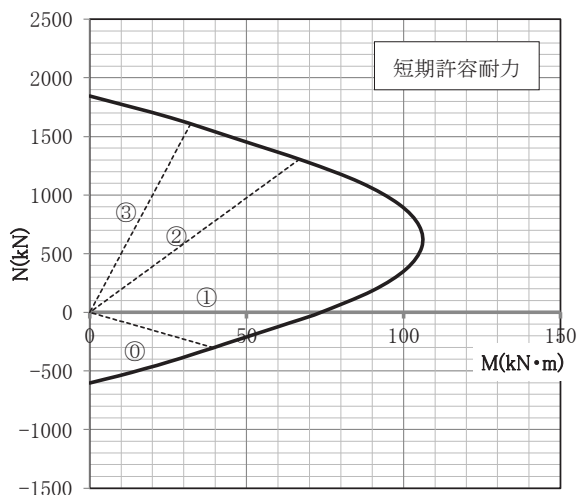
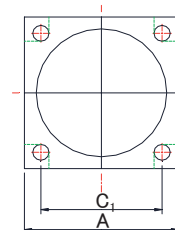
注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ216.3 (最大板厚:12.7mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{ kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C _i (mm)
			長期	短期			

—	EM216-4-24	19.9	71.9	122.3	172.6	310	230
---	------------	------	------	-------	-------	-----	-----



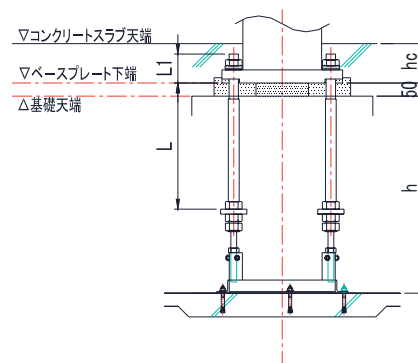
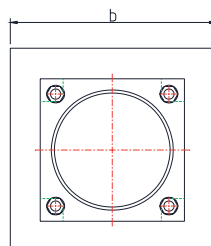
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
- ② I、II ゾーンの評定

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM216-4-24	400	87	600 以上	130



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM216-4-24	520	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	520	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	200

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

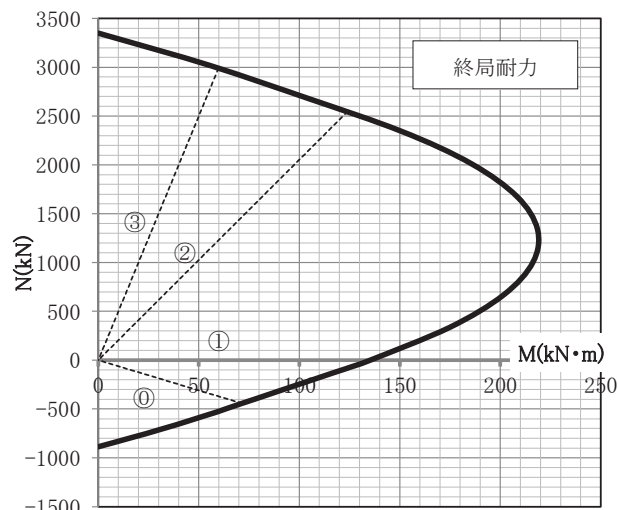
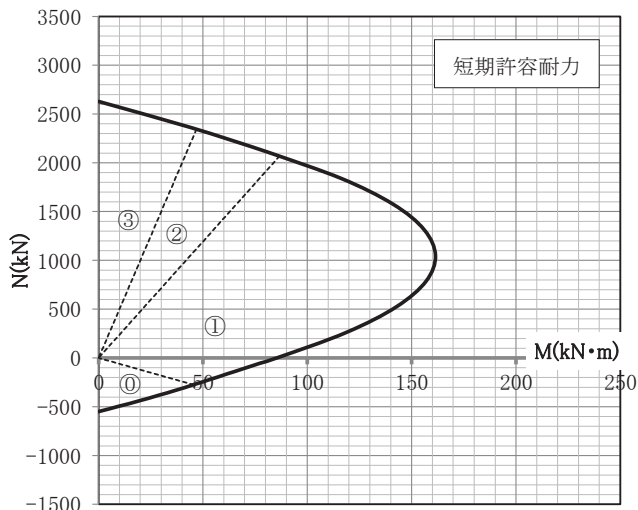
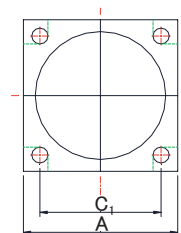
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ267.4 (最大板厚:16mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C _i (mm)
			長期	短期			
—	EM250-4-24	28.4	74.4	125.9	177.4	370	290



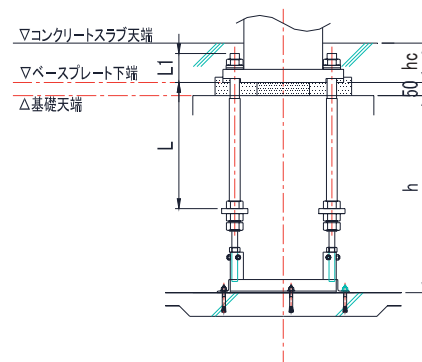
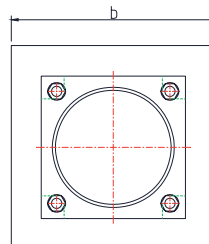
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
- ② I、II ゾーンの評定

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM250-4-24	400	87	600 以上	130



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM250-4-24	570	8-D16(SD295)	D13@150(SD295)	570	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	190

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

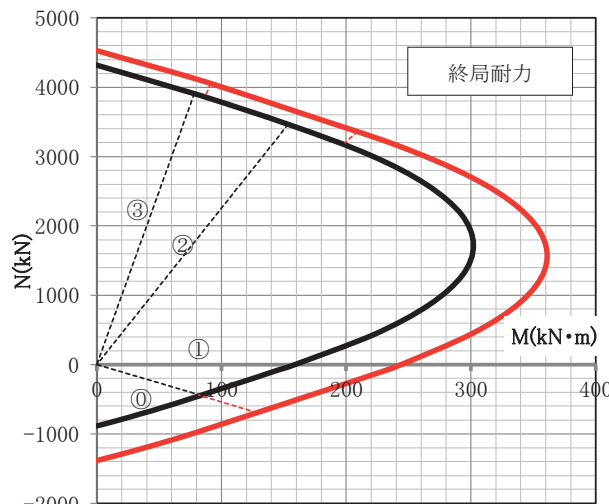
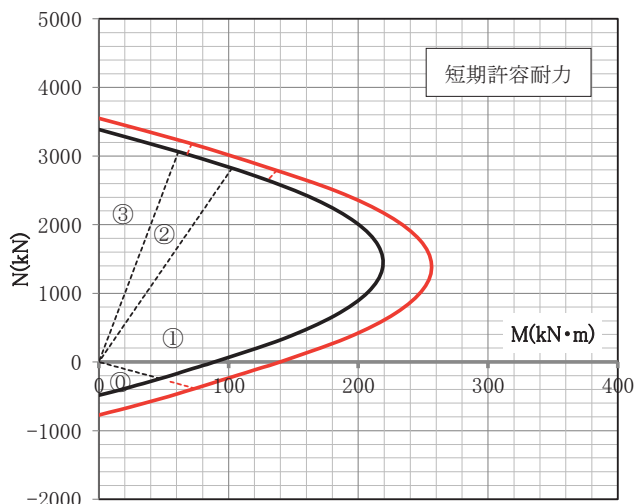
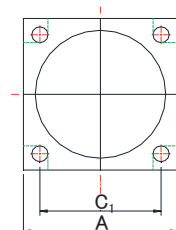
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ300,φ318.5 (最大板厚:16mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C _i (mm)
			長期	短期			
—	EM300-4-24	38.3	78.3	131.7	185.1	420	340
—	EM300-4-30	61.0	81.4	138.0	194.6	430	340



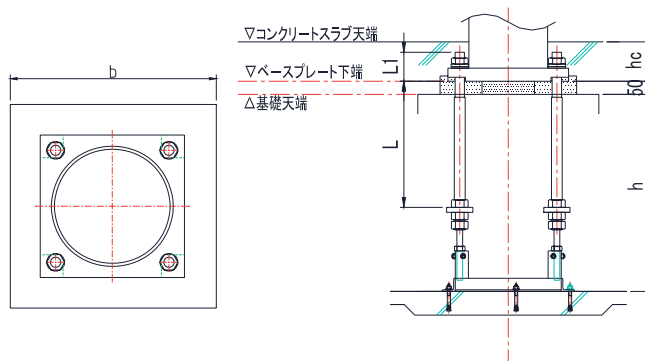
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
- ② I、II ゾーンの評定

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM300-4-24	400	87	600 以上	130
EM300-4-30	400	110	600 以上	150



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM300-4-24	620	8-D19(SD345)	D13@150(SD295)	620	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	190
EM300-4-30	620	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	620	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	280

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

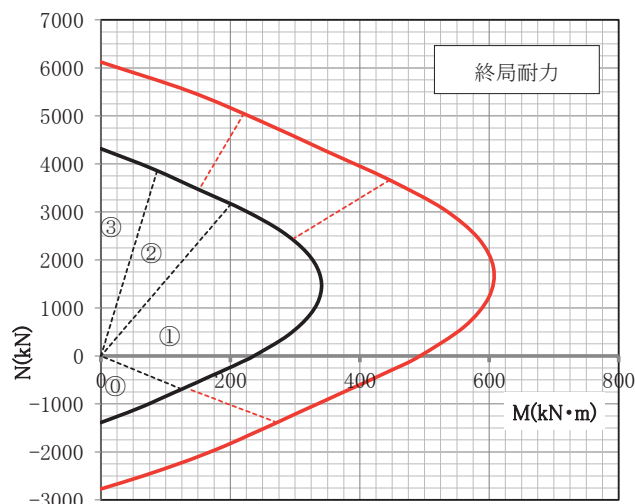
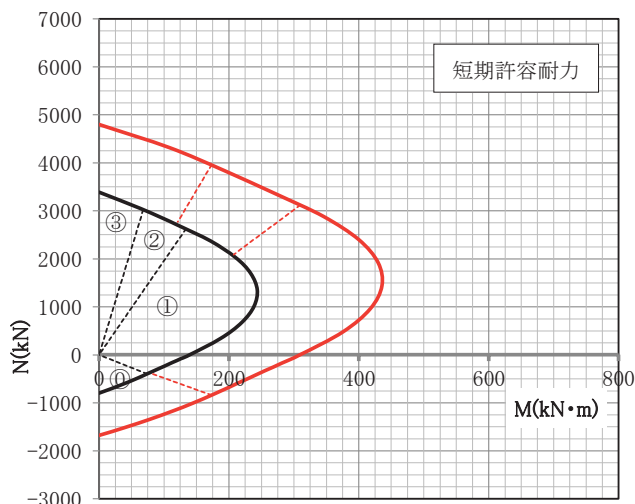
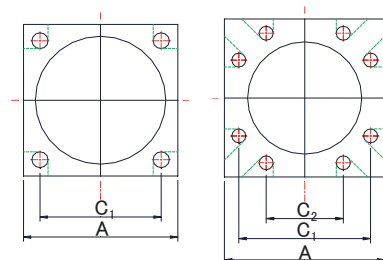
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ350,φ355.6 (最大板厚:19mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト4本タイプ、8本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	EM350-4-30	65.1	79.3	132.9	186.4	420	330	—
—	EM350-8-30	86.3	128.5	210.9	293.3	500	410	240



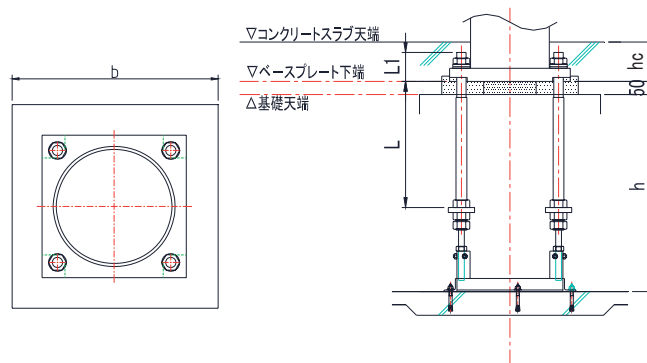
基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。I、IIゾーンの分け方についてはP.43をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- ① コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合
- ② I、IIゾーンの判定

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM350-4-30	400	102	600 以上	150
EM350-8-30	600	110	800 以上	150



<側・隅・中柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM350-4-30	620	12-D19(SD345)	D13@150(SD295)	620	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	280
EM350-8-30	700	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	700	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	490

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注3) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注4) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

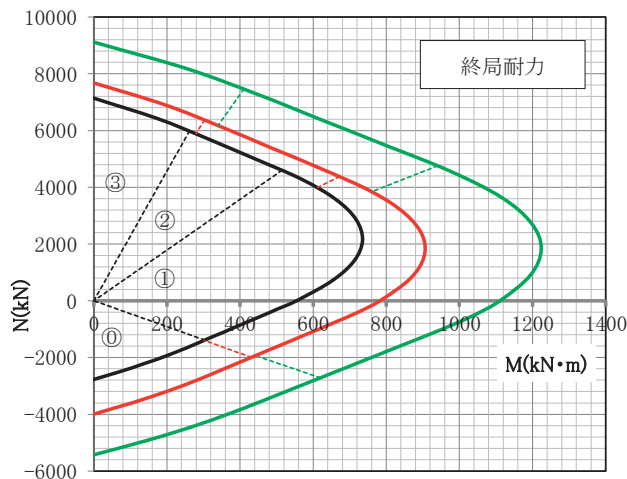
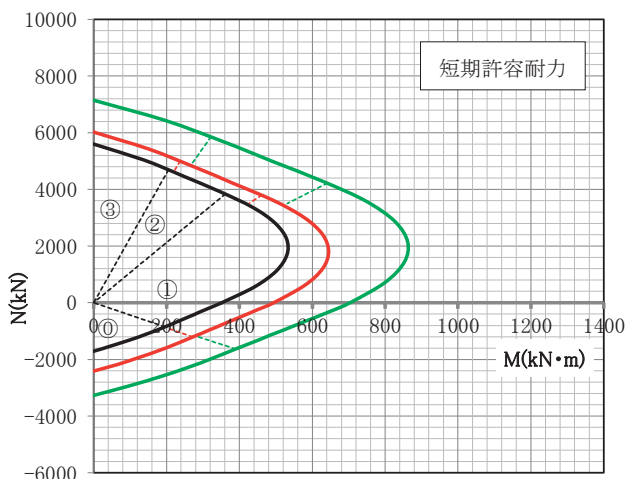
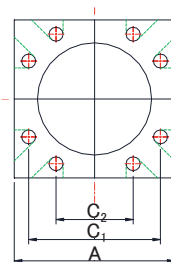
注5) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注6) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ400,φ406.4 (最大板厚:22mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	EM400-8-30	119	132.7	216.6	300.4	540	450	280
赤	EM400-8-36	148	152.4	249.7	346.9	560	470	270
緑	EM400-8-42	194	174.0	286.5	398.9	610	500	280



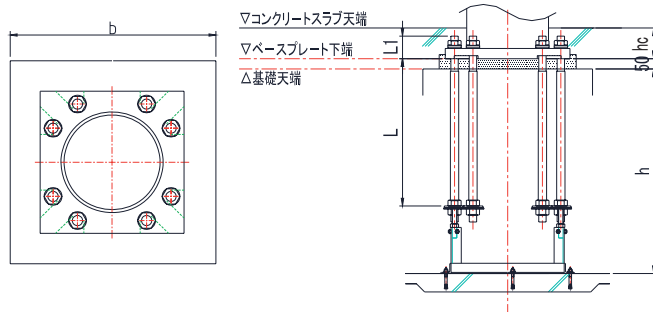
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM400-8-30	600	110	800 以上	150
EM400-8-36	720	125	900 以上	170
EM400-8-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM400-8-30	740	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	740	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	470
EM400-8-36	770	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	800	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	550
EM400-8-42	810	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	700

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM400-8-30	740	12-D22(SD345)	D13@150(SD295)	740	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	470
EM400-8-36	770	12-D25(SD345)	D13@150(SD295)	800	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	550
EM400-8-42	810	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	700

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D10@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

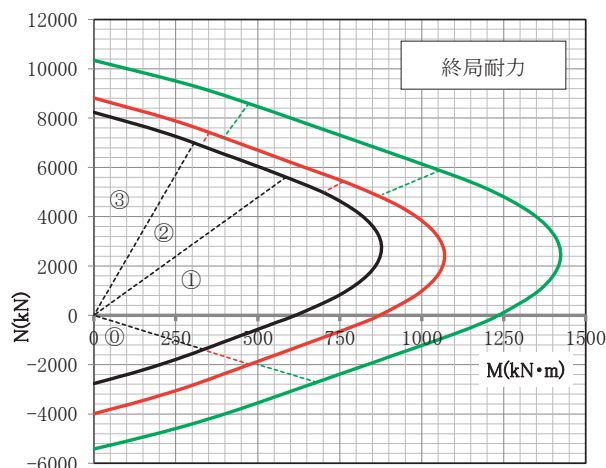
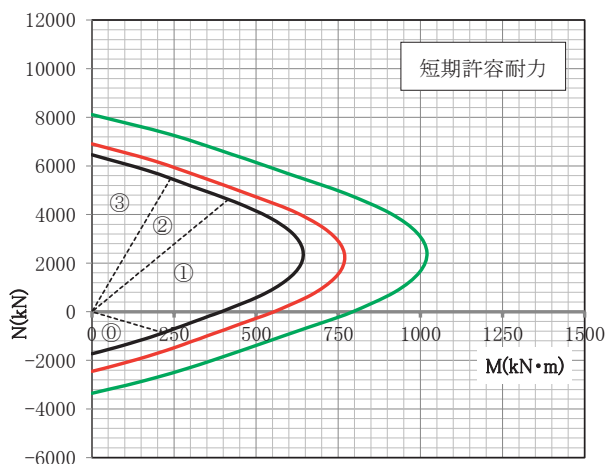
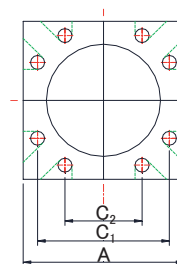
注6) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ450,φ457.2 (最大板厚:22mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{ kN} \cdot \text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	EM450-8-30	146	136.8	222.2	307.6	580	490	320
赤	EM450-8-36	182	156.9	255.8	354.7	600	510	310
緑	EM450-8-42	249	178.7	292.9	407.0	650	540	320

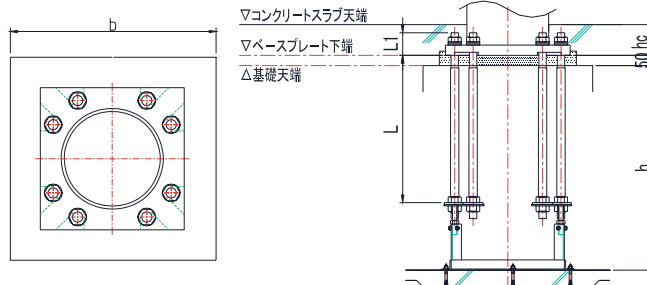


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM450-8-30	600	110	800 以上	150
EM450-8-36	720	125	900 以上	170
EM450-8-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM450-8-30	780	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	780	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	450
EM450-8-36	810	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	810	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	550
EM450-8-42	850	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	700

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM450-8-30	780	12-D22(SD345)	D13@150(SD295)	780	20-D22(SD345)	D13@150(SD295)	450
EM450-8-36	810	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	810	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	550
EM450-8-42	850	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	700

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

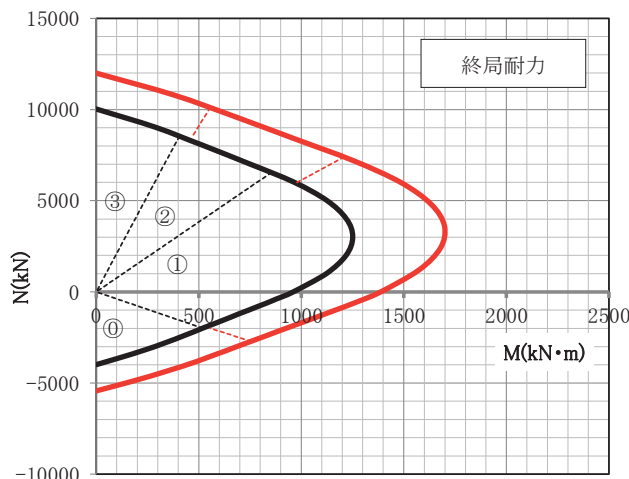
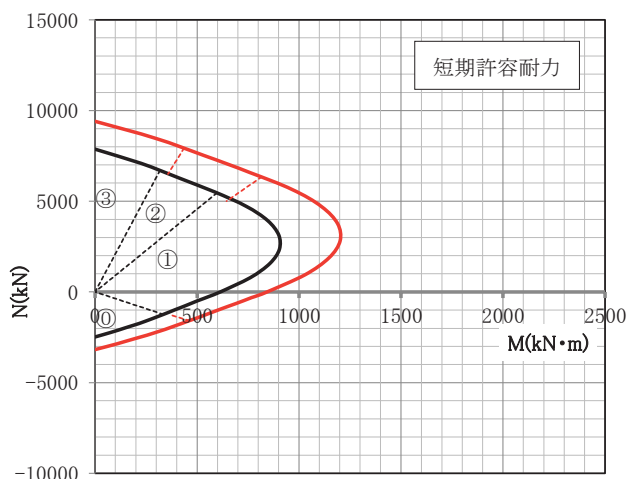
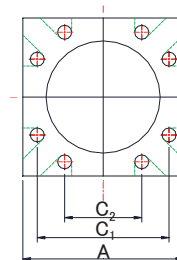
注6) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ500,φ508 (最大板厚:25mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	EM500-8-36	231	161.4	261.9	362.4	640	550	350
—	EM500-8-42	301	186.2	304.1	421.9	700	590	370

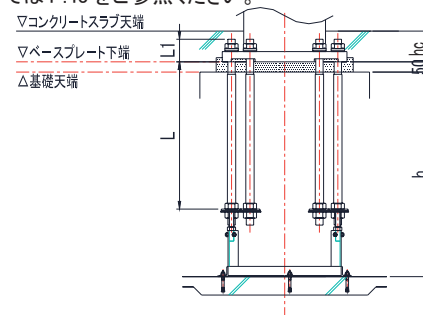
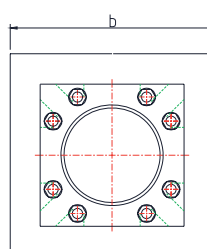


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM500-8-36	720	125	900 以上	170
EM500-8-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM500-8-36	850	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
EM500-8-42	900	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	900	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM500-8-36	850	12-D25(SD345)	D13@100(SD295)	850	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
EM500-8-42	900	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	900	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

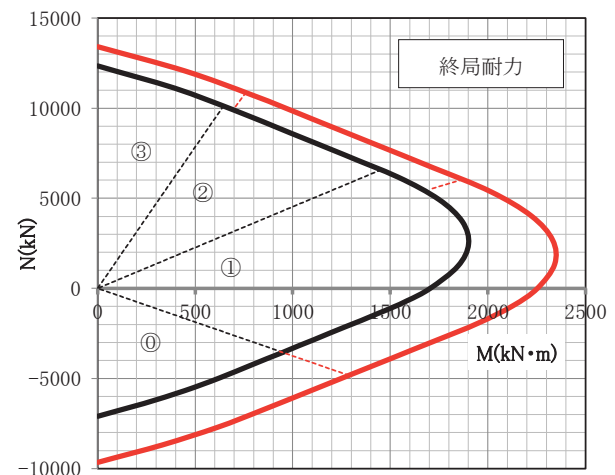
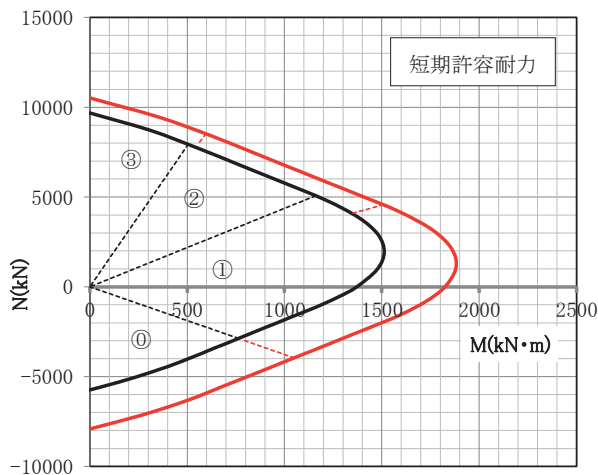
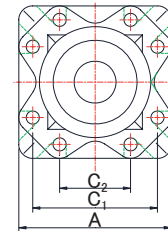
注6) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ500,φ508(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM500-8-48	405	169.0	253.5	338.1	710	580	330
—	GM500-8-56	470	171.7	257.6	343.5	740	600	320



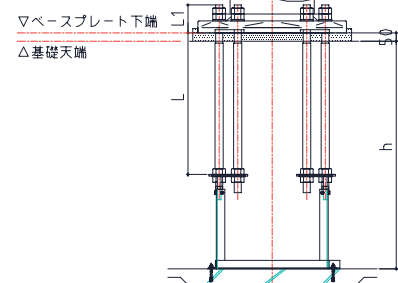
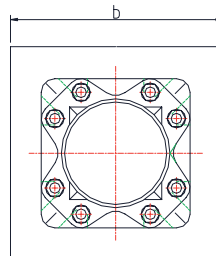
基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。

下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM500-8-48	960	164	1200 以上
GM500-8-56	1120	192	1350 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM500-8-48	950	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	730
GM500-8-56	950	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1100	52-D25(SD345)	D16@100(SD295)	940

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM500-8-48	950	20-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	730
GM500-8-56	950	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1100	52-D25(SD345)	D16@100(SD295)	940

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

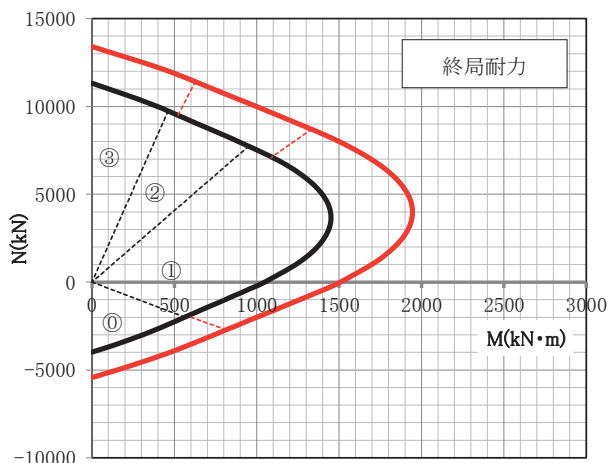
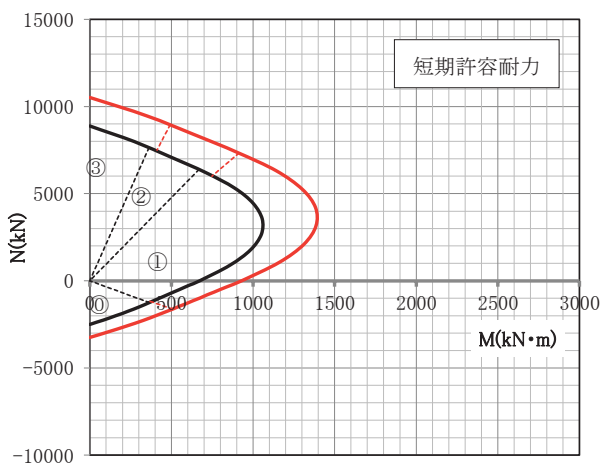
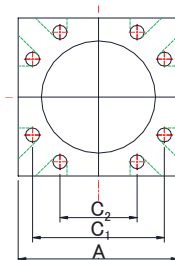
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ550,φ558.8 (最大板厚:25mm)
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	EM550-8-36	269	171.1	276.4	381.7	680	590	390
—	EM550-8-42	350	196.5	319.4	442.3	740	630	410

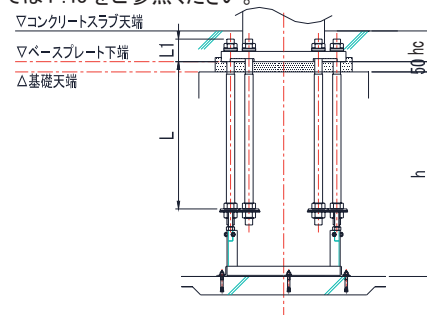
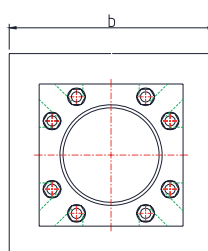


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの 2 種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h	hc
EM550-8-36	720	125	900 以上	170
EM550-8-42	840	150	1100 以上	190



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM550-8-36	900	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	900	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
EM550-8-42	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
EM550-8-36	900	16-D25(SD345)	D13@100(SD295)	900	24-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
EM550-8-42	950	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	950	32-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

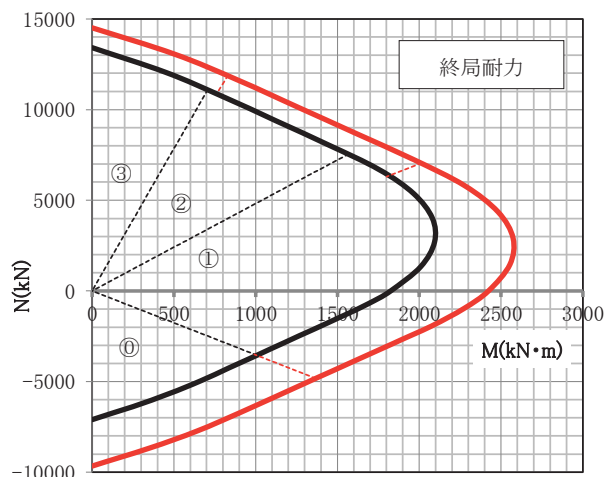
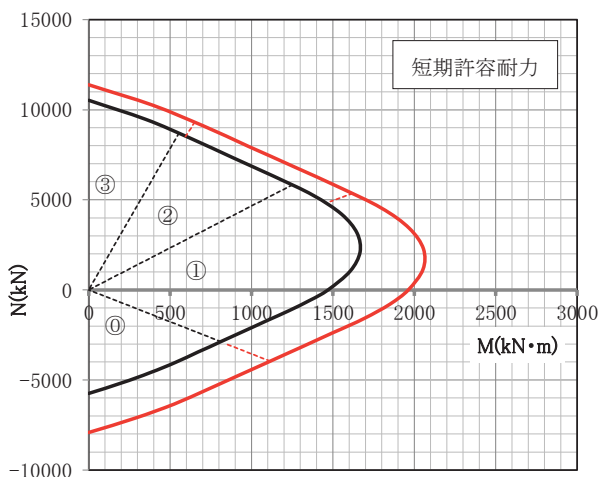
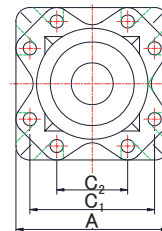
注6) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要です。(二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。)

注7) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力(aQa,aQu)は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

適用柱	円形鋼管柱 φ550,φ558.8(最大板厚:40mm)
ベースプレート	Gタイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト8本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM550-8-48	468	160.8	241.3	321.7	740	610	360
—	GM550-8-56	543	186.5	279.8	373.1	770	630	350

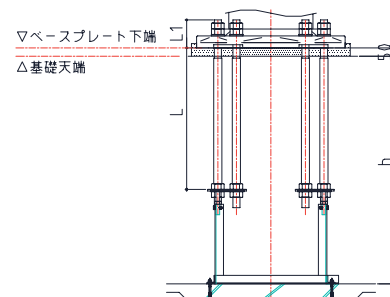
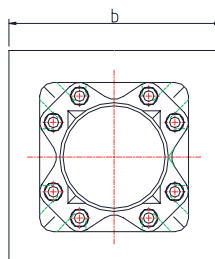


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM550-8-48	960	161	1200 以上
GM550-8-56	1120	188	1350 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM550-8-48	950	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	730
GM550-8-56	1000	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1100	52-D25(SD345)	D16@100(SD295)	940

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM550-8-48	950	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	730
GM550-8-56	1000	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1100	52-D25(SD345)	D16@100(SD295)	940

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は <側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

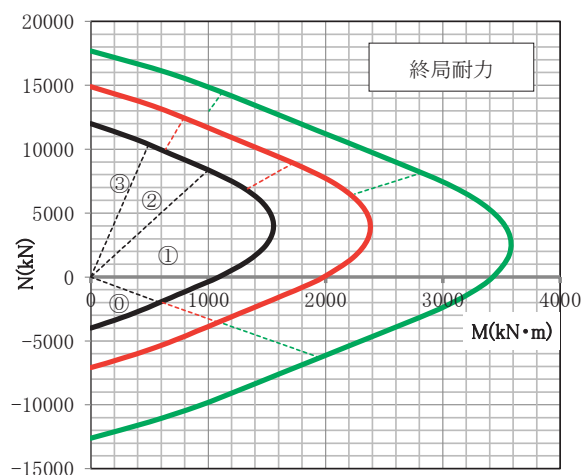
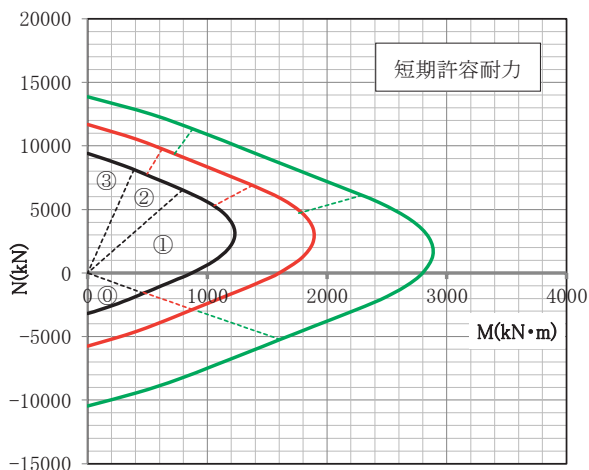
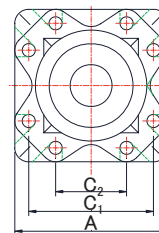
注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ600,φ609.6(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
黒	GM600-8-36	421	147.2	220.8	294.4	700	610	410
赤	GM600-8-48	563	172.2	258.3	344.4	780	650	400
緑	GM600-8-64	747	224.1	336.2	448.3	850	690	390

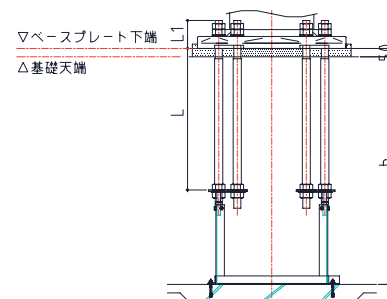
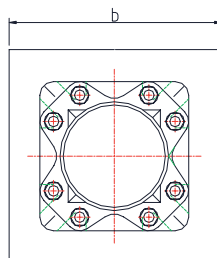


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM600-8-36	720	116	900 以上
GM600-8-48	960	159	1200 以上
GM600-8-64	1280	217	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM600-8-36	950	20-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	450
GM600-8-48	1000	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1000	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM600-8-64	1100	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりがある4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM600-8-36	950	16-D25(SD345)	D16@100(SD295)	950	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	450
GM600-8-48	1000	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1000	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM600-8-64	1100	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

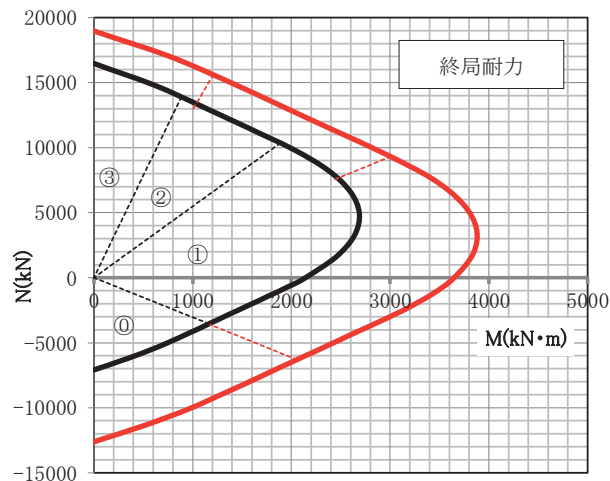
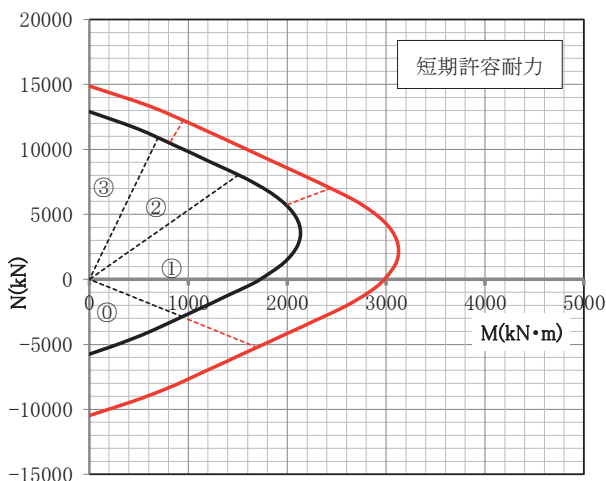
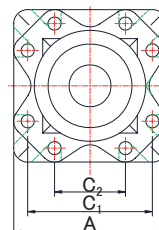
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ650,φ660.4(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM650-8-48	661	183.8	275.7	367.6	820	690	440
—	GM650-8-64	846	214.6	322.0	429.3	880	720	420

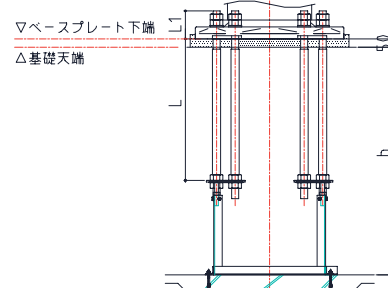
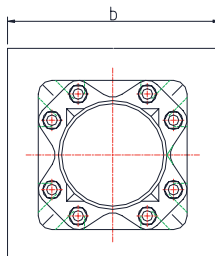


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM650-8-48	960	159	1200 以上
GM650-8-64	1280	213	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM650-8-48	1050	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1050	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM650-8-64	1100	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM650-8-48	1050	24-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1050	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM650-8-64	1100	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

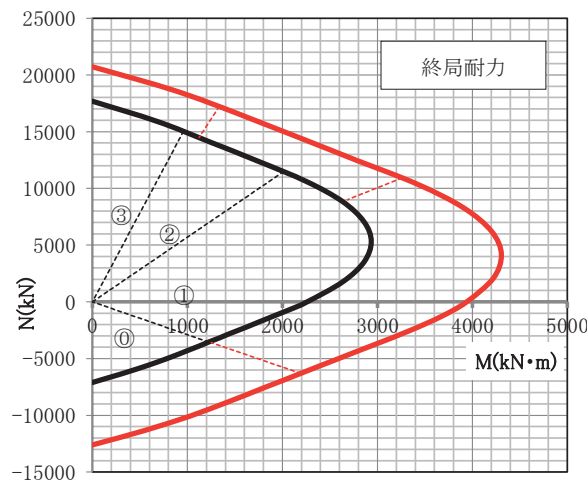
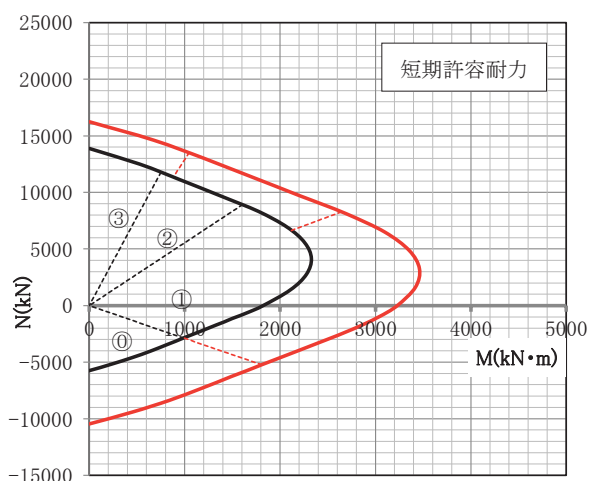
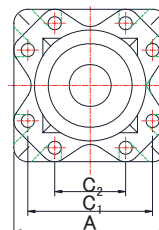
注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ700,φ711.2(最大板厚:40mm)
ベースプレート	Gタイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト8本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM700-8-48	750	174.7	262.1	349.5	850	720	470
—	GM700-8-64	958	227.7	341.6	455.4	920	760	460

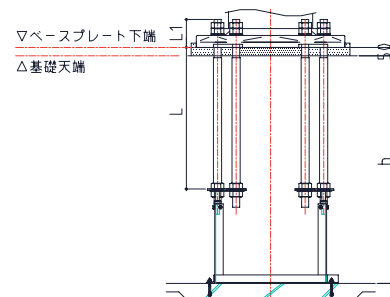
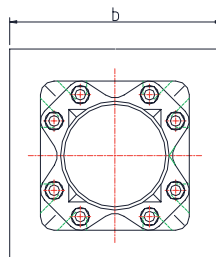


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM700-8-48	960	155	1200 以上
GM700-8-64	1280	212	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM700-8-48	1050	32-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1050	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM700-8-64	1150	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

<中柱用(柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す)>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM700-8-48	1050	28-D25(SD345)	D16@100(SD295)	1050	40-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720
GM700-8-64	1150	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1120

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2)<中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

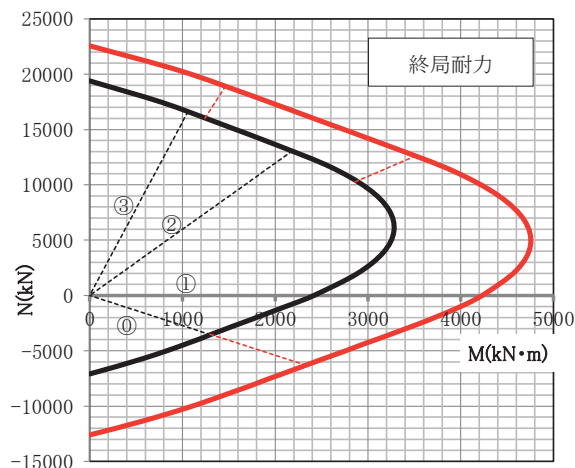
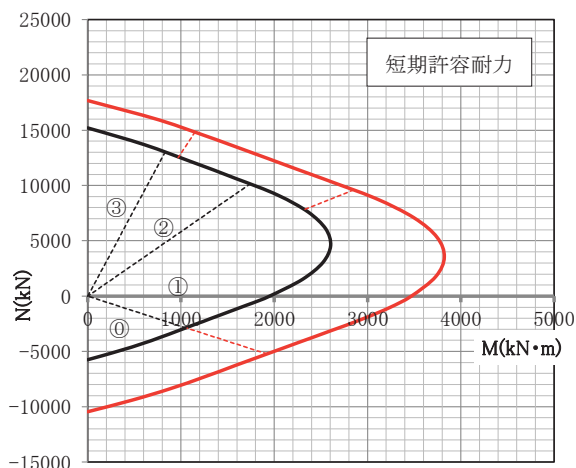
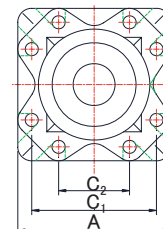
注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ750,φ762(最大板厚:40mm)
ベースプレート	Gタイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト8本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM750-8-48	865	186.2	279.4	372.5	890	760	510
—	GM750-8-64	1100	241.0	361.6	482.1	960	800	500

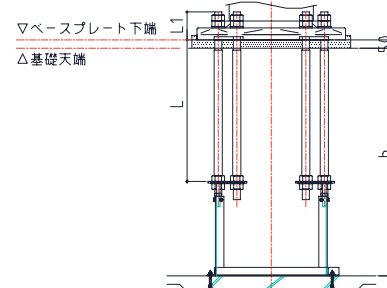
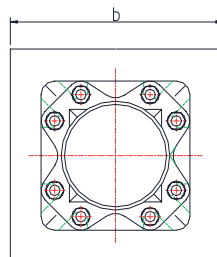


基礎柱形設計例

* I、II:基礎柱形の仕様はI、IIゾーンの2種類があります。I、IIゾーンの見分け方についてはP.43をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、IIゾーンの判定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM750-8-48	960	155	1300 以上
GM750-8-64	1280	211	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM750-8-48	1100	24-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1100	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	730
GM750-8-64	1200	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1110

<中柱用> (柱形と天端が一致する基礎ばりが4方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM750-8-48	1100	20-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1100	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	730
GM750-8-64	1200	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1110

注1)表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は <側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3)h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

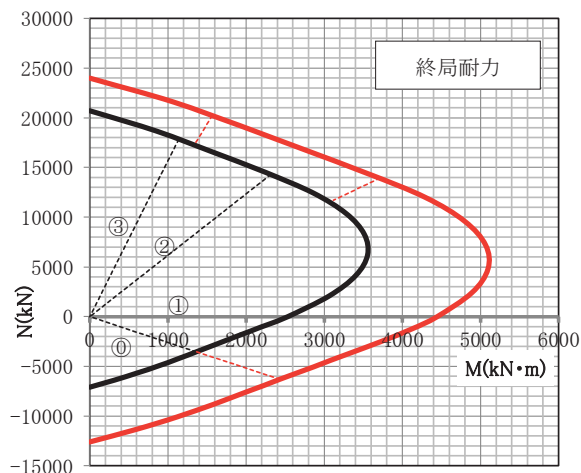
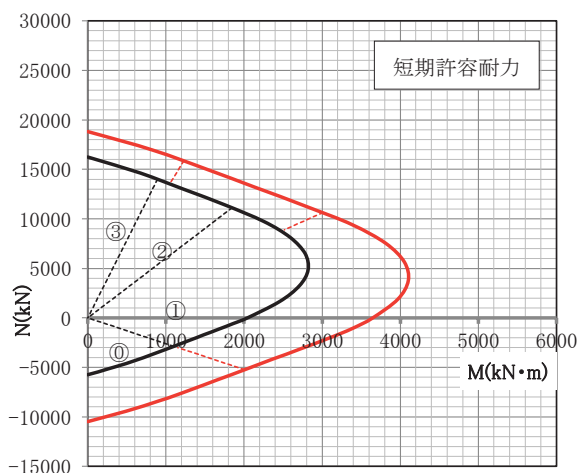
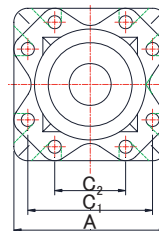
注4)アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5)鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

適用柱	円形鋼管柱 φ800,φ812.8(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM800-8-48	961	201.3	302.0	402.6	920	790	540
—	GM800-8-64	1240	230.7	346.1	461.5	990	830	530

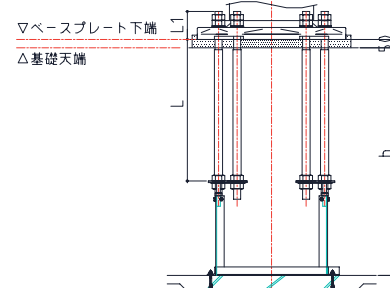
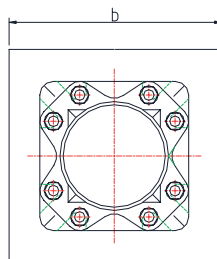


基礎柱形設計例

* I、II: 基礎柱形の仕様は I、II ゾーンの種類があります。I、II ゾーンの見分け方については P.43 をご参照ください。
下記の事項は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

- I、II ゾーンの評定
- コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合

ハイベース型式	L	L1	h
GM800-8-48	960	152	1300 以上
GM800-8-64	1280	208	1600 以上



<側・隅柱用>

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM800-8-48	1150	24-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	720
GM800-8-64	1200	32-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1110

<中柱用 (柱形と天端が一致する基礎ばりが 4 方向から取り付く場合のみを示す) >

ハイベース型式	I ゾーンの場合			II ゾーンの場合			鉄筋の定着長さ Lt(mm)
	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	b(mm)	基礎柱形主筋	帯筋	
GM800-8-48	1150	20-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1150	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	720
GM800-8-64	1200	28-D29(SD390)	D16@100(SD295)	1200	48-D29(SD390)	D16@80(SD295)	1110

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) <中柱用>の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋を D13@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は<側・隅柱用>の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

耐力図 <G タイプ(φ850 用)>

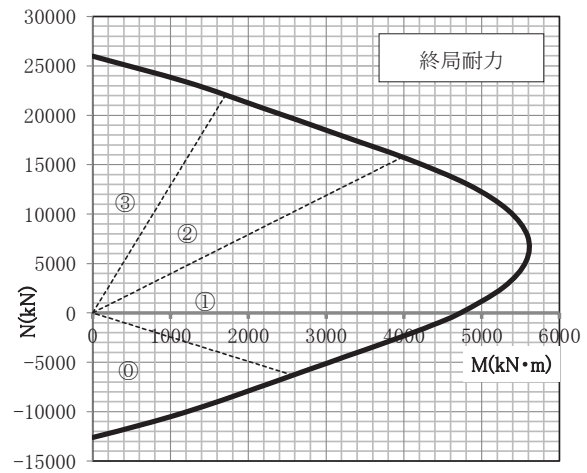
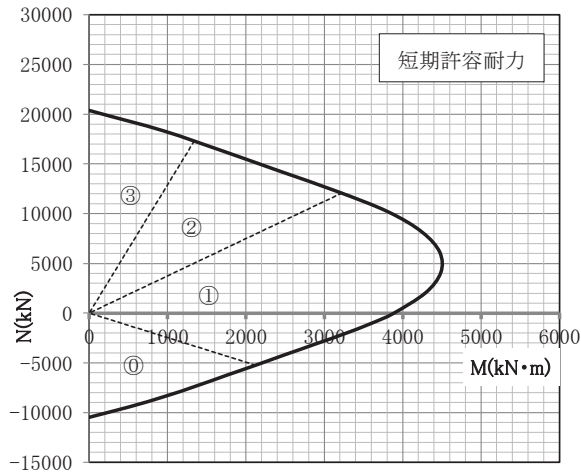
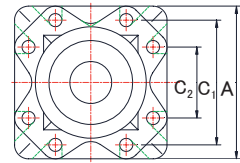
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	円形鋼管柱 φ850 (最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM850-8-64	1410	243.9	365.9	487.9	1030	870	570



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

円形鋼管柱用

耐力図 <G タイプ(φ900,φ914.4 用)>

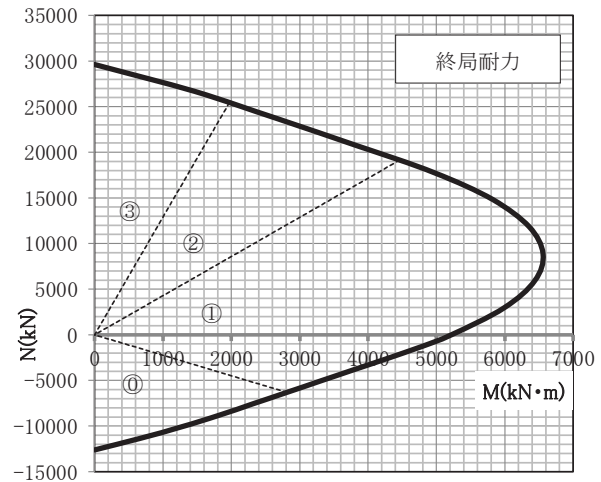
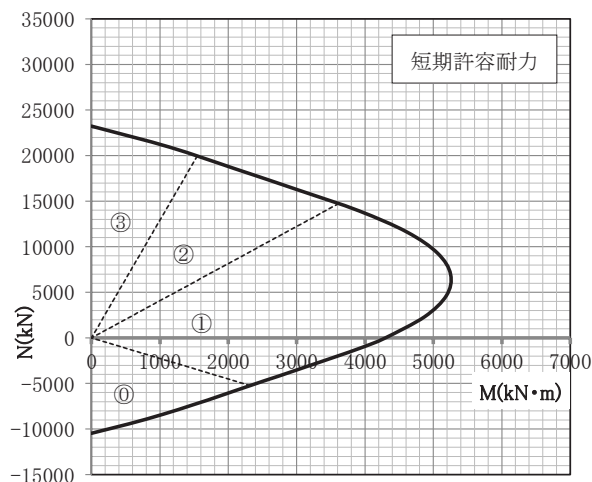
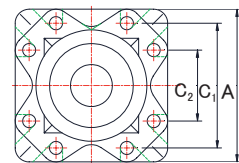
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	円形鋼管柱 φ900,φ914.4(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3 \text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM900-8-64	1660	275.1	412.6	550.2	1100	940	640



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(φ950 用)>

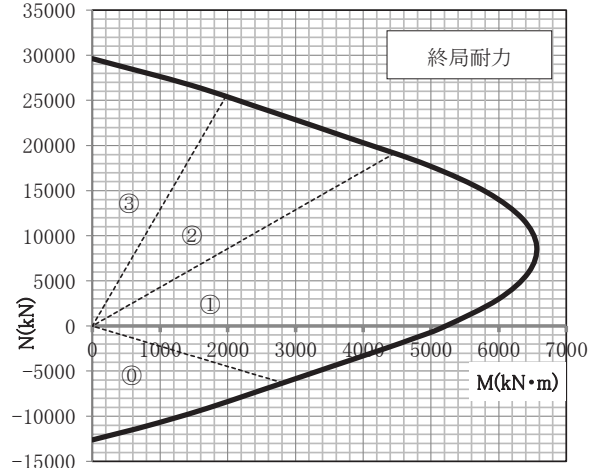
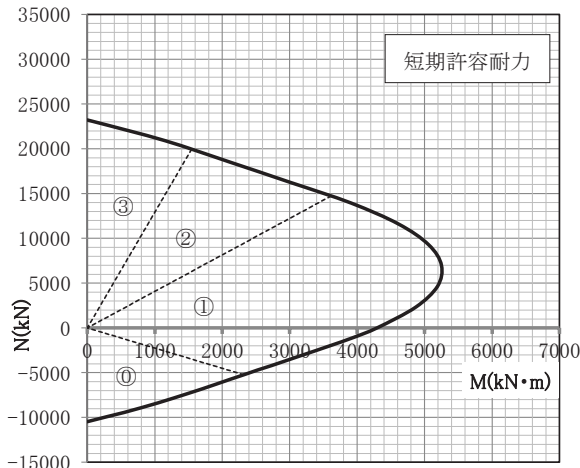
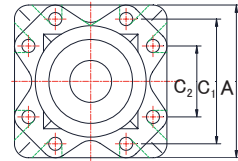
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	円形鋼管柱 φ950 (最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM950-8-64	1750	275.1	412.6	550.2	1100	940	640



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <G タイプ(φ1000,φ1016 用)>

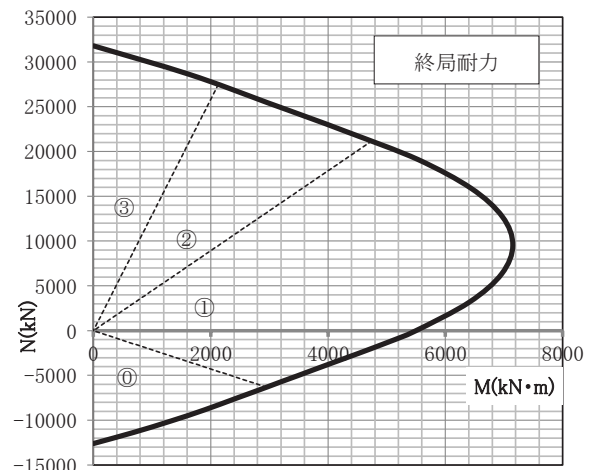
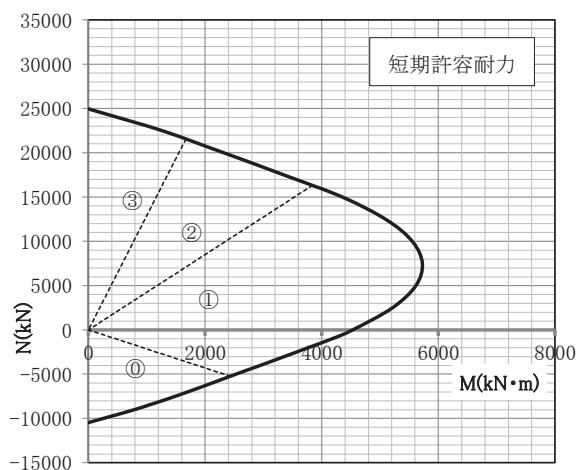
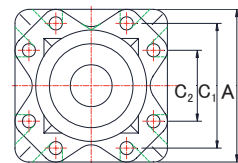
($F_c=24\text{N/mm}^2$ の場合)

適用柱	円形鋼管柱 φ1000,φ1016(最大板厚:40mm)
ベースプレート	G タイプ (鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 8 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	aQa(kN)		aQu (kN)	A (mm)	C ₁ (mm)	C ₂ (mm)
			長期	短期				
—	GM1000-8-64	1970	289.3	433.9	578.6	1140	980	680



基礎柱形の設計例は、センクシアにお問い合わせください。

耐力図 <エコタイプ(H150×150 シリーズ用)> (Fc=24N/mm²の場合)

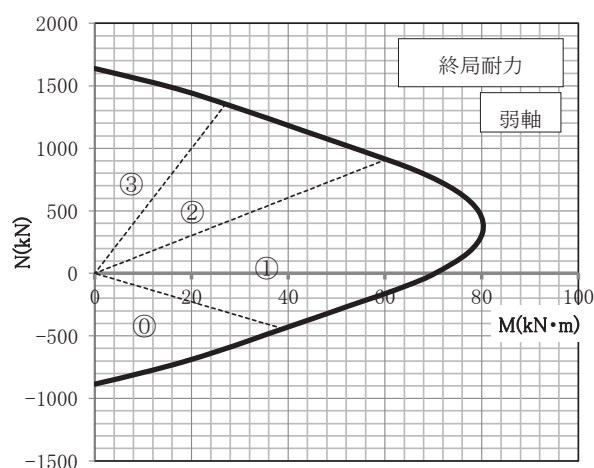
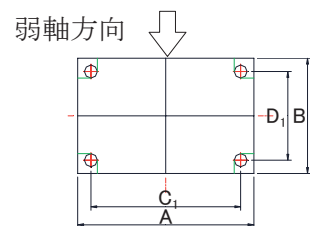
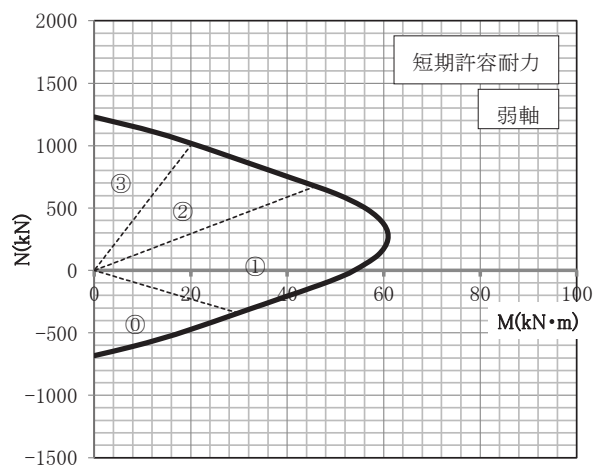
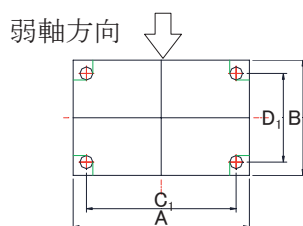
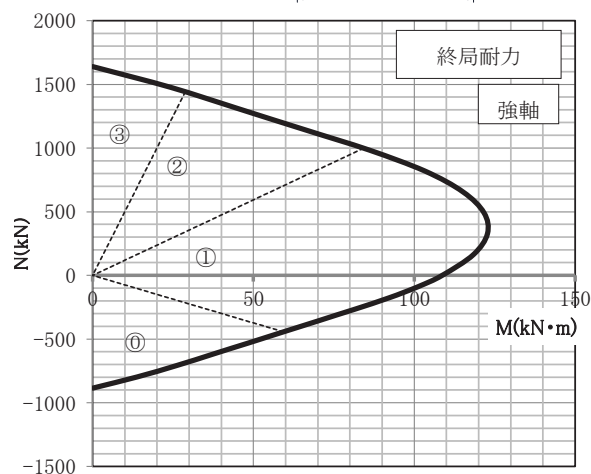
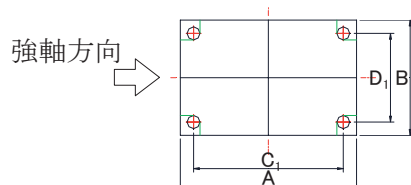
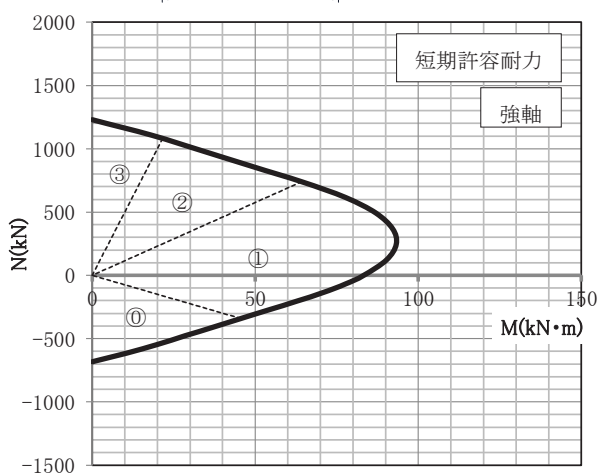
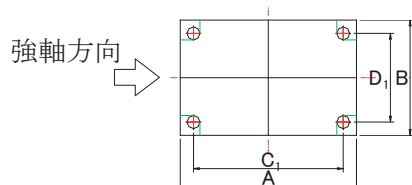
適用柱*1	H形柱 H150×150 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH150×150-4-24	14.0	70.2	121.1	171.9	6.0	78.8	134.0	189.2	330	230	250	150



H
形
柱
用

* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

適用柱*1	H 形柱 H175×175 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

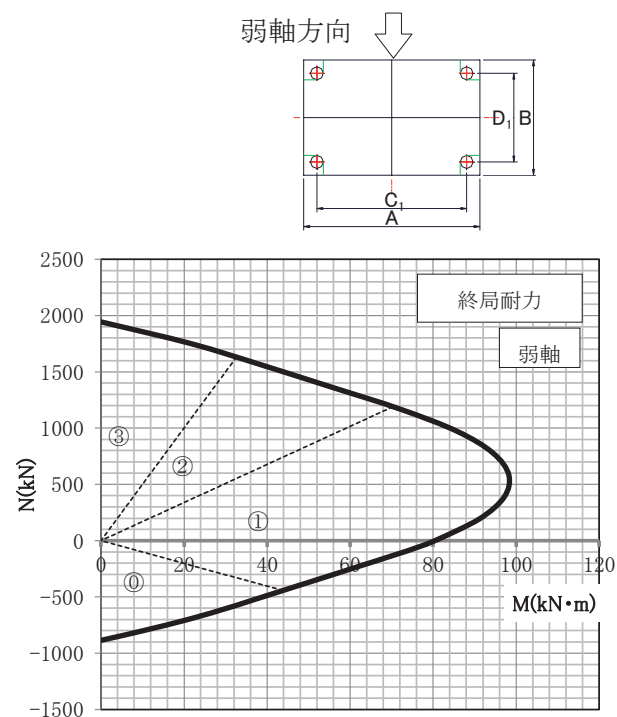
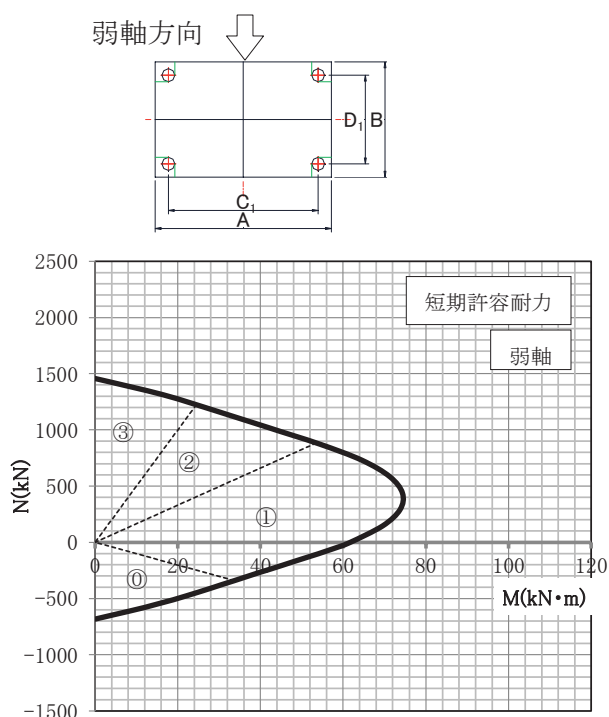
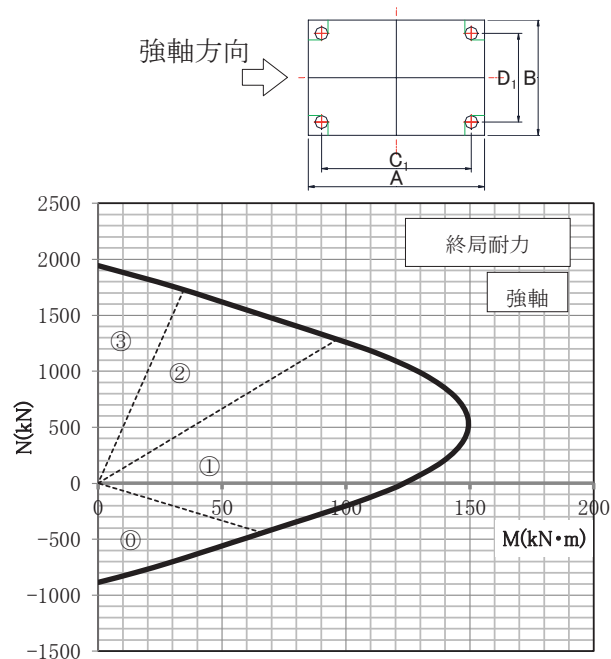
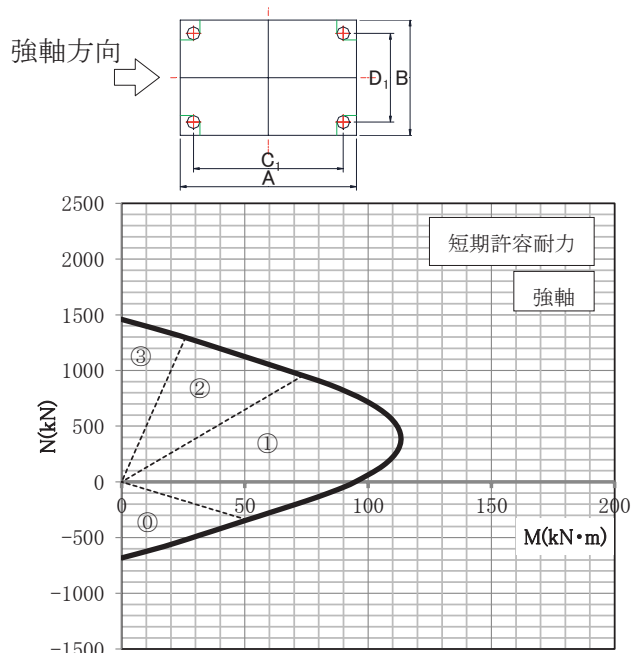
*コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

*1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH175 × 175-4-24	18.0	63.7	110.0	156.3	7.9	71.4	121.6	171.8	360	250	280	170

—	EH175×175-4-24	18.0	63.7	110.0	156.3	7.9	71.4	121.6	171.8	360	250	280	170
---	----------------	------	------	-------	-------	-----	------	-------	-------	-----	-----	-----	-----



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

適用柱*1	H 形柱 H200×150 シリーズ, H200×200 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

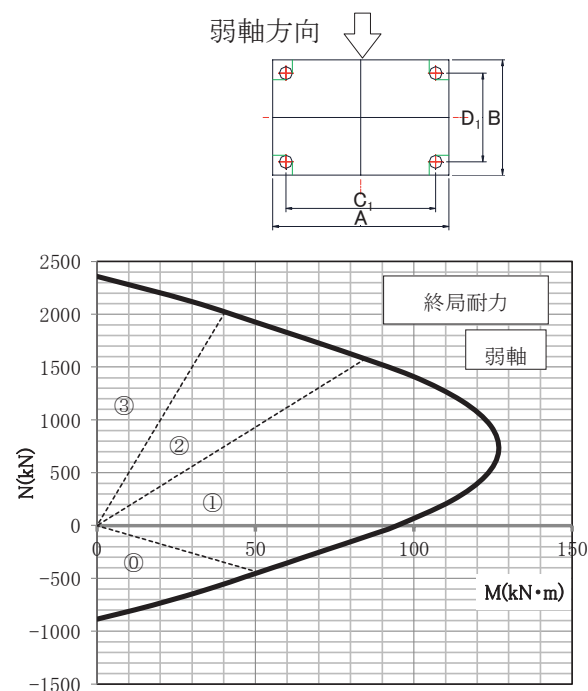
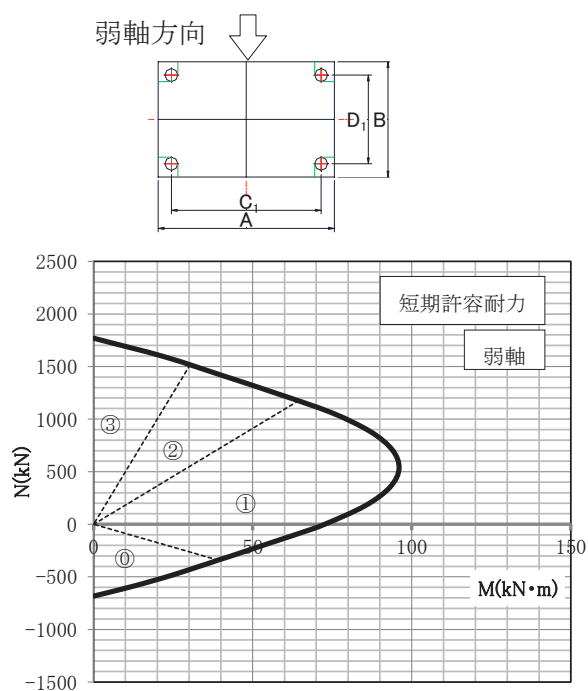
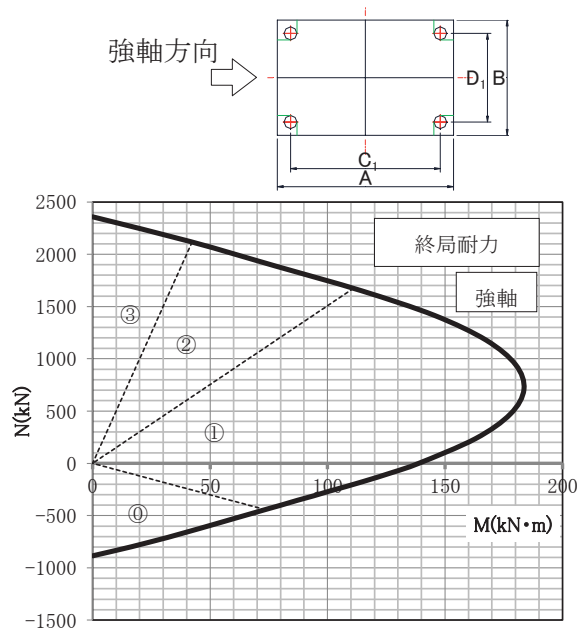
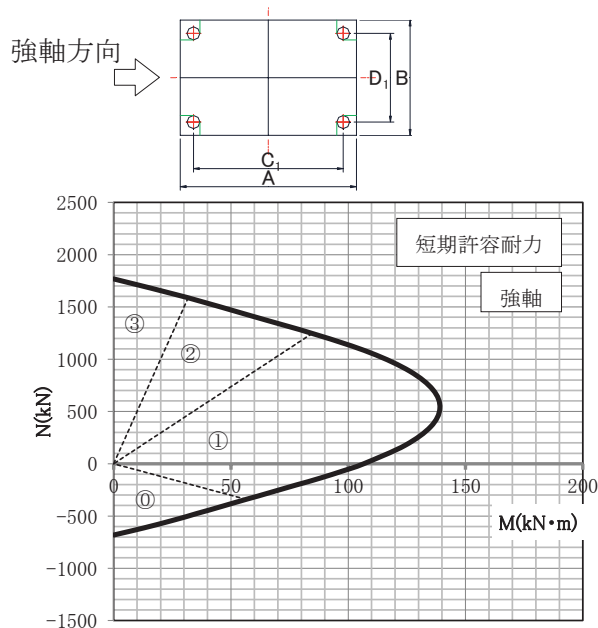
*コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

*1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパー入型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH200×200-4-24	22.7	72.6	124.5	176.4	11.1	80.1	135.8	191.4	390	280	310	200

—	EH200×200-4-24	22.7	72.6	124.5	176.4	11.1	80.1	135.8	191.4	390	280	310	200
---	----------------	------	------	-------	-------	------	------	-------	-------	-----	-----	-----	-----



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

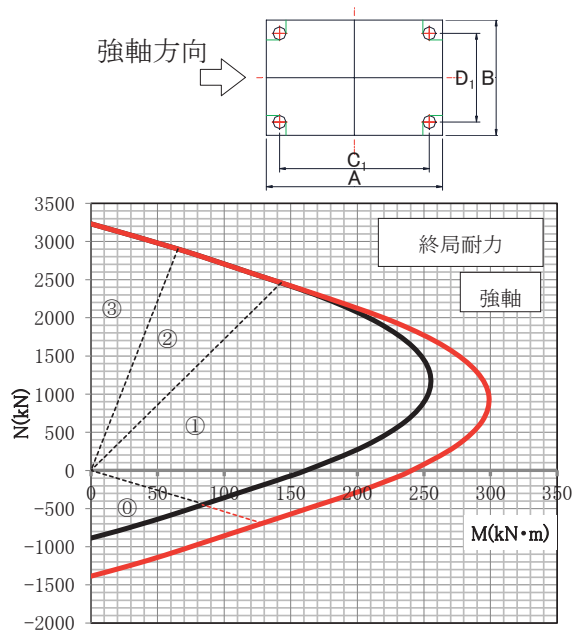
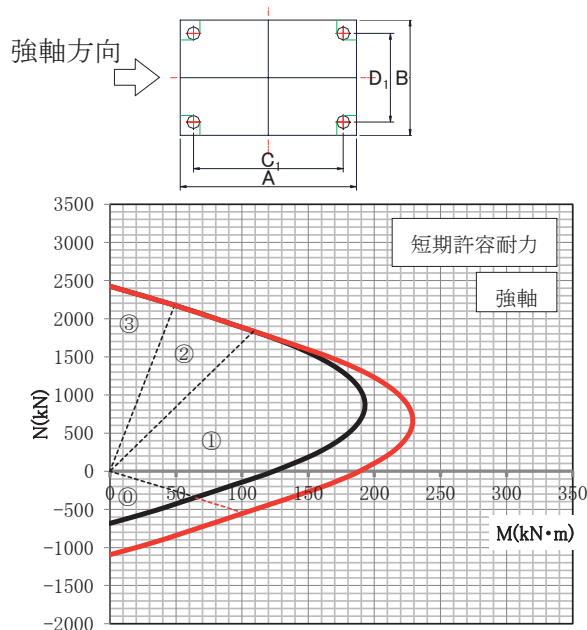
適用柱*1	H 形柱 H250×175 シリーズ, H250×250 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

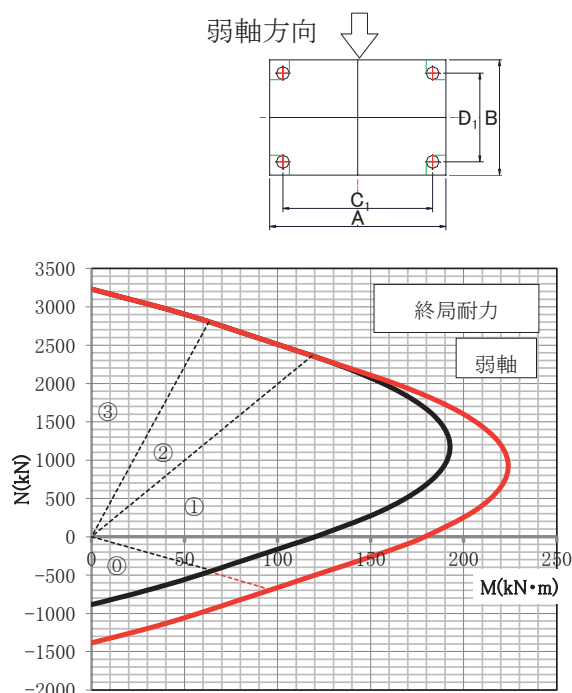
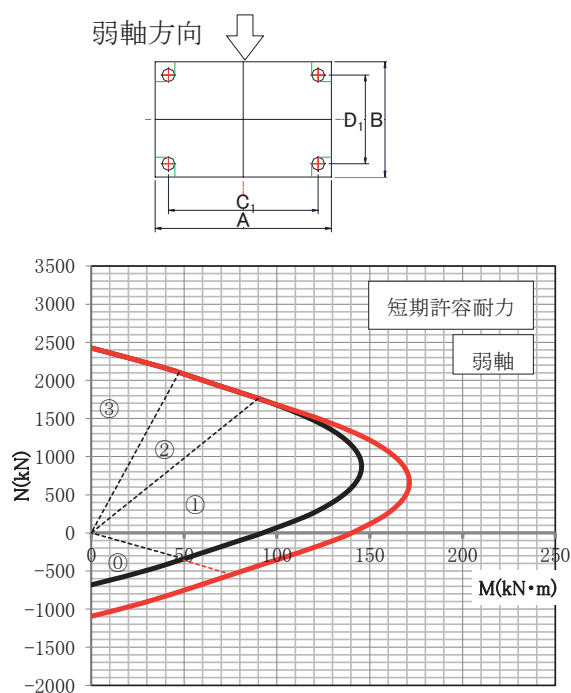
* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH250×250-4-24	31.0	78.3	132.9	187.6	18.0	82.6	139.4	196.2	440	340	350	250
赤	EH250×250-4-30	36.7	79.8	136.0	192.2	20.3	84.1	142.5	200.8	440	340	350	250



H 形柱用



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

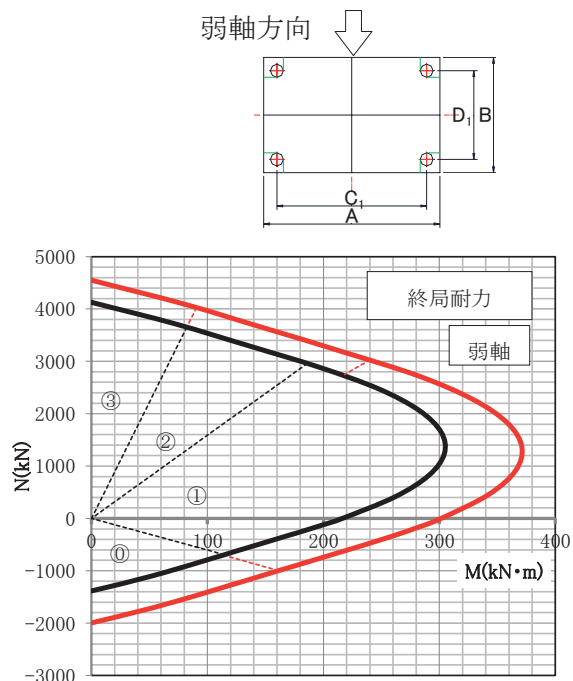
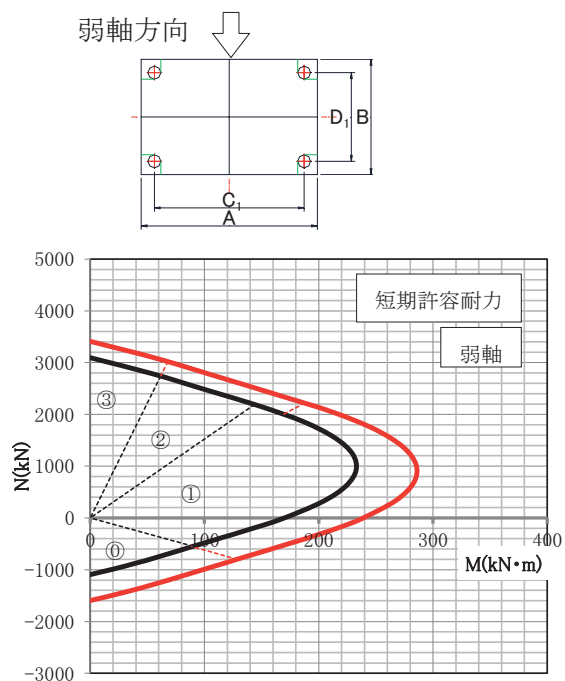
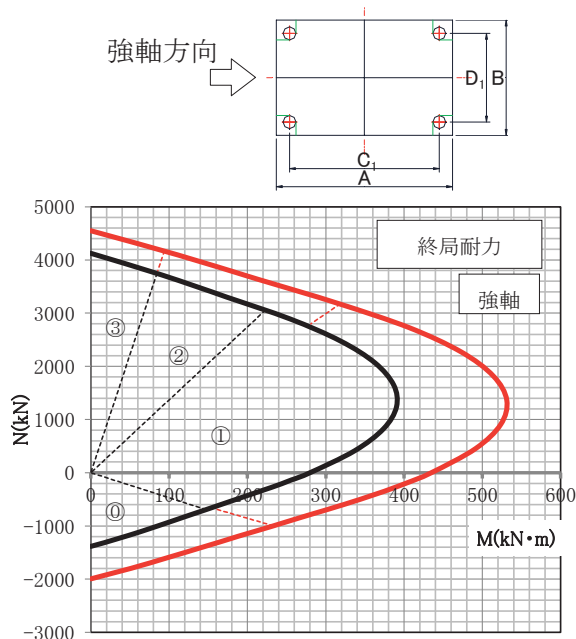
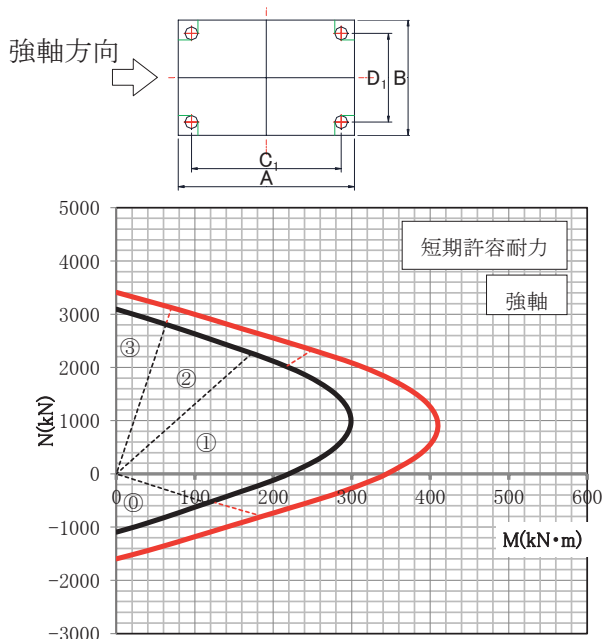
適用柱 ^{*1}	H 形柱 H300×200 シリーズ, H300×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力图

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH300×300-4-30	49.6	84.1	142.5	200.8	30.0	84.1	142.5	200.8	490	390	400	300
赤	EH300×300-4-36	69.2	87.2	148.7	210.1	35.6	87.2	148.7	210.1	540	390	450	300



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

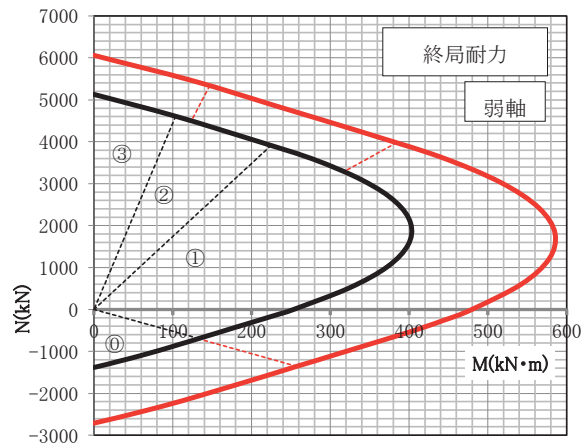
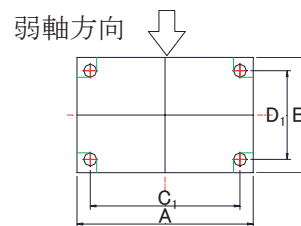
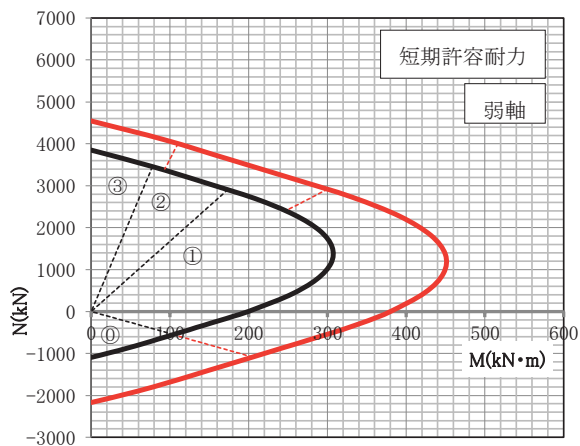
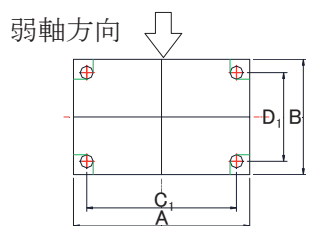
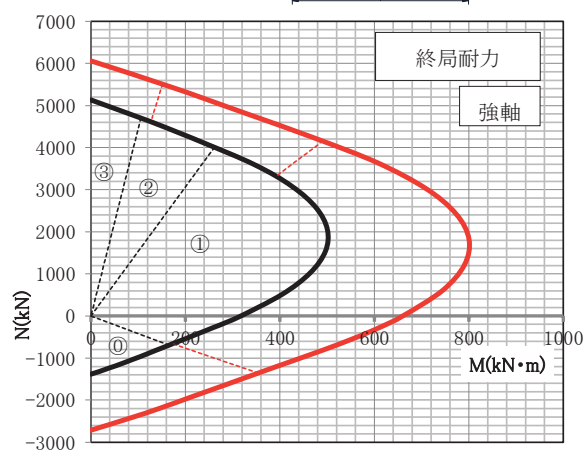
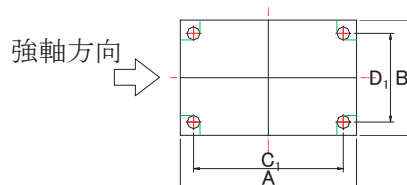
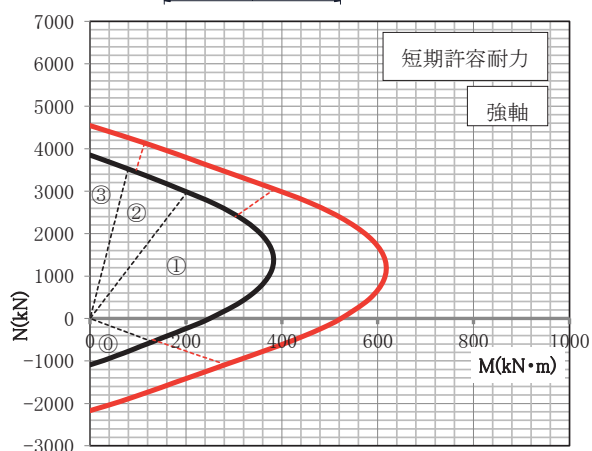
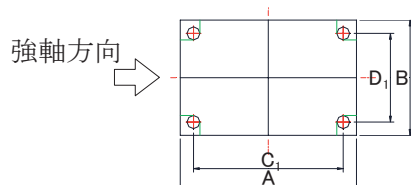
適用柱 ^{*1}	H 形柱 H350×250 シリーズ, H350×350 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
	EH350×250-4-30	59.2	100.0	172.1	244.2	39.1	95.7	165.6	235.6	540	440	450	350
	EH350×350-4-42	93.7	115.3	195.5	275.6	52.6	115.3	195.5	275.6	610	460	500	350



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

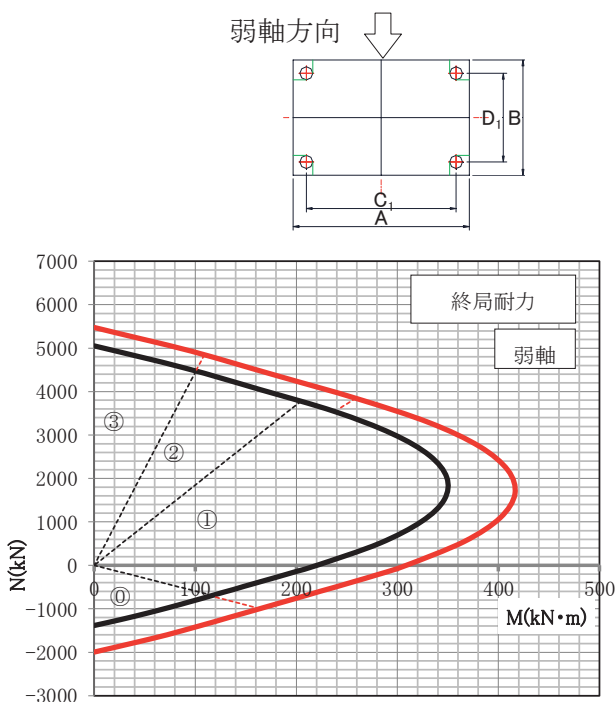
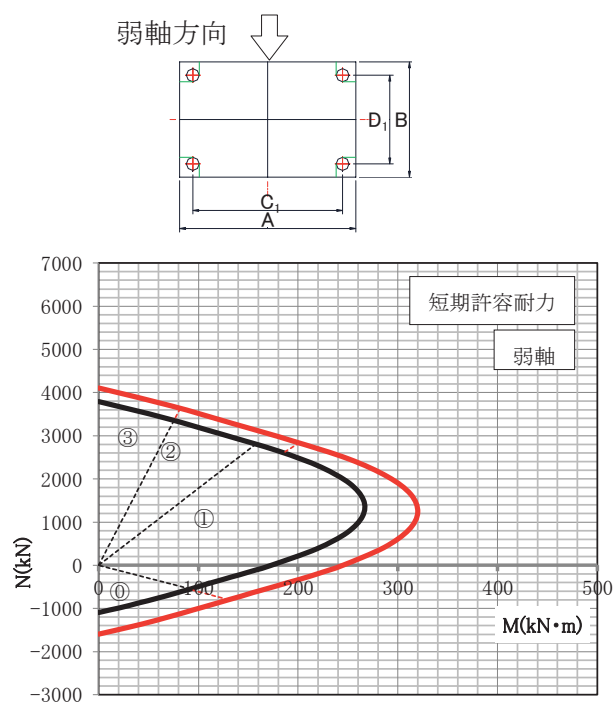
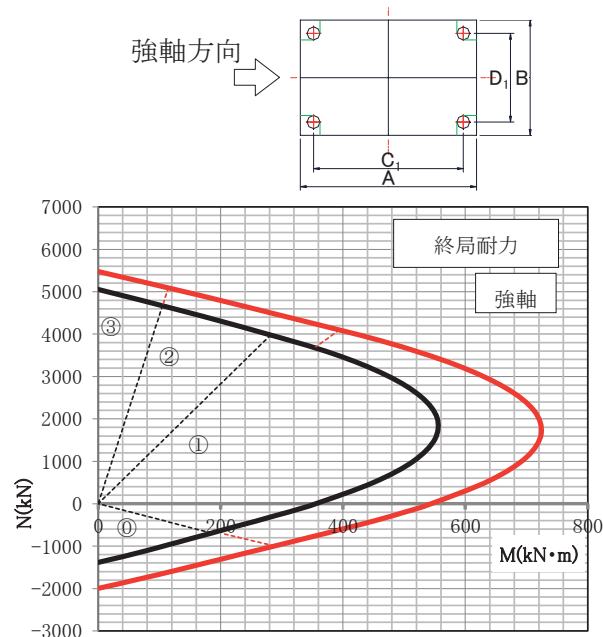
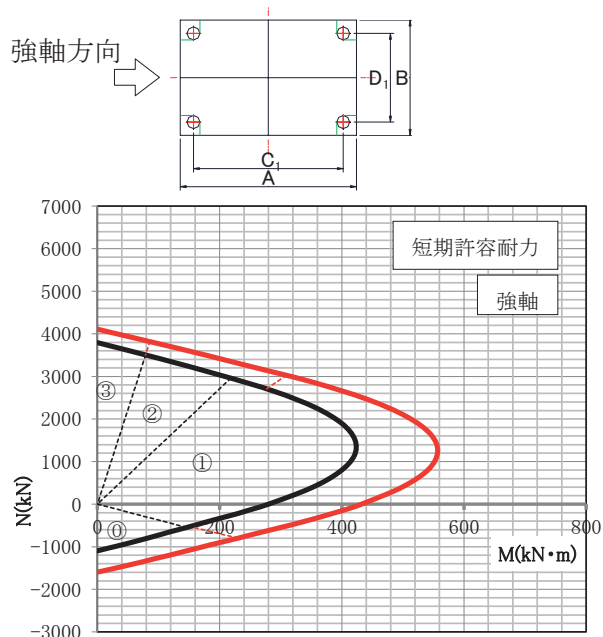
適用柱 ^{*1}	H 形柱 H400×200 シリーズ, H400×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	強軸			回転ばね定数 $\times 10^3\text{kN}\cdot\text{m/rad}$	弱軸			A (mm)	B (mm)	C_1 (mm)	D_1 (mm)
			長期	短期	aQ_u (kN)		長期	短期	aQ_u (kN)				
—	EH400×300-4-30	74.3	92.6	158.3	223.9	30.1	91.8	157.0	222.3	600	390	510	300
—	EH400×300-4-36	102	96.3	165.6	234.9	33.9	95.5	164.4	233.3	650	390	560	300



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

適用柱*1	H 形柱 H400×300 シリーズ, H400×400 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

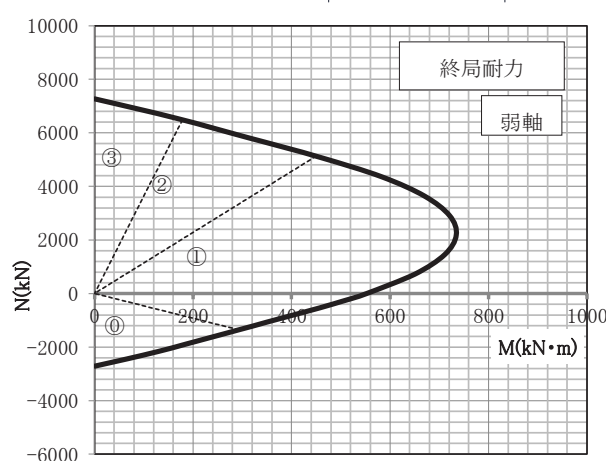
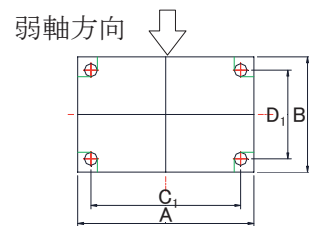
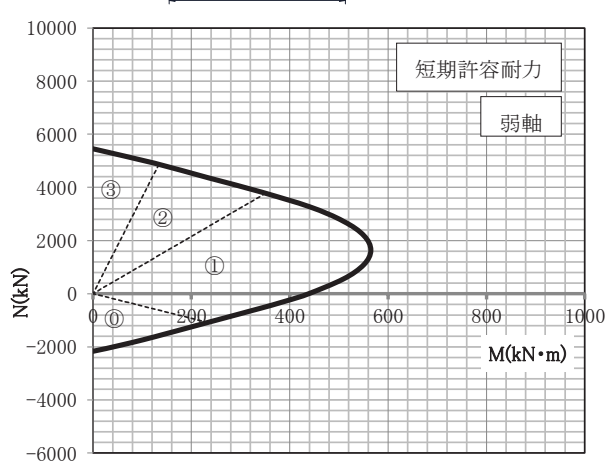
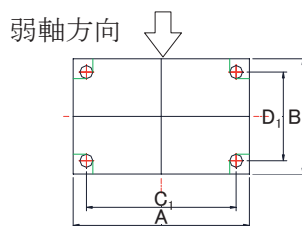
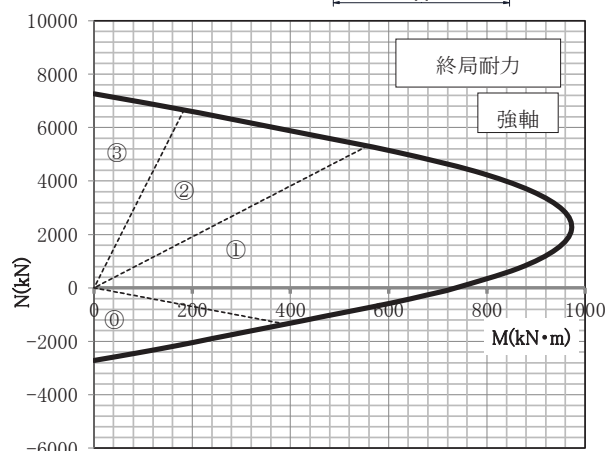
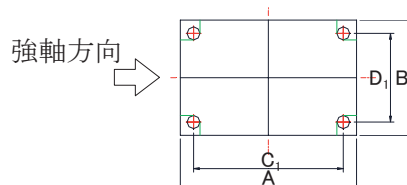
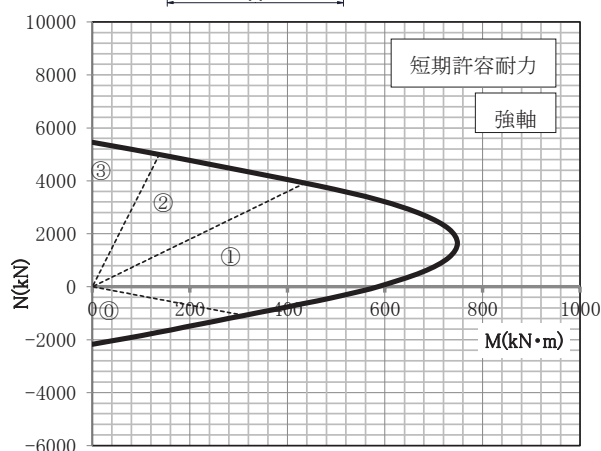
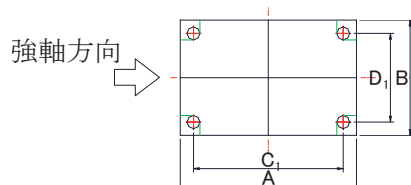
* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパー入型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH400×400-4-42	118	120.2	202.7	285.3	67.3	115.2	195.2	275.2	660	510	550	400

—	EH400×400-4-42	118	120.2	202.7	285.3	67.3	115.2	195.2	275.2	660	510	550	400
---	----------------	-----	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-----



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

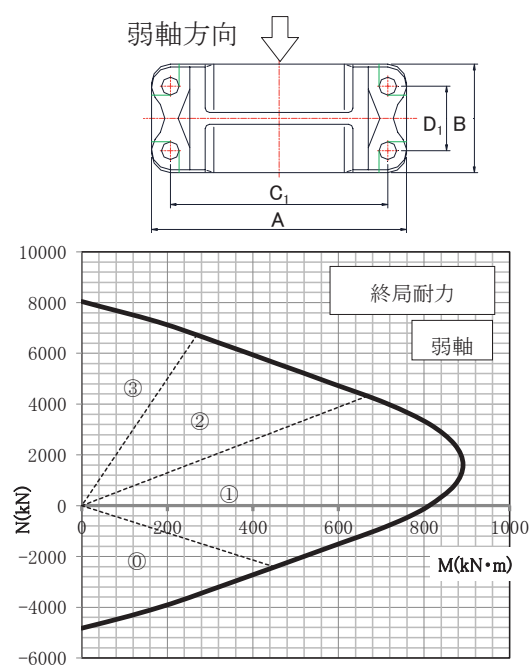
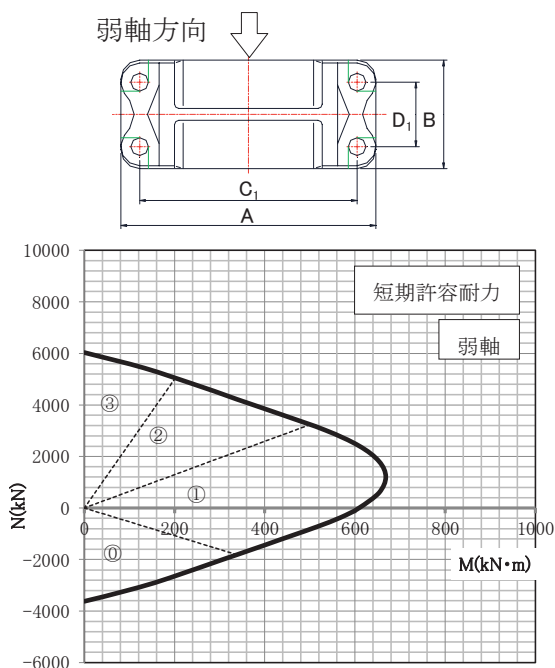
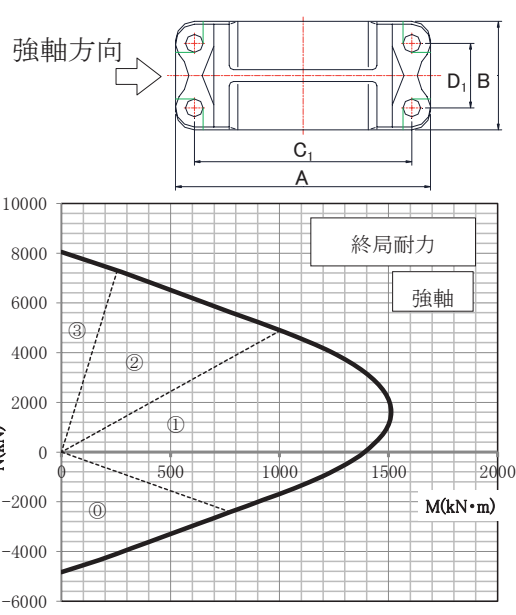
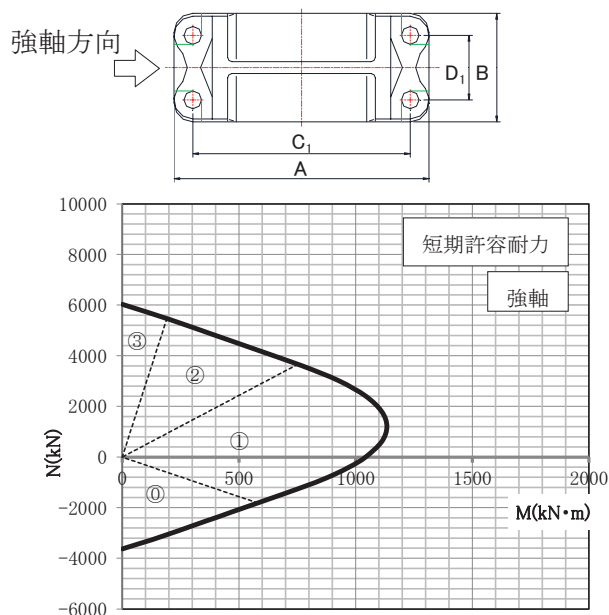
適用柱*1	H 形柱 H400×300 シリーズ, H400×400 シリーズ
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパー型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 ×10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	GH400×400-4-56	265	74.3	111.5	148.6	138	78.5	117.8	157.1	760	490	620	330



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <エコタイプ(H450×200 シリーズ, H450×250 シリーズ, H450×300 シリーズ用)> (Fc=24N/mm²の場合)

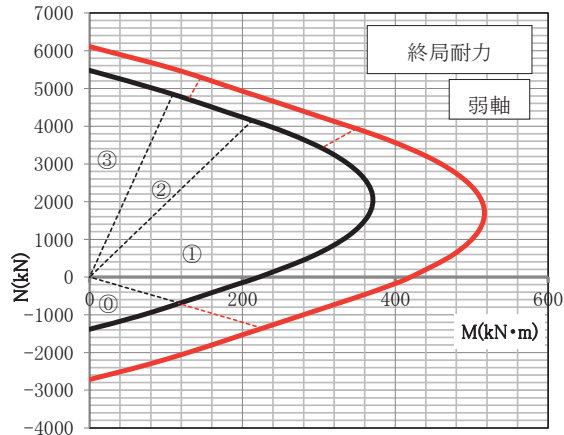
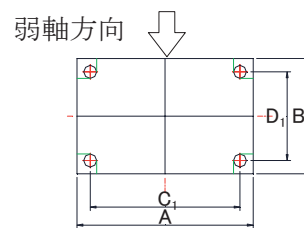
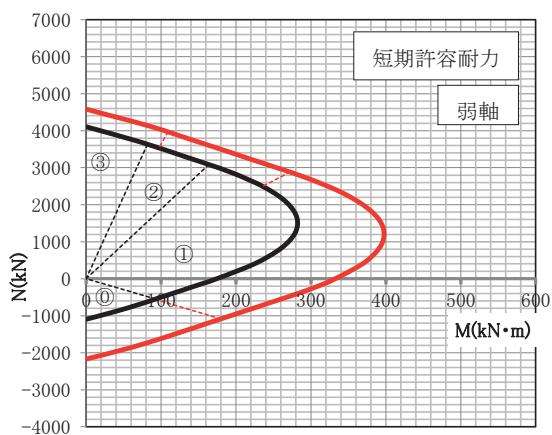
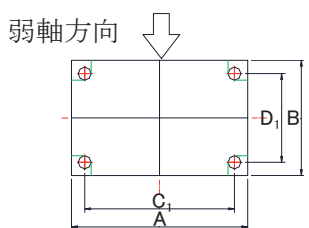
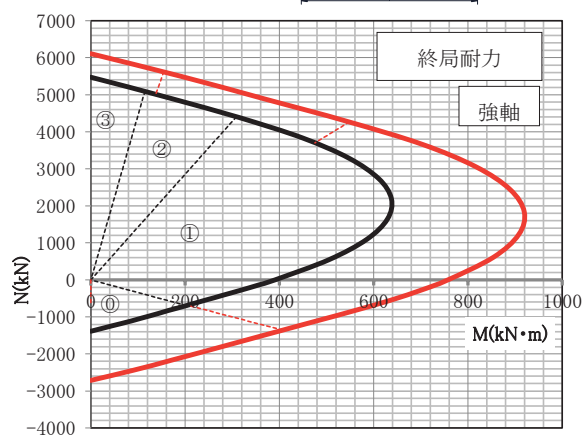
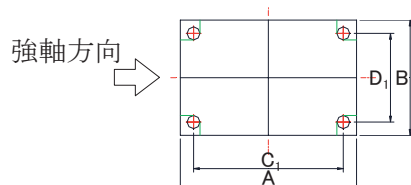
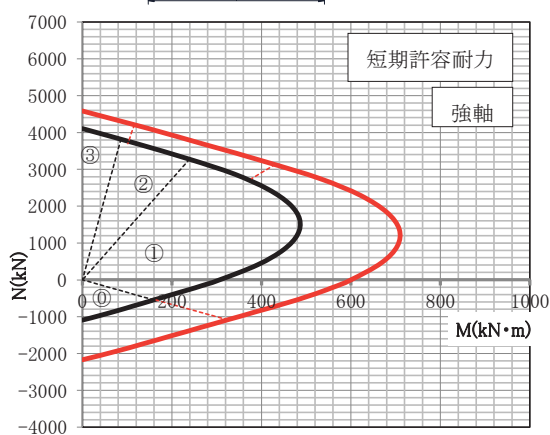
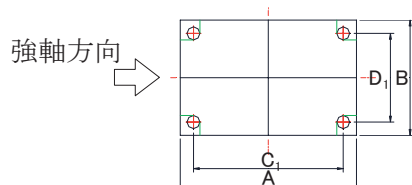
適用柱*1	H 形柱 H450×200 シリーズ, H450×250 シリーズ, H450×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH450 × 300-4-30	94.1	92.6	158.3	223.9	30.8	91.8	157.0	222.3	650	390	560	300
赤	EH450 × 300-4-42	135	111.2	189.8	268.4	38.9	116.2	197.3	278.4	690	410	580	300



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <エコタイプ(H500×200 シリーズ, H500×250 シリーズ, H500×300 シリーズ用)> (Fc=24N/mm²の場合)

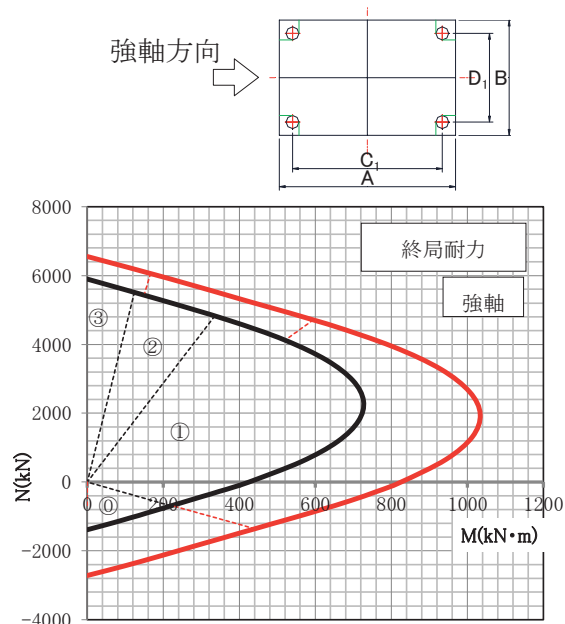
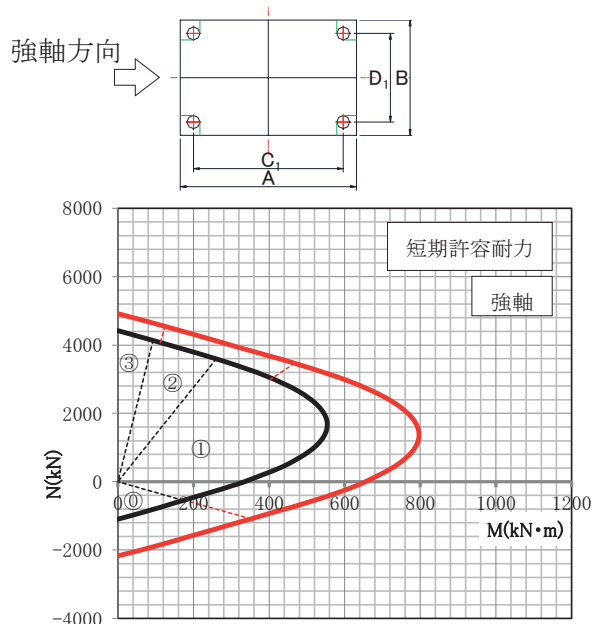
適用柱*1	H 形柱 H500×200 シリーズ, H500×250 シリーズ, H500×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

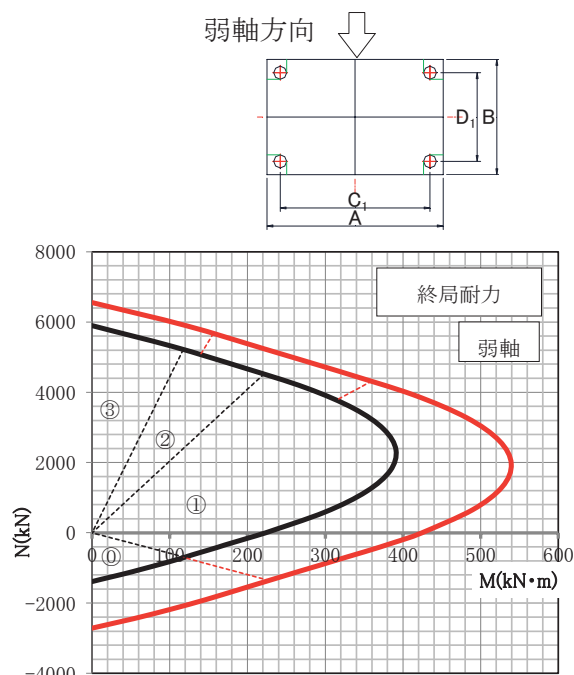
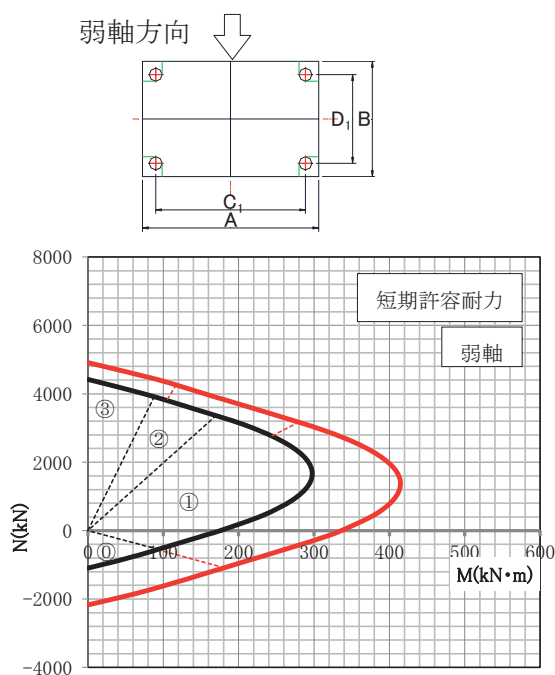
* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH500 × 300-4-30	112	92.4	157.8	223.3	30.5	91.6	156.6	221.6	700	390	610	300
赤	EH500 × 300-4-42	154	110.9	189.2	267.6	40.8	115.9	196.8	277.6	740	410	630	300



H 形柱用



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <エコタイプ(H600×200 シリーズ, H600×250 シリーズ, H600×300 シリーズ用)> (Fc=24N/mm²の場合)

適用柱*1	H 形柱 H600×200 シリーズ, H600×250 シリーズ, H600×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

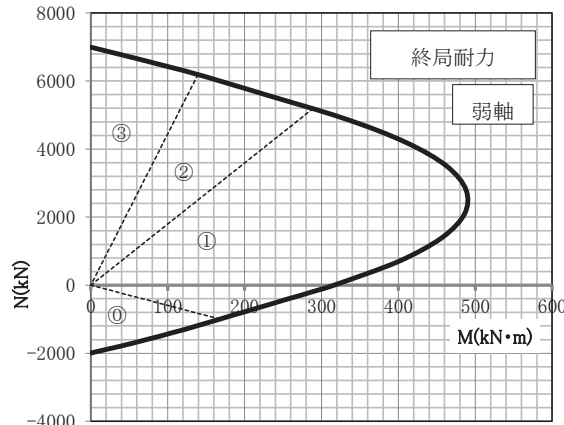
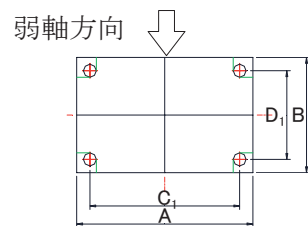
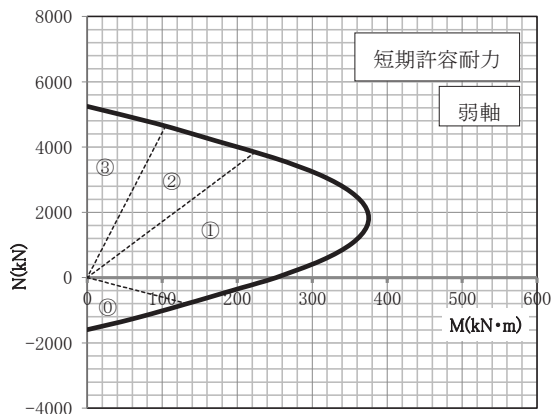
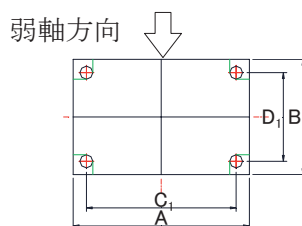
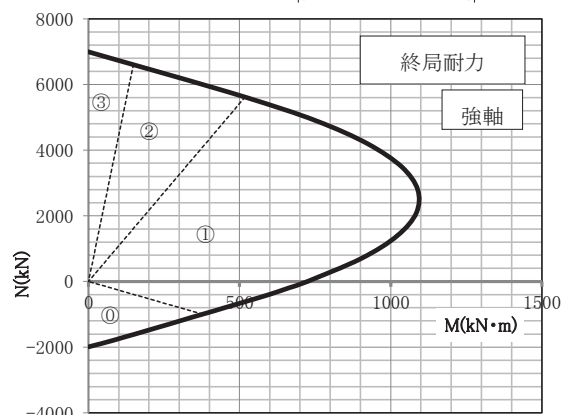
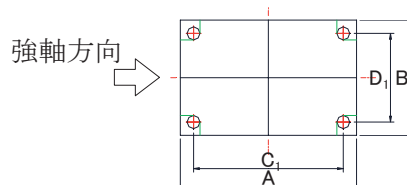
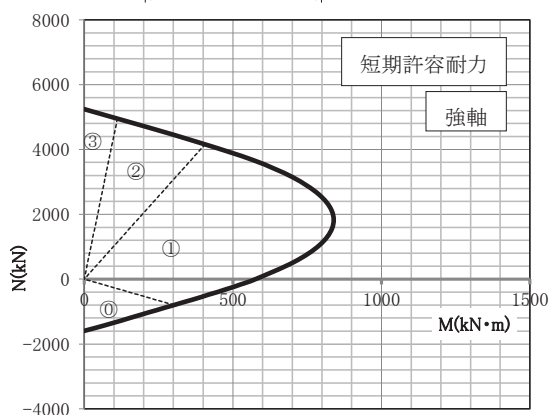
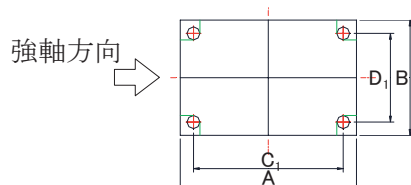
* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパーS型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH600×300-4-36	189	99.8	170.7	241.7	39.1	100.7	172.1	243.5	830	390	740	300

—	EH600×300-4-36	189	99.8	170.7	241.7	39.1	100.7	172.1	243.5	830	390	740	300
---	----------------	-----	------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-----	-----	-----	-----



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <G タイプ(H600×200 シリーズ, H600×250 シリーズ, H600×300 シリーズ用)> (Fc=24N/mm² の場合)

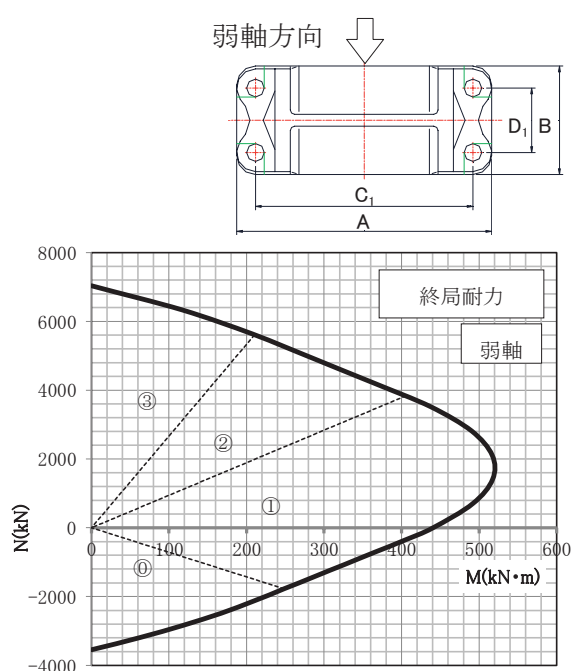
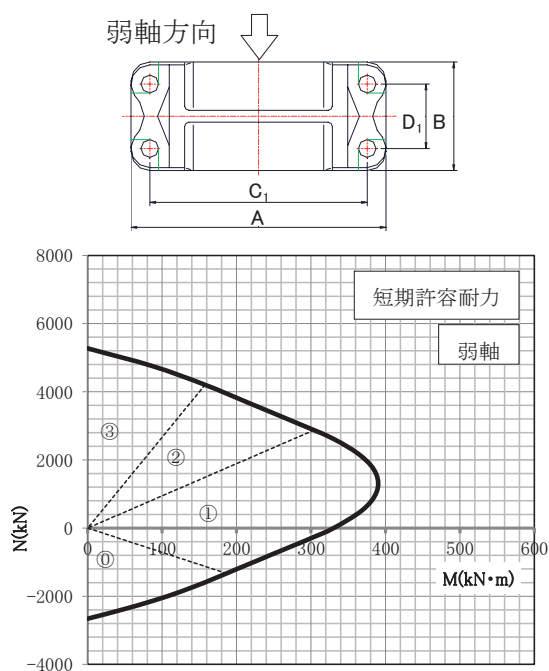
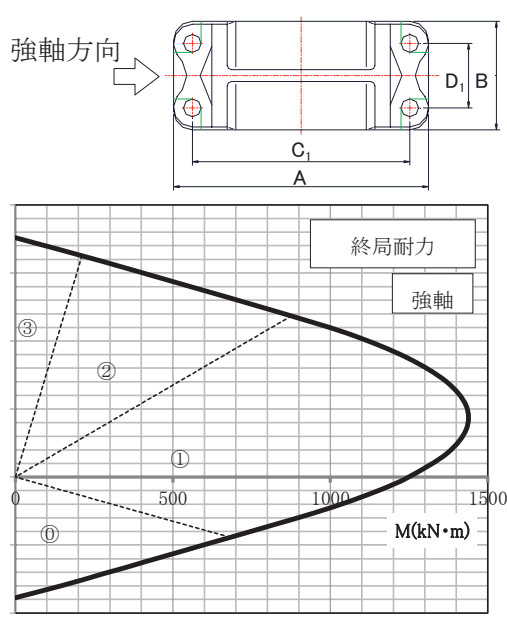
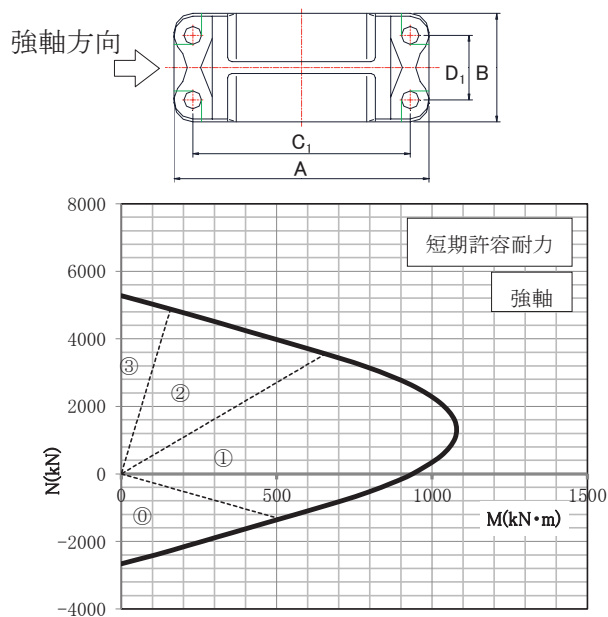
適用柱*1	H 形柱 H600×200 シリーズ, H600×250 シリーズ, H600×300 シリーズ
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	GH600 × 300-4-48	342	65.4	98.1	130.8	71.4	82.8	124.3	165.7	880	370	750	220



H 形柱用

* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

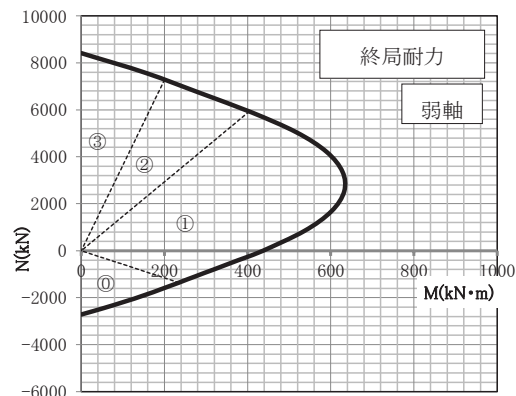
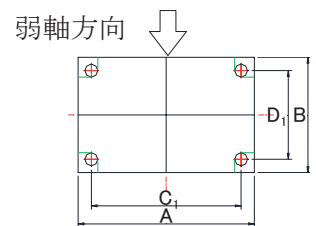
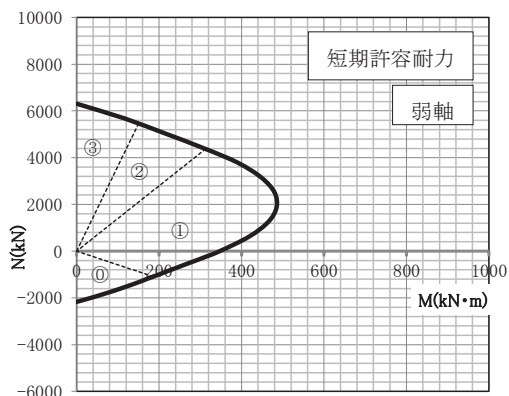
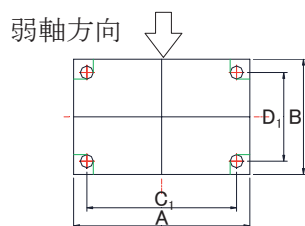
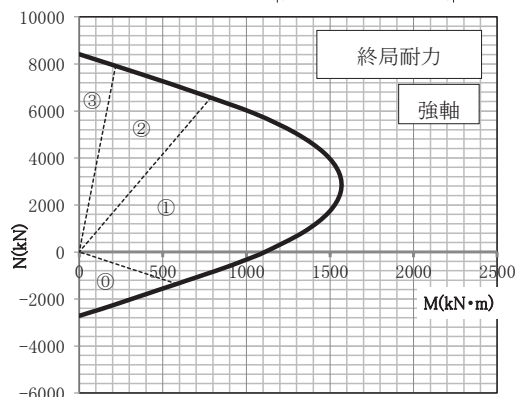
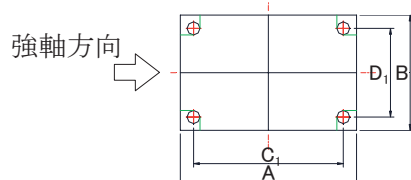
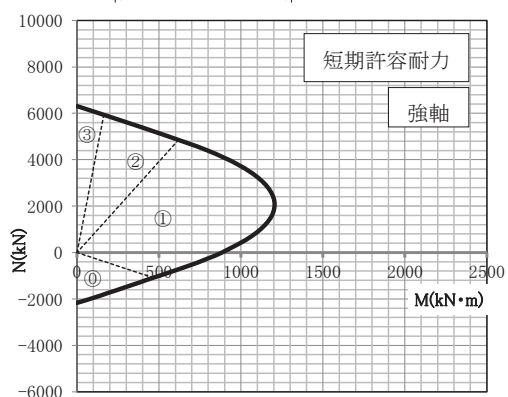
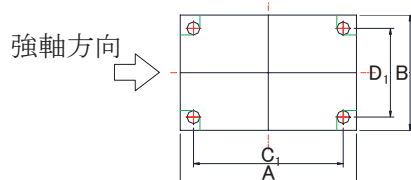
適用柱*1	H 形柱 H700×300 シリーズ
ベースプレート	エコタイプ(鋼板製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパー入型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	EH700×300-4-42	287	110.9	189.2	267.6	45.1	115.9	196.8	277.6	950	410	840	300



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

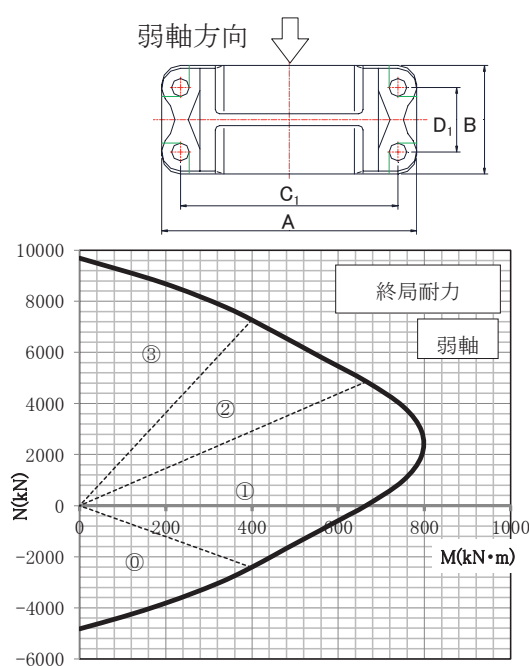
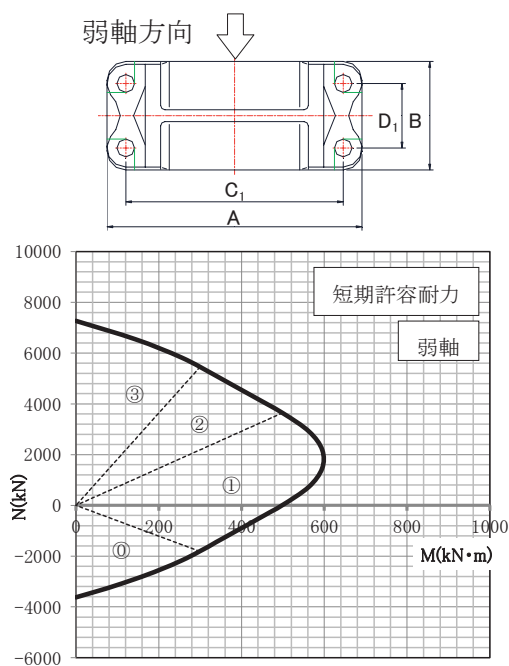
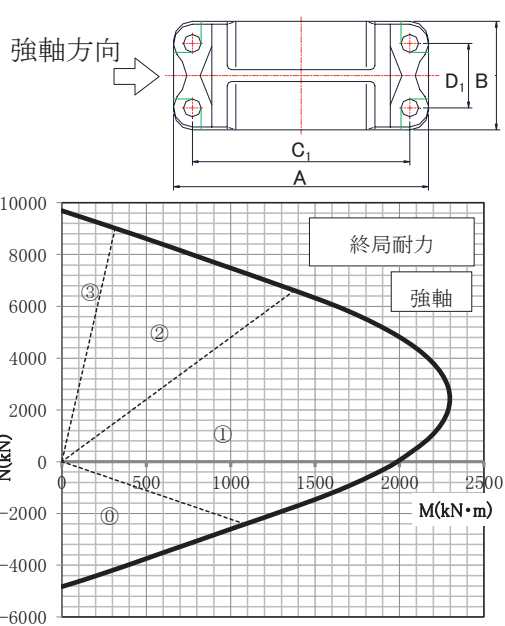
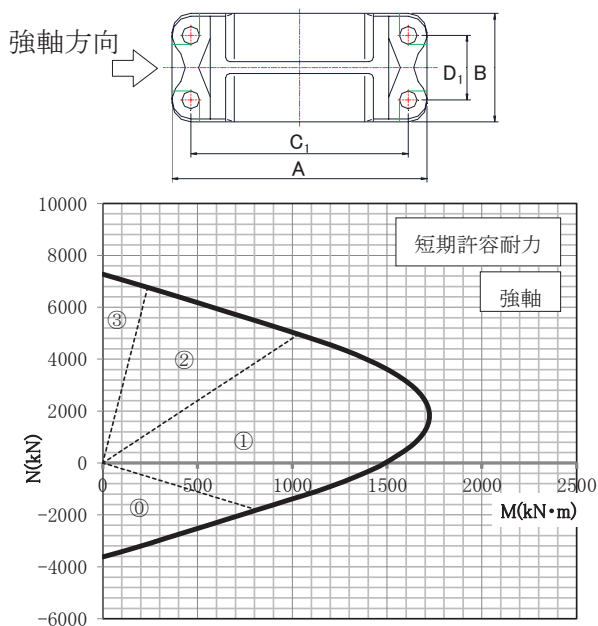
適用柱*1	H 形柱 H700×300 シリーズ, H700×350 シリーズ
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が F_c24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイパー型式	強軸				弱軸				A (mm)	B (mm)	C _i (mm)	D _i (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	GH700 × 300-4-56	540	65.4	98.1	130.8	97.6	82.8	124.3	165.7	1020	440	880	220



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <G タイプ(H800×300 シリーズ, H800×350 シリーズ, H800×400 シリーズ用)> (Fc=24N/mm² の場合)

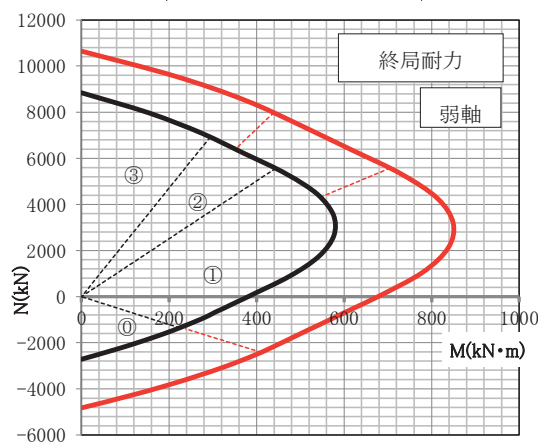
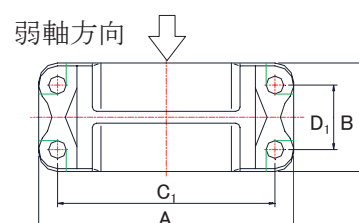
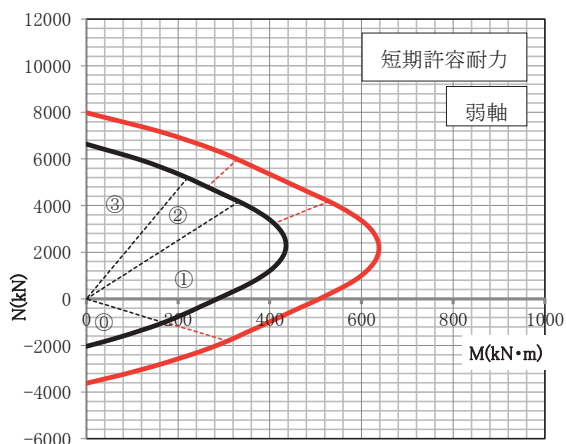
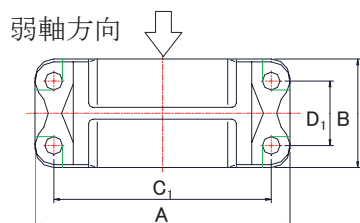
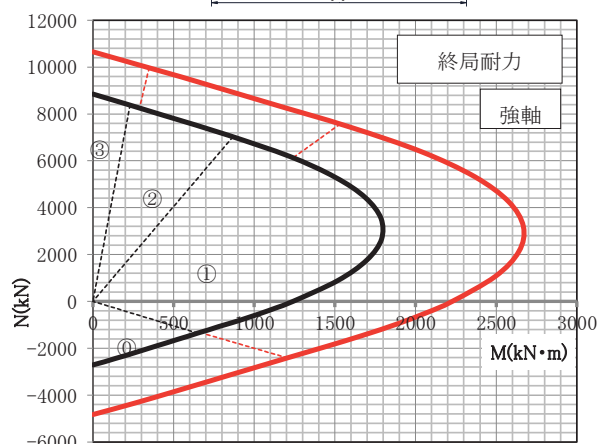
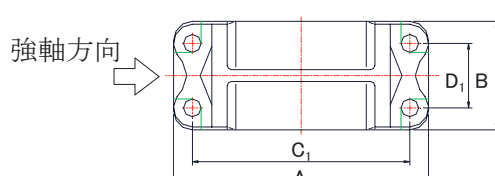
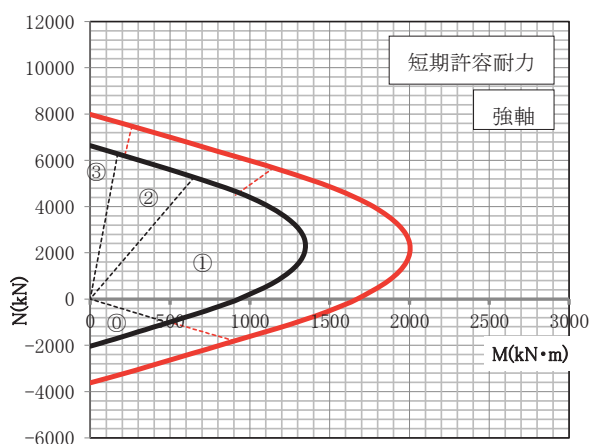
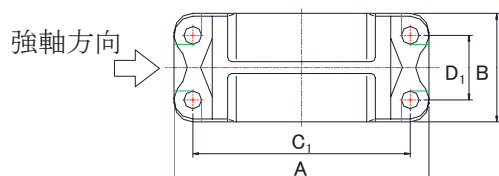
適用柱*1	H 形柱 H800×300 シリーズ, H800×350 シリーズ, H800×400 シリーズ
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

色	ハイベース型式	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	強軸			回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	弱軸			A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
			長期	短期	aQu (kN)		長期	短期	aQu (kN)				
—	GH800×300-4-42	478	61.9	92.9	123.9	82.1	76.4	114.6	152.9	1050	390	940	220
—	GH800×300-4-56	668	65.4	98.1	130.8	110	82.8	124.3	165.7	1120	440	980	220



* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

耐力図 <G タイプ(H900×300 シリーズ, H900×350 シリーズ, H900×400 シリーズ用)> (Fc=24N/mm² の場合)

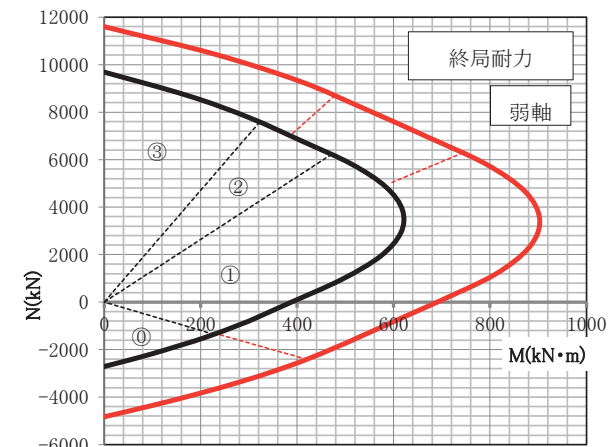
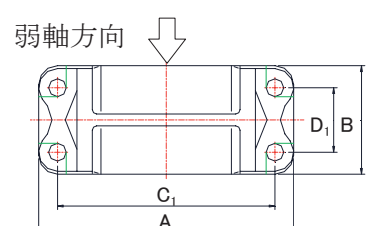
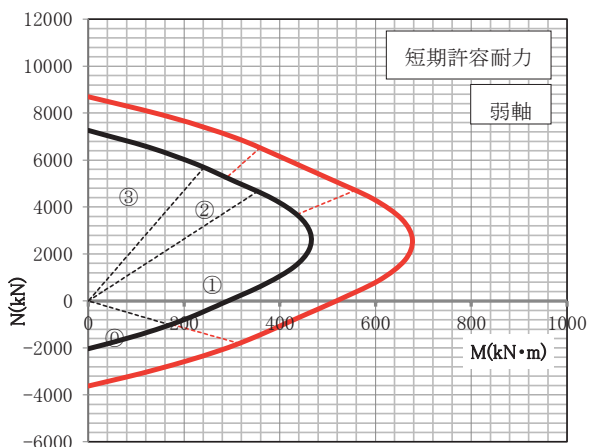
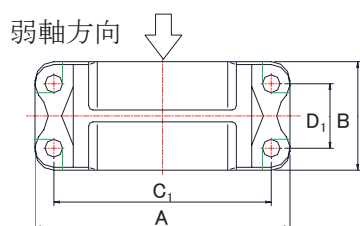
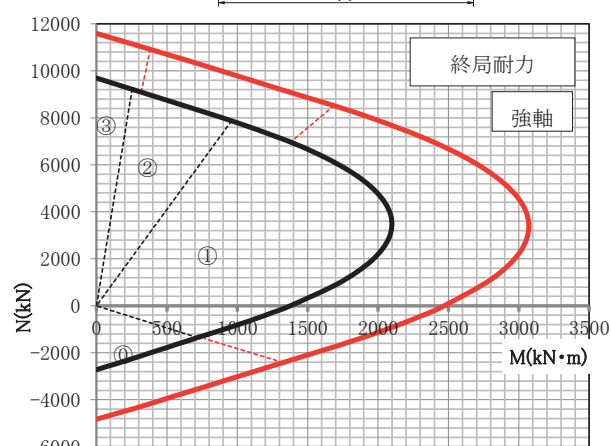
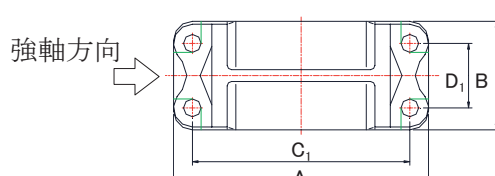
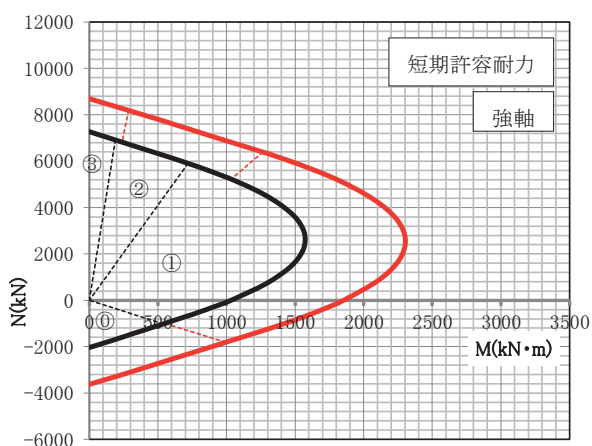
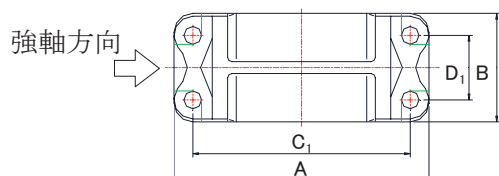
適用柱*1	H 形柱 H900×300 シリーズ, H900×350 シリーズ, H900×400 シリーズ
ベースプレート	G タイプ(鋳鋼製ベースプレート)
アンカーボルト	アンカーボルト 4 本タイプ

* コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

* 1 適用柱については、P.25～P.28 の H 形柱用適用可能柱サイズ(表 3.7～表 3.8)をご参照ください。

耐力図

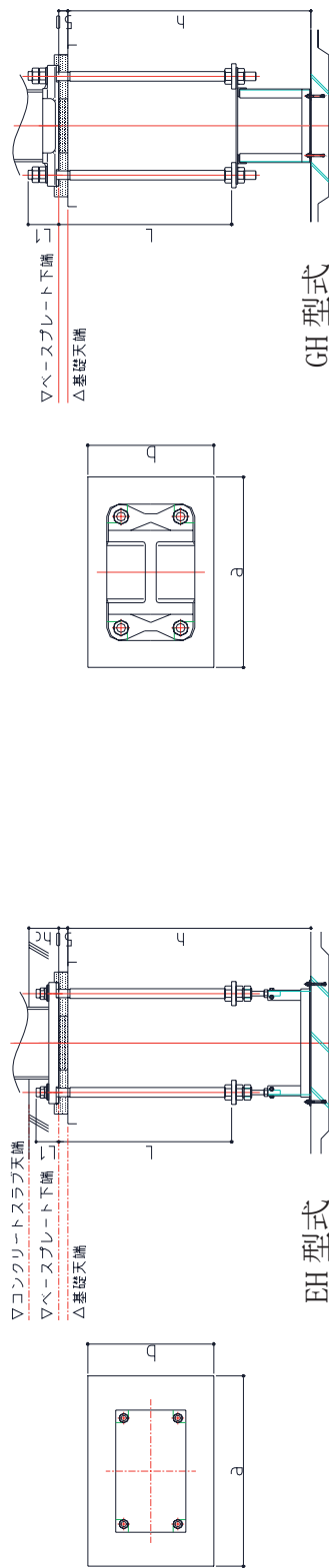
色	ハイベース型式	強軸					弱軸			A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)
		回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)	回転ばね定数 × 10 ³ kN・m/rad	aQa(kN)		aQu (kN)				
			長期	短期			長期	短期					
黒	GH900 × 300-4-42	606	61.9	92.9	123.9	96.8	76.4	114.6	152.9	1150	390	1040	220
赤	GH900 × 300-4-56	828	65.4	98.1	130.8	118	82.8	124.3	165.7	1220	440	1080	220



H 形柱用

* H 形柱用ハイベース NEO の基礎柱形設計例に関しては P.117～P.118 をご参照ください。

EH 型式・GH 型式の基礎柱形設計例 (H-150～H400, Fc24 の場合)



EH 型式

GH 型式

* ① I、II ゾーンの判定、②コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

ハイベース型式		L [mm]	L1 [mm]	hc [mm]	h [mm]	柱形サイズ (a × b) [mm]	〈側・隅柱用〉		〈中柱用〉 (柱形と天端が一致する基準はよりかな方向から取り付く場合のみを示す)		帯筋	鉄筋の 定着長さ Lt[mm]
							I ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺 × 短辺)	II ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺 × 短辺)	I ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺 × 短辺)	II ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺 × 短辺)		
〈エコタイプ〉	〈G タイプ〉											
EH150 × 150-4-24		480	99	150	700 以上	550 × 450	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D13@150(SD295)	220
EH175 × 175-4-24		480	99	150	700 以上	600 × 500	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D13@150(SD295)	220
EH200 × 200-4-24		480	103	150	700 以上	600 × 500	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D13@150(SD295)	220
EH250 × 250-4-24		480	103	150	700 以上	650 × 550	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D16(3 × 3, SD295)	D16(5 × 4, SD295)	D13@150(SD295)	210
EH250 × 250-4-30		600	118	160	800 以上	650 × 550	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D13@150(SD295)	310
EH300 × 300-4-30		600	118	160	800 以上	700 × 600	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D13@150(SD295)	300
EH300 × 300-4-36		720	129	180	950 以上	750 × 600	D22(4 × 3, SD345)	D22(5 × 4, SD345)	D22(3 × 3, SD345)	D22(5 × 4, SD345)	D13@150(SD295)	410
EH350 × 250-4-30		600	118	160	800 以上	750 × 650	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D13@150(SD295)	290
EH350 × 350-4-42		840	152	200	1100 以上	850 × 700	D25(4 × 3, SD345)	D25(5 × 5, SD345)	D25(3 × 3, SD345)	D25(5 × 5, SD345)	D13@100(SD295)	430
EH400 × 300-4-30		600	118	160	800 以上	800 × 650	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D19(3 × 3, SD345)	D19(5 × 4, SD345)	D13@100(SD295)	260
EH400 × 300-4-36		720	129	180	950 以上	850 × 650	D22(4 × 3, SD345)	D22(5 × 4, SD345)	D22(3 × 3, SD345)	D22(5 × 4, SD345)	D13@100(SD295)	350
EH400 × 400-4-42		840	147	200	1100 以上	900 × 750	D25(4 × 3, SD345)	D25(5 × 5, SD345)	D25(3 × 3, SD345)	D25(5 × 5, SD345)	D13@100(SD295)	420
	GH400 × 400-4-56	1120	194	-	1450 以上	1000 × 700	D29(4 × 5, SD390)	D29(5 × 6, SD390)	D29(3 × 4, SD390)	D29(5 × 6 SD390)	D13@100(SD295)	850

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎より天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行ってください。

注2) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎より内側の筋は D10@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれよりも大きくなる場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行ってください。

注3) h 寸法は杭がない場合は、杭がある場合は表中の h 寸法 + 100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

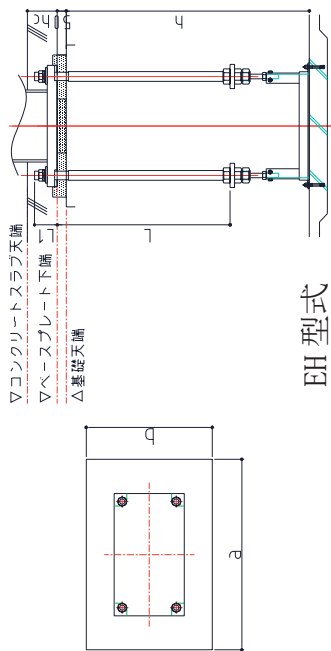
注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

注6) I ゾーン、II ゾーンの判定およびコンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

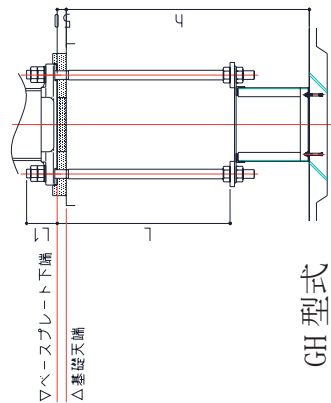
注7) エコタイプのアンカーボルトは一重ナットが標準です。ゆるみ止めのため、コンクリートスラブへの埋込みが必要で、二重ナット等のゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。

注8) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力 (aQaaQu) は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

EH 型式・GH 型式の基礎柱形設計例 (H-450～H900, Fc24 の場合)



EH 型式



GH 型式

* ① I、II ゾーンの判定、②コンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は、構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム】にて確認してください。

ハイベース型式		L [mm]	L1 [mm]	hc [mm]	h [mm]	柱形サイズ (a×b) [mm]	〈側・隅柱用〉		〈中柱用〉		帯筋	鉄筋の 定着長さ Lt[mm]
							I ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺×短辺)	II ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺×短辺)	I ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺×短辺)	II ゾーンの場合 基礎柱形主筋 (長辺×短辺)		
〈エコタイプ〉	〈G タイプ〉											
EH450×300-4-30		600	118	160	800 以上	850×650	D19(3×3, SD345)	D19(5×4, SD345)	D19(3×3, SD345)	D19(5×4, SD345)	D13@100(SD295)	260
EH450×300-4-42		840	152	200	1100 以上	950×650	D25(4×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D25(3×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D13@100(SD295)	450
EH500×300-4-30		600	118	160	800 以上	900×650	D19(4×3, SD345)	D19(5×4, SD345)	D19(4×3, SD345)	D19(5×4, SD345)	D13@100(SD295)	250
EH500×300-4-42		840	152	200	1100 以上	1000×650	D25(3×4, SD345)	D25(5×5, SD345)	D25(3×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D13@100(SD295)	480
EH600×300-4-36		720	129	180	950 以上	1050×650	D22(3×4, SD345)	D22(4×5, SD345)	D22(3×3, SD345)	D22(4×5, SD345)	D13@100(SD295)	390
EH700×300-4-42		960	173	-	1300 以上	1150×600	D29(3×3, SD390)	D29(5×4, SD390)	D29(3×3, SD390)	D29(5×4, SD390)	D16@100(SD295)	510
		840	152	200	1100 以上	1200×650	D25(4×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D25(3×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D16@100(SD295)	340
		1120	207	-	1450 以上	1300×600	D29(5×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D29(4×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D16@100(SD295)	670
		840	151	-	1100 以上	1300×600	D25(3×4, SD345)	D25(5×5, SD345)	D25(3×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D16@100(SD295)	500
		1120	207	-	1450 以上	1400×600	D29(5×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D29(4×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D16@100(SD295)	710
		840	151	-	1100 以上	1400×600	D25(3×4, SD345)	D25(5×5, SD345)	D25(3×3, SD345)	D25(5×5, SD345)	D16@100(SD295)	520
		1120	207	-	1450 以上	1500×600	D29(5×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D29(4×4, SD390)	D29(6×5, SD390)	D16@100(SD295)	740

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合 (基礎ばり天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第 4 章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行ってください。

注2) 〈中柱用〉の鉄筋量は、基礎ばり内のあばら筋は D10@250 として算定しています。あばら筋断面面積がこれより小さくなる場合、あばら筋間隔がこれより大きくなる場合は〈側・隅柱用〉の鉄筋量として下さい。

注3) h 寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中の h 寸法+100mm 以上確保して下さい。

注4) アンカーボルト設置用架台は一例です。アンカーボルトサイズや杭の有無など諸条件により形状が異なります。

注5) 鉄筋の定着長さ Lt(P.43 参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

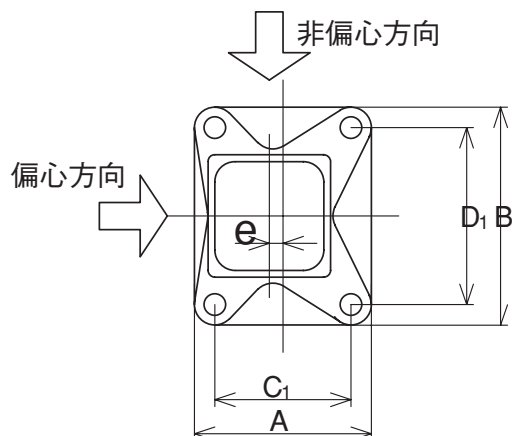
注6) I ゾーン、II ゾーンの判定およびコンクリート設計基準強度が Fc24 以外の場合は【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

注7) エコタイプのアンカーボルトは二重ナットが標準です。ゆるみ止め処置を行う場合は、センクシアにご相談ください。

注8) エコタイプでコンクリートスラブへの埋込みが無い場合、せん断耐力 (aQaaQu) は上記の値と異なります。その場合は、センクシアにお問合せください。

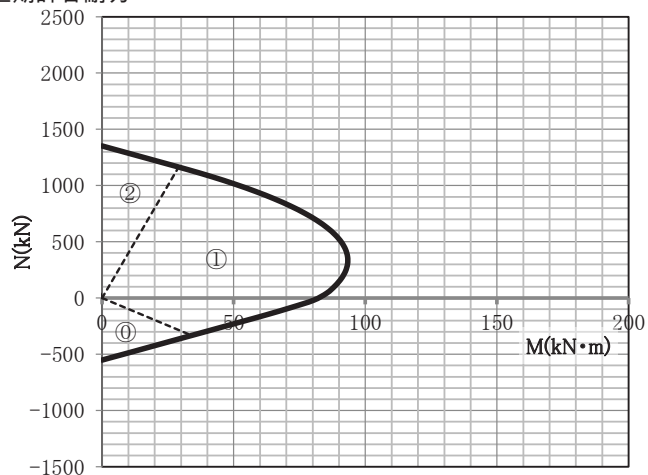
耐力図 <一方向偏心タイプ (□200×200用)> (Fc=24N/mm²の場合)

色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS200-S1-24	310	330	250	270	30	35	19.9	21.3



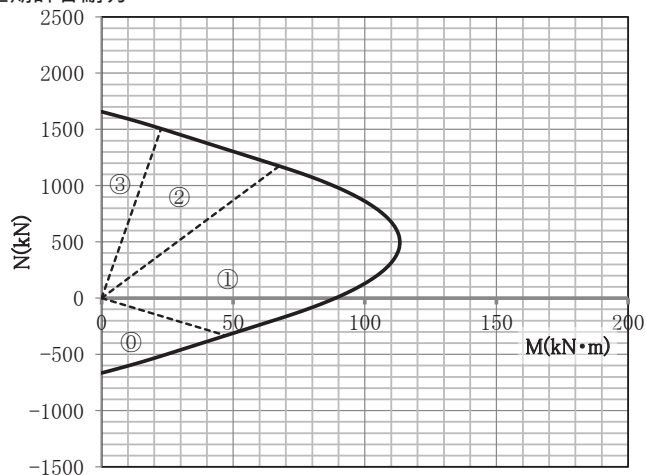
偏心方向

短期許容耐力

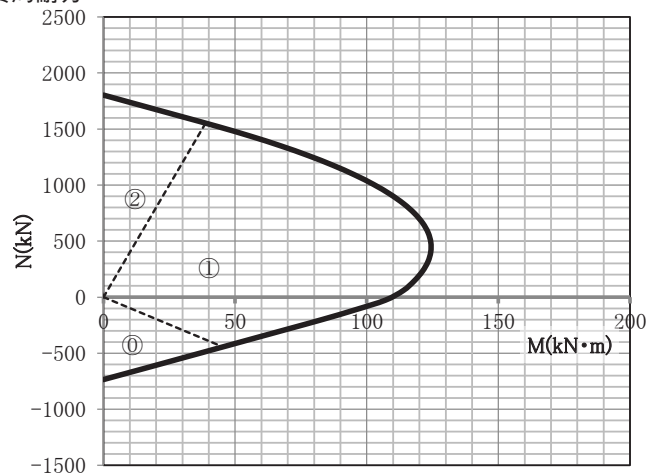


非偏心方向

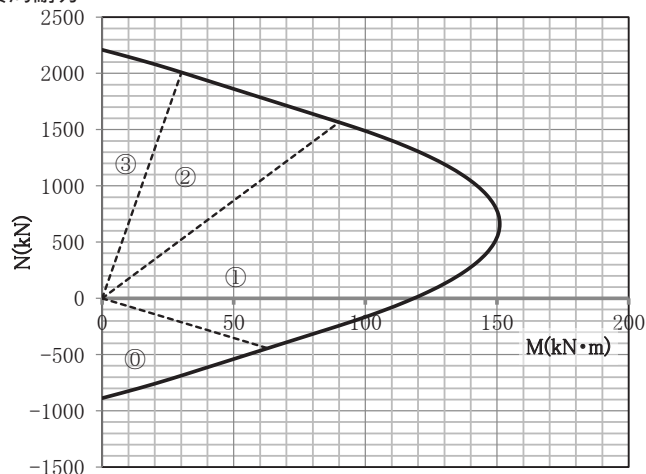
短期許容耐力



終局耐力

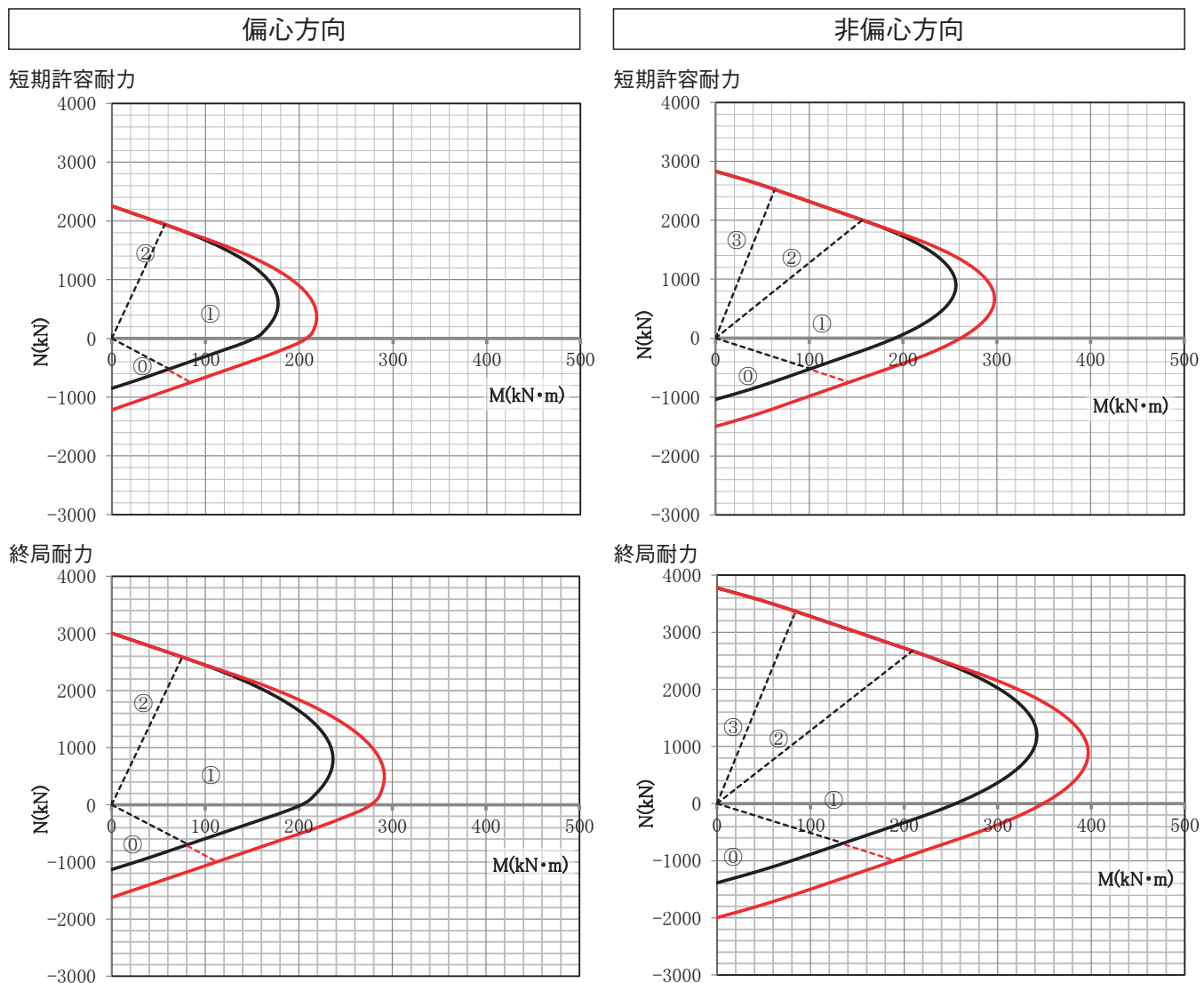
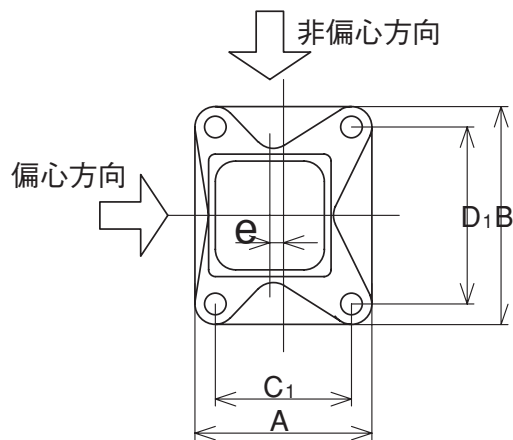


終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅢゾーンについてはP.43をご参照ください。

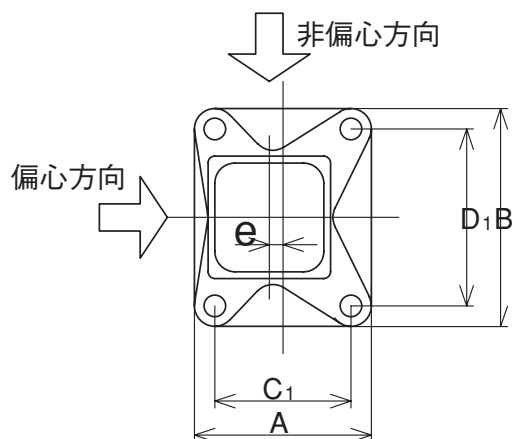
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS250-S1-30	380	460	280	360	40	72	35.7	46.3
—	BS250-S1-36	380	460	280	360	40	72	43.1	56.5



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□300×300用)> (Fc=24N/mm²の場合)

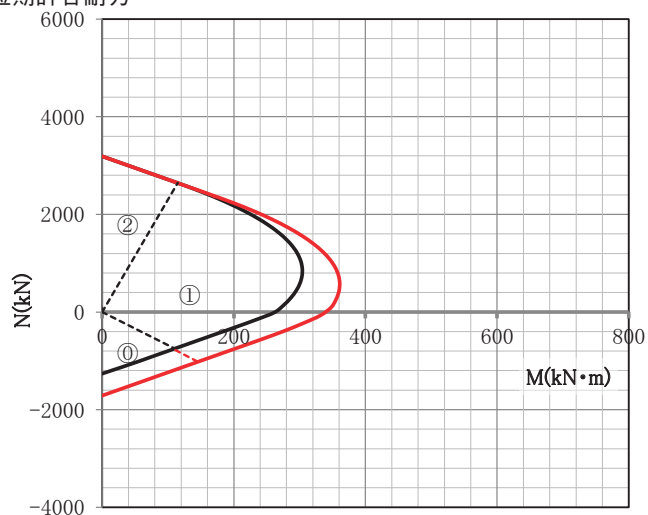
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS300-S1-36	450	530	340	420	40	112	54.4	75.5
—	BS300-S1-42	450	530	340	420	40	112	73.0	90.0



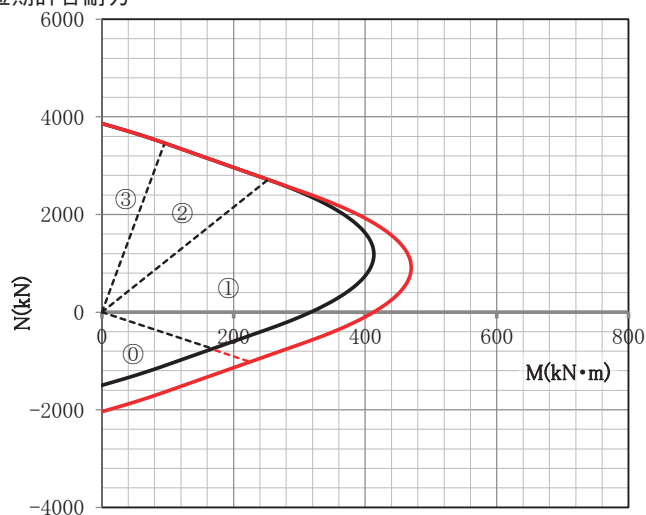
偏心方向

非偏心方向

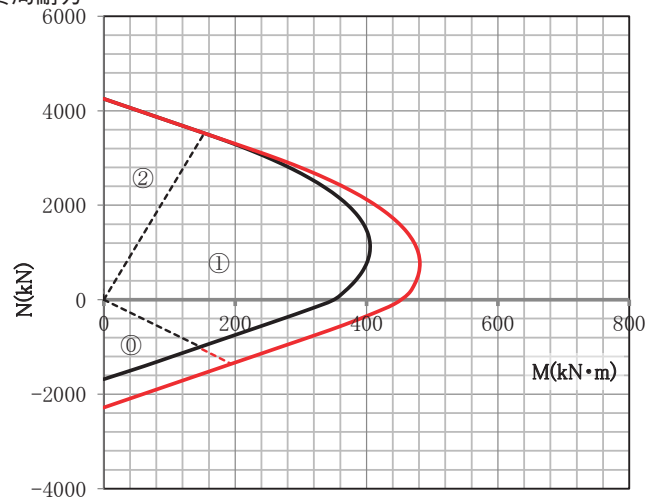
短期許容耐力



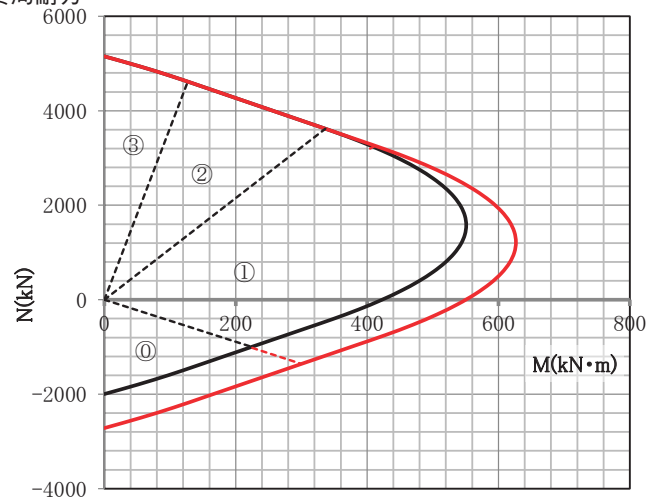
短期許容耐力



終局耐力



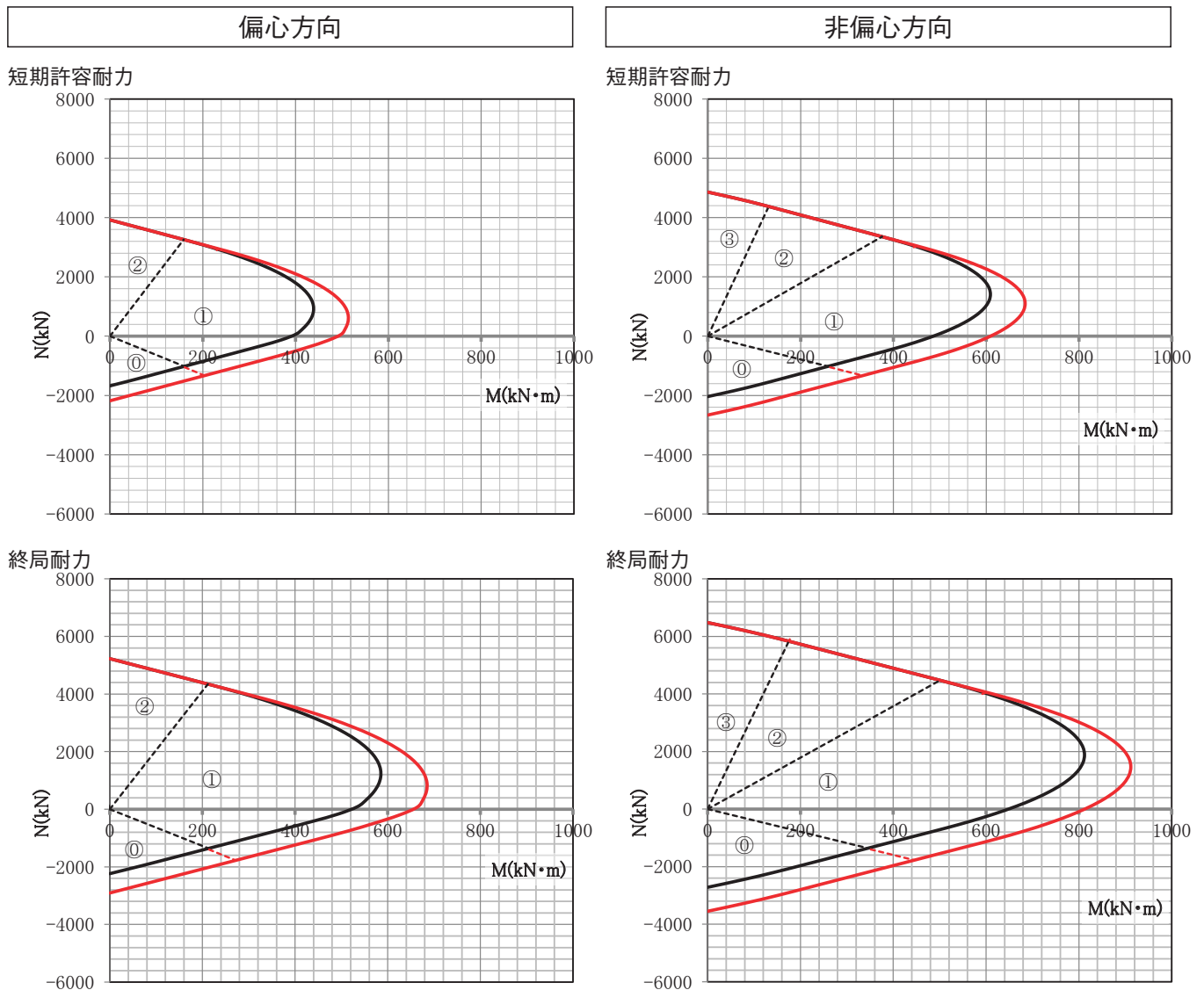
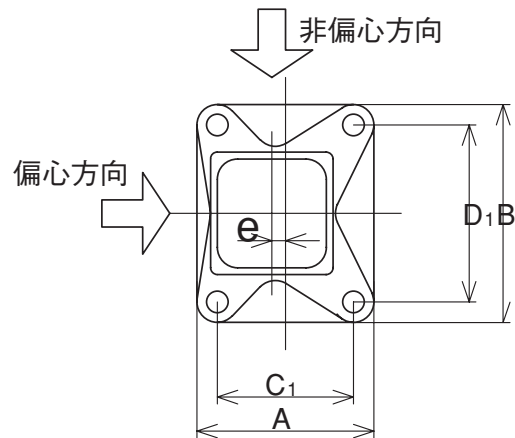
終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅢゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□350×350用)> (Fc=24N/mm²の場合)

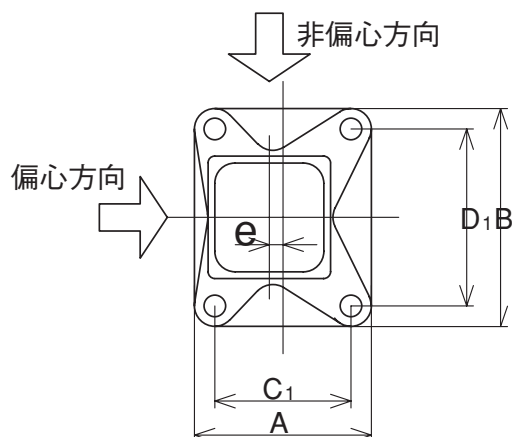
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS350-S1-42	500	600	380	480	50	155	79.8	115
—	BS350-S1-48	500	600	380	480	50	155	103	134



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
- 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
- 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□400×400用)> (Fc=24N/mm²の場合)

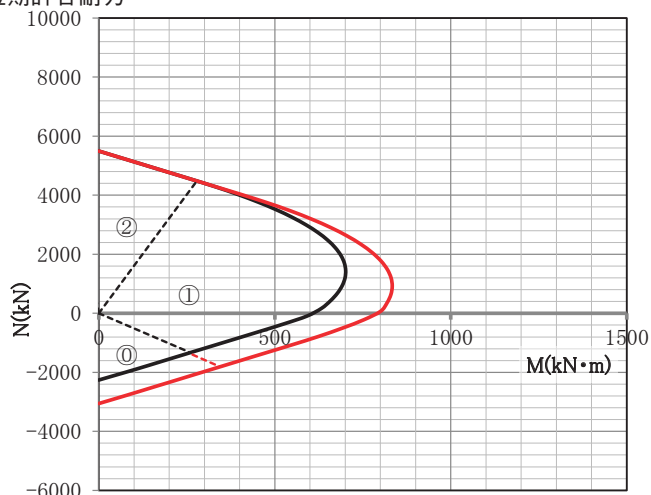
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS400-S1-48	590	690	450	550	50	240	126	172
—	BS400-S1-56	590	690	450	550	50	240	158	205



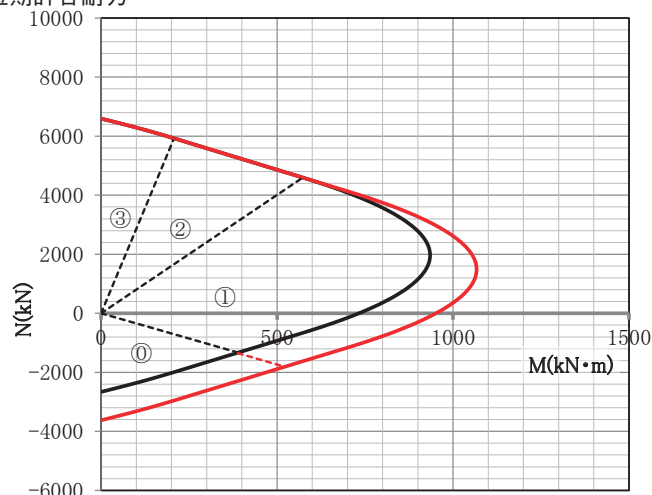
偏心方向

非偏心方向

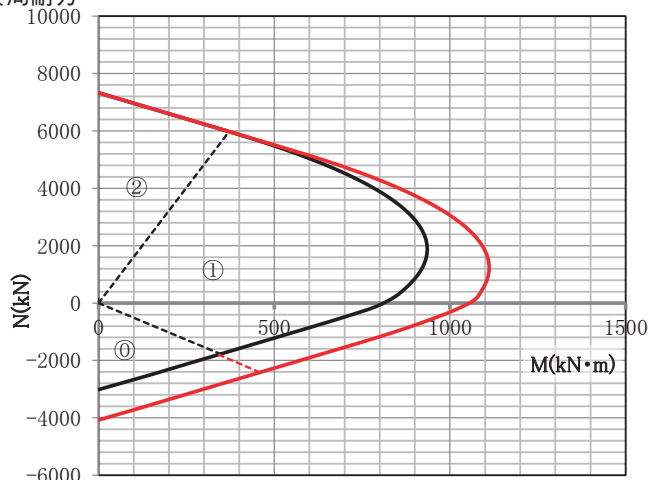
短期許容耐力



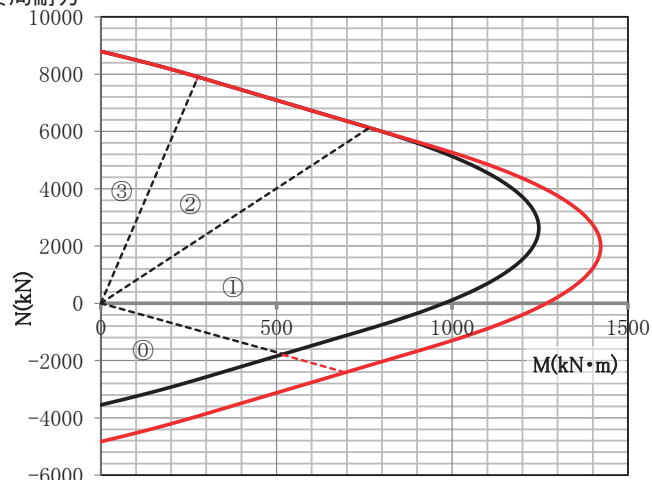
短期許容耐力



終局耐力

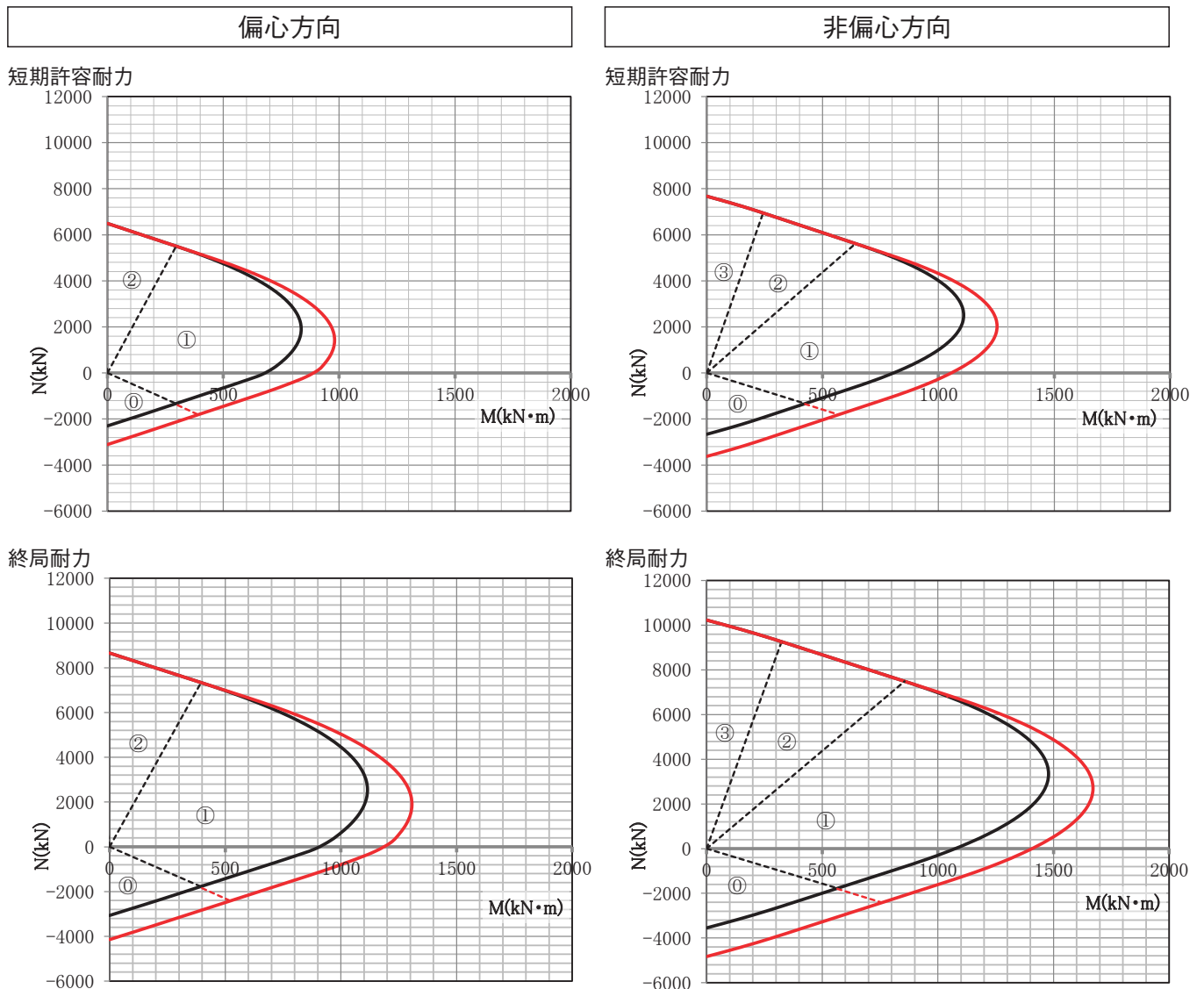
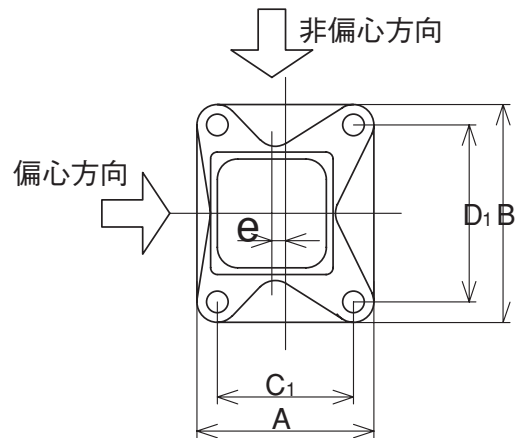


終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

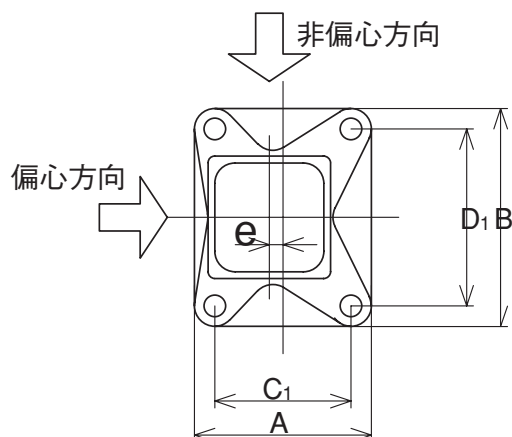
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS450-S1-48	640	740	500	600	50	277	154	204
—	BS450-S1-56	640	740	500	600	50	277	182	242



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) IゾーンとIIゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□500×500用)> (Fc=24N/mm²の場合)

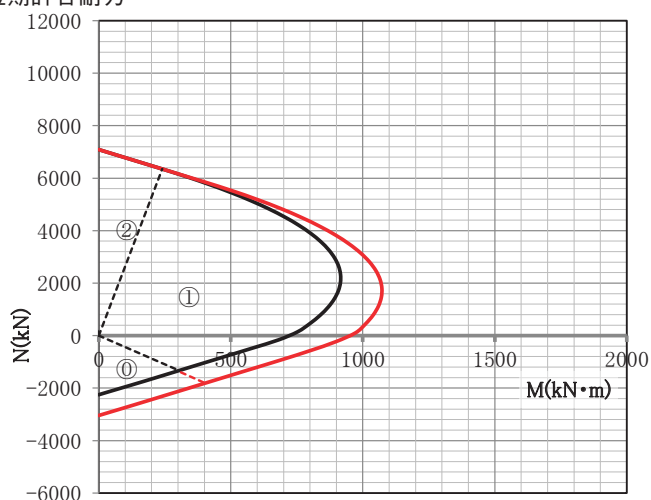
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS500-S1-48	670	790	530	650	60	310	177	241
—	BS500-S1-56	670	790	530	650	60	310	207	283



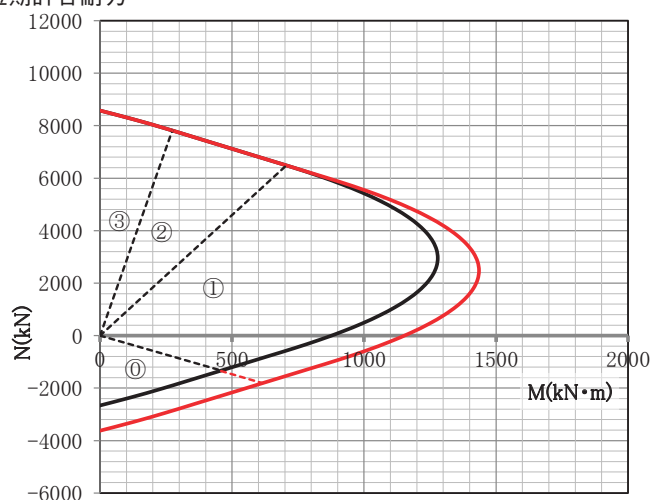
偏心方向

非偏心方向

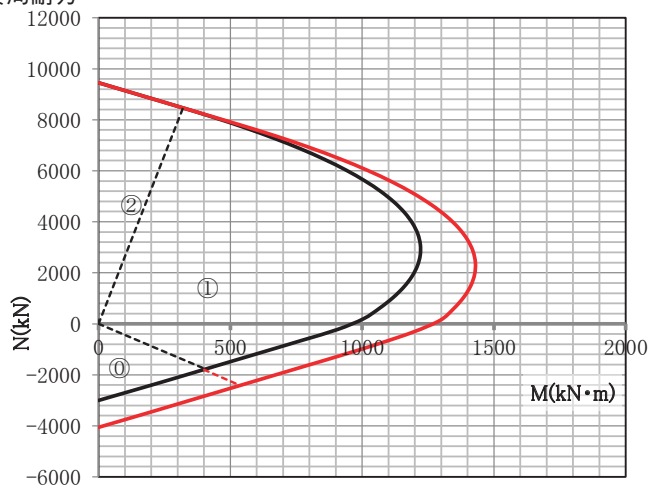
短期許容耐力



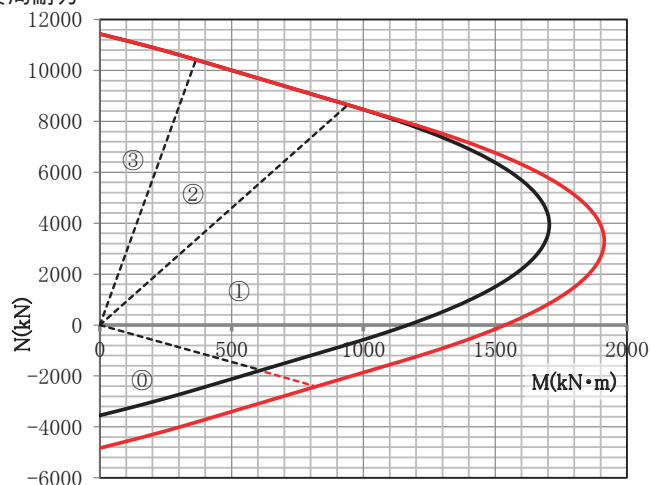
短期許容耐力



終局耐力

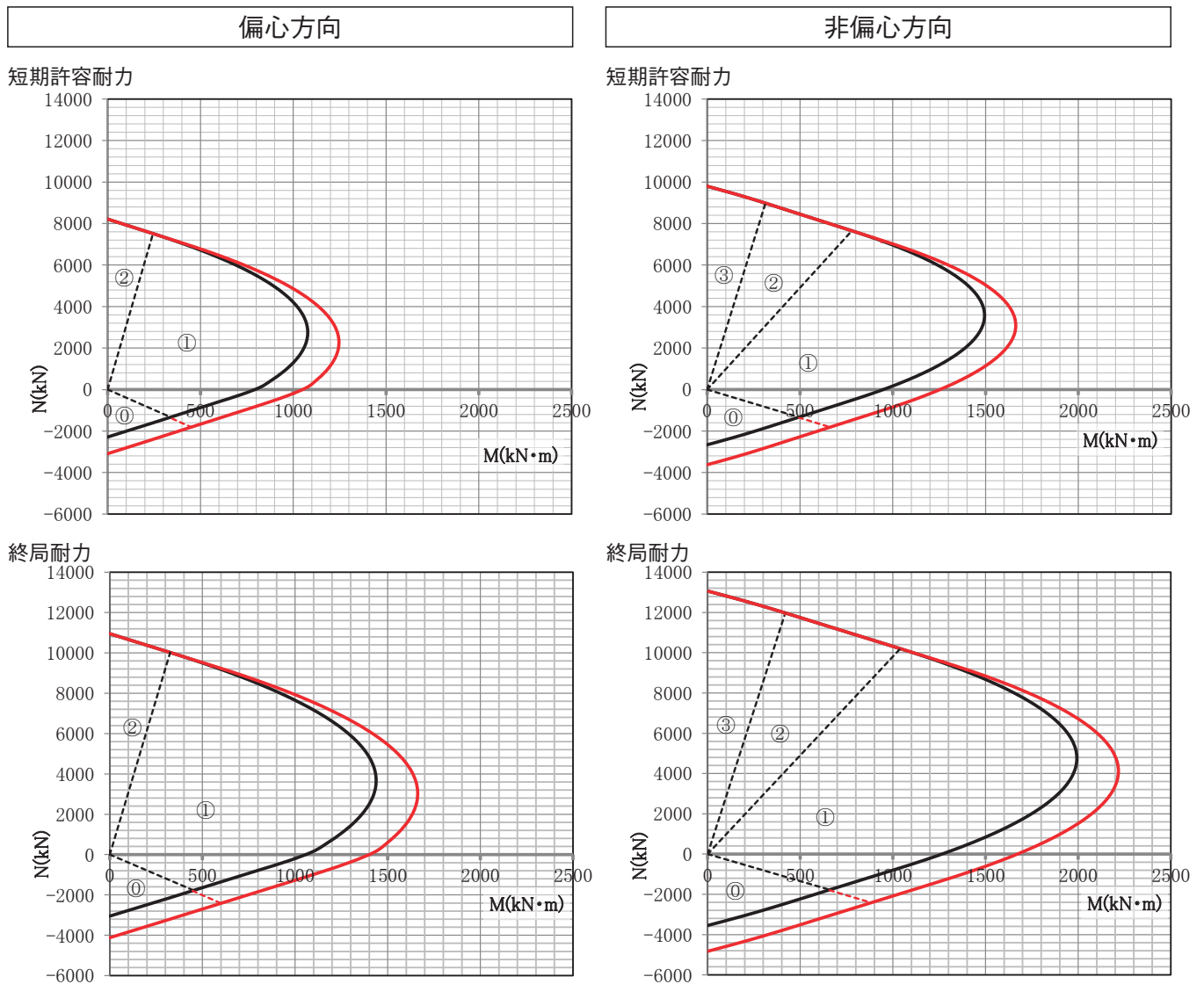
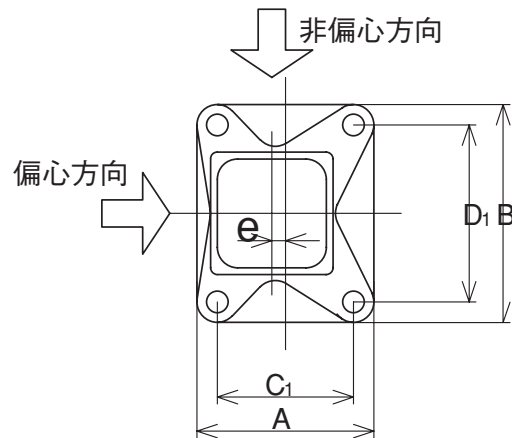


終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

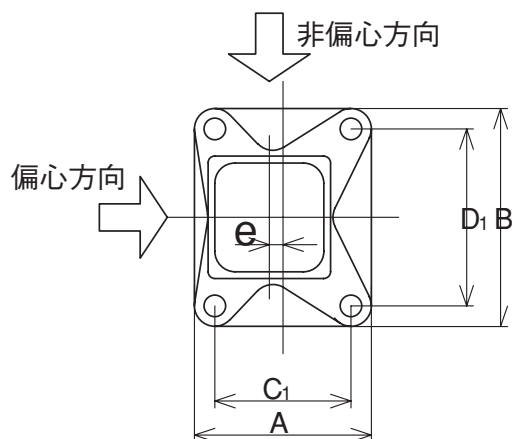
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS550-S1-48	720	840	580	700	60	355	220	281
—	BS550-S1-56	720	840	580	700	60	355	251	330



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
- 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
- 注3) IゾーンとIIゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□600×600用)> (Fc=24N/mm²の場合)

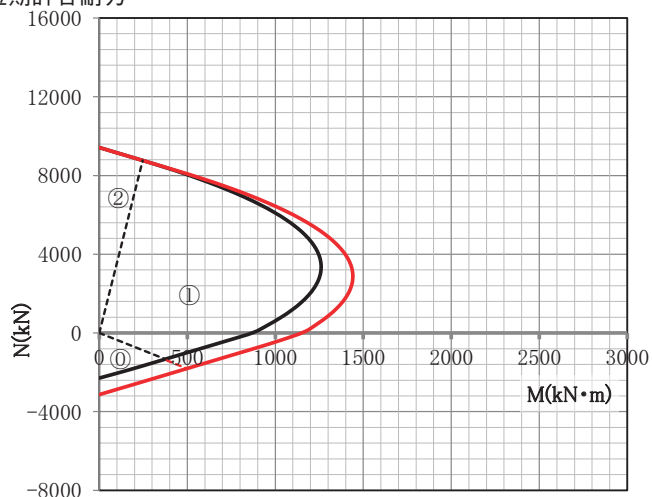
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS600-S1-48	770	890	630	750	60	410	249	326
—	BS600-S1-56	770	890	630	750	60	410	295	384



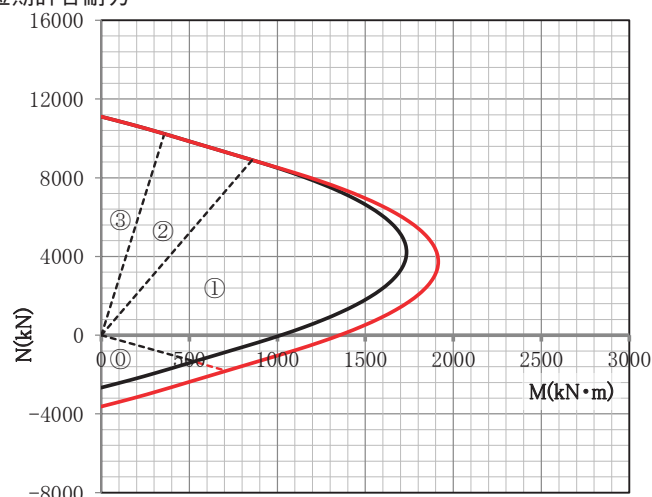
偏心方向

非偏心方向

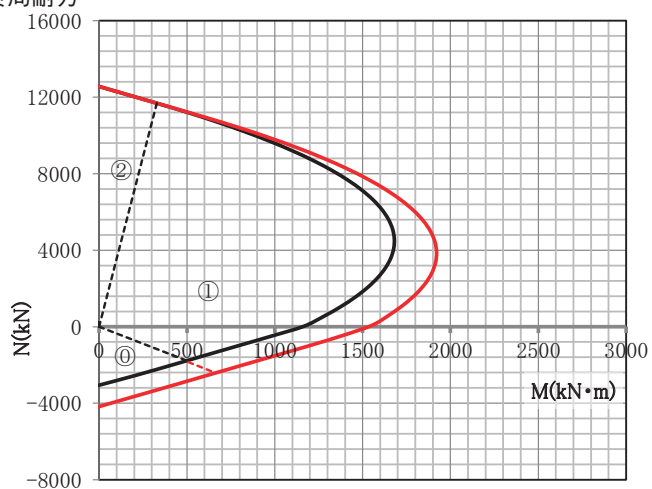
短期許容耐力



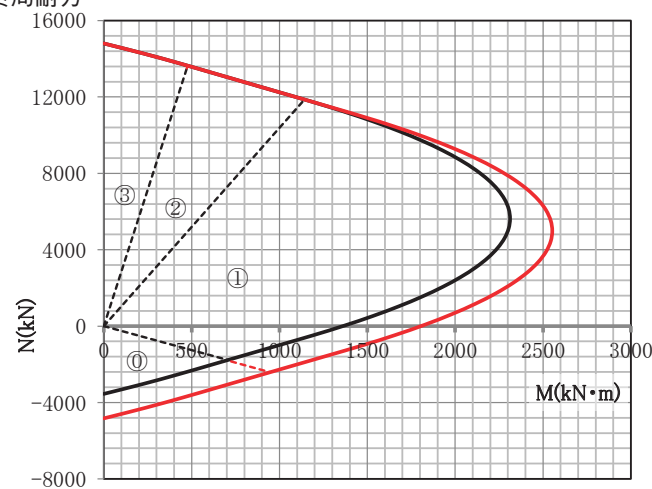
短期許容耐力



終局耐力



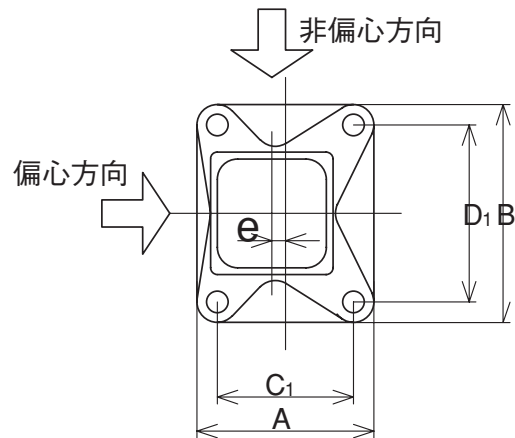
終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□650×650用)> (Fc=24N/mm²の場合)

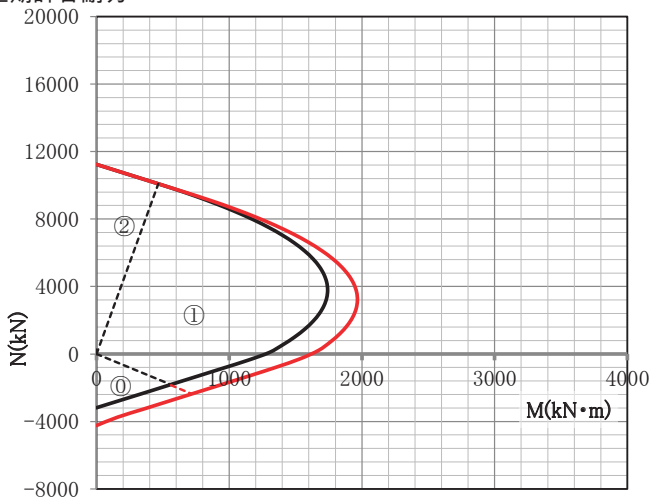
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS650-S1-56	840	960	690	810	60	528	350	447
—	BS650-S1-64	840	960	690	810	60	528	404	516



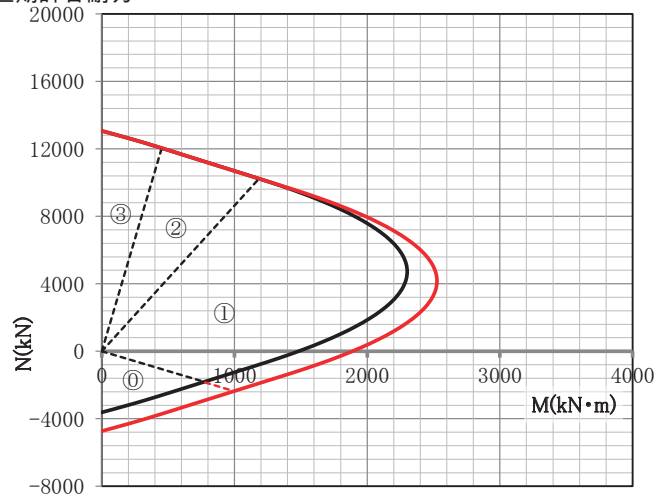
偏心方向

非偏心方向

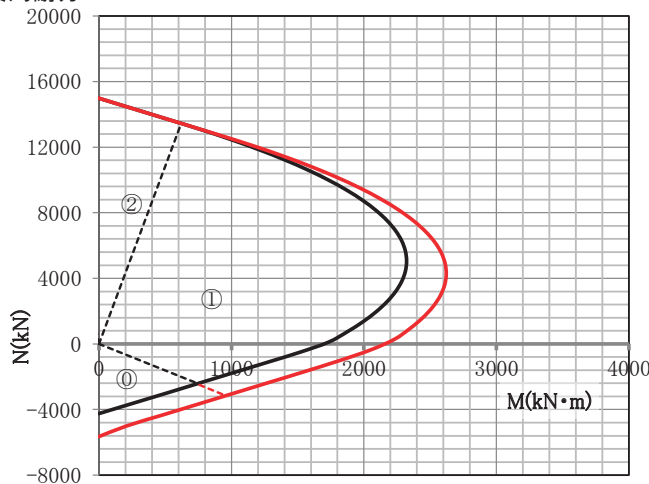
短期許容耐力



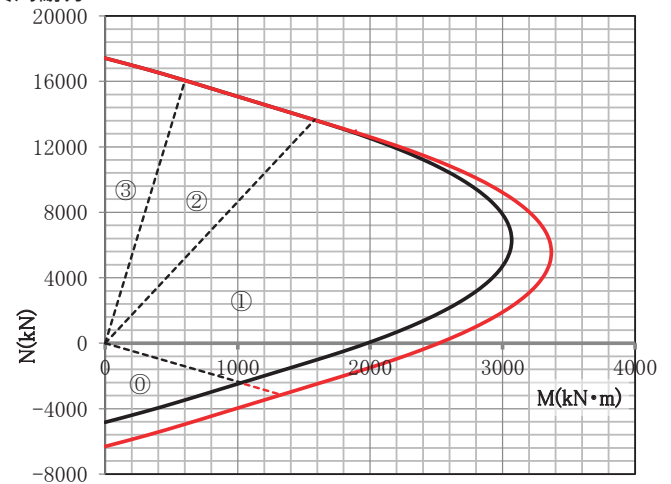
短期許容耐力



終局耐力



終局耐力

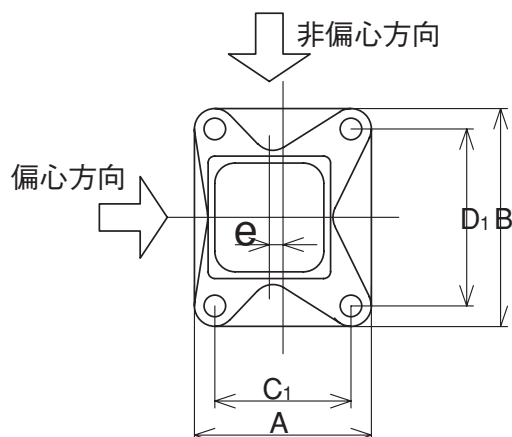


角形鋼管柱偏心用

- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

耐力図 <一方向偏心タイプ (□700×700用)> (Fc=24N/mm²の場合)

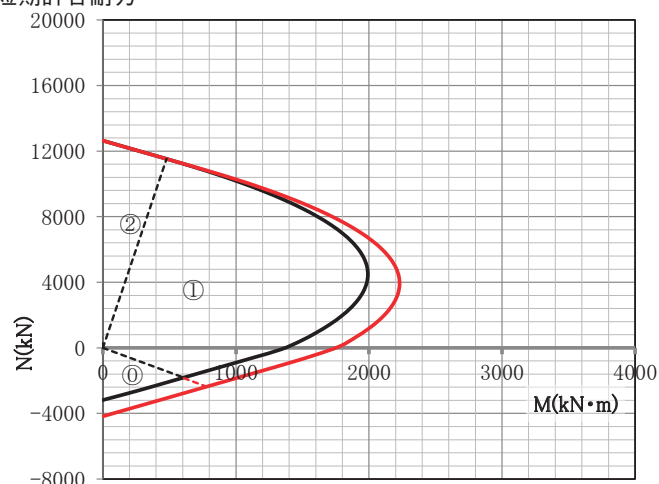
色	ハイベース型式	A (mm)	B (mm)	C ₁ (mm)	D ₁ (mm)	e (mm)	質量 (kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)	
								偏心方向	非偏心方向
—	BS700-S1-56	890	1010	740	860	60	594	405	506
—	BS700-S1-64	890	1010	740	860	60	594	463	583



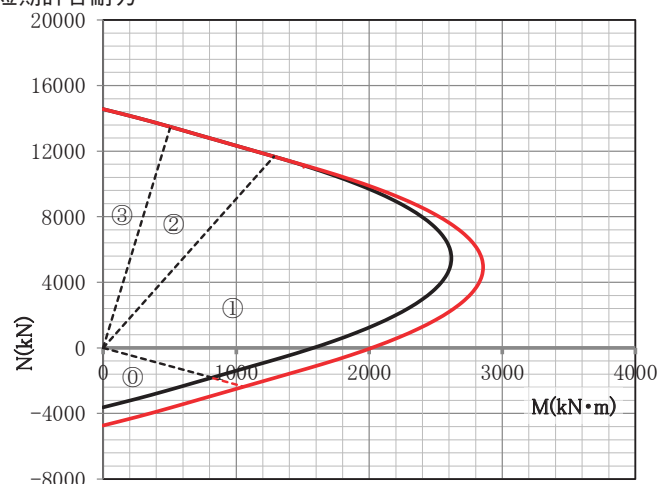
偏心方向

非偏心方向

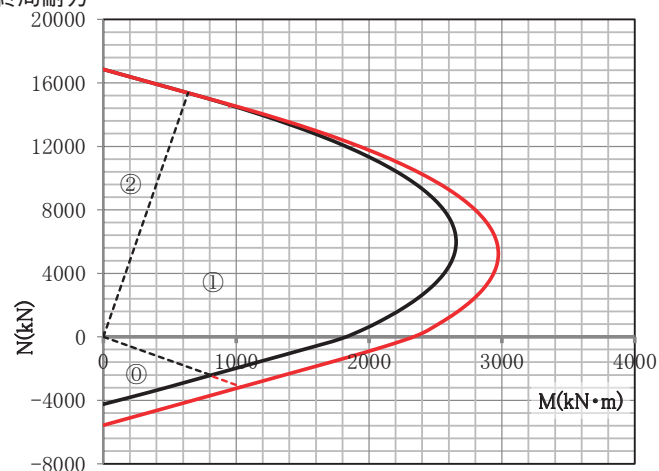
短期許容耐力



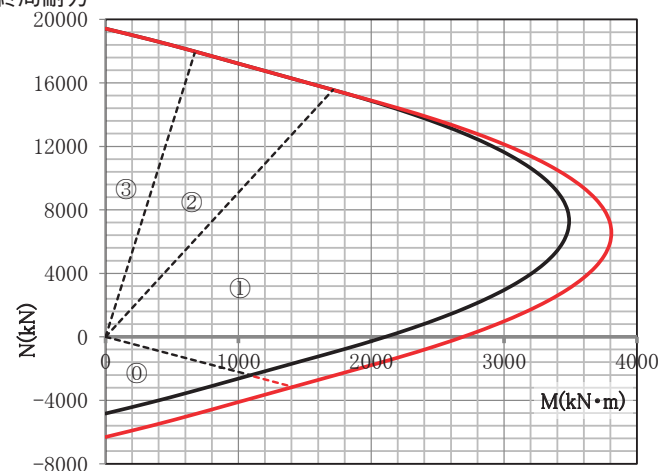
短期許容耐力



終局耐力

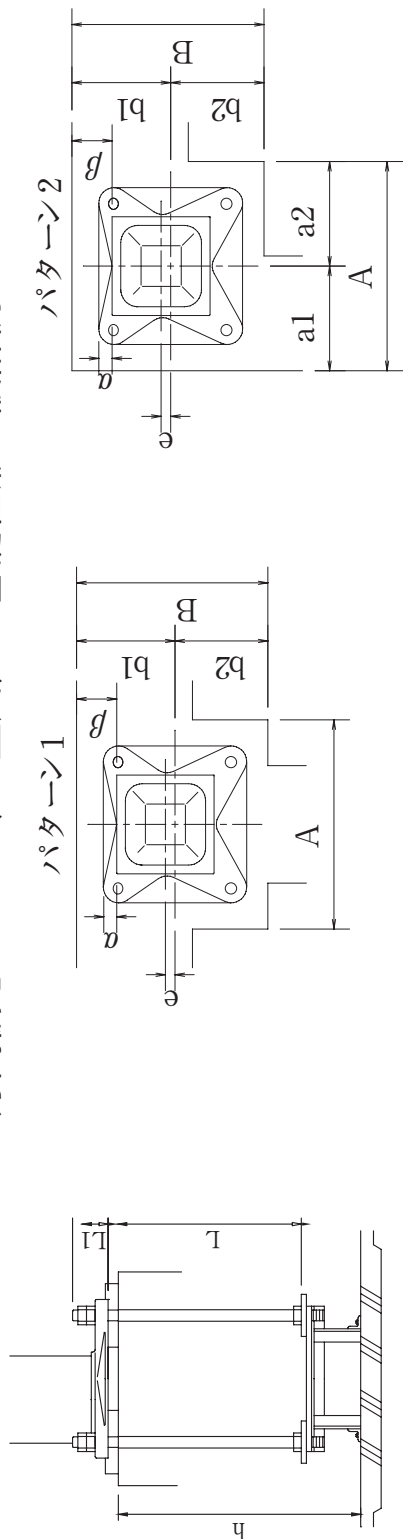


終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

一方向偏心タイプ (BS型式) の基礎柱形の設計例



単位:mm

ハバース型式	偏心量 e	L	L1	h	α	β	パターン1				パターン2				基礎柱形主筋		帯筋 鉄筋量	鉄筋の 定着長さ
							A×B	b1	b2	A×B	a1	a2	b1	b2	□ゾーンの 場合	■ゾーンの 場合		
BS200-S1-24	30	480	101	700以上	25	130	510×520	260	260	540×520	270	270	260	260	8-D16(SD295)	16-D16(SD295)	D13@150(SD295)	230
BS250-S1-30	40	600	134	820以上	25	115	620×560	280	280	640×560	320	320	280	280	12-D19(SD345)	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	340
BS250-S1-36	40	720	147	940以上	25	120	630×570	285	285	650×570	325	325	285	285	12-D22(SD345)	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	430
BS300-S1-36	40	720	157	940以上	35	125	690×630	315	315	710×630	355	355	315	315	12-D22(SD345)	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	420
BS300-S1-42	40	840	172	1070以上	35	135	720×650	325	325	730×650	365	365	325	325	12-D25(SD345)	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	520
BS350-S1-42	50	840	181	1070以上	25	120	780×690	345	345	790×690	395	395	345	345	12-D25(SD345)	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	510
BS350-S1-48	50	960	193	1200以上	25	120	780×690	345	345	790×690	395	395	345	345	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@150(SD295)	610
BS400-S1-48	50	960	207	1200以上	45	130	850×760	380	380	860×760	430	430	380	380	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
BS400-S1-56	50	1120	223	1360以上	45	140	880×780	390	390	880×780	440	440	390	390	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	700
BS450-S1-48	50	960	204	1200以上	45	130	900×810	405	405	910×810	455	455	405	405	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
BS450-S1-56	50	1120	220	1360以上	45	140	930×830	415	415	930×830	465	465	415	415	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	690
BS500-S1-48	60	960	202	1200以上	25	110	950×840	420	420	960×840	480	480	420	420	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	510
BS500-S1-56	60	1120	218	1360以上	25	120	980×860	430	430	980×860	490	490	430	430	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670
BS550-S1-48	60	960	200	1200以上	25	110	1000×890	445	445	1010×890	505	505	445	445	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	500
BS550-S1-56	60	1120	216	1360以上	25	120	1030×910	455	455	1030×910	515	515	455	455	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	660
BS600-S1-48	60	960	198	1200以上	25	110	1050×940	470	470	1060×940	530	530	470	470	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	490
BS600-S1-56	60	1120	214	1360以上	25	120	1080×960	480	480	1080×960	540	540	480	480	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
BS650-S1-56	60	1120	228	1370以上	35	120	1130×1010	505	505	1130×1010	565	565	505	505	24-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	630
BS650-S1-64	60	1280	247	1530以上	35	130	1140×1030	515	515	1150×1030	575	575	515	515	24-D25(SD345)	36-D25(SD345)	D16@100(SD295)	710
BS700-S1-56	60	1120	225	1370以上	35	120	1180×1060	530	530	1180×1060	590	590	530	530	24-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	620
BS700-S1-64	60	1280	244	1530以上	35	130	1190×1080	540	540	1200×1080	600	600	540	540	24-D25(SD345)	36-D25(SD345)	D16@100(SD295)	700

注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎より天端と基礎柱形天端が一致する場合)の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

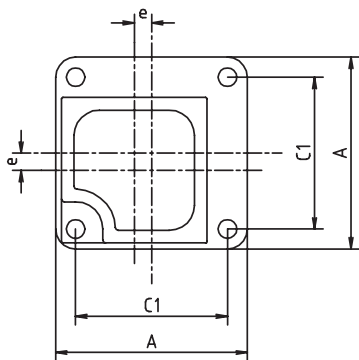
注2) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。注3) α は柱端面からベースプレート端までの距離です。

注4) β は柱端面から基礎端面までの距離です。注5) 鉄筋の定着長さL(P.43参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)

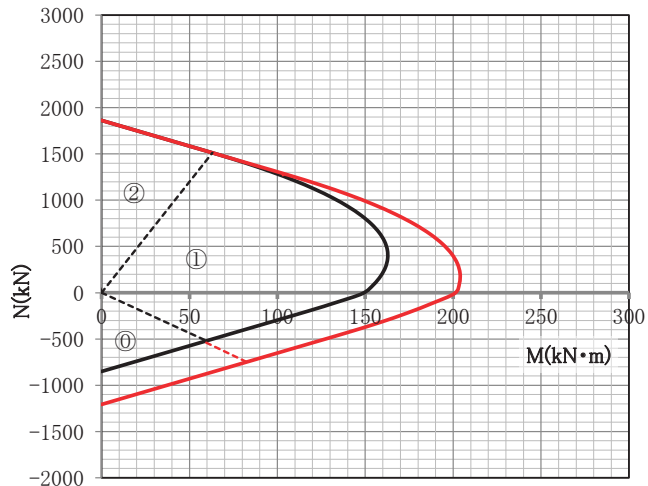
注6) □ゾーン、■ゾーンの判定およびコンクリート設計基準強度がFc24以外の場合は、【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

□250×250用

色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC250-S1-30	380	280	40	120	35.7
—	BC250-S1-36	380	280	40	120	43.1

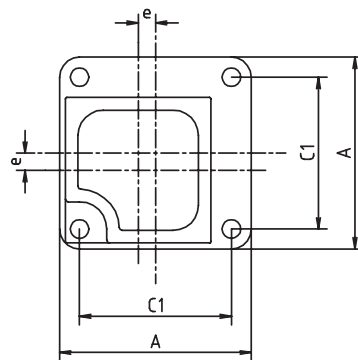


短期許容耐力

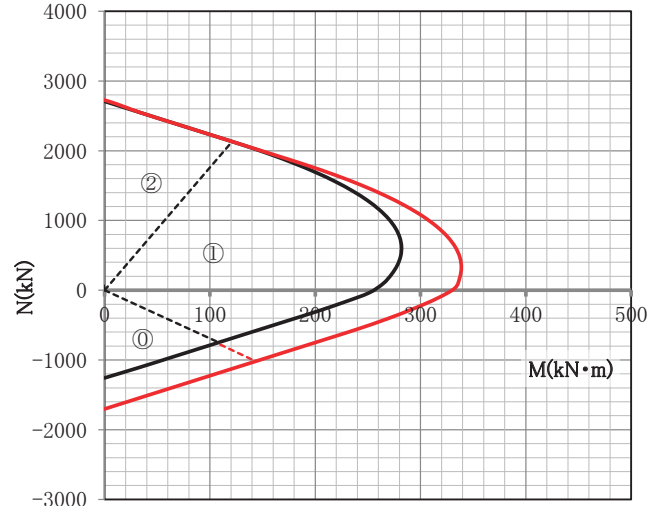


□300×300用

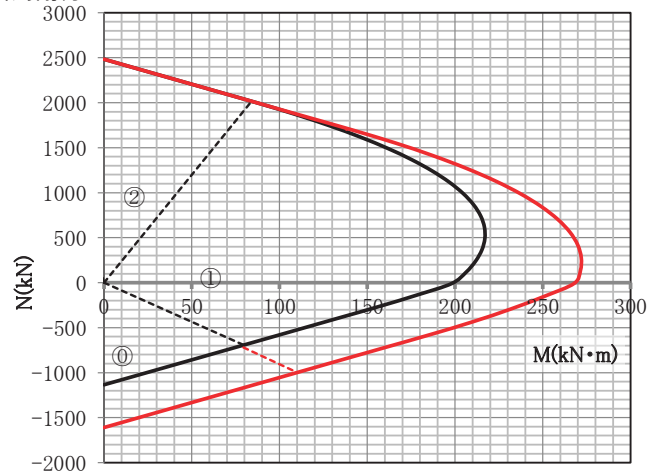
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC300-S1-36	450	340	40	192	54.4
—	BC300-S1-42	450	340	40	192	73.0



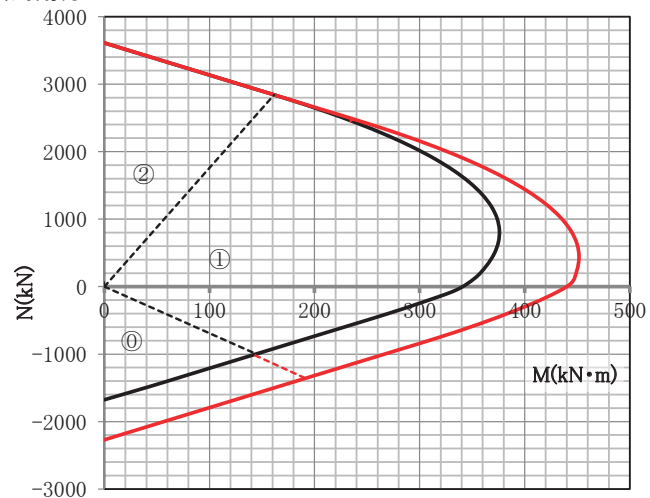
短期許容耐力



終局耐力



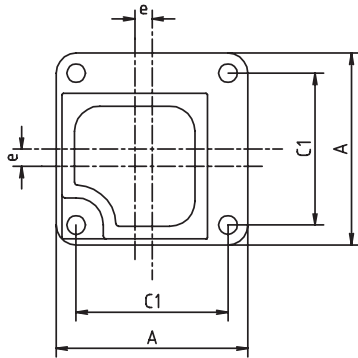
終局耐力



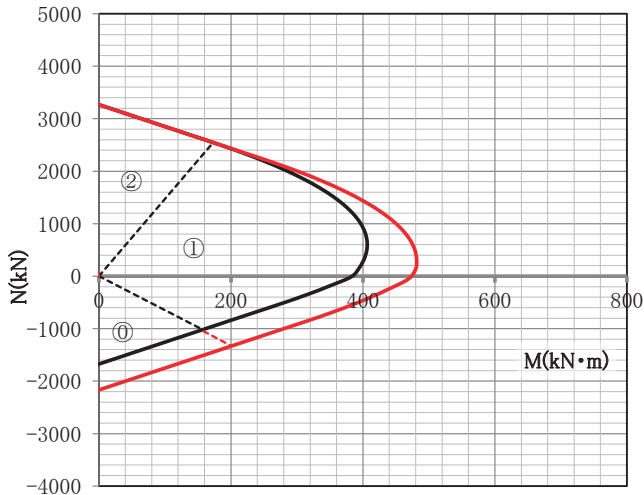
- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

□350×350用

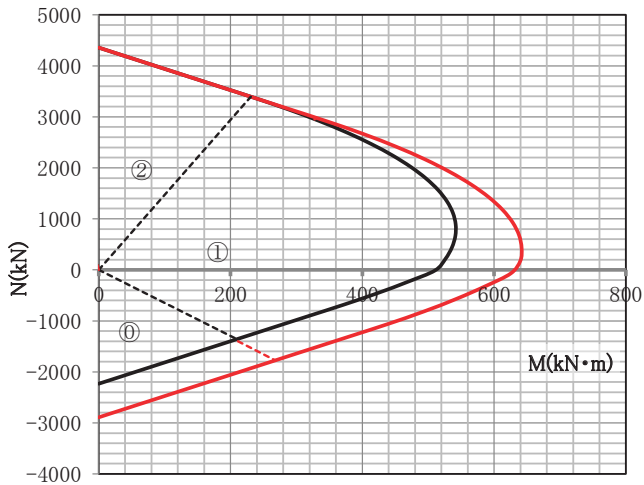
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ N・m/rad)
—	BC350-S1-42	500	380	50	263	79.8
—	BC350-S1-48	500	380	50	263	103



短期許容耐力

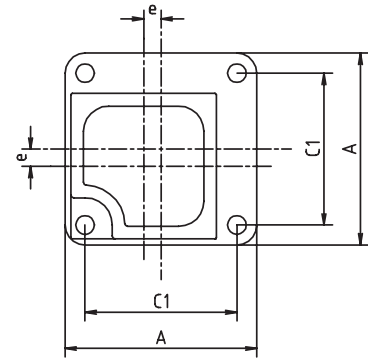


終局耐力

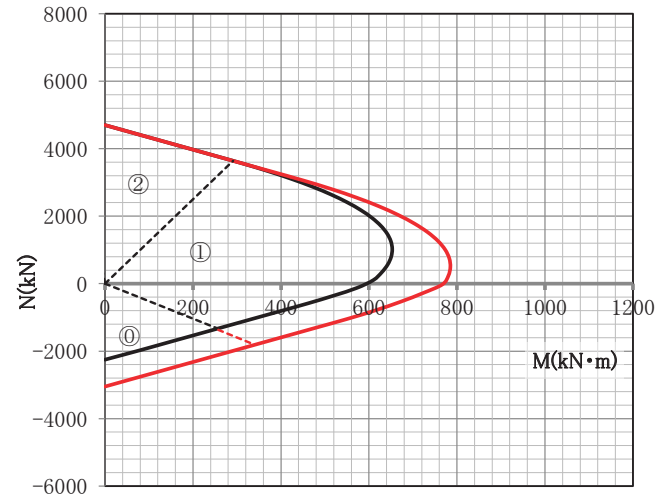


□400×400用

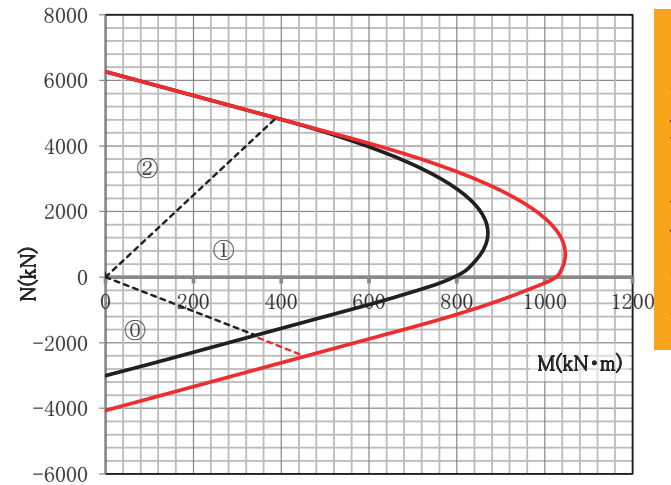
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ N・m/rad)
—	BC400-S1-48	590	450	50	411	126
—	BC400-S1-56	590	450	50	411	158



短期許容耐力



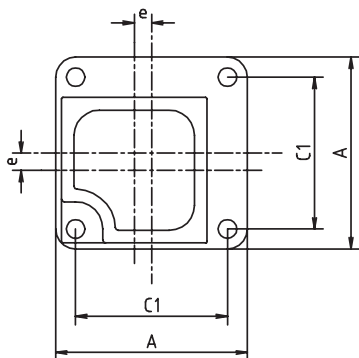
終局耐力



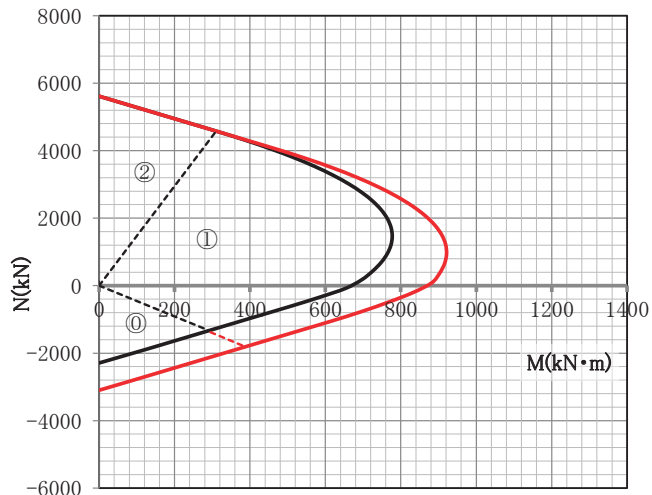
- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

□450×450用

色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC450-S1-48	640	500	50	478	154
—	BC450-S1-56	640	500	50	478	182

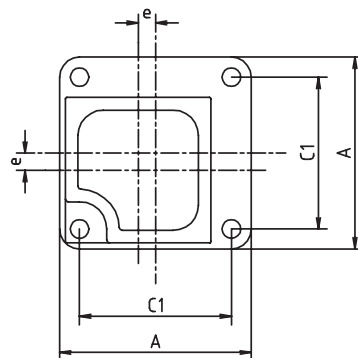


短期許容耐力

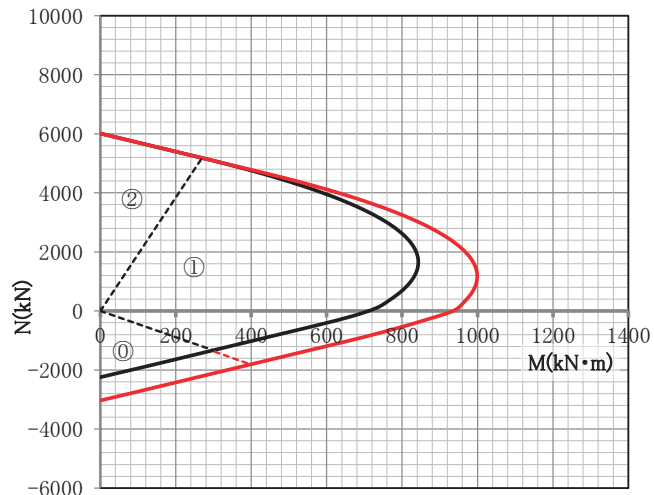


□500×500用

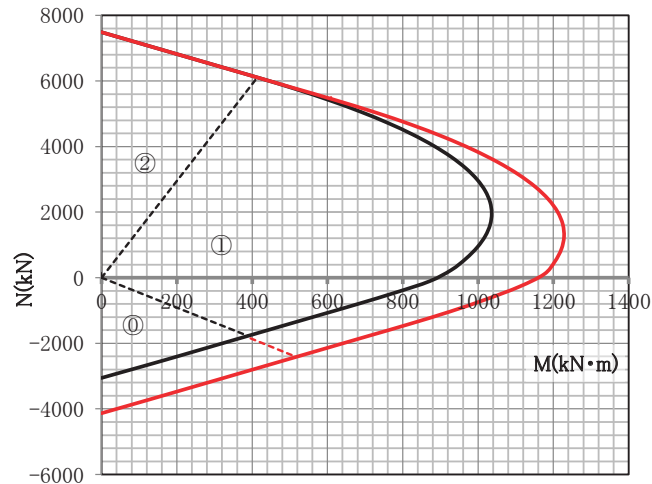
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC500-S1-48	670	530	60	523	177
—	BC500-S1-56	670	530	60	523	207



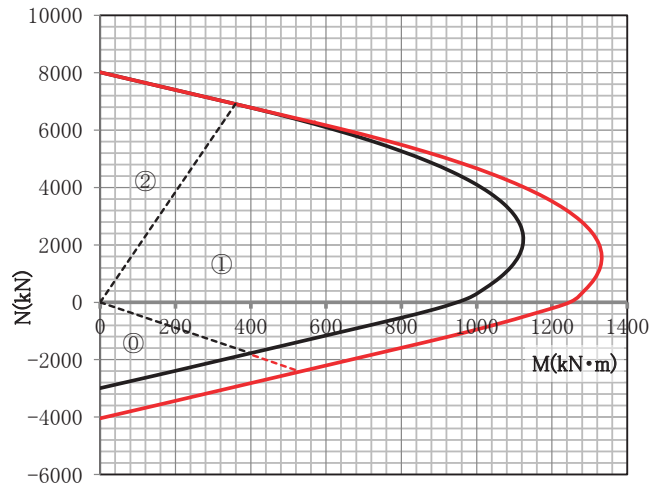
短期許容耐力



終局耐力



終局耐力

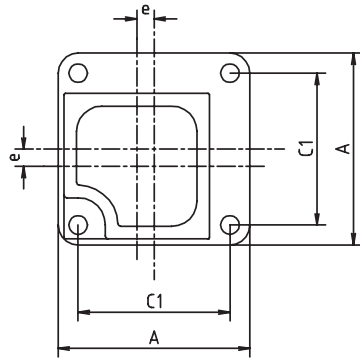


角形鋼管柱偏心用

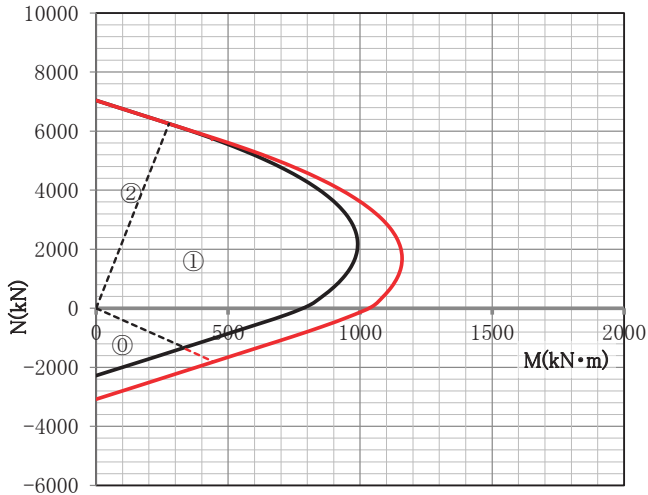
- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

□550×550用

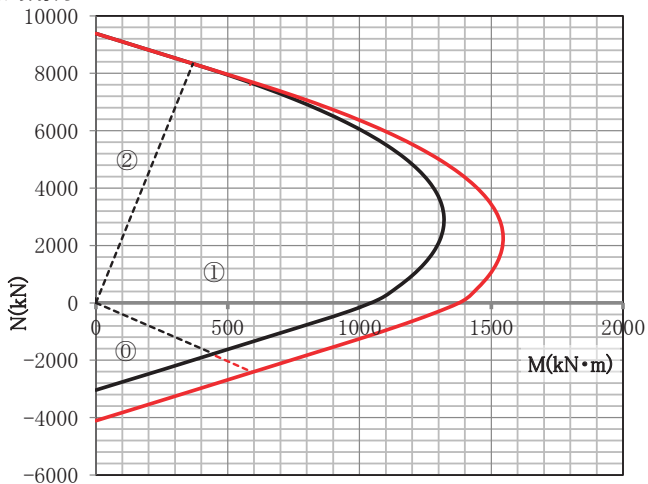
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ N・m/rad)
—	BC550-S1-48	720	580	60	588	220
—	BC550-S1-56	720	580	60	588	251



短期許容耐力

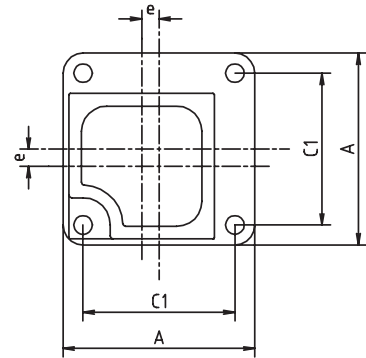


終局耐力

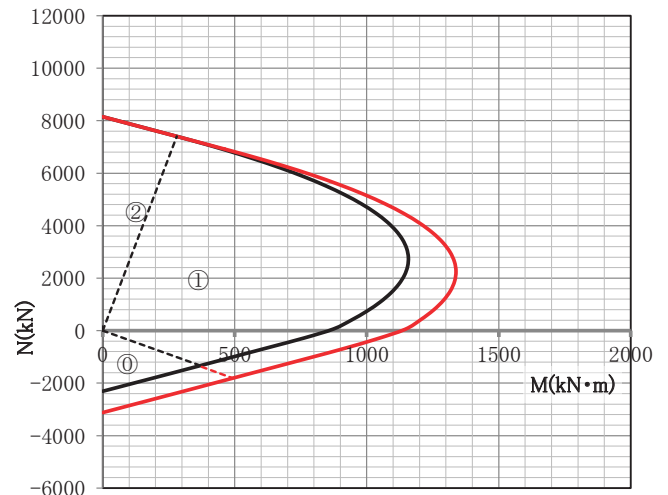


□600×600用

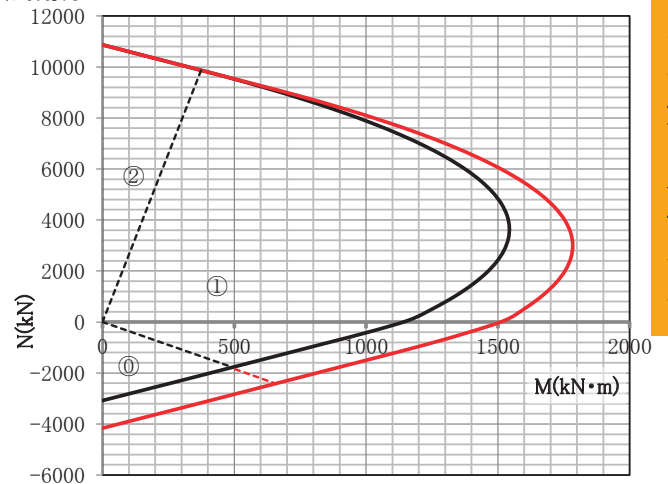
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ N・m/rad)
—	BC600-S1-48	770	630	60	657	249
—	BC600-S1-56	770	630	60	657	295



短期許容耐力



終局耐力

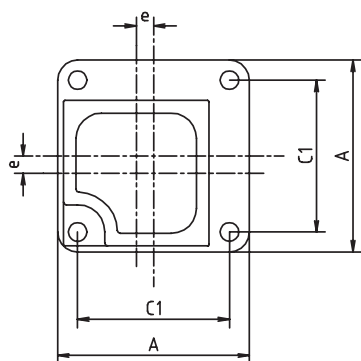


角形鋼管柱偏心用

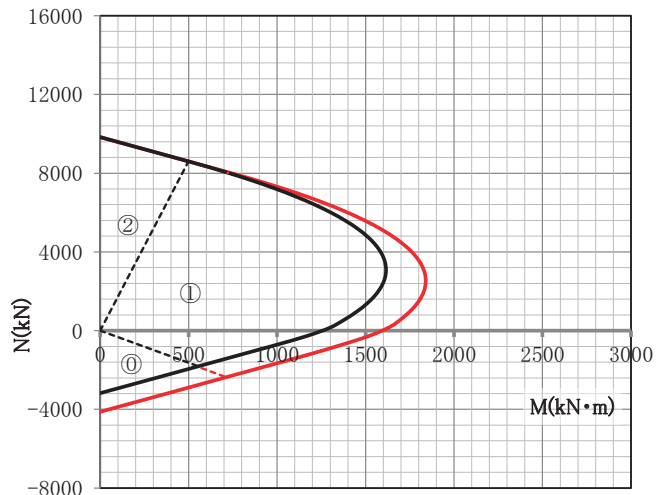
- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ㊦ゾーンと㊧ゾーンについてはP.43をご参照ください。

□650×650用

色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC650-S1-56	840	690	60	859	350
—	BC650-S1-64	840	690	60	859	404

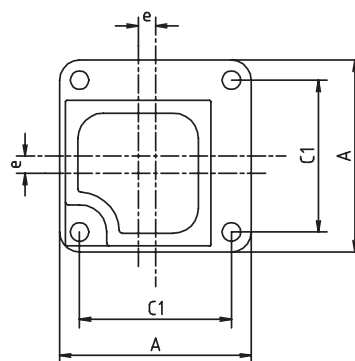


短期許容耐力

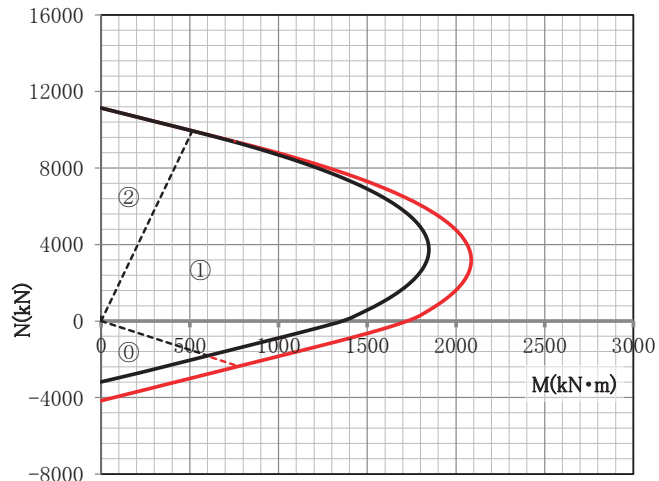


□700×700用

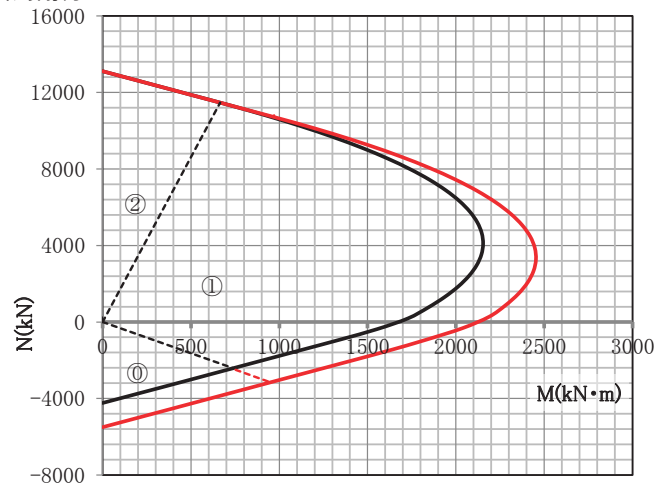
色	ハイベース型式	A (mm)	C1 (mm)	e (mm)	質量 (Kg)	回転ばね定数 (×10 ³ kN・m/rad)
—	BC700-S1-56	890	740	60	936	405
—	BC700-S1-64	890	740	60	936	463



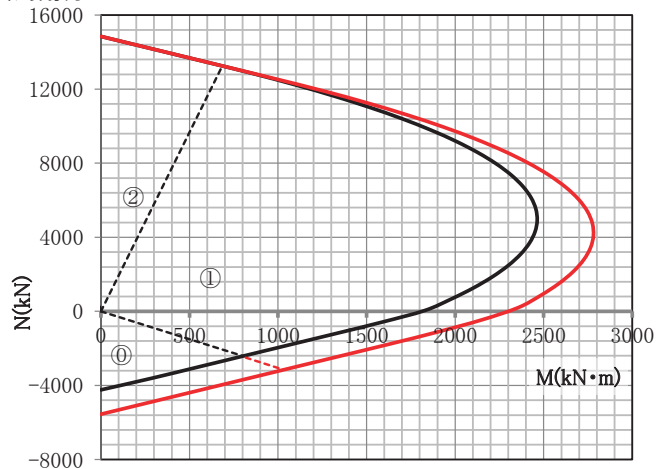
短期許容耐力



終局耐力

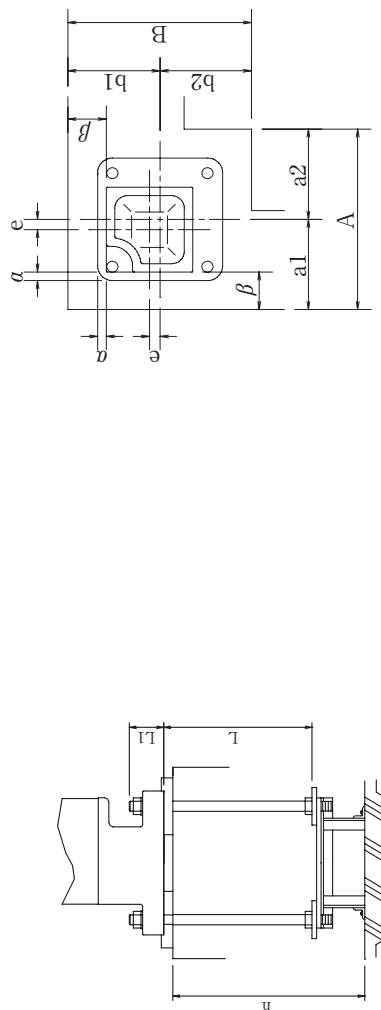


終局耐力



- 注1) 上部表中の質量はハイベース単体の質量です。
 注2) 各図中の丸数字はせん断力算定用のゾーンを示します。本文第3章を参照してせん断力の検討をしてください。
 注3) ⅠゾーンとⅡゾーンについてはP.43をご参照ください。

二方向偏心タイプ (BC型式) の基礎柱形的设计例



単位:mm

ハース型式	偏心量 e	L	L1	h	α	β	A×B	a1	a2	b1	b2	基礎柱形主筋		帯筋 鉄筋量	鉄筋の 定着長さ
												Ⅰゾーンの 場合	Ⅱゾーンの 場合		
BC250-S1-30	40	600	115	820以上	25	115	560×560	280	280	280	280	8-D19(SD345)	16-D19(SD345)	D13@150(SD295)	380
BC250-S1-36	40	720	123	940以上	25	120	570×570	285	285	285	285	8-D22(SD345)	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	500
BC300-S1-36	40	720	133	940以上	35	125	630×630	315	315	315	315	12-D22(SD345)	16-D22(SD345)	D13@150(SD295)	470
BC300-S1-42	40	840	143	1070以上	35	135	650×650	325	325	325	325	12-D25(SD345)	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	600
BC350-S1-42	50	840	152	1070以上	25	120	690×690	345	345	345	345	12-D25(SD345)	16-D25(SD345)	D13@150(SD295)	580
BC350-S1-48	50	960	160	1200以上	25	120	690×690	345	345	345	345	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@150(SD295)	700
BC400-S1-48	50	960	174	1200以上	45	130	760×760	380	380	380	380	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	570
BC400-S1-56	50	1120	183	1360以上	45	140	780×780	390	390	390	390	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	760
BC450-S1-48	50	960	171	1200以上	45	130	810×810	405	405	405	405	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	550
BC450-S1-56	50	1120	180	1360以上	45	140	830×830	415	415	415	415	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	730
BC500-S1-48	60	960	169	1200以上	25	110	840×840	420	420	420	420	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	540
BC500-S1-56	60	1120	178	1360以上	25	120	860×860	430	430	430	430	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	710
BC550-S1-48	60	960	167	1200以上	25	110	890×890	445	445	445	445	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	530
BC550-S1-56	60	1120	176	1360以上	25	120	910×910	455	455	455	455	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	690
BC600-S1-48	60	960	165	1200以上	25	110	940×940	470	470	470	470	16-D25(SD345)	20-D25(SD345)	D13@100(SD295)	520
BC600-S1-56	60	1120	174	1360以上	25	120	960×960	480	480	480	480	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	680
BC650-S1-56	60	1120	188	1370以上	35	120	1010×1010	505	505	505	505	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	670
BC650-S1-64	60	1280	201	1530以上	35	130	1030×1030	515	515	515	515	24-D25(SD345)	36-D25(SD345)	D16@100(SD295)	730
BC700-S1-56	60	1120	185	1370以上	35	120	1060×1060	530	530	530	530	20-D25(SD345)	28-D25(SD345)	D13@100(SD295)	650
BC700-S1-64	60	1280	198	1530以上	35	130	1080×1080	540	540	540	540	24-D25(SD345)	36-D25(SD345)	D16@100(SD295)	720

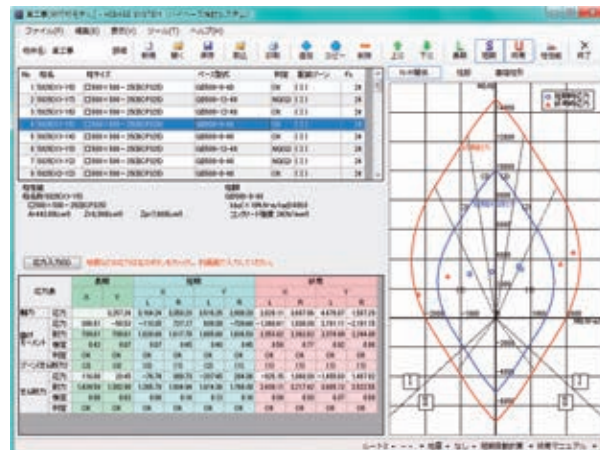
注1) 表中の鉄筋量は基礎立上りのない場合(基礎ばり)と基礎柱形天端が一致する場合の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、本ハンドブック第4章に従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。

注2) h寸法は杭がない場合です。杭がある場合は表中のh寸法+100mm以上確保して下さい。注3) α は柱端面からベースプレート端までの距離です。注4) β は柱端面から基礎端面までの距離です。注5) 鉄筋の定着長さL(P.43参照)は、表中の寸法以上確保して下さい。(上部下部共通)注6) Ⅰゾーン、Ⅱゾーンの判定およびコンクリート設計基準強度がFc24以外の場合は、【ハイベース検討システム】にてご確認ください。

構造計算支援ソフト【ハイベース検討システム（Windows 版）】

ハイベース NEO 工法およびスーパーハイベース工法の設計を支援するソフトを用意しています。柱脚の応力を入力する（各社一貫構造計算ソフトと連携も可能）ことにより、曲げ耐力の確認、せん断耐力の確認及びせん断耐力が不足する場合の各対処方法における検討、基礎柱形鉄筋量の判定（Ⅰ、Ⅱゾーン）、コンクリート設計基準強度が 24N/mm^2 と異なる場合の柱脚部の設計が可能です。

検討結果は印刷も可能で、検討書としてご利用いただけます。



ハイベース検討システム イメージ図

ダウンロードサービス

柱脚検討システム、設計施工標準図、部品図等 CAD データ、評定書(写)、認定書(写) 等 各種資料は、センクシア Web サイトよりダウンロードしていただけます。



センクシア株式会社 Web サイト

<https://www.senqcia.co.jp/>

*各資料は予告なく変更することがあります。最新版はセンクシア Web サイトに掲載しておりますのでご確認ください。



センクシア株式会社

お問合せ、詳細な資料のご請求は下記の営業担当者までご用命ください。

本 社	〒105-8319	東京都港区東新橋二丁目3番17号(モメント汐留) TEL.(03)4214-1932 FAX.(03)3438-1061
札幌営業所	〒001-0018	札幌市北区北十八条西五丁目1番12号(3F) TEL.(011)708-1177 FAX.(011)708-1178
東北営業所	〒980-0021	仙台市青葉区中央二丁目8番13号(大和証券仙台ビル) TEL.(022)213-5595 FAX.(022)213-5590
関東営業所	〒370-0841	高崎市栄町16番11号(高崎イーストタワー) TEL.(027)322-9411 FAX.(027)322-9343
中部支店	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南一丁目17番29号(広小路ESビル) TEL.(052)582-3356 FAX.(052)583-9858
北陸営業所	〒920-0024	金沢市西念一丁目1番3号(コンフィデンス金沢) TEL.(076)233-5260 FAX.(076)233-5262
関西支店	〒532-0003	大阪市淀川区宮原三丁目4番30号(ニッセイ新大阪ビル) TEL.(06)6395-2133 FAX.(06)6395-2102
中四国営業所	〒730-0031	広島市中区紙屋町一丁目1番20号(いよぎん広島ビル) TEL.(082)240-1630 FAX.(082)240-1606
九州支店	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前三丁目26番29号(九勤博多ビル8F) TEL.(092)452-0341 FAX.(092)452-0350

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

E-Mail kenzai@senqcia.com

取扱店